

## 業 績 目 録 集

### 解剖学第一講座

#### 研究概要

##### 1) 「ラットの脳内自己刺激実験を用いた、脳が疲労感を感じるメカニズムの解明」

ペダル押しによって脳内に植え込んだ電極から自己電気刺激させ、何度もペダルを押し続ける報酬系の学習を成立させた後、長時間の実験系をおこなったところ、ラットは当初ペダルを押し続けるが、数時間ごとに休止する事が判明した、現在の休止パターンを解析中であり、脳で「疲労」を感じるメカニズムをあきらかにする。この系にはモノアミンやエンドセリンを含有するニューロンが関与すると考えられていて、行動回避（不快）と行動嗜好（快）の脳内メカニズム解明をも目指している。

##### 2) 「脳構築の正常と異常、とくに環境ホルモンに影響される脳構築の性差の発現」

脳内でその容積に性差のある神経核群がある。そのひとつにエンドセリン受容体やノルアドレナリンを含有する神経系起始核・青班核がある。このような神経系の構築は内分泌かく乱因子の影響を受ける、食品性植物エストロゲン様物質であるゲニスタインを母胎に投与し、仔ラットのニューロン数の変化を観察し、脳構築に変化をおよぼす因子とその作用メカニズムを解明中である。

##### 3) 「膵臓・腸管を支配する末梢神経、およびその発生と再生」

慢性膵炎や Hirschsprung 病をモデルに、膵臓・腸管を支配する末梢神経（とくにエンドセリンを含有する神経系）の正常分布様式、支配異常、成熟ラットでの神経再伸長・過剰支配（増生）を解析し、末梢神経再生の基礎的知見を得る。実験用モデルと解析法を確立するとともに、膵臓支配神経の詳細を明らかにした。

##### 4) 「中枢神経再生の研究」

神経再生研究のためのモデル開発、中枢神経系の細胞の幹細胞または前駆細胞の追究、それらを確認するための細胞マーカーの探索、などについて研究している。一定の条件化で、中枢神経細胞の分裂増殖像を捉えることができ、それが幹細胞なのか前駆細胞なのかを検討中である。

##### 5) 「内分泌線に存在する未知のタンパク質 MECA の解析」

他の研究中の偶然の発見（セレンディピティー）から、いくつかの内分泌腺に広く、しかしそれぞれの内分泌腺内では特定の細胞にだけ存在する、未知のタンパク質を発見し、Multi-Endocrine Cellular Antigen と名付けた。交差反応する抗体を用いて、その組織内分布、細胞内分布、大まかな分子量などを明らかにした。現在イムノスクリーニング法で、mRNA 塩基配列を解析中であり、複数の候補が発見された。そのうちのひとつは新規の E3 ユビキチンリガーゼであることが判明した。

##### 6) 「レーザーを用いた神経機能の外的調節」

培養系やスライスの神経組織にレーザー光を照射し、波長依存性の神経伝達への影響を観察している。この研究成果は、経験則から使用され始めている低出力レーザー治療の作用メカニズム解明や応用範囲拡大につながる。一方、生体レベルで脳内光感受性色素を超局所に微量注入しておき、レーザー光を当てることで、いわゆる脳局所の組織酸化状態を一過性に作成する方法も確立した。これらのテクニックを使い、神経機能の外的調節をおこなう研究を進めている。

## 研究業績

## 原著

1. Cui Y-L, Kataoka Y, Qing-Hua Li, Yokoyama C, Yamagata A, Mochizuki-Oda N, Watanabe J, Yamada H and Watanabe Y (2003) Targeted tissue oxidation in the cerebral cortex induces local prolonged depolarization and cortical spreading depression in the rat brain. *Biochem Biophys Res Commun* 300: 631-636
2. Kataoka Y, Cui Y, Tamura Y and Yamada H (2004) Proliferation of leptomeningeal cells in delayed neuronal death in gerbils. *Acta Histochem Cytochem* 37: 81-86
3. Utsunomiya K, Watanabe J, Takamori Y, Kataoka Y, Kurokawa K and Yamada H (2004) Crossreaction with an Anti-Bax Antibody Reveals Novel Multi-endocrine Cellular Antigen. *J Histochem Cytochem* 52: 805-812
4. 山田久夫, 片岡洋祐, 井岡真基 (2003) 妊娠中に暴露した植物由来エストロゲン様物質の出生子の男性生殖器および中枢神経系に及ぼす影響. 厚労科研事業報告書「内分泌かく乱物質と大豆等既存食品の発育・癌化及び内分泌かく乱作用の比較」 56-71
5. 山田久夫, 片岡洋祐, 井岡真基 (2004) 妊娠中に暴露した植物由来エストロゲン様物質の出生子の男性生殖器および中枢神経系に及ぼす影響. 厚労科研事業報告書「内分泌かく乱物質と大豆等既存食品の発育・癌化及び内分泌かく乱作用の比較」 84-93

## 総説

1. 片岡洋祐 (2003) 酸化ストレスと脳の疲労. *医のあゆみ* 204: 314-318
2. 片岡洋祐 (2003) 低反応レベルレーザーの光生体刺激作用: 細胞内 ATP 増加作用と神経機能調節. *ペインクリニック* 24: 541-547
3. 片岡洋祐, 小田 望月紀子, 田村泰久, 崔翼龍, 山田久夫 (2004) 近赤外低出力レーザー照射による神経興奮抑制とカリウムチャンネル仮説. *日会誌* 2: 15-48
4. 小田 望月紀子, 片岡洋祐, 山田久夫, 粟津邦男 (2004) 低出力レーザーと神経細胞のエネルギー代謝. *日会誌* 2: 53-57

## 学会発表

1. Kurokawa K, Yamada H and Kudo M (2000) Histochemical studies on endothelin and its related proteins in the rat hypothalamus. 15th International Symposium on Morphological Sciences, Kyoto
2. Mochizuki-Oda N, Kataoka Y, Yamada H and Awazu K (2004) Effects on Near-Infrared Laser on Neural cell Activity. The International Symposium on Portable Synchrotron Light Sources and Advanced Applications, Kusatsu, Japan
3. 渡辺 淳, 山田久夫 (2003) 組織画像データベース 組織画像の大学間共有教材化を目指して. 第108回日本解剖学会総会全国学術集会(シンポジウム), 福岡
4. 片岡洋祐, 小田 望月紀子, 田村泰久, 崔翼龍, 山田久夫 (2003) 近赤外低出力レーザー照射による中枢神経伝達抑制機序にカリウムチャンネルの活性化が関与する. 第26回日本神経科学大会, 名古屋
5. 崔翼龍, 片岡洋祐, 山田久夫 (2003) 長時間脳内自己刺激における自己刺激行動の抑制期. 第26回日本神経科学大会, 名古屋
6. 高森康晴, 宇都宮一泰, 片岡洋祐, 山田久夫 (2003) 視床下部 magnocellular neuron に特異的に存在する新規 E3 ユビキチンリガーゼの同定. 第30回日本神経内分泌学会, 横浜
7. 崔翼龍, 片岡洋祐, 丘 晃, 山田久夫 (2003) 内側前脳束の長時間自己刺激におけるレバー押し行動の抑制期について. 第30回日本神経内分泌学会, 横浜
8. 小田 望月紀子, 片岡洋祐, 山田久夫, 粟津邦男 (2003) ラット海馬スライス of ATP 含量に対する近赤外レーザー照射の効果. 第26回日本神経科学大会, 名古屋
9. 小田 望月紀子, 片岡洋祐, 山田久夫, 粟津邦男 (2003) 低出力レーザー光による脳内エネルギー代謝の変化. 第15回日本レーザー治療学会(シンポジウム), 秋田
10. 黒川 清, 山田久夫, 工藤 基 (2003) 神経幹細胞表面マーカー MDPY-19 について. 第44回日本組織細胞化学会・第35回日本臨床電子

- 顕微鏡学会合同学術集会(シンポジウム), 東京
11. 片岡洋祐, 田村泰久, 崔 翼龍, 山田久夫 (2003) 中枢神経再生研究のためのモデル作製. 第44回日本組織細胞化学会・第35回日本臨床電子顕微鏡学会合同学術集会(シンポジウム), 東京
  12. 仁平美果, 渡辺 淳, 山田久夫 (2003) フェノバルビタール投与ラットの中心部肝細胞における小胞体膜の増生. 第44回日本組織細胞化学会・第35回日本臨床電子顕微鏡学会合同学術集会, 東京
  13. 高御堂祥一郎, 棚野晃秀, 井岡真基, 片岡洋祐, 渡辺 淳, 山田久夫 (2003) 慢性膵炎時における膵内神経支配のトレーサーを用いた組織科学的検討. 第108回日本解剖学会総会全国学術集会, 福岡
  14. 田村泰久, 片岡洋祐, 崔 翼龍, 渡辺 淳, 山田久夫 (2003) 終脳皮質組織酸化モデルにおける nestin 陽性細胞出現について. 第108回日本解剖学会総会全国学術集会, 福岡
  15. 井岡真基, 片岡洋祐, 山田久夫 (2003) 植物由来エストロゲン様物質に暴露した妊娠ラットの出生仔の中枢神経系におよぼす影響. 第30回日本神経内分泌学会, 横浜
  16. 宇都宮一泰, 渡辺 淳, 高森康晴, 大澤 学, 片岡洋祐, 山田久夫 (2003) Multi-endocrine cellular antigen (MECA) の存在様式について. 第108回日本解剖学会総会全国学術集会, 福岡

#### 著 書

1. Riquimaroux H, Kataoka Y (2004) Temporal firing activities of auditory cortical neurons and modification of their activities by laser irradiation. Plasticity of central auditory system and processing of complex acoustic signals (Syka J and Merzenich ed) Plenum, New York

## 解剖学第二講座

### 研究概要

#### 原著 1

Nociceptin/orphanin FQ (N/OFQ) is an endogenous peptide agonist for the opioid receptor homolog, N/OFQ receptor, and serves for the central control of autonomic functions. Morphological details including the cell types that may account for such N/OFQ functions, however, remain unclear. By using X-gal histochemistry for the detection of receptor-expressing cells at both light and electron microscopic levels, we examined the hypothalamus from the receptor-deficient mice bearing a *lacZ* insertional mutation in the N/OFQ receptor gene. The N/OFQ receptor reflected by *lacZ* expression was seen at high levels in the anterior hypothalamic area. With electron microscopy, *lacZ* expression was observed in a subset of neurons showing large cell size and indented nucleus.

#### 原著 2

Recent evidence suggests that adult neural stem/progenitor cells (ANSCs) secrete autocrine/paracrine factors and that these intrinsic factors are involved in the maintenance of adult neurogenesis. We identified a novel secretory molecule, stem cell-derived neural stem/progenitor cell supporting factor (SDNSF), from adult hippocampal neural stem/progenitor cells by using the signal sequence trap method. The expression of *SDNSF* in adult central nervous system was localized to hippocampus including dentate gyrus, where the neurogenesis persists throughout life. In induced neurogenesis status seen in ischemically treated hippocampus, the expression of *SDNSF* was up-regulated. As functional aspects, SDNSF protein provided a dose-dependent survival effect for ANSC following basic fibroblast growth factor 2 (FGF-2) withdrawal. ANSCs treated by SDNSF also retain self-renewal potential and multipotency in the absence of FGF-2. However, SDNSF did not

have mitogenic activity, nor was it a cofactor that promoted the mitogenic effects of FGF-2. These data suggested an important role of SDNSF as an autocrine/paracrine factor in maintaining stem cell potential and lifelong neurogenesis in adult central nervous system.

## 研究業績

### 原著

- Houtani T, Ikeda M, Kase M, Sato K, Sakuma S, Kakimoto S, Ueyama T, Munemoto Y, Takeshima H and Sugimoto T (2003) A subset of nociceptin/orphanin FQ receptor-expressing neurons in the anterior hypothalamic area, as revealed in mice with *lacZ* reporter gene. *Neurosci Lett* 335: 217–219
- Toda H, Tsuji M, Nakano I, Kobuke K, Hayashi T, Kasahara H, Takahashi J, Mizoguchi A, Houtani T, Sugimoto T, Hashimoto N, Palmer TD, Honjo T and Tashiro K (2003) Stem cell-derived neuronal stem/progenitor cell supporting factor is an autocrine/paracrine survival factor for adult neural stem/progenitor cells. *J Biol Chem* 278: 35491–35500
- Research in Otolaryngology, Daytona Beach, Florida
- Uezu K, Sano A, Sei H, Toida K, Nagasawa H, Houtani T, Sugimoto T, Ishimura K and Morita Y (2003) Hippocampal acetylcholine release and theta rhythm in nociceptin/orphanin FQ receptor knockout mice. Society for Neuroscience, New Orleans
- 宗本由美, 宝谷剛志, 上山禎造, 加瀬政彦, 佐久間覚, 馬場一泰, 山下敏夫, 杉本哲夫 (2003) 聴力脱失マウスの上オリーブに特異的に発現する新しい蛋白. 第108回日本解剖学会総会・全国学術集会, 福岡
- 宝谷剛志, 宗本由美, 加瀬政彦, 佐久間覚, 杉本哲夫 (2003) 新規脳 LGIC 型受容体の発現. 第26回日本神経科学大会, 名古屋
- 上江洲香代子, 佐野敦子, 勢井宏義, 樋田一徳, 宝谷剛志, 杉本哲夫, 森田雄介 (2003) ノシセプチン受容体ノックアウトマウスにおける海馬アセチルコリン放出量. 第26回日本神経科学大会, 名古屋
- 加瀬政彦, 佐久間覚, 宝谷剛志, 杉本哲夫 (2003) 脳領域に特異的な遺伝子発現の検討: アルデヒド固定切片を用いる簡便法. 第79回日本解剖学会近畿支部学術集会, 吹田

### 学会発表

- Munemoto Y, Houtani T, Ueyama T, Kase M, Sakuma S, Yamashita T and Sugimoto T (2003) Novel gene expressed in the auditory brainstem of mice with hearing deficit: a study with cDNA subtractive hybridization. The Association for

## 生理学第一講座

### 研究概要

#### 1) 内向き整流 K チャネルの細胞外 K イオン依存性開閉機構

細胞外 K イオンを除くと, 内向き整流 K チャネルを内向きに流れる電流だけでなく, 外向き電流も流れなくなる. これは, 内向き整流 K チャネルが細胞外 K イオン, あるいは Rb, Cs イオンにより活性化されるためと考えられている. また, 単一チャネルコンダクタンスは細胞内 K 濃度より細胞外 K 濃度に強く依存する. 細胞外 K イオンがチャネルを活性化するとともに, コンダクタンスを増加させる機序を解明する第一段階として, 細胞外 K イオンが結合する可能性がある内向き整流 K チャネル (Kir2.1) 蛋白の M1 と H5, H5 と M2 の連結部の酸性アミノ酸残基を中性化した. D112N, D114N, E125Q, D152N, E153Q の変異体遺伝子を培養細胞 (COS1 細胞, HEK293 細胞) に導入し, パッチクランプ法によりチャネル活性の有無を検討した. 変異体から発現したチャネルはいずれも機能しており, 内向き整流 K 電流が記録できた. 現在, double mutation を作成し, 検討を続けている.

## 2) セミンタクト細胞を用いたマイクロゾーム型アルデヒド脱水素酵素の小胞体膜局在化機構の解析

マイクロゾーム型アルデヒド脱水素酵素 (msALDH) は C-末端側に小胞体膜挿入部位を有し分子のほとんどを細胞質側に出す典型的な C-末端アンカー型膜蛋白質である。これまでに msALDH の小胞体膜局在化機構を COS 細胞発現系と in vitro 転写 翻訳系を用いて解析し、C-末端 35 アミノ酸残基に膜挿入部位と小胞体移行配列が含まれることや msALDH は蛋白合成後に小胞体膜に挿入されること等を明らかにしてきた。今回、ストレプトリシン-O でセミンタクト化した CHO-K1 細胞を用いた解析を行い、以下の結果を得た。

- ) セミンタクト細胞に GFP (green fluorescence protein) と msALDH の C-末端 35 アミノ酸残基の融合蛋白質 (rGFPALDH(35))・L5178Y 細胞から調製した細胞質・ATP 再生系を添加すると、rGFPALDH(35) は小胞体に移行した。
  - ) rGFPALDH(35) の小胞体移行には細胞質と ATP が必要であった。
  - ) ラット肝臓から調製した細胞質にも rGFPALDH(35) の小胞体移行活性があった。
- これらのことから、rGFPALDH(35) の小胞体移行に細胞質因子が関与することが示唆された。

## 3) ウイルスペクターによる神経活動の操作

神経活動は、ニューロンの表現形、シナプス形成、うつ等の精神疾患の発症に関与しているが、その詳細は明らかではない。その理由として、従来の方策では、特定のニューロンの神経活動を直接的に増減させることができないことがあげられる。一方、神経筋接合部や眼球優位カラムにおけるシナプス排除は、局所的な伝達遮断によって起こるが、全体的な遮断では起きない。従って、限定された細胞で活動を増減させることが重要である。内向き整流性 K チャンネル (Kir2.1) は深い膜電位で開口し、神経活動を抑制する。我々はウイルスペクターを用いて Kir2.1 及びそのドミナント・ネガティブ体を局所的に発現させ、神経活動を直接操作し、上記の問題への神経活動の影響を検討することを目的とし、Kir2.1 のレンチウイルスペクターを作成し、発現を確認した。

## 4) ラット海馬における GABA<sub>A</sub> 受容体電流

ラット海馬における GABA<sub>A</sub> 受容体電流を、スライス標品を用いてパッチクランプ法で調べた。GABA<sub>A</sub> 受容体に時間的、空間的に異なる分布を示す I, II, III のサブタイプがあることは、以前から示唆されていたが、近年の分子生物学的研究から、GABA<sub>A</sub> 受容体のサブユニットにさらに多くのサブタイプがあり、その分布が異なることが、明らかになってきた。この受容体の生後変化を、GABA<sub>A</sub> 電流を急性脳スライスからホールセル法で記録し、その薬剤感受性と、不活化過程を調べ、機能の面から解析を行った。さらに、抑制性電流の細胞内 Ca<sup>2+</sup> 動員による修飾について研究し、GABA<sub>A</sub> 電流は幾つかのアゴニスト刺激後の細胞内 Ca<sup>2+</sup> 濃度上昇によっては影響されず、カフェイン投与のみにより抑制されることを見出した。またこの GABA<sub>A</sub> 電流の抑制が細胞内 Ca<sup>2+</sup> 濃度上昇に依存しないことを示した。現在、引き続き抑制系シナプスの可塑性について研究している。中枢神経の抑制性情報伝達については、これまで興奮性のそれに比して知見の蓄積が少なかったが、近年ようやく研究の対象とされ、主要な抑制性シナプスである GABA<sub>A</sub> シナプスも、興奮性のシナプス同様、刺激に応じてその伝達効率が変化すると考えられるに至っている。そこで、頻回刺激やシナプス後細胞の脱分極などの操作を行った後に、抑制性シナプスにも機能変化がみられるか否か検討している。まず中枢神経系の GABA<sub>A</sub> 電流の修飾を解析し、store からの Ca<sup>2+</sup> 動員刺激後、電流はほとんど変化せず、一部でみられる抑制は、Ca<sup>2+</sup> 上昇と異なる機構で生じること示した。続いて、GABA<sub>A</sub> 電流の可塑性について、実験を行い、GABA<sub>A</sub> 自発電流のシナプス前繊維へのテタヌス刺激後の増強を見出し、この機序について、電流記録と細胞内カルシウム濃度計測とを組み合わせながら現在研究中である。

### 5) 唾液腺腺房細胞に機能発現する K チャネルの調節機構

唾液は口腔内の衛生維持および正常な消化に必要であり、その分泌は主に自律神経により調節される。唾液分泌の本態は経上皮のイオン輸送に伴う水の浸透流であり、イオン輸送蛋白活性に依存する。唾液分泌調節に関与する K チャネルの分子同定および機能解析を試み、唾液腺腺房細胞には SK4/IK1 が機能発現することを明らかにした。このチャネル活性は細胞内  $Ca^{2+}$  および cAMP 依存性蛋白キナーゼにより調節されたことから、神経伝達物質であるアセチルコリンおよび vasoactive intestinal peptide により制御されている可能性が高い。また、反芻動物の耳下腺では SK4/IK1 に加え Kir2.1 が機能発現し、反芻動物耳下腺に特徴的な自発性の重炭酸イオン分泌に寄与する可能性がある。

### 研究業績

#### 原著

1. Matsuda H, Oishi K and Omori K (2003) Voltage-dependent gating and block by internal spermine of the murine inwardly rectifying  $K^+$  channel, Kir2.1. *J Physiol* 548: 361–371
2. Taketani S, Kajimoto K, Ueta H, Masaki R and Furukawa T (2003) Involvement of ABC7 in heme biosynthesis: Interaction of ABC7 with ferrochelatase. *Blood* 101: 3274–3280
3. Masaki R, Kameyama K and Yamamoto A (2003) Post-translational targeting of a tail-anchored green fluorescent protein to the endoplasmic reticulum. *J Biochem* 134: 415–426
4. Takahata T, Hayashi M and Ishikawa T (2003) SK4/IK1-like channels mediate TEA-insensitive,  $Ca^{2+}$ -activated  $K^+$  currents in bovine parotid acinar cells. *Am J Physiol Cell Physiol* 284: C127–C144

5. Hayashi M, Komazaki S and Ishikawa T (2003) An inwardly rectifying  $K^+$  channel in bovine parotid acinar cells: possible involvement of Kir2.1. *J Physiol* 547: 255–269

#### 学会発表

1. 松田博子, 大石敬子, 大森浩一郎 (2003) 内向き整流 K チャネルにおける電位依存性開閉と細胞内スperlミンによるブロック. 第80回日本生理学会大会, 福岡
2. 武藤 恵, 松田博子 (2003) 海馬抑制性シナプス電流の神経活動依存性変化. 第80回日本生理学会大会, 福岡
3. 岡田誠剛, 長谷川歩美, 樋口宗史 (2003) T型カルシウム電流に対するニューロペプチド Y の増強作用. 第76回日本薬理学会年会, 福岡
4. 林美樹夫, 高畑 亨, 石川 透 (2003) ラット顎下腺腺房細胞に存在する  $Ca^{2+}$  依存性  $K^+$  チャネルの細胞内 ATP による調節. 第80回日本生理学会大会, 福岡

## 生理学第二講座

### 研究概要

我が講座の主たる研究目標は高次脳機能について少しでも明らかにしたいという願いである。その目標達成のため、ラットおよびサルを用いて形態学的、行動学的および電気生理学的手法を駆使しつつ、一歩、また一歩と昨年度に引き続き今年度も又たゆみない努力を日々続けてきた。さらに小脳疾患の症状軽減に有用な治療法をめざすため、小脳失調マウスを用いて構成細胞の病態解析を行ってきた。一方、当講座としては初めて、新たな幹細胞マーカーの探索を目指した骨髄間葉系幹細胞の生理学的解析に本年度から着手した。それら研究内容の詳細につき以下に述べる。

### I. 内因性随意運動のプログラミングにおける頭頂連合野と一次運動野の差異

本研究等ではサルの頭頂間溝 (IPS) の前後壁を含む種々の大脳皮質の表面と 2.0–3.0 mm 深部に埋め込んだ電極を用い、サルが身体の一部 (口, 指, 手, 首, 腰など) を自発性に動かす (自発性運動)

際の大脳皮質フィールド電位を記録し、分析して、いずれの運動においても運動に約1秒先行する運動準備電位が運動前野、運動野、体性感覚野以外に頭頂連合野で記録されることを明らかにした。これは頭頂連合野の運動発現への関与を示唆するが、頭頂連合野が、運動を行おうという意志（内的刺激）が生じてから運動を実際に行う（運動開始）までの過程で、より上流の段階に関わるのか、それとも運動野と同等の段階に関わるのかを明らかにするため、埋め込み電極に電流を流して全身の8箇所（顔、胸、前腕、下腿；左右）から双極表面電極を用いて筋電活動を同時記録した。検討の結果、準備電位の出現する脳部位はすべて筋電活動を惹起するということが分かった。その際、筋電活動誘発最小電流値は記録と対側の皮質部位の方が同側より小さく、さらに皮質部位中、運動野が最小であることが分かった。一方、筋電活動の潜時は運動野が皮質中最短だった。さらに特定の皮質刺激から他の皮質に応答が生じるまでの潜時を調べるため、各皮質埋め込み電極に電流を流して複数の皮質電極から大脳皮質フィールド電位を同時記録した。本知見に上述の筋電活動の潜時を合わせて検討したところ、最長時間を要する伝導経路はIPSの後壁（A7）から運動前野を経由して運動野に達した後、末梢に下って前腕筋に達する場合であり、一方、最短時間の伝導経路は、A7から運動前野も運動野も経由しないで末梢に下る場合であることがわかった。その中間の伝導経路はA7から運動野を経由して末梢に下る場合であることも分かった。これはA7が運動野と同等に、並行して内因性随意運動の発現に関与することを示唆する。つまり、内因性随意運動の発現に対する頭頂連合野の貢献度は運動野と大差ないことが判明したのである。

## II. 新たな幹細胞マーカーの探索を目指した骨髄間葉系幹細胞の生理学的解析

骨髄由来の付着系細胞に含まれる間葉系幹細胞は、骨・軟骨・心筋・脂肪・神経・骨格筋への多分化能を保持する成体（体性）幹細胞である。大人の骨髄にも含まれることから安全な自家移植の道を開いた再生医療の材料の一つとして注目され、生体組織の機能再建を目的とした研究並びに医療への応用が各方面で進められている。このような状況下で、採取した細胞の中から多分化能を持つ幹細胞を分離・採取することは、組織再建に必要な量の細胞を効率良く生体外で培養し増やすためには是非とも確立すべき課題の一つである。現在マーカーとして有効とされている表面抗原の発現は、増殖および分化状態の一部を反映しているに過ぎないと指摘されており、他にも多分化能を持つ細胞の同定につながる情報を探る必要がある。そこで、骨髄間質細胞の生理学的な研究報告例が少ないという現状に着目し、ラット骨髄間質細胞におけるレセプターあるいはチャネルを介した細胞応答を、カルシウム感受性蛍光色素Fura-2を用いた細胞内カルシウム濃度の測定により解析中である。

## III. サルの視床大脳皮質投射に関する電気生理学的研究

サルの手の自発性運動に先行して、頭頂連合野の一部である頭頂間溝後壁に、皮質表面で陰性、深部で陽性のフィールド電位が出現し、運動の準備、開始に関係することが示唆された[1]。この電位は、今までの電気生理学的知見から、浅層性視床大脳皮質投射によるものと考えられた。頭頂間溝後壁に浅層性視床大脳皮質投射を送る視床部位を同定するため、サルの頭頂間溝周囲の皮質表面と深部（深さ2.0–3.0mm）に、慢性記録電極を設置し、視床の電気刺激によるフィールド電位を記録した。その結果、視床枕内側部および外側部が同定され、上記の運動準備電位の起源としてこれらの視床部位が有力であると考えられた。また、サルが手の運動を抑止する際に、前頭前野の主溝背側壁で、皮質表面で陰性、深部で陽性のフィールド電位（Nogo電位）が記録されることが知られている[2]。このNogo電位の由来を調べるため、視床および大脳皮質の様々な部位を電気刺激し、主溝背側壁に引き起こされるフィールド電位を検討したところ視床の一部がNogo電位の起源となり得ることが明らかとなった。Nogo電位により詳細な入力経路を明らかにするため、電気生理学的、形態学的検索を更に加えていく予定である。

[1] Gemba H et al, Neurosci Lett, 357, 68–72, 2004

[2] Sasaki K, Gemba H, Exp Brain Res, 64, 603–606, 1986

## IV. 小脳失調マウスの病態解明と治療法の開発

pcd ( Purkinje cell degeneration ) ミュータントマウスは、生後 20-30 日という限局した期間に小脳プルキンエ細胞がアポトーシスをおこし変性脱落するため、運動失調を呈する。現在、神経細胞死に至るまでの小脳の細胞機能の変化を免疫組織化学的手法や細胞内Ca濃度の光学的計測などにより解析している。さらにアポトーシスを抑制する手法などにより、プルキンエ細胞の脱落および運動失調の発現を防ぐことができないか計画中である。

## V. ラット前頭運動皮質における辺縁系皮質を介した聴覚応答

大脳辺縁系に属する嗅周囲皮質から、前頭運動皮質の浅層へ投射のあることがわかった。この投射の役割を調べるため、前頭運動皮質に慢性記録電極を埋め込み、大脳皮質フィールド電位を記録した。覚醒下で純音を聴かせると、前頭運動皮質でも聴覚誘発電位が観察された。嗅周囲皮質を限局破壊すると、誘発電位の中の潜時約 50-150 ms の表面陰性 - 深部陽性電位成分がほぼ消失した。これらの結果より、聴覚情報の少なくとも一部は、辺縁系皮質を介して前頭運動皮質に伝わるということがわかった。また聴覚刺激に報酬性刺激を組み合わせると辺縁系皮質を介する聴覚応答成分は著名に増大することから、報酬への期待を反映する成分を含んでいると考えられた。

## 研究業績

## 原著

1. Ohishi H, Ichikawa J, Matsuzaki R, Kyuhou S, Matsuura-Nakao K, Seki T and Gemba H (2003) Cortical field potentials preceding self-paced forelimb movements and influences of cerebellectomy upon them in rats. *Neurosci Lett* 352: 5-8
2. Kyuhou S, Matsuzaki R and Gemba H (2003) Perirhinal cortex relays auditory information to the frontal motor cortices in the rat. *Neurosci Lett* 353: 181-184
3. Matsuzaki R, Kyuhou S, Matsuura-Nakao K and Gemba H (2004) Thalamo-cortical projections to the posterior parietal cortex in the monkey. *Neurosci Lett* 355: 113-116
4. Gemba H, Matsuura-Nakao K and Matsuzaki R (2004) Preparative activities in posterior parietal cortex for self-paced movement in monkeys. *Neurosci Lett* 357: 68-72
5. 雨夜勇作 (2003) 「機械論」の再検討 - 生命論に準拠する理論との比較検討。四条暇学園短期大学リハビリテーション学科紀要 1: 25-32
6. 関 智美 (2003) 物体の大きさによる重さの見積もりが持上げ動作の制御に及ぼす影響。奈良佐保短期大学紀要 11: 31-36
7. 市川 純 (2003) Afternoon Tea. *日生理誌* 65: 242

## 総説

1. 玄番央恵 (2003) 「研究の原動力」と女性科学者。生理学女性研究者の会 NEWSLETTER 17: 3-4
2. 玄番央恵 (2004) 生理学女性科学者の研究環境。生理学女性研究者の会 NEWSLETTER 18: 1-2
3. 玄番央恵 (2004) “私たちは何処から来て、何処へ向かうの?”。生理学女性研究者の会 NEWSLETTER 18: 11-13
4. 玄番央恵 (2004) ほんの少しだけ前進を。花鼓 51: 1

## 学会発表

1. 玄番央恵, 久寶真一 (2003) 小脳の基礎生理学。第 33 回日本臨床神経生理学会学術大会, 旭川
2. 玄番央恵 (2003) 頭頂連合野と 1 次運動野の差異は意外にも小さい。第 33 回日本臨床神経生理学会学術大会, 旭川
3. 玄番央恵, 松浦 中尾和子, 松崎竜一 (2003) 自発性手首運動の執行における頭頂連合野の関与様式。第 80 回日本生理学会大会・第 76 回日本薬理学会年会, 福岡
4. 松浦 中尾和子, 玄番央恵, 松崎竜一 (2003) 自発性手首運動の執行における頭頂連合野の



- 関与様式.第80回日本生理学会大会・第76回日本薬理学会年会,福岡
5. 久竇真一, 玄番央恵 (2003) ラット前頭運動皮質における辺縁系皮質を介した聴覚応答. 日本音響学会聴覚研究会, 京都
  6. 久竇真一, 玄番央恵 (2003) Enhancement of the auditory responses in the rat motor cortex by anticipation of reward 第26回日本神経科学学会, 名古屋
  7. 玄番央恵, 松浦 中尾和子, 松崎竜一 (2003) Preparative activities for compound movements of neck and trunk in the premotor cortex in monkeys. 第26回日本神経科学学会, 名古屋
  8. 松浦 中尾和子, 玄番央恵, 松崎竜一 (2003) 運動準備電位と運動開始. 第96回近畿生理談話会, 京都
  9. 松崎竜一, 松浦 中尾和子, 久竇真一, 玄番央恵 (2003) サルの視床 頭頂連合野投射について. 第96回近畿生理談話会, 京都
  10. 玄番央恵 (2003) ショータイトルに「心・技・体・美」を選んだ理由. 2003 HIRO KIMONO SHOW, 大阪

## 医化学講座

### 研究概要

#### 1) 痛みの伝達機構

本来痛みを誘発しない触覚刺激がどのような神経回路や生体因子を介して痛み(アロディニア)を誘発するのか, 痛覚過敏反応に比して, その発現機序は未だに不明な点が多い. 痛覚の伝達が一次求心性線維の入力, 脊髄後角の神経細胞, 層構造でどのように制御されているのか, なぜ触覚が痛覚として誤認されるのかという重要かつ基本的な問題を神経の可塑性に焦点をあてて研究を進めている. 当教室においてノックアウト(KO)マウスを用いた行動薬理実験から, プロスタグランジン(PG), 神経ペプチド(ノシセプチン(N/OFQ), ノシスタチン(NST)), グルタミン酸や一酸化窒素(NO)がアロディニアに関与することを明らかにしてきた. 今年度は, i) アロディニアに関与する遺伝子のアンチセンスによる機能解析法の確立, ii) 発光蛋白質間でエネルギー移動(BRET, Bioluminescence Resonance Energy Transfer)を利用したN/OFQとNSTの産生調節機構に関する研究, iii) 脊髄スライスを用いた神経回路網の空間的, 時間的イメージング, iv) 神経可塑性のモデルとしてのアロディニア発生機構のプロテオミクスの解析を行った.

#### i) アロディニアに関与する遺伝子に対する機能的解析

我々はPGF<sub>2α</sub>によるアロディニアがカプサイシン非感受性のAβ線維を介するのに対し, PGE<sub>2</sub>によるアロディニアはカプサイシン感受性のC線維を介することから, アロディニアの2つの異なる反応経路, 発症機構があることを明らかにした. これまでPGF<sub>2α</sub>受容体(FP)の抗体が作製できなかったことから, 脊髄でのFP受容体の存在は不明であった. FPのアンチセンスオリゴを合成して留置カテーテルで3日間に渡り脊髄に投与し, FP mRNAの発現の低下に伴い, PGF<sub>2α</sub>による細胞内Ca<sup>2+</sup>濃度の上昇の減少とアロディニアの消失がみられることから, 脊髄後角深層に機能的FP受容体が存在することが明らかになった.

#### ii) 神経ペプチドN/OFQとNSTによる痛覚制御の分子メカニズム

N/OFQの前駆体蛋白上に, N/OFQによる痛覚反応を抑制する生理活性ペプチドを発見し, NSTと名づけた. NSTとN/OFQは, 脊髄後角においてはともに表層に存在し, 各々の受容体を介してその作用を発揮することを明らかにしてきた. NSTとN/OFQによる痛覚制御機構を明らかにするため, ペプチドの産生遊離機構に関与するプロテアーゼの解明と非ペプチド性のN/OFQ受容体(NOP)拮抗薬を用いて痛覚伝達における内在性N/OFQの関与に焦点をあて研究を進めた.

## a) ペプチドの産生遊離機構

ペプチドの産生、遊離機構および、産生調節を担うと考えられるペプチドのプロセッシングに關する蛋白分解酵素の解明を目的とし、分泌型発光酵素と発光蛋白 EYFP 間のエネルギー移動を応用した方法 (BRET) を用い、生細胞における定量的プロセッシング - モニター系の確立を試みた。(発光酵素) - (NST・N/OFQ) - (EYFP) の融合蛋白の遺伝子ベクターを構築し、細胞に導入した。この融合蛋白は、NST・N/OFQ ペプチドがプロセッシングされない場合は発光酵素の光はエネルギー移動により、EYFP を励起し黄色の発光となることを、NST・N/OFQ ペプチドがプロセッシングされた場合は、発光酵素自体の青色光を発することを認めたことより、ペプチドのプロセッシングをモニターできるプローブが確立できた。培地中の BRET シグナルの変化は、プロセッシング蛋白量と相關しておりプロセッシングを定量化できた。さらに、発色光を指標にペプチドの分解過程を追跡し、微弱発光解析顕微鏡装置により発光を追跡、プロセッシング過程のリアルタイム解析を行い、N/OFQ 前駆体蛋白のプロセッシングに關する酵素の同定を行った。

## b) NOP 拮抗薬 JTC-801 による内在性 N/OFQ の關与

低濃度の N/OFQ が疼痛反応を誘発するのに対し、高濃度の N/OFQ は鎮痛作用を示す。前者はノシスタチンで拮抗されるが、後者は拮抗されない。N/OFQ の濃度により異なる痛覚反応が同じ NOP 受容体を介しているかどうか検討するために、最近開発された非ペプチド性 NOP 拮抗薬を用いて検討した。そのために、これまでラットで坐骨神経損傷による神経因性疼痛モデルでの解析が進められてきたが、ノックアウトマウスの神経因性疼痛の解析を行うために、選択的 L5 脊髄神経切断による神経因性疼痛モデルをマウスで作製した。JTC-801 を用いて内在性の N/OFQ が炎症性疼痛に加えて神経因性疼痛にも關与することを明かにした。以上の結果から、低濃度の N/OFQ は NOP を介して痛覚過敏反応に關与するが、高濃度の N/OFQ による鎮痛作用は NOP を介さないことを明らかにした。

## iii) アロディニアに關する神経回路網の空間的および時間的イメージング

痛みの動物モデルより得たアロディニアの行動薬理学的結果を基に、ビデオマイクروسコピーによるイメージング法を用いてアロディニア誘導に關与する神経回路の二次元的可視化を試みている。その回路における PG や痛覚に關連する神経ペプチド類の作用機構のイメージングを光学的膜電位 細胞内  $Ca^{2+}$  濃度、NO について単独あるいは同時に二重染色して遂行し、行動薬理学的結果と比較検討している。脊髄における NO 産生を NO プローブ試薬の DAF-FM を用いてイメージングしたところ、JTC-801 の鎮痛作用は脊髄後角浅層の NO 産生を抑制することによることが判った。NO が疼痛マーカーになるかどうかサルを用いる positron emission tomography (PET) 実験を計画している。一方、脊髄スライスを用いるイメージング実験に加えて、GFP を発現するトランスジェニックマウスを用いて、痛覚に關与する神経回路網の再構築における神経幹細胞の關与を検討している。

## iv) 神経可塑性のモデルとしてのアロディニア発生機構のプロテオミクスの解析

アロディニアの発生に伴い様々な遺伝子の発現レベルの変化が起こる一方、リン酸化などの翻訳後修飾によりシナプスでの蛋白組成の変化がみられる。高解像度二次元電気泳動と TOF/MS によりプロテオミクスの解析を進めている。

## 2) 肝機能調節因子としてのサイトカインの役割

i) 炎症性サイトカイン (インターロイキン  $1\beta$ , IL- $1\beta$ ) により誘導される一酸化窒素合成酵素 (iNOS) の新たな制御機構: 肝細胞の iNOS 遺伝子の発現誘導に、I $\kappa$ B キナーゼを介した NF- $\kappa$ B 活性化のシグナルに加えて、PI3 キナーゼ/Akt を介した IL-1 レセプター (IL-1R1) の増幅シグナルが重要な役割を果たすことが明らかとなった。

ii) 敗血症由来の肝不全における NO の役割: 敗血症時の多臓器不全の一因として NO の関与が報告されている。NO が肝不全に関与しているか否かをラット敗血症モデルを用いて検討した。敗血症モデルより肝細胞を調製し, IL-1 $\beta$  存在下での NO/iNOS 誘導を正常ラットと比較した。細胞のエネルギー代謝およびミトコンドリア機能の指標として, ATP レベルとケトン体比を見た。IL-1 $\beta$  による肝細胞の NO 産生誘導は正常ラットに比べて敗血症モデルでは有意に増加 (2-3 倍) した。一方, 細胞内 ATP のレベルは IL-1 $\beta$  添加により正常ラットに比べて敗血症群で有意な減少が認められた。ケトン体比も同様に IL-1 $\beta$  添加により敗血症群で減少を示した。これら ATP およびケトン体比の減少は NOS 阻害剤 (L-NMMA) 存在下ではブロックされ, 一方 NOS の基質である L-Arg 存在下では逆に促進傾向を示した。以上より, 敗血症群では肝細胞の IL-1 $\beta$  に対する NO 産生誘導の priming が亢進し, その過剰産生がミトコンドリアの機能不全を引き起こし, ATP 合成を阻害したと考えられる。NO によるこのエネルギー代謝への阻害効果が肝不全の一因と思われる。

iii) 肝細胞増殖因子 (HGF) の肝グルコース代謝における役割: HGF の mitogen としての役割は数多く報告されているが, その metabolic effects に関しては少ない。我々は HGF が肝細胞の糖代謝に関与しているか否かを検討した。HGF はインスリンによる肝グリコーゲン合成酵素の活性化を阻害し, 同時にグリコーゲンホスホリラーゼの抑制を解除することにより, グリコーゲンの蓄積を減少させた。しかし, グルカゴンやアドレナリンのグリコーゲン分解には効果を示さなかった。HGF はインスリンレセプターの活性化 (チロシンリン酸化) や IRS と PI3 キナーゼとの結合には影響を示さなかった。さらに下流のシグナルに何らかの影響を与えていると考えられる。

### 3) *movo* 遺伝子の機能的解析

哺乳動物における生殖細胞の分化機構の分子レベルでの解析を目的として, ショウジョウバエで卵巣の分化および卵形成に関わる *ovo* 遺伝子のマウス相同遺伝子 *movo* の構造機能解析を行った。*movo* 遺伝子の転写産物は3種類のアイソフォームが存在し, Zn フィンガー DNA 結合モチーフを有する核蛋白であること, DNA の特定の塩基配列を認識して結合すること, 転写活性をもつことから MOVO 蛋白が転写因子としての機能を持つことを示した。さらに, MOVO 蛋白を卵形成不能のショウジョウバエの変異体に形質導入すると部分的に卵形成が見られたことから, *in vivo* でも機能を持つことが証明できた。MOVO 蛋白の標的遺伝子を明らかにするために, *movo* 遺伝子のノックアウトマウス, コンディショナルノックアウトマウスを作製する一方, ゼブラフィッシュを用いた解析も進めている。

### 原 著

1. Tu W, Sato S, Zhang Z, Kitade H, Okumura T, Kwon A-H and Kamiyama Y (2003) Hepatocellular dysfunction induced by nitric oxide production in hepatocytes isolated from rats with sepsis. *Shock* 19: 373-377
2. Nakajima T, Yasuda K, Nishizawa M, Okada H, Yoshimura T, Ito S, Kanzaki H (2003) Expression of 20 $\alpha$ -hydroxysteroid dehydrogenase mRNA in human endometrium and deciduas. *Endocrine J* 50: 105-111
3. Mabuchi T, Matsumura S, Okuda-Ashitaka E, Kitano T, Kojima H, Nagano T, Minami T and Ito S (2003) Attenuation of neuropathic pain by nociceptin/orphanin FQ antagonist is mediated by inhibition of nitric oxide production. *Eur J Neurosci* 17: 1384-1392
4. Muratani T, Nishizawa M, Matsumura S, Mabuchi T, Abe K, Shimamoto K, Minami T and Ito S (2003) Functional characterization of prostaglandin F<sub>2 $\alpha$</sub>  receptor in spinal cord cells for allodynia. *J Neurochem* 86: 374-382
5. Minami T, Matsumura S, Mabuchi T, Kobayashi T, Sugimoto Y, Ushikubi F, Ichikawa A, Narumiya S and Ito S (2003) Functional evidence for interaction between prostaglandin EP<sub>3</sub> and  $\kappa$ -opioid pathways in tactile pain induced by human immunodeficiency virus type-1 (HIV-1)

- glycoprotein gp120. *Neuropharmacology* 45: 96–105
6. Nakauchi T, Ando A, Ueda-Yamada M, Yamazaki Y, Uyama M, Matsumura M and Ito S (2003) Prevention of ornithine cytotoxicity by nonpolar side chain amino acids in retinal pigment epithelial cells. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 44: 5023–5028
  7. Kaibori M, Kwon A-H, Teshima S, Nakanishi H, Kitano T, Kamiyama Y and Okumura T (2003) Hepatocyte growth factor inhibits insulin-stimulated glycogen synthesis in primary cultured hepatocytes. *J Hepatol* 38: 407–413
  8. Kaibori M, Yokoigawa N, Yanagida H, Nagahama T, Kwon A-H, Kamiyama Y and Okumura T (2003) Effect of exogenously administered HGF activator in liver regeneration. *Transplant Proc* 35: 439–440
  9. Tsuchiya H, Kaibori M, Yanagida H, Yokoigawa N, Kwon A-H, Okumura T and Kamiyama Y (2003) Pirfenidone prevents endotoxin-induced liver injury after partial hepatectomy in rats. *J Hepatol* 40: 94–101
  10. Saito T, Maruyama R, Ono S, Yasukawa N, Kodaira K, Nishizawa M, Ito S and Inoue M (2003) Asymmetric reduction of benzil to (S)-benzoin with whole cells of *Bacillus cereus*. *Appl Biochem Biotechnol* 111: 185–190
  11. Furukawa F, Matsuzaki K, Mori S, Tahashi Y, Yoshida K, Sugano Y, Yamagata H, Matsushita M, Seki T, Inagaki Y, Nishizawa M, Fujisawa J and Inoue K (2003) p38 MAPK mediates fibrogenic signal through Smad3 phosphorylation in rat myofibroblasts. *Hepatology* 38: 879–889
  12. Sugano Y, Matsuzaki K, Tahashi Y, Furukawa F, Mori S, Yamagata H, Yoshida K, Matsushita M, Nishizawa M, Fujisawa J and Inoue K (2003) Distortion of autocrine transforming growth factor beta signal accelerates malignant potential by enhancing cell growth as well as PAI-1 and VEGF production in human hepatocellular carcinoma cells. *Oncogene* 22: 2309–2321
  13. Nakajima T, Yasuda K, Nishizawa M, Okada H, Yoshimura T, Ito S and Kanzaki H (2003) Expression of 20 $\alpha$ -hydroxysteroid dehydrogenase mRNA in human endometrium and deciduas. *Endocrine J* 50: 105–111
  14. Teshima S, Nakanishi H, Nishizawa M, Kitagawa K, Kaibori M, Yamada M, Habara K, Kwon A-H, Kamiyama Y, Ito S and Okumura T (2004) Up-regulation of IL-1 receptor through PI3K/Akt is essential for the induction of iNOS gene expression in hepatocytes. *J Hepatol* 40: 616–623
  15. Kitano T, Matsumura S, Seki T, Hikida T, Sakimura K, Nagano T, Mishina M, Nakanishi S and Ito S (2004) Characterization of *N*-methyl-D-aspartate receptor subunits involved in acute ammonia toxicity. *Neurochem Int* 44: 83–90
  16. Koda N, Tsutsui Y, Niwa H, Ito S, Woodward D-F and Watanabe K (2004) Synthesis of prostaglandin F ethanamide by prostaglandin F synthase and identification of bimatoprost as a potent inhibitor of the enzyme: new enzyme assay method using LC/ESI/MS. *Arch Biochem Biophys* 424: 128–136
  17. Otsuji T, Okuda-Ashitaka E, Kojima S, Akiyama H, Ito S and Ohmiya Y (2004) Monitoring for dynamic biological processing by intra-molecular bioluminescence resonance energy transfer system using secreted luciferase. *Anal Biochem* 329: 230–237
  18. Unezaki S, Nishizawa M, Okuda-Ashitaka E, Masu Y, Mukai M, Kobayashi S, Sawamoto K, Okano H and Ito S (2004) Characterization of isoforms of MOVO zinc finger protein, a mouse homologue of *drosophila ovo*, as a transcription factor. *Gene* 336: 47–58
  19. 海堀昌樹, 權 雅憲, 柳田英佐, 上山泰男, 奥村忠芳 (2003) 肝臓の糖質および脂質代謝におよぼす肝細胞増殖因子 (HGF) の影響. *外科と代謝・栄* 37: 239–245
  20. 伊藤誠二, 西澤幹雄, 南 敏明, 土居 ゆみ (2003) 病態としての“痛み”研究: 脊髄のPGsと痛み. *脳* 21 6: 48–54
- 学会発表
1. Okuda-Ashitaka E, Otsuji T, Ito S and Ohmiya Y (2003) A novel intra-molecular bioluminescence

- resonance energy transfer (BRET) for dynamic biological processing. The 31th Annual meeting of the American Society of Photobiology, Baltimore
2. Ito S, Matsumura S, Mabuchi T and Minami T (2003) Functional evidence for interaction between prostaglandin EP3 and  $\kappa$ -opioid receptor pathways in tactile pain induced by human immunodeficiency virus type-1 (HIV-1) glycoprotein gp120. The 33<sup>rd</sup> Annual meeting of Society for Neuroscience, New Orleans
  3. Okuda-Ashitaka E, Otsuji T, Ohmiya Y and Ito S (2003) Processing mechanism of prepronociceptin/orphanin FQ. The 33<sup>rd</sup> Annual meeting of Society for Neuroscience, New Orleans
  4. Matsumura S, Mabuchi T, Okuda-Ashitaka E, Nagano T, Minami T and Ito S (2003) Attenuation of neuropathic pain by the nociceptin/orphanin FQ antagonist JTC-801 is mediated by inhibition of nitric oxide production. The 33<sup>rd</sup> Annual meeting of Society for Neuroscience, New Orleans
  5. Kaibori M, Yanagida H, Tsuchiya H, Yokoigawa N, Hijikawa T, Kwon A-H, Okumura T and Kamiyama Y (2003) Effect of pirlfenidone on endotoxin-induced liver injury after partial hepatectomy in rats. VIII Congress of the Aisan Society Transplantation, Kuala Lumpur, Malaysia
  6. Kaibori M, Yanagida H, Tsuchiya H, Uchida Y, Yokoigawa N, Kwon A-H, Okumura T and Kamiyama Y (2003) Pirlfenidone protects endotoxin-induced liver injury after hepatic ischemia in rats. VIII Congress of the Aisan Society Transplantation, Kuala Lumpur, Malaysia
  7. Kaibori M, Yanagida H, Yokoigawa N, Kwon A-H, Okumura T and Kamiyama Y (2003) Effect of pirlfenidone on induction of chemokines in rat hepatocytes. VIII Congress of the Aisan Society Transplantation, Kuala Lumpur, Malaysia
  8. Kaibori M, Yanagida H, Yokoigawa N, Kwon A-H, Okumura T and Kamiyama Y (2003) Effect of hepatocyte growth factor on induction of cytokine-induced neutrophil chemoattractant in rat hepatocytes. VIII Congress of the Aisan Society Transplantation, Kuala Lumpur, Malaysia
  9. Yanagida H, Kaibori M, Yamada M, Habara K, Yokoigawa N, Kwon A-H, Kamiyama Y and Okumura T (2003) Induction of inducible nitric oxide synthase in hepatocytes isolated from rats with ischemia/reperfusion injury. VIII Congress of the Aisan Society Transplantation, Kuala Lumpur, Malaysia
  10. Nakai K, Hamada Y, Kato Y, Kitagawa K, Habara K, Yamada M, Kamiyama Y and Okumura T (2003) Comparison between two methods for glucose absorption assays after small bowel transplantation. International Symposium of Small Bowel Transplantation, Miami, USA
  11. Nakai K, Hamada Y, Kato Y, Kitagawa K, Habara K, Yamada M, Kamiyama Y and Okumura T (2003) EGF stimulates the graft function after small bowel transplantation in rats. 25<sup>th</sup> European Society of Parenteral and Enteral Nutrition, Cannes, France
  12. Otsuji T, Okuda-Ashitaka E, Kojima T, Akiyama H, Ito S and Ohmiya Y (2003) Application to processing system using intra-molecular BRET. International Society for Optical Engineering, Photonics West 2003, San Jose
  13. 伊藤誠二, 芦高恵美子, 西澤幹雄, 松村伸治, 馬淵圭生, 杉本哲夫, 新宮 興 (2003) 生物新機能と創薬をめざす生体内分子科学 新規ノシセプチン受容体拮抗薬を用いた内在性ノシセプチンの慢性痛への関与の検証 . 学術創成第4回シンポジウム, 岐阜
  14. 伊藤誠二, 馬淵圭生, 松村伸治, 芦高恵美子, 南 敏明, 馬場明道, 橋本 均, 新谷紀人, 佐々木泰治, 長野哲雄 (2003) 慢性痛とは何か 基礎医学の立場より . 京都健康フォーラム 2003, 京都
  15. 伊藤誠二, 馬淵圭生, 松村伸治, 芦高恵美子, 南 敏明 (2003) マウス術後痛モデルに対するザルトプロフェンの効果 . 第2回ザルトプロフェンカンファレンス, 京都
  16. 芦高恵美子, 尾辻智美, 近江谷克裕, 伊藤誠二 (2003) ノシセプチン/オーファニン FQ 前駆体のプロセッシング機構 . 第26回日本神経

科学大会, 名古屋

17. 伊藤誠二, 馬淵圭生, 松村伸治, 芦高恵美子, 南 敏明, 馬場明道, 橋本 均, 新谷紀人 (2003) 脊髄における神経可塑性モデル アロディニアの発生機構 . 特定研究班会議, 札幌
18. 伊藤誠二, 芦高恵美子, 西澤幹雄, 松村伸治, 馬淵圭生 (2003) 生化学・分子生物学的アプローチによる痛み研究の最近の進歩 . 第46回日本神経化学大会, 新潟
19. 芦高恵美子, 尾辻智美, 近江谷克裕, 伊藤誠二 (2003) A novel intra-molecular bioluminescence resonance energy transfer (BRET) for monitoring the processing of prepronociceptin/orphanin FQ. 第76回日本生化学会大会シンポジウム, 横浜
20. Nishizawa M, Muratani T, Matsumura S, Mabuchi T, Abe K, Shimamoto K, Minami T and Ito S (2003) Functional characterization of prostaglandin F<sub>2α</sub> receptor in the spinal cord for tactile pain (allodynia). 第76回日本生化学会大会シンポジウム, 横浜
21. Watanabe K, Ohkubo H, Niwa H, Tanikawa N, Koda N, Kojima H, Ito S, Ohmiya and Y (2003) Essential <sup>110</sup>Cys in active site of membrane-associated prostaglandin E synthase-2. 第76回日本生化学会大会, シンポジウム, 横浜
22. 柳田英佐, 海堀昌樹, 横井川規巨, 奥村忠芳, 權 雅憲, 上山泰男 (2003) 肝細胞増殖因子 (HGF) の硬変肝における活性化 . 第103回日本外科学会, 札幌
23. 海堀昌樹, 柳田英佐, 横井川規巨, 奥村忠芳, 權 雅憲, 上山泰男 (2003) HGF activator による肝部分切除後の肝再生促進効果 . 第103回日本外科学会, 札幌
24. 北川克彦, 浜田吉則, 中井宏治, 加藤泰規, 伊藤誠二, 奥村忠芳 (2003) ラット小腸上皮細胞におけるEGFの一酸化窒素の産生誘導 . 第103回日本外科学会, 札幌
25. 北川克彦, 濱田吉則, 中井宏治, 加藤泰規, 日置紘士郎, 奥村忠芳 (2002) 小腸上皮細胞における上皮成長因子の一酸化窒素の産生 . 第14回日本小腸移植研究会, 京都
26. 北川克彦, 浜田吉則, 中井宏治, 加藤泰規, 羽原弘造, 山田正法, 奥村忠芳 (2002) 炎症時のEGFの一酸化窒素産生誘導におけるシグナル解析 . 第40回日本外科代謝栄養学会, 福岡
27. Teshima S, Nakanishi H, Kitagawa K, Kaibori M, Kwon A-H, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2003) Up-regulation of interleukin 1 receptor through phosphatidylinositol 3-kinase is required for the induction of inducible nitric oxide synthase in hepatocytes (インターロイキン 1βによる肝細胞の誘導型一酸化窒素合成酵素の誘導促進にはその受容体の増加が必要である) . 第76回日本生化学会, 横浜
28. Kaibori M, Yanagida H, Nakanishi H, Kamiyama Y and Okumura T (2003) Effect of hepatocyte growth factor on the induction of cytokine-induced neutrophil chemoattractant in primary cultures of rat hepatocytes (ラット初代培養肝細胞における肝細胞増殖因子のサイトカイン誘導性好中球遊走因子 (CINC) の発現誘導) . 第76回日本生化学会, 横浜
29. 豊島 茂, 中西英樹, 海堀昌樹, 山田正法, 羽原弘造, 中竹利知, 濱田吉則, 上山泰男, 奥村忠芳 (2003) インターロイキン 1βによる肝細胞の誘導型一酸化窒素合成酵素の誘導促進にはその受容体の増加が必要である . 第10回肝細胞研究会, 東京
30. 海堀昌樹, 柳田英佐, 中西英樹, 山田正法, 羽原弘造, 上山泰男, 奥村忠芳 (2003) ラット初代培養肝細胞におけるHGFのCINC発現誘導 . 第10回肝細胞研究会, 東京
31. 幸田紀子, 伊藤誠二, 渡部紀久子 (2003) New LC/MS-based method for assay of prostaglandin F synthase and effects of various inhibitors on the enzyme. 第76回日本生化学会, 横浜
32. Teshima S, Nakanishi H, Kitagawa K, Kaibori M, Kwon A-H, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2003) Up-regulation of interleukin 1 receptor through phosphatidylinositol 3-kinase is required for the induction of inducible nitric oxide synthase in hepatocytes. 第76回日本生化学会, 横浜
33. 尾辻智美, 芦高恵美子, 小島 哲, 秋山英文, 伊藤誠二, 近江谷克裕 (2003) 分泌型ルシフェラーゼを用いた新規一分子内 BRET のタンパク質プロセッシングへの応用 . 第26回日本分

子生物学会年会，神戸

## 著書

1. Zeilhofer HU, Reinscheid RK, Okuda-Ashitaka E (2003) Nociceptin, Nocistatin and Pain. Proceeding of the 10th World Congress on Pain, Progress in Pain Reserch and Management Vol. 24 (Jonathan O. Dostrovsky, Daniel B. Carr, and Martin Koltzenburg ed), IASP Press, Seattle
2. 伊藤誠二 (2002) PGE<sub>2</sub> と痛みとの関係は？これだけは知っておきたいアラキドン酸カスケード Q & A (室田誠逸編) 89-91 頁, 医薬ジャーナル
3. 奥村忠芳 (2003) グリコーゲン代謝. 医学書院医学大事典 (伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨編), 医学書院, 東京
4. 芦高恵美子, 伊藤誠二 (2003) ノシセプチン. 痛み 基礎・診断・治療 (花岡一雄編) 37-40 頁, 朝倉書店, 東京

## 薬理学講座

### 研究概要

本教室では、細胞内クロライド濃度調節機構の解明を中心テーマとして、主に中枢神経系、循環器系、呼吸器系、免疫系、内分泌系疾患と関連させて研究を行っている。

#### 1. クロライドイオン輸送機構とその制御

1) Cl<sup>-</sup>-ATPase の構造解析：クロライドイオンは、中枢神経の過分極性抑制性シナプス伝達において中心的な役割を果たしている。抗てんかん薬や鎮静薬は主に、このイオンの細胞内流入を促進することにより神経細胞の興奮性を抑制する。従って、神経細胞内クロライド濃度が低く保たれていることが、抑制性シナプス伝達やこれら薬物の効果発現に必須とされている。我々は、このクロライドイオン濃度維持に関与する分子として、ATP に依存してクロライドイオンの排出を担う分子、すなわち Cl<sup>-</sup>-ATPase を主に脳、および腎臓に見だし、精製、構造決定を行っている。Cl<sup>-</sup>-ATPase の機能体タンパク質は数種のサブユニットから成る約 600 kDa の複合タンパク質として精製され、51 kDa タンパク質がリン酸化を受ける触媒サブユニットと考えられた。他のサブユニットの 55 kDa 糖タンパク質を精製し、その部分アミノ酸配列を基にラット脳 cDNA ライブラリーから cDNA クローンを得た。本タンパク質は 504 個のアミノ酸から成り、28 個のシグナルペプチド領域、複数のミリスチル化部位などを含む新規タンパク質であった。この cDNA 配列を基にアンチセンスオリゴヌクレオチドを作成し、培養海馬神経細胞に導入したところ、55 kDa タンパク質生成を抑制すると共に、細胞内 Cl<sup>-</sup> イオン濃度を増加させた。免疫組織化学法および免疫電子顕微鏡による解析により、55 kDa タンパク質は主に神経細胞の細胞膜に局在することが確認された。これらの結果から、55 kDa タンパク質は Cl<sup>-</sup>-ATPase 活性を担うサブユニットのひとつと考えられた。

2) アルツハイマー病における神経細胞変性と Cl<sup>-</sup>-ATPase：アミロイド β 蛋白 (Aβ) の沈着を特徴とするアルツハイマー病の神経変性の原因として神経細胞の過興奮毒性が提唱されている。我々は、アルツハイマー病脳において Cl<sup>-</sup>-ATPase 活性が低下していること、培養ラット海馬神経細胞において Aβ が Cl<sup>-</sup>-ATPase 活性を低下させ細胞内 Cl<sup>-</sup> 濃度を上昇させることを見いだした。Aβ により、神経細胞膜分画のイノシトールリン脂質 (PI, PIP, PIP<sub>2</sub>) のレベルが低下し、イノシトールの添加で Cl<sup>-</sup>-ATPase 活性が回復した。この回復は PI4 kinase 阻害薬で抑制され、外来性の PI4P 添加により回復し、細胞内 Cl<sup>-</sup> 濃度も正常化したことから、Aβ による PI4P レベルの低下が Cl<sup>-</sup>-ATPase 活性を低下させると推測された。更に Aβ はグルタミン酸による神経細胞の DNA fragmentation を増強したが、イノシトールの添加はこれを減弱したことから、Cl<sup>-</sup>-ATPase 活性の低下が神経細胞内 Cl<sup>-</sup> 濃度の上昇をきたし、神経細胞変性を生じるもの

と考えられた。

エストラジオールはアルツハイマー病における神経変性を抑制する可能性がある薬物として注目されている。このエストラジオールの神経保護効果に Cl<sup>-</sup>-ATPase が関与しているか否かを検討した。エストラジオールは  $\beta$  による Cl<sup>-</sup>-ATPase 活性低下作用を回復させ、その効果はエストロゲン受容体阻害薬、PKG 阻害薬、CAMKII 阻害薬、PI4K 阻害薬でブロックされた。また、エストラジオールは  $\beta$  による PIP、PIP2 レベルの低下を回復させ、 $\beta$  存在下、グルタミン酸毒性も抑制したことから、エストラジオールはその核外受容体に結合し、PKG/CAMKII を介して PI4K を活性化し、膜 PI4P レベルを上昇させ、Cl<sup>-</sup>-ATPase 活性を増加させる可能性が示唆された。

3) アンモニアによる神経細胞内クロライド濃度 [Cl<sup>-</sup>]<sub>i</sub> と GABA<sub>A</sub> 受容体：高アンモニア血症は、肝性脳症におけるけいれんなどの中枢神経症状の原因のひとつと考えられている。我々は、高アンモニア血症が神経細胞内クロライド濃度 [Cl<sup>-</sup>]<sub>i</sub> を変化させ、過分極性抑制性シナプス伝達を変化させる可能性に注目し、培養海馬神経細胞に 2 mM アンモニアを 2 日間作用させ、[Cl<sup>-</sup>]<sub>i</sub> の変化を検討した。このアンモニア処置により、Cl<sup>-</sup>/HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> の発現増加を介する [Cl<sup>-</sup>]<sub>i</sub> の上昇が起こり、これにより GABA 刺激で神経細胞は脱分極を生じた。高アンモニア血症時の神経興奮作用は、この [Cl<sup>-</sup>]<sub>i</sub> 上昇によるものと考えられた。抗不安作用を示す dihydrohonokiol B の同時添加は、アンモニアによる [Cl<sup>-</sup>]<sub>i</sub> 上昇を正常レベルに回復した。また、このアンモニアの作用は、GABA<sub>A</sub> 受容体作動薬により抑制されたが、GABA<sub>A</sub> 受容体阻害薬では抑制されなかったこと、GABA<sub>A</sub> 受容体阻害薬により増強したことから、GABA<sub>A</sub> 受容体を介する作用と考えられた。更に、single cell RT-PCR 法により、神経細胞における GABA<sub>A</sub> 受容体 rho1, rho2, rho3 サブユニットの発現が確認された。

我々はまた、アンモニアで神経細胞のアポトーシスが起ることを明らかにした。アポトーシスカスケードの中で、誘導因子のひとつである BAD は、リン酸化された状態で 14-3-3 タンパク質と複合体を形成し、不活性型として存在する。刺激により、p-BAD が脱リン酸化されると活性型の BAD となって 14-3-3 タンパク質から解離し、Bax の活性化、ミトコンドリアからのチトクローム C の遊離、caspase 9、caspase 3 の活性化を介してアポトーシスを来すものと考えられている。アンモニア処置により、p-BAD の減少、活性型 caspase 9、caspase 3 の増加が認められ、GABA<sub>A</sub> 受容体作動薬により p-BAD が回復し、GABA<sub>A</sub> 受容体阻害薬で抑制されたことから、アンモニアによるアポトーシスの誘導に GABA<sub>A</sub> 受容体が保護的に作用している可能性が示唆された。

## 2. 生理活性物質に対する細胞内情報伝達機構

1) ラット心室乳頭筋細胞における  $\alpha$ 1 アドレナリン受容体作動薬変力効果に関与する受容体サブタイプおよび G タンパク質： $\alpha$ 1 アドレナリン受容体作動薬は、ラット心室乳頭筋細胞において 3 相性（一過性陽性 一過性陰性 持続性陽性）変力効果を示す。この第 2 および 3 相の変力効果に関与する受容体サブタイプおよび細胞内シグナリングを比較した。 $\alpha$ 1A 受容体の拮抗薬は第 3 相の持続性陽性変力効果を、 $\alpha$ 1B 受容体拮抗薬は第 2 相の一過性陰性変力効果を、それぞれ選択的に阻害した。また、百日咳トキシン (IAP) による前処置により第 2 相のみが選択的に抑制された。更に第 2 相はウアインによっても阻害された。これらの結果より、第 2 相は  $\alpha$ 1B 受容体 /Gq および Na<sup>+</sup>、K<sup>+</sup>ATPase 活性化を、第 3 相は  $\alpha$ 1A 受容体 /Gi を介するシグナリング経路をとることが示された。

2) プロテアーゼ活性化受容体 2 (PAR2) 刺激による気道上皮細胞内シグナリングの解析：プロテアーゼ活性化受容体 (PAR) は、その細胞外特定領域がセリンプロテアーゼによって限定分解を受けることにより活性化される G 蛋白質共役型受容体である。モルモット培養気道上皮細胞に PAR1 および PAR2 刺激作用を持つトリプシンを作用させると [Ca<sup>2+</sup>]<sub>i</sub> は一過性に増加した。この反応は PAR1 刺激作用を持つトロンピンでは認められなかったことから、PAR2 刺激によるものと考えられた。この PAR2 刺激による



[Ca<sup>2+</sup>]<sub>i</sub>の上昇はPLCβ阻害薬やCa<sup>2+</sup>-ATPase阻害薬の処置後には認められなかったことより、細胞内貯蔵Ca<sup>2+</sup>の動員によるものと考えられた。

3)ウサギ網膜色素上皮細胞における lysyl oxidase 発現調節機構の解析: lysyl oxidase はコラーゲンの成熟に重要な役割を演じている。我々はウサギ網膜色素上皮細胞でこの酵素が強く発現していることを見いだした。lysyl oxidase mRNA レベルは、体液貯留時や網膜色素上皮の増殖時に増加し、分化時に減少したことから網膜色素上皮に関わる病態に關与する可能性が示唆された。

### 3. 免疫細胞におけるクロライドチャンネル発現とその生理作用

クロライドチャンネルは免疫細胞において、容量調節、細胞増殖、免疫機能に重要な役割を演じている。我々は、免疫細胞における CIC (クロライドチャンネル) ファミリーの発現を検討した。CIC-3 は T 細胞, B 細胞, 好中球のいずれにおいても最も強く発現が認められた。CIC-2 もすべての免疫細胞で認められたが, CIC-4 は主に B 細胞で認められ, CIC-5 は成熟好中球ではその発現が認められなかったことから, CIC クロライドチャンネルは免疫細胞において細胞特異的な作用を有することが示唆された。

### 4. 内分泌系と免疫系のクロストーク機構の解明

内分泌系と免疫系は互いに密接に関係していることが最近明らかになってきている。我々はヒト免疫細胞の内、主に B 細胞で成長ホルモン (GH) や成長ホルモン受容体 (GHR) が発現していることを明らかにした。

我々は原因不明の高プロラクチン (PRL) 血症の約 16% に、抗 PRL 自己抗体による高 PRL 血症を見いだした。臨床的特徴として、無月経や乳汁漏出は稀で、プロモクリプチンによる治療無しでも妊娠分娩が可能であった。自己抗体結合 PRL は非結合 PRL 同様の生物活性を示したことから、自己抗体結合 PRL は血中からのクリアランスは遅いため高 PRL 血症を生じるが、受容体へのアクセスが悪いため、in vivo では生物作用が弱いと考えられた。

## 研究業績

### 原著

1. Suzukawa J, Omori K, Yang L and Inagaki C (2003) Continuous administration of natisense oligonucleotides to c-fos reduced the development of seizure susceptibility after ethacrynic acid-induced seizure in mice. *Neurosci Lett* 349: 21-24
2. Zhang N-Y, Kitagawa K, Wu B and Inagaki C (2003) Soybean-derived phosphatidylinositol recovers amyloid β protein-induced neurotoxicity in cultured rat hippocampal neurons. *Neurosci Lett* 350: 105-108
3. Yang L, Omori K, Omori K, Otani H, Suzukawa J and Inagaki C (2003) GABA<sub>A</sub> receptor agonist suppressed ammonia-induced apoptosis in cultured rat hippocampal neurons by restoring phosphorylated BAD level. *J Neurochem* 87: 791-800

### 総説

1. Hattori N (2003) Macroprolactinemia: a new cause of hyperprolactinemia. *J Pharmacol Sci* 92: 171-177
2. 森 泰生, 稲垣千代子, 久野みゆき, 井上隆司, 岡田泰伸, 今泉祐治 (2003) 細胞増殖・分化・死を制御するイオンメカニズムと創薬. *日薬理誌* 122: 201-214

### 学会発表

1. 稲垣千代子, 北川香織, 服部尚樹 (2003) 中枢神経細胞死とクロライドポンプ. 日本薬理学会, 福岡
2. 服部尚樹, 姜 宝紅, 劉 氷, 北川香織, 稲垣千代子 (2004) 抗プロラクチン自己抗体測定法の確立. 日本薬理学会, 福岡
3. 大谷ひとみ, 矢木泰弘, 大城明寛, 稲垣千代子 (2003) 疑似虚血によるラット心筋細胞内プロテインキナーゼ Cε の活性化機序. 日本薬

- 理学会, 福岡
4. 姜 宝紅, 服部尚樹, 劉 氷, 稲垣千代子 (2003) クロライドチャネル阻害薬は, VRAC を阻害してヒト白血病細胞増殖を抑制する. 日本薬理学会, 福岡
  5. 矢木泰弘, 大谷ひとみ, 大城明寛, 稲垣千代子 (2003) ヒト肺胞上皮細胞におけるプロテアーゼ活性化受容体 2 を介した好中球接着の上昇機構. 日本薬理学会, 福岡
  6. 劉 氷, 服部尚樹, 姜 宝紅, 稲垣千代子 (2003) 免疫細胞におけるクロライド ATPase. 日本薬理学会, 福岡
  7. 楊 麗, 大森京子, 鈴川純子, 稲垣千代子 (2003) GABA<sub>A</sub> 受容体作動薬は培養海馬神経細胞のアンモニア誘発性アポトーシスを Bad 蛋白質の脱リン酸化抑制により阻止する. 日本薬理学会, 福岡
  8. 吳 波, 北川香織, 張 南雁, 稲垣千代子 (2003) アミロイド β 蛋白の Cl-ATPase 活性抑制におけるホスファチジルイノシトール 4 キナーゼの関与. 日本薬理学会, 福岡
  9. 張 南雁, 北川香織, 吳 波, 稲垣千代子 (2003) アミロイド β 蛋白の神経毒性に対する植物由来のホスファチジルイノシトールの回復効果. 日本薬理学会, 福岡
  10. 姜 宝紅, 服部尚樹, 劉 氷, 北川香織, 稲垣千代子 (2003) ClC-5 expression in neutrophils. 日本薬理学会, 福井
  11. 吳 波, 北川香織, 張 南雁, 稲垣千代子 (2003) 低濃度アミロイド β 蛋白によるホスファチジルイノシトール 4 キナーゼ活性の抑制. 日本薬理学会, 福井
  12. 矢木泰弘, 大谷ひとみ, 大城明寛, 稲垣千代子 (2003) PAR-2 刺激によるヒト肺上皮細胞の好中球接着能亢進機序における Rho キナーゼの関与. 日本薬理学会, 大阪
  13. 張 南雁, 北川香織, 吳 波, 稲垣千代子 (2003) アミロイド β 蛋白による培養ラット海馬神経細胞の Cl-ATPase 活性抑制に対する植物由来ホスファチジルイノシトールの効果. 日本薬理学会, 大阪

## 病理学第一講座

### 研究概要

骨髄移植は, 白血病, 再生不良性貧血, 先天性免疫不全症等の治療法として目覚ましい進歩を遂げている. さらに最近, 欧米では自己免疫疾患の治療にも骨髄移植が開始されるようになり, 骨髄移植の適応範囲が今後益々拡大するものと考えられる. しかしながら, 移植片対宿主反応 (GVHR) の問題や移植片の拒絶, 放射線の副作用等解決されなければならない問題を抱えている. 我々は, これらの問題を解決するための新しい骨髄移植方法 (門脈から骨髄細胞を移植する方法と骨髄内へ直接骨髄細胞を移植する方法) を開発した. これらの方法によって誘導される免疫学的寛容の機序を解析し, ヒトの応用に向けて, 基礎固めをする.

一方, 臓器移植に関しても, 拒絶反応を抑制するためには, 長期間の免疫抑制剤投与が不可欠であるが, 薬の副作用による種々の弊害も生じている. 我々は, 長期間の免疫抑制剤の投与なくして, 永続的に免疫学的寛容を誘導する方法をマウスを用いて開発し, ヒトへの応用に向けてウサギ, ブタ, サル等の中~大動物を用いて基礎固めをする.

### 研究業績

#### 原 著

1. Wang YB, Ogawa Y, Doi H, Kusumoto K, Jin TN and Ikehara S (2003) Long-term immunologic induction of donor-specific tolerance to skin allografts by bone marrow transplantation in rabbit. *Plast Reconstr Surg* 111: 291-297
2. Iwai H, Lee S, Inaba M, Sugiura K, Baba S, Tomoda K, Yamashita T and Ikehara S (2003) Correlation between accelerated presbycusis and decreased immune functions. *Exp Gerontol* 38: 319-325

3. Lian ZX, Okada T, He XS, Kita H, Liu YJ, Ansari AA, Kikuchi K, Ikehara S and Gershwin ME (2003) Heterogeneity of dendritic cells in the mouse liver: Identification and characterization of four distinct populations. *J Immunol* 170: 2323–2330
  4. Wang J, Kimura T, Asada R, Harada S, Yokota S, Kawamoto Y, Fujimura Y, Tsuji T, Ikehara S and Sonoda Y (2003) SCID-repopulating cell activity of human cord blood-derived CD34-negative cells assured by intra-bone marrow injection. *Blood* 101: 2924–2931
  5. Okada T, Lian ZX, Naiki M, Ansari AA, Ikehara S and Gershwin ME (2003) Murine thymic plasmacytoid dendritic cells. *Eur J Immunol* 33: 1012–1019
  6. Hosaka N, Ito M, Taki Y, Iwai H, Toki J and Ikehara S (2003) Amyloid A gastrointestinal amyloidosis associated with idiopathic retroperitoneal fibrosis. *Arch Pathol Lab Med* 127: 735–738
  7. Ikehara S (2003) New strategies for allogeneic BMT. *Bone Marrow Transplantation* 8: 77–81
  8. Yoshimura T, Inaba M, Sugiura K, Nakajima T, Ito T, Nakamura K, Kanzaki H and Ikehara S: Analyses of dendritic cell subsets in pregnancy. *Am J Reprod Immunol* 50: 137–145
  9. Toki J, Adachi Y, Jin T, Fan T, Takase K, Lian Z, Hayashi H, Gershwin ME and Ikehara S (2003) Enhancement of IL-7 following irradiation of fetal thymus. *Immunobiol* 207: 247–258
  10. Esumi T, Inaba M, Ichioka N, Kushida T, Iida H and Ikehara S (2003) Successful allogeneic leg transplantation in rats in conjunction with intra-bone marrow injection of donor bone marrow cells. *Transplantation* 76: 1543–1548
  11. Kikuchi K, Lian ZX, He XS, Ansari AA, Ishibashi M, Miyakawa H, Shultz LD, Ikehara S and Gershwin ME (2003) Appearance of human plasma cells following differentiation of human B cells in NOD/SCID mouse spleen. *Clin Dev Immunol* 10: 197–202
  12. 足立 靖, 由谷親夫, 南野桂三, 岩坂壽二, 池原 進 (2003) 再生医療の病理. *病理と臨床* 21: 732–737
- 総 説
1. Ikehara S (2003) Treatment of autoimmune diseases in mice by a new method for allogeneic bone marrow transplantation. *Therap Apher Dial* 7: 292–297
  2. Ikehara S (2003) New strategy for BMT, organ transplantation, and regeneration therapy. *Hematology* 8: 77–81
  3. Ikehara S (2003) A novel strategy for allogeneic stem cell transplantation: perfusion method plus intra-bone marrow injection of stem cells. *Exp Hematol* 31: 1142–1146
  4. Ikehara S (2003) State-of-the-Art review A new concept of stem cell disorders and their new therapy. *J Hematother Stem Cell Res* 12: 643–653
  5. 池原 進 (2003) 自己免疫疾患における再生医療としての造血細胞移植. *炎症・再生* 23: 110–115
  6. 池原 進 (2003) 骨髄内骨髄移植とその有用. *臨床免疫* 39: 74–79

## 病理学第二講座

### 研究概要

#### I. 天然エストロゲン様化学物質の周生期暴露による影響

外因性内分泌かく乱物質として、農薬や石油製品といった環境汚染物質の人体に対する影響は世間の耳目を集めているが、食品中に存在する植物エストロゲンや食品中に混入するかび毒エストロゲンといった天然エストロゲンの影響については忘れがちである。とりわけ、内分泌かく乱物質は成体においては可逆的に作用するが、機能・形態形成期では非可逆的に作用して重大な結果を招来するおそれがある。

る．そこで、大豆に含まれる Genistein, ブドウや赤ワインに豊富にみとめる Resveratrol, あるいはかび毒エストロゲンである Zearalenone といった天然の化学物質に着目し、ラットの周生期暴露実験を行い、エストロゲン標的臓器の変化、乳腺発癌に対する影響につき検討した．その結果、Genistein を 1.5 mg/kg あるいは 30 mg/kg を連日計 5 回、胎仔期(妊娠 15-19 日の母胎に投与して出生雌ラットにつき検索)、または思春期前期(15-19 日齢の雌乳仔に投与)すると、Genistein により膣開口が早発する傾向をみたが、>80%の個体は正常の発情周期を呈していた．一方、乳癌発生率は Genistein 投与により減少傾向にあり、特に思春期前の 1.5 mg/kg の投与(ほぼアジア人の 1 日摂取量に相当)により、有意の減少をみた(原著-7)．Resveratrol(10 mg/kg あるいは 100 mg/kg)を 15-19 日齢の雌ラットに連日投与したところ、Resveratrol は膣開口や発情周期からみると、エストロゲン様作用を呈していた．そして、100 mg/kg 投与群では有意に乳癌の発生が促進されたが 10 mg/kg 群では Resveratrol 非投与群と差をみなかった．但し、100 mg/kg Resveratrol とは赤ワインに換算するとグラス 5000 杯量に相当し、その 1/10 量に乳癌促進作用はみなかった(原著-9)．Zearalenone (0.1 mg/kg あるいは 10 mg/kg)を 15-19 日齢の雌ラットに連日投与したところ、10 mg/kg 投与群で有意の乳癌の抑制をみた．しかし、Zearalenone 投与により、膣開口は早発し、発情期の延長に起因する顕著な発情周期の乱れがみとめられ、Zearalenone の投与量に依存して、不妊を示唆する無排卵性卵巣が惹起された(原著-10)．以上により、周生期とりわけ思春期前の Genistein を含む大豆製品の摂取は大いに推奨されようが、この時期の Resveratrol を含むブドウ製品の大量摂取は乳癌危険因子となりうる可能性があり、Zearalenone の存在する穀物の摂取は不妊をきたすおそれがあることより注意を要する．

## II. n-3 系多価不飽和脂肪酸による乳癌抑制能の比較

エイコサペンタエン酸やドコサヘキサエン酸は n-3 系多価不飽和脂肪酸に属し、ともに乳癌抑制能を有することが知られている．しかしいずれに、より強い乳癌抑制能が存在するかを明瞭に証明した報告はない．そこで、MNU 誘発乳癌モデルを用いて、MNU 投与後に 10%エイコサペンタエン酸食、5%エイコサペンタエン酸 + 5%ドコサヘキサエン酸食、10%ドコサヘキサエン酸食を摂取する 3 群に分け、乳癌の発生を比較した．その結果、10%ドコサヘキサエン酸食摂取群に有意の乳癌の抑制をみとめ、DHA の有効性が判明した(原著-3)．

## III. MNU 誘発網膜変性症動物モデルに対する病態抑制の試み

我々は、神経保護作用を有するニコチンアミドが、MNU 誘発網膜変性症の抑制に対して、形態的に評価すると、極めて有効であることを見出した(Kiuchi K et al., *Exp Eye Res* 74 (3): 383-392, 2002)．そこで、視覚が機能的にも保持されているかを確証するべく、網膜電図(ERG)を実験系に組み込み、ニコチンアミドの効果をみたところ、病態の抑制は機能的にも明かであることが判明した(原著-4)．MNU 誘発網膜変性症に対する病態制御の今ひとつの試みとして脂肪酸の有効性につき検討した．n-3 系多価不飽和脂肪酸であるドコサヘキサエン酸は網膜に豊富に存在し、欠乏により視機能に障害をみる．MNU を処置後に各種 10%脂肪酸含有食(各のリノール酸食、パルミチン酸食、エイコサペンタエン酸食、1:1 エイコサペンタエン酸 + ドコサヘキサエン酸食、ドコサヘキサエン酸食)に食餌を変更して、長期観察を試みたところ、ドコサヘキサエン酸食摂取群においてのみ網膜傷害の抑制をみた(原著-6)．

## 研究業績

原著

1. Tsujita-Kyutoku M, Kiuchi K, Danbara N, Yuri T, Senzaki H and Tsubura A (2003) p63 expression in normal human epidermis and epidermal appendages and their tumors. *J Cutan Pathol* 30:

11-17

2. Kurokawa I, Nishijima S, Kusumoto K, Senzaki H, Shikata N and Tsubura A (2003) Trichofolliculoma: case report with immunohistochemical study of cytokeratins. *Br J Dermatol* 148: 597-598

3. Yuri T, Danbara N, Tsujita-Kyutoku M, Fukunaga K, Takada H, Inoue Y, Hada T and Tsubura A (2003) Dietary docosahexaenoic acid suppresses *N*-methyl-*N*-nitrosourea-induced mammary carcinogenesis in rats more effectively than eicosapentaenoic acid. *Nutr Cancer* 45: 211–217
  4. Kiuchi K, Kondo M, Ueno S, Moriguchi K, Yoshizawa K, Miyake Y, Matsumura M and Tsubura A (2003) Functional rescue of *N*-methyl-*N*-nitrosourea-induced retinopathy by nicotinamide in Sprague-Dawley rats. *Curr Eye Res* 26: 355–362
  5. Ichiyoshi H, Kiyozuka Y, Kishimoto Y, Fukuhara S and Tsubura A (2003) Massive telomere loss and telomerase RNA expression in dexamethasone-induced apoptosis in mouse thymocytes. *Exp Mol Pathol* 75: 178–186
  6. Moriguchi K, Yuri T, Yoshizawa K, Kiuchi K, Takada H, Inoue Y, Hada T, Matsumura M and Tsubura A (2003) Dietary docosahexaenoic acid protects against *N*-methyl-*N*-nitrosourea-induced retinal degeneration in rats. *Exp Eye Res* 77: 167–173
  7. Pei R-J, Sato M, Yuri T, Danbara N, Nikaido Y and Tsubura A (2003) Effect of prenatal and prepubertal genistein exposure on *N*-methyl-*N*-nitrosourea-induced mammary tumorigenesis in female Sprague-Dawley rats. *In Vivo* 17: 349–358
  8. Kurokawa I, Nishijima S, Kusumoto K, Senzaki H, Shikata N and Tsubura A (2003) Trichilemmoma: an immunohistochemical study of cytokeratins. *Br J Dermatol* 149: 99–104
  9. Sato M, Pei R-J, Yuri T, Danbara N, Nakane Y and Tsubura A (2003) Prepubertal resveratrol exposure accelerates *N*-methyl-*N*-nitrosourea-induced mammary carcinoma in female Sprague-Dawley rats. *Cancer Lett* 202: 137–145
  10. Nikaido Y, Yoshizawa K, Pei R-J, Yuri T, Danbara N, Hatano T and Tsubura A (2003) Prepubertal zearalenone exposure suppresses *N*-methyl-*N*-nitrosourea-induced mammary tumorigenesis but causes severe endocrine disruption in female Sprague-Dawley rats. *Nutr Cancer* 47: 164–170
  11. Sayama K, Oguni I, Tsubura A, Tanaka S and Matsuzawa A (2003) Inhibitory effects of autoimmune disease by green tea in MRL-Fas<sup>lprcg</sup>/Fas<sup>lprcg</sup> mice. *In Vivo* 17: 545–552
  12. 裴 仁正, Singh Yogendra, 高橋雅也, 畑 堃彦, 螺良愛郎, 四方伸明 (2003) ネパール人乳癌の背景因子の検討. *乳癌基礎研* 12: 61–64
  13. 段原直行, 埜 貴司, 辻田 (久徳) 美樹, 仙崎英人, 螺良愛郎 (2003) 大腸癌における n-3 系多価不飽和脂肪酸の増殖抑制効果. *日臨* 61: 519–521
- 総 説
1. Tsubura A, Yoshizawa K, Kiuchi K and Moriguchi K (2003) *N*-Methyl-*N*-nitrosourea-induced retinal degeneration in animals. *Acta Histochem Cytochem* 36: 263–270
  2. 螺良愛郎, 義澤克彦, 仙 英人, 四方伸明 (2003) ヒト網膜色素変性症の動物モデルの確立とその病態制御. *電顕* 38: 42–45
- 学会発表
1. Kiyozuka Y, Adachi S, Ito K, Itani Y and Tsubura A (2003) Gene expression of drug efflux proteins of the ATP-binding cassette (ABC) transporter family in Gemcitabine-resistant ovarian cancer cells. The 39th Annual Meeting of The American Society of Clinical Oncology, Chicago
  2. Tsubura A, Nikaido Y, Pei R-J, Yuri T, Danbara N and Tsujita-Kyutoku M (2003) Prepubertal zearalenone exposure suppresses *N*-methyl-*N*-nitrosourea-induced mammary tumors in rats. The 24th Cong. Int Assoc Breast Cancer Res, Sacramento
  3. Kiuchi K, Kondo M, Ueno S, Moriguchi K, Yoshizawa K, Matsumura M and Tsubura A (2003) Nicotinamide functionally rescues *N*-methyl-*N*-nitrosourea-induced retinopathy in rats. The Association of Research in Vision and Ophthalmology, Florida
  4. 仙崎英人, 上田 恵, 辻田美樹, 段原直行, 埜 貴司, 螺良愛郎 (2003) 食道静脈瘤硬化療法後に門脈・上腸間膜静脈血栓症を合併した肝

- 硬変の一例検例．第92回日本病理学会，福岡
5. 清塚康彦，垵 貴司，段原直行，辻田美樹，二階堂泰資，螺良愛郎（2003）Gemcitabine 耐性卵巣癌における ATP-binding cassette transporter family の遺伝子発現．第92回日本病理学会，福岡
  6. 四方伸明，森口佳映，垵 貴司，高田秀穂，井上良計，羽田尚彦，螺良愛郎（2003）DHA 摂取のラットMNU誘発網膜変性症に対する抑制効果．第12回日本脂質栄養学会，東京
  7. 辻田美樹，段原直行，垵 貴司，仙崎英人，高田秀穂，井上良計，羽田尚彦，螺良愛郎（2003）ヒト乳癌株（KPL-1）における共役ドコサヘキサエン酸による増殖抑制効果．第92回日本病理学会，福岡
  8. 段原直行，垵 貴司，辻田美樹，森口佳映，高田秀穂，井上良計，羽田尚彦，螺良愛郎（2003）共役ドコサヘキサエン酸のヒト大腸癌細胞株（COLO 201）に対する増殖抑制効果．第92回日本病理学会，福岡
  9. 垵 貴司，段原直行，辻田美樹，仙崎英人，四方伸明，高田秀穂，井上良計，羽田尚彦，螺良愛郎（2003）n-3系多価不飽和脂肪酸のMNU誘発ラット乳癌における発癌抑制効果の比較．第92回日本病理学会，福岡
  10. 垵 貴司，段原直行，辻田美樹，高田秀穂，井上良計，羽田尚彦，螺良愛郎（2003）ドコサヘキサエン酸のMNU誘発ラット乳癌における発癌抑制効果．第13回乳癌基礎研究会，鳥取
  11. 垵 貴司，段原直行，清塚康彦，仙崎英人，四方伸明，螺良愛郎（2003）ヌードマウス可移植性ヒト乳癌細胞株（KPL-1）に対する perillyl alcohol の抗腫瘍ならびに抗転移効果．第62回日本癌学会，名古屋
  12. Yoshizawa K, Kiuchi K, Moriguchi K, Tsubota K, Matsumoto M, Nakatsuji S, Fujihira S, Oishi Y and Tsubura A (2003) Morphologic characteristics of retinal degeneration induced by sodium iodate．第19回日本毒性病理学会，東京
  13. 佐藤睦哉，裴 仁正，二階堂泰資，仙 英人，四方伸明，中根恭司，螺良愛郎（2003）新生仔期 Resveratrol 暴露の Sprague-Dawley 雌ラットにおよぼす影響．第92回日本病理学会，福岡
  14. 二階堂泰資，裴 仁正，佐藤睦哉，仙崎英人，螺良愛郎（2003）内分泌攪乱物質の母体曝露による ICR 雌乳仔マウスにみられる影響．第92回日本病理学会，福岡
  15. 森口佳映，垵 貴司，義澤克彦，高田秀穂，井上良計，羽田尚彦，螺良愛郎（2003）食餌脂肪酸のMNU誘発ラット網膜変性症におよぼす影響．第92回日本病理学会，福岡
  16. 裴 仁正，佐藤睦哉，二階堂泰資，仙崎英人，四方伸明，螺良愛郎（2003）Perinatal genistein exposure on MNU-induced mammary tumorigenesis in female Sprague-Dawley rats．第92回日本病理学会，福岡
  17. 木内克治，近藤峰生，上野真治，森口佳映，義澤克彦，螺良愛郎，松村美代（2003）ニコチン酸アミドのラットMNU誘発網膜変性症に対する機能的・形態的抑制効果．第107回日本眼科学会，福岡
  18. 畑埜武彦，配島弘真，八木清貴，二階堂泰資，小路徹二，仙崎英人，植村芳子，螺良愛郎（2003）乳房温存療法後，乳房内再発を来した症例の検討．Paget 様再発を来した1例．第11回日本乳癌学会総会，新潟
  19. Pei Ren-Jeng, 垵 貴司，段原直行，四方伸明，螺良愛郎（2003）周生期 Genistein 暴露による Sprague-Dawley ラットの発育，癌化及び内分泌かく乱作用への影響．第13回乳癌基礎研究会，鳥取
  20. 二階堂泰資，垵 貴司，段原直行，四方伸明，螺良愛郎（2003）新生仔期 Zearalenone 暴露の Sprague-Dawley 雌ラットにおよぼす影響．第62回日本癌学会，名古屋
  21. 森口佳映，四方伸明，義澤克彦，上原範久，高田秀穂，羽田尚彦，螺良愛郎（2003）ドコサヘキサエン酸によるニトロソメチル尿素誘発視細胞アポトーシスの制御．第44回日本組織細胞化学会・第35回日本臨床電子顕微鏡学会合同学術集会，東京
- 著 書
1. Senzaki H, Tsubura A (2003) Hepatoid carcinoma. World Health Organization Classification of Tumours. Pathology and Genetics of Tumours of the Breast and Female Genital Organs (Tavassoli FA, Devilee P ed) pp

184, IARC Press, Lyon

子顕微鏡 ウイルス学(畑中正一編)152-153  
頁, 朝倉書店, 東京

2. 螺良愛郎(2003)ベータレトロウイルス. 電

## 微生物学講座

### 研究概要

微生物学講座では, 成人 T 細胞白血病(ATL)およびエイズという, ともに重篤な疾患の原因となる2種類のヒトレトロウイルス(HTLV-1とHIV-1)の感染・複製調節の解析を中心に, それぞれの疾患の治療法開発を目指した研究を進めている.

本邦にはHTLV-1感染者は100万人以上存在し, 長い潜伏期を経た後に, 毎年数百人の率で難治性の白血病ATLを発症する. そこで, この潜伏期における個体レベルでのウイルス発現制御機構の解明を介して, ATLの発症を抑制する手段の開発を目指している. そのために, ヒト感染個体におけるウイルス発現動態を再現するマウスモデルを確立し, ウイルス発現制御機構を細胞内シグナル伝達及び遺伝子発現の観点から解析している.

一方, HIV-1の感染もいまだ世界レベルでの拡大を続けており, その抑制にはさらに幅広い抗ウイルス薬の開発が緊急の課題となっている. そこで, ウイルスの細胞侵入過程を標的とした新しい抗HIV剤の開発を目標として, HIV-1エンベロープ蛋白と宿主細胞側のウイルスレセプターとの相互作用を構造化学的な視点で詳細に解析している.

また, HIV-1 RNAの核外輸送を制御するウイルス因子Revが, 宿主抗ウイルス蛋白インターフェロンのmRNA核外輸送を抑制する事実を見出し, Rev機能を介した宿主免疫抑制機構が存在する可能性を提唱している.

RNAの転写後調節を介した細胞機能制御に関しては, HTLV-1感染細胞において特異的にチロシンリン酸化される宿主蛋白として同定してきたRNA結合蛋白Sam68の解析も進めており, これまでに同定してきた複数の標的RNAの動態制御を介した細胞増殖制御機構の存在を強く示唆する結果を得ている.

現在進行中のテーマは以下の通りである.

#### 1) HTLV-1 Tax 遺伝子導入 T リンパ腫細胞のマウス個体内における遺伝子発現制御

T細胞のがん化に關するHTLV-1 Taxの発現は, ウイルス感染個体内においては強く抑制されており, これがATL発症に至るまでの長い潜伏期を説明すると考えられることから, 我々はこれまでに, HTLV-1転写調節領域制御下にTaxと蛍光蛋白GFPとの融合蛋白(Gax)を発現するEL-4マウスT細胞株(EL-4 Gax)を同系マウス腹腔内に接種するモデル系を構築し, 同マウスモデルがヒトにおける個体レベルでの免疫制御およびウイルス遺伝子発現制御を再現し得ることを示した. 同モデル系におけるプロウイルスゲノムの遺伝子および転写レベルでの解析から, 細胞内シグナル伝達を介した一過的な遺伝子発現抑制機構の存在が示唆されたため, 現在, 転写抑制と再活性化に影響を及ぼす種々の細胞外シグナルおよび阻害剤の検索を行っている.

#### 2) HIV-1 受容体 CCR5 の構造化学的解析

HIV-1受容体として機能するC-Cケモカイン受容体CCR5の機能領域を明らかにする目的で, HIV-1非結合性のケモカイン受容体CCR2bとの間のキメラ受容体を構築し, ルシフェラーゼを発現するように改変した組換えHIV-1レンチウイルスベクターを用いて感染性の解析を行っている. これまでに, 膜7回貫通型構造を持つCCR5分子のN末端細胞外領域と第2細胞外ループがHIV-1感染に必須であること, さらに第2細胞外ループの前後の膜貫通領域がウイルス感染性およびCCR5を標的とした抗ウイルス剤の機能に重要な役割を果たすことを明らかにした.

### 3) 蛍光共振エネルギー転移法 (FRET) を用いた HIV-1 感染初期過程の経時的解析

HIV-1 の標的細胞への侵入には、ウイルス膜タンパク質 Env と標的細胞表面の CD4 およびケモカイン受容体 (CXCR4 または CCR5) への段階的な結合と、その構造変化の結果生じる融合孔 fusion pore の形成が必要であるが、これら複数分子の接近・会合と構造変化の詳細については解明されていない。そこで同過程の経時的解析を目的に、ウイルス感染系を用いずに感染時の膜融合過程を解析出来る細胞-細胞膜融合系、および、FRET を用いた蛋白間相互作用のリアルタイム測定システムの構築を試みている。

### 4) 抗ウイルス因子インターフェロンの mRNA 核外輸送調節を介した発現制御機構の解明

これまで、HIV-1 がコードするウイルス RNA 核外輸送調節蛋白 Rev が宿主細胞の核外輸送レセプター CRM-1 を競合することにより、抗ウイルス因子インターフェロン- $\alpha$ 1 (IFN- $\alpha$ 1) の mRNA 発現を抑制することを見出し、その mRNA 上に核外輸送責任塩基配列を同定した。一方、CRM-1 は mRNA に直接に結合せず、また、大半の細胞 mRNA は異なる核外輸送レセプター TAP を用いることが明らかになっていることから、IFN- $\alpha$ 1 mRNA の核外輸送に関与する新規 RNA アダプター (結合) 分子の存在と、その免疫応答における特異的な調節機構に興味が持たれている。現在、この RNA アダプター分子のクローニングを試みると共に、本分子がウイルス感染にตอบสนองして発現する他の生体因子の mRNA に共通なアダプターとして機能する可能性を検討している。

### 5) RNA 結合蛋白 Sam68 による転写後調節の解析

HTLV-1 感染細胞で強くチロシンリン酸化されている蛋白として同定した RNA 結合蛋白 Sam68 が細胞周期の G2/M 期進展に関与することを明らかにし、さらにその標的となる細胞 RNA として、 $\beta$ -アクチンおよび RNA 結合蛋白 hnRNP A2/B1 の mRNA を証明した。これまでに、細胞血清刺激に依存した  $\beta$ -アクチン mRNA および Sam68 蛋白の細胞内局在化の変化を見出しており、現在、mRNA 転写後調節を介した細胞増殖調節機構の解明に向けて解析を進めている。

## 研究業績

### 原著

1. Shimizu T, Kawakita S, Li Q-H, Fukuhara S and Fujisawa J-I (2003) Human T-cell leukemia virus type 1 Tax protein stimulates the interferon-responsive enhancer element via NF- $\kappa$ B activity. FEBS Lett 539: 73-77
2. Sugano Y, Matsuzaki K, Tahashi Y, Furukawa F, Mori S, Yamagata H, Yoshida K, Matsushita M, Nishizawa M, Fujisawa J and Inoue K (2003) Distortion of autocrine transforming growth factor  $\beta$  signal accelerates malignant potential by enhancing cell growth as well as PAI-1 and VEGF production in human hepatocellular carcinoma cells. Oncogene 22: 2309-2321
3. Furukawa F, Matsuzaki K, Mori S, Tahashi Y, Yoshida K, Sugano Y, Yamagata H, Matsushita M, Seki T, Inagaki Y, Nishizawa M, Fujisawa J and Inoue K (2003) p38 MAPK mediates fibrogenic signal through Smad3 phosphorylation in rat

myofibroblasts. Hepatology 38: 879-889

### 総説

1. Kimura T, Hashimoto I and Nishikawa M (2003) HIV-1 Rev protein: an RNA adapter between the *cis*-acting viral target site and the cellular CRM1/XPO1 nuclear export factor. Recent Res Devel Biochem 4: 519-548

### 学会発表

1. Fujisawa J-I, Inada T and Furuta RA (2003) Mouse model for the *in vivo* suppression of HTLV-1 gene expression. The 11th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, San Francisco
2. Kimura T, Hashimoto I and Fujisawa J-I (2003) CRM-1-dependent nuclear export of IFN- $\alpha$ 1 mRNA is mediated through a structured target sequence. The New Frontier of RNA Science: RNA 2003 Kyoto, Kyoto



3. 西川正雄, 古田里佳, 藤澤順一 (2003) HIV-1 の標的細胞侵入における co-receptor CCR5 膜貫通領域の要求性. 第17回近畿エイズ研究会学術集会, 大阪
4. 吉留厚子, 神田靖士, 林猪都子, 中村雄策, 友田恒一, 西山利正, 藤澤順一 (2003) ウシ結核菌抗原 MPB64 を用いた血清診断への応用. 平成13年度感染症流行予測調査会, 大阪
5. 木村富紀, 西川光重, 日下博文, 中井吉英, 松田公志 (2003) 臨床技能導入教育としてのエスコート並びに医療面接実習. 第35回日本医学教育学会大会, 佐賀
6. 稲田武文, 古田里佳, 藤澤順一 (2003) HTLV-1 遺伝子発現の個体内抑制機構. 第62回日本癌学会総会, 名古屋
7. 木村富紀, 橋本岩雄, 藤澤順一 (2003) HIV-1 Rev 蛋白質発現により抑制される IFN- $\alpha$ 1 mRNA核外輸送機構の解析. 第51回日本ウイルス学会学術集会・総会, 京都
8. 藤澤順一, 稲田武文, 蔣時文, 古田里佳 (2003) HTLV-1 遺伝子発現の個体内における抑制機構の解析. 第51回日本ウイルス学会学術集会・総会, ワークショップ: 感染の細胞生物学, 京都
9. 稲田武文, 古田里佳, 藤澤順一 (2003) 個体内におけるHTLV-1プロウイルス発現抑制機構の解析. 第56回日本細菌学会関西支部総会, 奈良
10. 木村富紀, 橋本岩雄, 藤澤順一 (2003) IFN- $\alpha$ 1 mRNAのCRM1依存性核外輸送と輸送標的塩基配列の同定. 第26回日本分子生物学会年会, 神戸
11. Yasui K, Furuta RA, Matsumoto K, Tani Y and Fujisawa J-I (2003) Construction of the hematopoietic lineage specific gene expression system with an HIV-1 derived self-inactivating lentivirus vector. 第9回日本遺伝子治療学会総会, 東京

#### 著書

1. 藤澤順一 (2003) 分担執筆 医学書院 医学大事典 (総編集 伊藤正男, 井村裕夫, 高久史麿), 医学書院, 東京

## 衛生学講座

### 研究概要

1. アトピー性皮膚炎・喘息・花粉症などのアレルギー疾患は近年増加しており, 社会問題の一つになっている. 一方, 動物実験において 30-40%程度の食事 (エネルギー) 制限により, 寿命延長効果や悪性腫瘍・慢性疾患の発症抑制効果が知られている. アレルギー性皮膚炎におよぼす食事制限の影響について検討する目的で, dinitrofluorobenzene 感作マウスを短時間絶食させ, 耳介組織の炎症像・酸化ストレスの指標である 8-OHdG を用いた免疫組織像・グルココルチコイド受容体拮抗剤 RU486 による抑制消失効果・組織および脾臓リンパ球浮遊液中のサイトカイン類について検討し, 短期間の絶食が皮膚のアレルギー症状を抑制することを確認した. また, そのメカニズムの一つに内因性の副腎皮質ホルモンの分泌増加が関与していることが示唆された.
2. 短期間の絶食が肝実質細胞のアシアロ糖蛋白受容体機能および細胞増殖・アポトーシスに及ぼす影響についてラットを用いて検討した. 99mTc-GSA の急速静注後の血中からの 99mTc-GSA の初期除去量 ( $\mu\text{g}/\text{BW}/\text{min}$ ) は絶食により変動せず, 血中蛋白・AST (GOT)・ALT (GPT)・その他の肝機能関連指標にも変化は認められなかった. 一方, PCNA 免疫染色による検討では, 細胞増殖は絶食期間中著明に抑制され, 給餌再開とともに速やかに前値に復した. ssDNA 染色を用いた検討では, アポトーシスは絶食期間中著明に増加し, 給餌再開とともに速やかに前値に復した. 肝細胞増殖因子 (HGF) については明らかな変動は確認できなかった.
3. 学齢期における動脈硬化初期病変は, 成人の進行した病変へと進展する可能性が高く, 小児期からの高脂血症対策が必要であるが, 学齢期の血清コレステロール値は第二次性徴などの様々な要因の影響を

受ける。高コレステロール血症を示す小学生の保健指導の在り方について検討する目的で、第二次性徴が開始する小学5年生を中学2年生まで追跡し、血清脂質値の変化と発育との関連性について検討した。横断調査による検討では男女とも、総コレステロール値およびHDLコレステロール値はその時点での身長および体重と負の相関を示した。追跡調査による検討でも男女とも、総コレステロール値の変化量およびHDLコレステロール値の変化量は身長の増加量および体重の増加量と負の相関を示した。このことから思春期前の血清コレステロール値の管理については成人とは異なった慎重な対応が必要であることが示唆された。

4. 静岡県磐田市の小学5年生の全児童を対象に、1993年から毎年、高脂血症と肥満のスクリーニングを行い、異常者を対象に生活習慣病予防講座を開催してきた。今回は、磐田市の全小学5年生における、BMI・血清コレステロール等の動向について検討した。対象は磐田市立小学校の全11校に在籍する全5年生(約9,000名)である。説明変数を年、目的変数を身長・体重・BMI・総コレステロールとして単回帰分析した。肥満児の割合および高コレステロール血症児の割合と年との関係についてU検定を用いて分析した。女子の身長と体重、男子の身長は調査年と正の相関を示し、有意に増加していた。BMIは男女とも調査年と正の相関を示し、有意に増加していた。総コレステロール値も男女とも調査年と正の相関を示し、有意に増加していた。肥満傾向の者の割合、および、高コレステロール血症の者の割合は共に調査年とともに有意に増加していた。小児期からの肥満や高コレステロール血症の予防の必要性が示唆された。

5. 短期的な摂取エネルギー制限が、ヒトのエネルギー代謝および他の生理機能の状態にどのような影響を及ぼすかについて検討した。大阪府内の某企業では、定期健康診断で発見される軽度肥満者や軽度高脂血症者または健康者を対象に、6日間(月曜日に入所し、土曜日に退所)の食事・運動指導コースを企業内の健康センターで行っている。これまでの同センターでの食事指導は主としてエネルギー制限が行われている。本研究は健康センターに入所した者のうち文書で同意が得られた者を対象とした。対象者を無作為に中等度エネルギー制限群および軽度エネルギー制限群に分け、摂取エネルギー以外の健康指導は両群とも同じとした。食事・運動指導コースにより両群共に、体重・Body mass index・収縮期血圧・拡張期血圧の低下が観察され、ガスモニターを用いて測定した呼吸商も両群ともに低下した。エネルギー源が炭水化物から脂質に移行していることが示唆された。コース終了時点において、中等度制限群は軽度制限群に比較して基礎代謝量がより大きく減少した。これらの結果から、ヒトのエネルギー代謝が食物摂取に短期的にも影響を受けることが確認でき、機能馴化によるものと示唆された。

6. TDIをはじめとするイソシアネート類により惹起される職業性アレルギー発生機構の解明をめざしモデルマウスを用いた実験を継続した。イソシアネート類により惹起されるアレルギーではIgEの上昇がみられる頻度が他の物質によるアレルギーに比較して少ないなどの特徴があり、血液中あるいは局所におけるケモカインの動態が注目されている。長期TDI感作マウスで、脾臓内リンパ球の産生するケモカインを調べたところIL-4、IFN- $\gamma$ がTh2優位なパターンを示す他、IL-2、6、10、TNF- $\gamma$ 等も独自のパターンを示した。その他の炎症細胞のキャラクターについて検討中である。

7. 歯科医療従事者は、歯冠、義歯、インプラントなどの作製あるいは研磨の際に重金属およびレジン類等の粉塵を吸入することがある。重金属のうちコバルト、ニッケル等は国際がん研究機構(IARC)によりがん原性物質、またはがん原性が疑われる物質として認定されている。また歯科医師の業務においては血液を媒介する感染の機会が他の職業に比較して多いと考えられる。以上の職業上の特徴から、歯科医師のがん罹患率は相対的に高い可能性があると思われ、1964年から1997年までに大阪府歯科医師会に所属した会員3,314人の肺がんおよび肝がん罹患状況を調査した。大阪府一般人口のがん罹患率と比較したところ肺がんのO/E比は1.01、肝がんのO/E比は0.71とリスクの有意な上昇はみられなかった。一方歯科医師の喫煙率は一般国民より低いと推定されるため、調査中である。

8. エストロゲン活性のスクリーニングによる、食品中に含まれる内分泌攪乱化学物質の検索を試みた。市販の15種類のハーブティーより抽出液を調製し、形質転換酵母株を使用したレポーターアッセイによ

るエストロゲン活性のスクリーニングを行った。抽出液に用いた溶媒のちがいにより、エストロゲン活性の分布は異なっており、エタノール抽出液においては、原料に licorice root を含むハーブティーにのみエストロゲン活性が検出されたが、熱湯抽出液の場合には幅広く活性が認められた。熱湯抽出液において最も高い活性を示したハーブティーは原料として peppermint のみを含んでいた。これらの結果から、食品中に含まれる内分泌攪乱化学物質の検索を行う際には、抽出方法などを事前に詳細に検討する必要がある。

## 研究業績

### 原著

1. Kouda K, Nakamura H, Fan WY and Takeuchi H (2003) Negative relationships between growth in height and levels of cholesterol in poverty: a 3-year follow up study. *Int J Epidemiol* 32: 1105–1110
2. Takeuchi H, Kouda K and Nakamura H (2003) Natural medicine, traditional medicine and school health. *Jpn J School Health* 44: 122–123
3. Nakamura H, Shimoji K, Kouda K, Tokunaga R and Takeuchi H (2003) An adult with atopic dermatitis and repeated short-term fasting. *J Physiol Anthropol Appl Human Sci* 22: 237–240

### 総説

1. 徳永力雄 (2003) 「地域保健・医療」研修の理念と課題. *公衆衛生* 67: 738–741

### 学会発表

1. 河野比良夫, 徳永力雄 (2003) 市販ハーブティーに含まれるエストロゲン活性を示す成分の検索. 第73回日本衛生学会, 大分
2. 西尾信宏, 徳永力雄 (2003) イソシアネート類感作動物モデルにおける炎症細胞像の解析. 第76回日本産業衛生学会, 山口
3. 甲田勝康 (2003) 摂取エネルギー制限と病態

生理: アレルギーを中心に. 日本生理人類学会第49回大会, 福岡

4. 甲田勝康 (2003) 機能的潜在性の考え方. 日本生理人類学会第50回大会, 千葉
5. 西山慶子, 中村晴信, 甲田勝康, 竹内宏一 (2003) S 県下における労災二次健康診断等給付制度の初年度実施状況に関する検討. 第76回日本産業衛生学会, 山口

### 著書

1. 徳永力雄 (2002) 労働衛生教育. 産業医学実践講座(日本産業衛生学会近畿地方会編)383–389頁, 南江堂, 東京
2. 徳永力雄 (2003) 医学医療教育用語辞典(日本医学教育学会医学医療教育用語辞典編集委員会編), 照林社, 東京
3. 徳永力雄 (2003) 介護職の健康管理 — 今すぐできる予防と対策(車谷典男, 徳永力雄編)ミネルヴァ書房, 京都
4. 徳永力雄 (2003) 健康と医療用語辞典(医療教育情報センター編)中央法規, 東京
5. 甲田勝康 (2003) 絶食療法. 医療従事者のための補完・代替医療(今西二郎編)140–145頁, 金芳堂, 京都
6. 甲田勝康, 古川馨子, 木下秀子, 伊藤哲也, 鈴木輝康, 渡辺訓子, 森下かおり (2003) 平成13年静岡県脳卒中登録情報システム事業報告書, 1–104頁, 静岡県健康福祉部, 静岡

## 公衆衛生学講座

### 研究概要

教室の方針として、教室一丸となって1つのテーマに集中するよりも、様々な領域の研究を並行して行うことにより、広範囲にわたる公衆衛生学の教育分野に対応できると考えている。本教室が扱っている研究テーマは、多方面に渡っており、スタッフの数以上の研究内容となっています。したがって、ここでは教室が扱う研究の流れを述べる。

1 番目は、社会学的研究の一環として、高齢者の身体、精神、社会面にわたる調査研究であるが、上田元講師が高齢者介護に関して共同研究を継続的に行っている。また、新たに高齢化社会に伴う健康の維持増進に関わる身体的機能の究明として身体機能低下を予防する運動療法や理学療法的な面からの研究も行いつつある。

2 番目は、産業保健の研究として職業病や産業中毒の予防に関する研究で、圓藤講師が学外の研究者と共同研究している。最近においては、一般環境である住宅内における化学物質汚染とその健康影響についての研究を実施している。

3 番目は、西山教授は、感染症の疫学と予防に関する研究として国際保健医療として開発途上国における健康被害や健康管理に関する研究。熱帯病とくに熱帯感染症の診断と予防に関する研究。海外渡航者の健康管理に関する研究やストレスが引き起こす疾病とそれに対する一次予防への取り組み。

4 番目は、福永元助教(2003年4月転出)は、栄養学的な研究として内分泌かく乱物質に関する共同研究を行っている。

5 番目は、神田助手は、発生生物学的な見地から難病疾患における再生医学を応用した研究を分子生物学的な遺伝子分野や感染防御学の面からも研究を行っている。

6 番目は、田近助手は、近年増加傾向にある精神疾患の一次予防への取り組みとして海外渡航者のメンタルヘルスに関する研究を行っている。

以上のようにあらゆる観点から人々の健康にかかわる研究を広範囲にわたって行っています。また、大学院生や研究員も多数在籍しており、上記テーマの範囲で、それぞれ疫学的、および実験的テーマを設定して研究しています。社会人大学院生も多数研究に参加して、当講座では、とりまく社会や医療現場における諸問題を様々な角度、視点でとらえ、幅広い研究を遂行して、社会還元することを目標にしています。

2003年度の研究概要については、以下の研究業績を参照されたい。

## 研究業績

原著

1. Kanda S, Shiroy A, Oujy Yu, Birumachi J, Ueda S, Fukui H, Tatsumi K, Ishizuka S, Takahashi Y and Yoshikawa M (2003) In vitro differentiation of hepatocyte-like cell from embryonic stem cell promoted by gene transfer of hepatocyte nuclear factor 3 $\beta$ . *Hepatol Res* 26: 225–231
2. Nishimura F, Yoshikawa M, Kanda S, Nonaka M, Yokota H, Shiroy A, Nakase H, Hirabayashi H, Oujy Y, Birumacho J, Ishizaka S and Sakaki T (2003) 3. Potential Use Of Embryonic Stem Cells With Mouse Parkinsonian Models. *Stem Cells* 21: 171–190
3. Yori T, Danbara N, Tsujita-Kyoutoku M, Fukunaga K, Takada H, Inoue Y, Hada T and Tsubura A (2003) Dietary Docosahexaenoic Acid Suppresses N-Methyl-Nitrosourea-Induced Mammary Carcinogenesis in Rats More Effectively Than Eicosapentaenoic Acid. *Nutr and Cancer* 45: 211–217
4. Shibata E, S Araki, Hirata M, Endo Y, Kawai T and Takeuchi A (2003) Assessment and control of sick house syndrome at work — Exposure to chemicals in construction. In *Proceedings of 2003 International Symposium on Indoor Air Quality and Health Hazards* 235–241
5. Zhou X, Yoshida Y, Kuroda K, Endo Y and Endo G (2003) Effects of cystein on the cytotoxicity of arsenic compounds. *Arch Environ Contam Toxicol* 45: 324–330
6. Horiguchi N, Arimoto K, Mizutani A, Endo-Ichikawa Y, Nakada H and Taketani S (2003) Galectin-1 Induces Cell Adhesion to the Extracellular Matrix and Apoptosis of Non-Adherent Human Colon Cancer Colo201 Cells. *J Biochem* 136: 6869–6874
7. Azuma M, Endo Y, Miyazaki T, Hikita Y, Ikeda H,

- Moriya Y, Hara I and Araki S (2003) Efficacy of a detector tube method in formaldehyde measurement. *Ind Health* 41: 306-312
8. 打越 暁, 飯塚 孝, 古賀才博, 氏田由可, 奥沢栄一, 津久井要, 濱田篤郎, 西川哲男, 馬杉則彦 (2002) インド在留邦人の大気汚染に伴う呼吸器症状の現状 インド巡回健康相談アンケート調査の結果と考察. *日職災医学会誌* 20: 440-444
  9. 池田浩己, 中澤浩子, 中村昌彦, 山下敏夫, 圓藤陽子, 嶽良 博, 榎本雅夫 (2002) シックハウス症候群の疑われた4症例. *アレルギーの臨* 22: 967-971
  10. 西山利正, 石田高明 (2002) 寄生虫疾患分野における臨床診断の信頼性と問題点 マラリアの臨床診断に注目して. *Clin Parasitol* 13: 1
  11. 伊藤健一, 藤井宏匡, 堀江 淳, 林 義孝 (2003) 呼吸障害の検査・測定 慢性閉塞性肺疾患(COPD)を中心に. *理学療法* 20: 161-167
  12. 西山利正, 石田高明, 松尾信昭, 山本佳史, 小西 満, 三笠桂一, 木村 弘, 森田公一 (2003) 著しい血小板減少を伴った Dengue 熱の1例. *Clin Parasitol* 14: 30-33
  13. 堀尾 修, 沖野 毅, 西山利正, 石田高明, 松尾信昭, 小川 豊 (2003) 腋窩部皮下に発症したマンソン孤虫症の1例. *Clin Parasitol* 14: 87-89
  14. 松尾信昭, 西山利正, 神田靖士, 石田高明, 梶本心太郎, 中谷壽男 (2003) 糖尿病を基礎疾患とした三日熱マラリアの一症例. *Clin Parasitol* 14: 27-29
  15. 石田高明, 大西基喜, 宮本正樹, 岡本和智 (2003) 質問票徴収業務についての評価調査. *日本検疫学会誌* 5: 62-67
  16. 東野博彦, 高谷竜三, 位田 忍, 稲田 浩, 藤田敬之助, 玉田育子, 藤原 亨, 大笹幸伸, 佐藤茉莉 (2003) 最終身長予測式を用いた成長ホルモン治療効果の評価. *日小児会誌* 107: 1007-1013
  17. 圓藤陽子, 安部みき子, 中島 裕, 木山博資, 宮崎竹二, 竹内靖人, 小松晃雄, 圓藤吟史 (2003) 光触媒蛍光灯による環境中ホルムアルデヒド濃度の低減化 その1. *医学部解剖学準備室における実験. 生活衛生* 47: 261-268
  18. 大森佐與子, 中島麻実, 圓藤陽子, 日下幸則 (2003) 環境金属汚染による感作性物質の特定に関する研究. *Biomed Res Trace Elements* 14: 279-283
  19. 伊藤健一, 長野 聖, 林 義孝, 川村博文, 岡部修一, 山下修司, 米田稔彦, 傳 秋光 (2003) 内臓脂肪型非肥満男性における体型と身体組成の特徴からみた評価法. *理学療法* 30: 197-202
  20. 伊藤健一, 藤井宏匡, 堀江 淳, 林 義孝 (2003) 呼吸障害の検査・測定 慢性閉塞性肺疾患(COPD)を中心に. *理学療法* 20: 161-167
  21. 林 義孝, 伊藤健一, 長野 聖 (2003) 理学療法における研究・学術活動の意義. *Physiotherapy OSAKA* 31: 2-5
  22. 林 義孝, 奥田邦晴, 淵岡 聡, 樋口由美, 伊藤健一 (2003) 高齢者の運動機能維持に向けて リハビリテーション対策. *関節外科* 22: 83-89
  23. 磯谷俊明, 笹田強兵, 分野正貴, 田近亜蘭, 吉村匡史, 入沢 聡, 杉山祐夫, 斉藤直巳, 柳生隆視, 木下利彦 (2003) 種々の催眠暗示が空間的脳電位活動に及ぼす影響. *催眠と科* 18: 49-54
  24. 後藤由美, 吉留厚子, 宮崎文子 (2003) 経膈分娩における会陰切開・剃毛・浣腸の現状. *日母性看護学誌* 3: 57-62
  25. 吉留厚子, 後藤由美, 富安俊子 (2003) 生後3, 4ヵ月迄の時期別栄養方法と母乳栄養を阻害する要因. *周産期医* 33: 1040-1042
  26. 吉留厚子, 江月優子, 後藤由美, 富安俊子 (2003) 成人女性の更年期についての知識や情報及び更年期のとらえ方. *母性衛生* 44: 300-306
  27. 吉留厚子 (2003) 看護研究の実例 慣習的な乳房清拭および哺乳瓶消毒を再考する. *大分看護科研* 4: 33-36
  28. 藤内美保, 吉留厚子, 八代利香 (2003) 大分県の高等女学校における看護教育の変遷 明治, 大正期から第二次世界大戦終戦まで. *Qual Nurs* 9: 699-705
  29. 後藤由美, 吉留厚子 (2003) 会陰切開についての女性の考えや選択について. *熊本母性衛*

生会誌 6: 35-40

30. 織田裕行, 田近亜蘭, 加藤正樹, 磯谷俊明, 木下利彦 (2003) 無床総合病院心療内科外来の経験から限られた治療関係の中で薬物療法の果たす役割. 強迫性障害の研究 4: 39-44
31. 吉留厚子, 神田靖士, 林猪都子, 中村雄策, 友田恒一, 西山利正, 藤澤順一 (2003) ウシ結核菌抗原 MPB64 を用いた血清診断への応用 大阪感染症流行予測調査会. 平成 14 年度感染症流行予測調査結果報告書 38: 32-33

#### 総説

1. 圓藤陽子 (2003) ペルメトリン. 産衛誌 45: 139-140
2. 石田高明, 西山利正 (2002) 輸入寄生虫症. 小児診療 85: 2149-2155
3. 西山利正, 石田高明, 松尾信昭 (2003) プラジカンテルがもたらしたものの. 治療学 37: 116-119
4. 濱田篤郎, 古賀才博 (2003) 移動に伴う感染症 旅行医学の視点から. 臨と薬物治療 22: 26-29
5. 石田高明, 西山利正 (2003) アメーバ症. JIM 13: 211-213
6. 西山利正 (2003) 輸入感染症への対応 “ 秋期特集 臨床に生きる最新の話題 ”. MEDICAMENT NEWS 1778: 24-26
7. 石田高明 (2003) 寄生虫疾患 腸管条虫症を中心に. 感染症等情報 WORLD FOCUS 51: 1-2

#### 学会発表

1. Xu Zhou, Yoshida K, Kuroda K, Endo Y and Endo G (2002) Effects of cystein on the cytotoxicity of arsenic compounds. 10th International Conference on the Combined Effects of Environmental Factors, Osaka
2. Shibata E, Araki S, Hirata M, Endo Y, Kawai T and Takeuchi A (2003) Assessment and control of sick house syndrome at work — Exposure to chemicals in construction. 2003 International Symposium on Indoor Air Quality and Health Hazards, Tokyo
3. Tamada Y, Kanda S, Nishiyama T, Tajima T

- (2003) A case of pseudohypoparathyroidism type 1 a presenting with short stature. 35th International Symposium;GH and Growth Factors in Endocrinology and Metabolism to be held in Prague, Czech Republic
4. Yoshidome A, Goto Y and Naito N (2003) Nutrition of the infant and mammae wiping in Japan. International conference impact of global issues on women and children 2003, Bangkok
5. Naito N, Shirai M, Yanagawa M and Yosidome A (2003) Socialization of Child Care and Reciprocal Support Satisfactory to Couples Having Children of Three and Under. International conference impact of global issues on women and children 2003, Bangkok
6. 安原由美子, 蔦 幸治, 西山利正, 螺良愛郎 (2002) 成人 T 細胞性白血病の化学療法中に播種性糞線虫症となった 1 剖検例. 第 91 回日本病理学会, 横浜
7. 蔦 幸治, 西山利正, 坂井田紀子, 安原裕美子, 植村芳子, 螺良愛郎 (2002) 術中迅速診断にてヒト肺イヌ糸状虫症と診断された一手術例. 第 91 回日本病理学会, 横浜
8. 伊藤健一, 木村 稔, 山本哲史, 小松 香, 上田加奈子, 岩坂壽二, 西山利正 (2002) 生活習慣病における膝関節機能因子の検討. 第 13 回日本臨床スポーツ医学, 名古屋
9. 伊藤健一, 木村 稔, 山本哲史, 小松 香, 上田加奈子, 岩坂壽二, 西山利正 (2002) 肥満症における膝関節機能の検討. 第 23 回日本肥満学会, 京都
10. 石田高明, 大西基喜, 宮本正樹, 岡本和智 (2002) 質問票徴収業務についての評価調査. 第 5 回日本検疫学会学術大会, 大阪
11. 神田靖士, 玉田育子, 西村文彦, 吉留厚子, 林猪都子, 西山利正 (2003) マウス ES 細胞を用いた遺伝子導入による神経細胞への分化誘導の試み. 第 2 回日本再生医療学会総会, 神戸
12. 圓藤陽子, 河合俊夫, 竹内靖人, 平田 衛, 荒記俊一 (2003) ホルムアルデヒドパッシブサンプラーの捕集率検討について. 第 76 回日本産業衛生学会, 山口
13. 田近亜蘭, 柳生隆視, 織田裕行, 木下利彦 (2003) 関西医科大学病院における修正型 ECT

- の現状と課題．第5回二大学精神科フォーラム，大阪
14. 田近亜蘭，西山利正，津久井要，西川哲男（2003）海外在留邦人のストレス状況．第7回海外渡航者の健康を考える会大会，大阪
  15. 田近亜蘭，杉山祐夫，福島正人，村上貴栄，服部裕子，柿永佳良子，有木永子，砂原千穂，北代麻美，西山利正，木下利彦（2003）関西医大ディケア中断者の現状と課題．第8回日本ディケア学会，加賀
  16. 西山利正（2003）ラオスにおける感染症の問題点 JICA ラオス国保健医療改善計画に参加して．第4回近畿熱帯医学研究会，大阪
  17. 田近亜蘭，西山利正，津久井要，西川哲男（2003）海外赴任者のメンタルヘルス．第62回日本公衆衛生学会，京都
  18. 圓藤陽子，池田浩己，宮崎竹二，圓藤吟史（2003）光触媒蛍光灯による室内環境中ホルムアルデヒド濃度の低減化．第62回日本公衆衛生学会，京都
  19. 田近亜蘭，柳生隆視，織田裕行，木下利彦，西山利正（2003）修正型ECTによるうつ病患者の処方内容の変化について．第16回日本総合病院精神医学会総会，京都
  20. 神田靖士，玉田育子，西村文彦，吉留厚子，林猪都子，西山利正（2003）bHLHを導入したマウスES細胞を用いたNeuronへの分化誘導．第26回日本分子生物学会，神戸
  21. 西山利正，石田高明，松尾信昭，山本佳史，小西満，三笠桂一，木村弘，森田公一（2003）著しい血小板減少を伴ったデング熱の1例．第14回日本臨床寄生虫学会，長崎
  22. 堀尾修，沖野毅，西山利正，石田高明，松尾信昭，小川豊（2003）腋窩部皮下に発症したマンソン孤虫症の1例．第14回日本臨床寄生虫学会，長崎
  23. 松尾信昭，西山利正，神田靖士，石田高明，梶本心太郎，中谷壽男（2003）糖尿病を基礎疾患とした三日熱マラリアの一症例．第14回日本臨床寄生虫学会，長崎
  24. 上田照子，荒井由美子，西山利正（2003）在宅要介護高齢者の施設入所と家族の介護意識について 縦断調査から．第62回日本公衆衛生学会総会，京都
  25. 池田浩己，中澤浩子，中村晶彦，山下敏夫，圓藤陽子，獄良博，榎本雅夫（2003）労働環境が原因と考えられたシックハウス症候群様症状を呈した2症例．第21回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会，鹿児島
  26. 池田浩己，中澤浩子，中江香，中村晶彦，山下敏夫，榎本雅夫，圓藤陽子（2003）当科におけるシックハウス症候群様患者に対する対応．第15回アレルギー学会春季臨床学会 横浜
  27. 黒田孝一，吉田香，圓藤陽子，圓藤吟史（2003）3価ジメチルヒ素の遺伝毒性．第14回微量元素学会，大阪
  28. 黒田孝一，吉田香，圓藤陽子，圓藤吟史（2003）5価ジメチルヒ素大腸菌代謝物の毒性．第14回微量元素学会，大阪
  29. 黒田孝一，吉田香，北村真理，翁昌子，M.A. Habib，圓藤陽子，圓藤吟史（2003）ジメチルアルシン酸関連物質の毒性．第11回ヒ素シンポジウム，札幌
  30. 織田裕行，磯谷俊明，柳生隆視，加藤正樹，吉田常孝，田近亜蘭，分野正貴，松田郷美，吉村匡史，木下利彦（2003）多発骨折をきたした統合失調症患者の治療 高度救命救急センターと整形外科病院の連携．第16回日本総合病院精神医学会総会，京都
  31. 加藤正樹，磯谷俊明，柳生隆視，織田裕行，吉田常孝，田近亜蘭，分野正貴，松田郷美，吉村匡史，木下利彦（2003）高度救命センターにおけるリエゾン精神医学の変遷 リエゾン医配置後2年間を経て．第16回日本総合病院精神医学会総会，京都
  32. 松田郷，磯谷俊明，分野正貴，加藤正樹，吉田常孝，杉本達哉，田近亜蘭，吉村匡史，織田裕行，入澤聡，玉垣千春，木下利彦（2003）Quetiapineはせん妄に有効か 本院での2年半の調査から．第16回日本総合病院精神医学会総会，京都
  33. 圓藤陽子，池田浩己，宮崎竹二，圓藤吟史（2003）ナノテクノロジーを用いた光触媒蛍光灯による室内環境中ホルムアルデヒド濃度の低減化．第43回近畿産衛学会，西宮
  34. 杉本達哉，中村正孝，織田裕行，柳生隆視，田近亜蘭，吉田常孝，奥川学，河相吉，日下博文，木下利彦（2003）電気けいれん療法

- が有効であった難治性パーキンソン病の1例．  
近畿精神神経学会，大阪
35. 南 智久，延原健二，奥川 学，吉田常孝，高瀬勝教，田近亜蘭，池田耕士，河 相吉，澤田 敏，木下利彦（2003）統合失調症患者における脳白質の拡散異方性．第62回日本医学放射線学会，横浜
  36. 古賀才博，飯塚 孝，濱田篤郎，尾崎真一，柿沼 歩，亀田高志，坂田晃一，清水隆司，高野知樹，西山利正（2003）企業の海外医療対策についての全国調査．第76回日本産業衛生学会，山口
  37. 三宅眞理（2003）ダイバージュナルセラピー（気晴らし療法） 豪州の実践と日本での取り組み．身体運動文化学会第8回大会，神戸
  38. 伊藤健一，木村 穰，戸田佳孝，山本哲史，居原田善司，岩坂壽二，西山利正（2003）年齢別でみた膝関節機能とBMIの関係．第24回日本肥満学会，千葉
  39. 木村 穰，上田加奈子，竹原由紀，田嶋佐和子，山本哲史，居原田善司，伊藤健一，小崎篤志，秋田雄三，岩坂壽二（2003）肥満治療における睡眠時無呼吸評価・治療の重要性．第24回日本肥満学会，千葉
  40. 宮内 妙，木村 穰，上田加奈子，竹原由紀，田嶋佐和子，山本哲史，居原田善司，伊藤健一，小崎篤志，岩坂壽二（2003）レプチンのエネルギー代謝に及ぼす影響 安静時脂肪・糖燃焼による検討．第24回日本肥満学会，千葉
  41. 伊藤健一，木村 穰，上田加奈子，山本哲史，森本忠信，岩坂壽二，西山利正（2003）変形性膝関節症予防を目的とした生活習慣病運動療法前の膝関節機能スクリーニング項目の検討．第58回日本体力医学学会大会，静岡
  42. 大神純子，林猪都子，吉留厚子，小西清美，神崎光子，後藤由美，宮崎文子（2003）文献からみる産後1カ月の生活指導．第44回日本母性衛生学会，宇都宮
  43. 安部千代，里小野香苗，林猪都子（2003）育児サークル開催の評価 仲間作りの支援を目的として．第44回日本母性衛生学会，宇都宮
  44. 吉留厚子，後藤由美（2003）出産後4ヵ月における母乳哺育者の乳房清拭と乳房障害の関係．日本看護研究学会，大阪
  45. 古賀才博，奥沢英一，梅村聖子，打越 暁，濱田篤郎，飯塚 孝，西山利正（2003）腸チフスワクチンの需要に関する検討．第44回日本熱帯医学会，北九州
  46. 保津真一郎（2003）赤ちゃん人形を使った在宅痴呆高齢者のケア 身体運動文化学会第9回大会，神戸
  47. 石田高明（2003）新型肺炎・SARS について．第3回近畿熱帯医学研究会，京都
- 著 書
1. Nishiyama T, Araki T (2003) 4. Cysticercosis Cellulosae — Clinical Features and Epidemiology —. Progress of Medical Parasitology in Japan Chapter III (Otsuru M, Kamegai S, Hayashi S ed) pp 281–292, Meguro Parasitological Museum, Tokyo
  2. 圓藤陽子（2003）大学付属病院と分院ネット．21世紀の医療政策づくり（野村拓監修）63–73頁，本の泉社，東京
  3. 圓藤陽子（2003）有害性と取扱い上の注意 5.2. 特論 I．酸無水物．総説 エポキシ樹脂基礎編 II（エポキシ樹脂技術協）186–194頁，エポキシ樹脂技術協会，東京
  4. 伊藤健一（2003）末梢神経損傷総論．整形疾患の理学療法 第2版（安藤正志，藤沢しげ子編）40–41頁，アイベック，東京
  5. 西山利正（2003）感染症と施設内対策．介護職の健康管理 今すぐできる予防と対策（車谷典男・徳永力雄編著）86–103頁，ミネルヴァ書房，京都



## 法医学講座

### 研究概要

#### 1) DNA解析による新しい血液型判定法の開発の検討

Se式血液型遺伝子の判定法について、逆PCR法を応用した、未知の対立遺伝子検出にも対応できる検出法を確立した。さらに温度勾配ゲル電気泳動法を応用し、ヘテロ二重鎖の生成の条件と電気泳動パターンについて検討を始め、新しいハイスループット検出法の開発に着手した。

#### 2) アルコール empty calories 説の再検討

アルコール1g当たり7kcalのエネルギーは生体内では有効に使われないempty caloriesと見なされているが、アルコール嗜好性が非常に高いゴールデンハムスターを用いて1年間アルコールを摂取させたところ、飼料摂取カロリーがコントロール群にくらべて減少したのに対し体重が増加傾向であったことから、アルコールは肝障害が発症しない限りにおいては有効なエネルギー源であり、empty caloriesではないと考えられた。

#### 3) ヒト脳硬膜の血液型物質の分析

ヒト脳硬膜からABO式およびRh式血液型のみならずP式血液型も凝集素解離試験で検出できることを明らかにした。

#### 4) 脱水素酵素活性の光顕的二重染色法

我々が開発したアルコール代謝酵素活性の特異的検出法であるテトラゾリウム塩法とフェロシアン化銅法との二重染色法を用いて、モルモット肝アルコール脱水素酵素とアルデヒド脱水素酵素活性の同時局在性を証明した。

#### 5) 尿中馬尿酸の簡易検査法の開発

トルエン濫用を証明する予備試験としてトルエンの代謝物である馬尿酸を指標とする簡易検査法を検討した。本法は友国らが報告した呈色反応を改良し、色調を黄色から赤色調に変色させることによって判定を容易にしたため、馬尿酸濃度 $0^2$  mg/mlの範囲で肉眼的に半定量が可能となった。本法は試薬の調製が不要であること、測定が数分で済むことからトルエン濫用の予備試験や有機溶媒を扱う作業者の曝露評価法として有用と考えられた。

#### 6) トルエン濫用の判定基準についての検討

馬尿酸はトルエンの代謝物でありトルエン中毒の指標となるが、安息香酸やその他の物質の代謝物として産生されるためトルエン非曝露者尿からも検出される。そこでトルエン非曝露者の尿中馬尿酸濃度の日内変動を調べたところ、午前4～11時の時間帯で高値を示す傾向が認められた。非曝露者尿中馬尿酸濃度は $0.38 \pm 0.32$  mg/ml (n=182)、最高値は1.91 mg/mlで、1.0 mg/ml以上検出されたのは全体の4.4%に過ぎなかったが、トルエン中毒死例では馬尿酸濃度が2.3～30.0 mg/mlだった。以上から尿中馬尿酸濃度2 mg/ml以上をトルエンの中毒レベル、1～2 mg/mlを要注意レベルとし、時間帯を留意すればより確実にトルエン曝露を判定することが可能となった。

#### 7) 親水性有機溶媒を用いた二相分離液抽出法の開発

血清や尿に溶解する親水性有機溶媒を水相から分離させて薬物を抽出する方法について、有機溶媒の種類による影響と、バルビツール酸系、ベンゾジアゼピン系およびプロムワレリル尿素系薬物8種類への応用性について検討した。2-プロパノール等の特定の親水性有機溶媒では簡単な操作で分離でき、高

い効率で薬物を抽出することが可能だった。pHの影響は見出せず、資料のpH調整は不要と結論された。

#### 8) Methamphetamineの分析法の検討

ガスクロマトグラフ質量分析計を用いてMethamphetamineの簡易同定法について検討した。MethamphetamineのEIマススペクトルはm/z 58イオンがベースピークで他のフラグメントイオンの強度が低いために、同定には一般に誘導体化処理が必要とされる。しかし本研究では2-プロパノールを溶媒としてNaCl処理で抽出することにより、誘導体化処理を省略してTFA誘導体として検出することが可能となり、迅速・簡便化を図ることができた。

#### 9) 脳波自動解析システムの脳死判定への応用

脳死判定の場合には、脳波を通常よりも感度を上げた状態で測定することが義務づけられているため、ノイズの混入が問題となる。従来から脳死患者に試行してきた脳波自動解析システムを用いた脳波検査では、ノイズの問題を克服して脳波の判読を定量的に行えるため、小児の脳死例をも対象として実用性の検討を続けた。

### 研究業績

#### 原著

1. Watabiki T, Akane A, Okii Y, Yoshimura S, Tokiyasu T and Yoshida M (2003) ABO and Rh phenotyping by absorption-elution technique using cerebral dura maters. *Legal Med* 5: S187-S190
2. Mitani T and Akane A (2003) Mung bean nuclease treatment improves Se genotyping by allele-specific inverse polymerase chain reaction amplification. *Legal Med* 5: 233-237
3. 沖井 裕, 川本圭司, 赤根 敦, 岩瀬正顕, 神寄清一郎, 中谷壽男 (2003) 脳波自動解析システムによる小児の平坦脳波解析. *臨脳波* 45: 406-410
4. 吉田 学, 赤根 敦, 時安太久磨, 吉村澄孝, 三谷友亮, 綿引利充 (2003) 尿中馬尿酸濃度からみたトルエン濫用の判定についての検討 非暴露者(正常人)も尿中馬尿酸濃度を指標として. *法医の実際と研* 46: 153-157
5. 綿引利充, 赤根 敦, 沖井 裕, 三谷友亮, 吉村澄孝, 時安太久磨, 吉田 学 (2003) 脳硬膜を用いる凝集素解離試験によるP式血液型判定. *法医の実際と研* 46: 159-161

#### 学会発表

1. 吉田 学, 赤根 敦, 西川真弓, 綿引利充, 沖井 裕, 吉村澄孝, 時安太久磨, 土橋 均 (2003) アセトニトリルを用いる液-液抽出法

の質量分析への応用. アミトリプチリンおよびノルトリプチリン. 第87次日本法医学会総会, 富山

2. 赤根 敦, 三谷友亮, 吉田 学, 綿引利充 (2003) 父権肯定・否定確率計算 Web ページの改良. 第87次日本法医学会総会, 富山
3. 綿引利充, 赤根 敦, 沖井 裕, 吉村澄孝, 時安太久磨, 吉田 学 (2003) 脳硬膜を用いる凝集素解離試験によるP式血液型判定. 第87次日本法医学会総会, 富山
4. 綿引利充, 赤根 敦, 沖井 裕, 吉村澄孝, 時安太久磨, 吉田 学 (2003) アルコールは empty calories ではない. 第23回アルコール医学生物学会研究会学術集会, 横浜
5. 沖井 裕, 河本圭司, 赤根 敦, 岩瀬正顕, 神寄清一郎, 中谷壽男 (2003) 脳波自動解析システムを用いた小児の平坦脳波の解析. 第8回日本脳神経外科救急学会, 豊中
6. 沖井 裕, 綿引利充, 吉田 学, 吉村澄孝, 時安太久磨, 赤根 敦 (2003) 糖尿病マウスの血糖値に対する大量エタノールの影響. 第50回日本法医学会近畿地方会, 津
7. 綿引利充, 時安太久磨, 吉田 学, 沖井 裕, 吉村澄孝, 赤根 敦 (2003) 顕微鏡的二重染色法によるモルモット肝アルコール脱水素酵素とアルデヒド脱水素酵素活性の局在性について. 第50回日本法医学会近畿地方会, 津
8. 吉田 学, 赤根 敦, 時安太久磨, 沖井 裕, 吉村澄孝, 三谷友亮, 綿引利充 (2003) 尿中

- 馬尿酸濃度からみたトルエン濫用の判定についての検討 第50回日本法医学会近畿地方会, 津
9. 吉田 学, 赤根 敦, 綿引利充, 西川真弓, 片木宗弘, 土橋 均 (2003) メタンフェタミン GC/MS分析における2-プロパノール-NaCl 二相分離) 抽出法の応用. 日本鑑識科学技術学会第9回学術集会, 東京
  10. 赤根 敦 (2003) 異状死体等の届出義務と現状. 大阪府警察医会学術講演会, 大阪
  11. 三谷友亮, 赤根 敦 (2003) アリル特異的逆PCR法によるSe 遺伝子型の解析 第87次日本法医学会総会, 富山
  12. 三谷友亮, 赤根 敦, 小林哲哉, 時安太久磨, 吉村澄孝, 沖井 裕, 吉田 学, 綿引利充 (2003) 温度勾配電気泳動法によるFUT2 遺伝子のSNP解析. 日本DNA多型学会第12回学術集会, 東京
  13. 三谷友亮, 赤根 敦 (2003) 逆PCR法によるSe 式血液型分析法の検討. 日本DNA多型学会第12回学術集会, 東京

#### 著書

1. 三谷友亮, 赤根 敦 (2003) ASPA法によるSe 遺伝子型簡易判定法. DNA多型, Vol. 11 (日本DNA多型学会) 172-174頁, 東洋書店, 東京
2. 赤根 敦 (2003) 父権肯定・否定確率計算 Webページの伴性遺伝形質への対応. DNA多型, Vol. 11 (日本DNA多型学会) 253-255頁, 東洋書店, 東京
3. 綿引利充, 赤根 敦, 沖井 裕, 吉村澄孝, 時安太久磨, 吉田 学 (2003) アルコールはempty caloriesではない. アルコールと医生物, Vol. 23 (アルコール医学生物学研究会) 146-150頁, 東洋書店, 東京

## 内科学第一講座

### 研究概要

樹状細胞は生体に広く分布し、抗原特異的にT細胞を活性化、免疫応答を誘導する抗原提示細胞であり、近年免疫ネットワークを多方面から統御する細胞として注目を浴びている。樹状細胞は、自然免疫賦活剤として、抗腫瘍免疫療法の臨床試験も開始されてるが、臨床疾患における樹状細胞の側面からの免疫学的アプローチはHIV感染症等ごく限られた疾患においてのみなされており、樹状細胞と各臨床疾患との関わり、特に免疫異常を来す病態における樹状細胞の関わりは未解明のままである。

樹状細胞は、その単離が難しいこと、生体内各組織における分布細胞密度が必ずしも高くないことなどにより、ヒトにおいては正常状態での解析も十分になされていなかった。しかしながら、我々が確立した方法により末梢血を循環する樹状細胞をそのままの状態で解析することが可能になり、これらを用いて、我々は、免疫異常を呈する難治性疾患の病態を、樹状細胞の性状と機能の面から解析することにより、これまで不明とされていた疾患の病態を把握し、さらには治療に役立つ戦略の確立を目的とし現在研究を行っている。

### 血液部門：

同種造血幹細胞移植は、血液疾患の治療のみならず他の固形癌に対する治療戦略の一つとなりうる事が示されつつあり、今後ますます重要な治療法になると考えられる。同種造血幹細胞移植の中心理念はアロ抗原や腫瘍抗原に対する免疫反応による腫瘍根絶 (graft-versus-tumor effect) であるが、この免疫反応は両刃の剣であり host の組織障害性に作用し、しばしば致命的となる GVHD (graft-versus-host disease) が依然大きな問題となっている。当教室では同種造血幹細胞移植に関連して生じるこれらのダイナミックな免疫系の動態を多角的に解析することにより、graft-versus-tumor effect と GVHD の発生機序およびその相違を明らかにし、より効果的に前者を誘導し同時に後者を抑制する新しい治療戦略の開発を目的として検討を行っている。同種造血幹細胞移植を受けた造血器腫瘍患者では急性 GVHD 発症時

にはミエロイド系樹状細胞とリンパ系樹状細胞の双方が末梢血において著しく減少していることを明らかにした。GVHD 組織の免疫染色により、この減少は組織への能動的な動員によることが示された。これはドナーの樹状細胞がアロ抗原を提示することにより急性 GVHD を惹起する可能性を示唆している。一方、慢性 GVHD 発症時には急性 GVHD でみられたような末梢血樹状細胞の減少は認めなかった。しかしながら移植後慢性期にある患者では慢性 GVHD の発症の有無に関わらず IFN- $\gamma$  および TNF- $\alpha$  生性のエフェクター T 細胞の増加を認めた。これらの患者では腫瘍の再発を認めていないことより、これらのエフェクター T 細胞が graft-versus-tumor effect を担っている可能性がある。また興味深いことに慢性 GVHD の発症時には IL-4 産生性の CD8+T 細胞が必ず出現することが明らかとなった。すなわちこの IL-4 産生性の CD8+T 細胞は慢性 GVHD の発症病態に深く関わっていることが示唆される。

#### 呼吸器部門：

肺結核は高齢者のみならず、多くの若年者にも発症者が報告されており、現在最も重要視されている感染症のひとつである。結核菌に対する感染防御機構については、現在までに多くの研究がなされてきているが、当教室では抗原提示細胞として感染防御に重要である樹状細胞に焦点を当て検討を行っている。私たちはこれまで、肺結核患者では末梢血のミエロイド系樹状細胞が減少し選択的に結核組織に移行し Th1 応答を誘導していることを見いだした。また私たちは、結核と同様の肉芽腫性疾患に属するサルコイドーシスに注目し、その発症・疾患の進展の機序を、樹状細胞を含めた免疫応答のシステムの観点から解析することを試みている。サルコイドーシス患者ではミエロイド系樹状細胞のみならずリンパ系樹状細胞も末梢血において著しく減少していることを突き止めている。すなわち、同じ肉芽腫性疾患でも結核とサルコイドーシスでは樹状細胞の動態が異なることが明らかにされた。

#### 免疫部門：

近年、自己免疫疾患の病態、治療に関して、樹状細胞の関与が注目されているが、我々の教室では、ヒト末梢血樹状細胞の亜群を同定し、原発性シェーグレン症候群において、その病態と亜群との関連を報告してきた。二次性シェーグレン症候群においての変動も検討し、罹患期間により樹状細胞の関与の仕方が変動する可能性が示唆されている。

また、多発性筋炎・皮膚筋炎は同じカテゴリーの中で論じられる疾患であるが、当教室では樹状細胞の観点から生検組織の見直しを行い、これらの疾患の異同を検討している。

#### 研究業績

##### 原著

1. Shimizu T, Kawakita S, Li QH, Fukuhara S and Fujisawa J (2003) Human T-cell leukemia virus type 1 Tax protein stimulates the interferon-responsive enhancer element via NF-kappaB activity. *FEBS Lett* 539: 73-77
2. Tajima K, Amakawa R, Ito T, Miyaji M, Takebayashi M and Fukuhara S (2003) Immunomodulatory effects of cyclosporin A on human peripheral blood dendritic cell subsets. *Immunology* 108: 321-328
3. Nomura S, Kanazawa S and Fukuhara S (2003) Effects of eicosapentaenoic acid on platelet activation markers and cell adhesion molecules in hyperlipidemic patients with Type 2 diabetes mellitus. *J Diabetes Complications* 17: 153-159
4. Kanazawa S, Nomura S, Kuwana M, Muramatsu M, Yamaguchi K and Fukuhara S (2003) Monocyte-derived microparticles may be a sign of vascular complication in patients with lung cancer. *Lung Cancer* 39: 145-149
5. Nomura S, Uehata S, Saito S, Osumi K, Ozeki Y and Kimura Y (2003) Enzyme immunoassay detection of platelet-derived microparticles and RANTES in acute coronary syndrome. *Thromb Haemost* 89: 506-512
6. Nagahama M, Nomura S, Kanazawa S, Ozaki Y, Kagawa H, Fukuhara S (2003) Significance of Anti-oxidized LDL Antibody and Monocyte-

- derived Microparticles in Anti-phospholipid Antibody Syndrome. *Autoimmunity* 36: 125-131
7. Miyazaki Y, Mori Y, Kishimoto N, Matsumoto N, Zen K, Amakawa R, Kishimoto Y and Fukuhara S (2003) Membranous Nephropathy Associated with Donor Lymphocyte Infusion following Allogeneic Bone Marrow Transplantation. *Int J Hematol* 78: 262-265
  8. Ichiyoshi H, Kiyozuka Y, Kishimoto Y, Fukuhara S and Tsubura A (2003) Massive telomere loss and telomerase RNA expression in dexamethasone-induced apoptosis in mouse thymocytes. *Exp Mol Pathol* 75: 178-186
  9. Yoshimura C, Nomura S, Kanazawa S, Kuwana M, Muramatsu M, Yamaguchi K and Fukuhara S (2002) Analysis of cytotoxic T lymphocytes and Fas/Fas L in Japanese patients with non small cell lung cancer associated with HLA-A2. *J Cancer Res Clin Oncol* 128: 581-588
  10. Inami N, Nomura S, Kikuchi H, Kajiura T, Yamada K, Nakamori H, Takahashi N, Tsuda N, Hikosaka M, Masaki M and Iwasaka T (2003) Induction of T-cell tolerance in a patient with idiopathic thrombocytopenic purpura by single injection of humanized monoclonal antibody to CD40 ligand. *Autoimmunity* 6: 317-319
  11. Amakawa R and Uehira K (2004) Responses to the letter by Saresella et al. *Clin Immunol* 110: 194
  12. 岸本裕司, 有元美代子, 細川美香, 阿部 操, 岡前文子, 山岡 学, 大谷哲司, 松崎龍典, 大西修司, 寺岡敦子, 福原資郎, 川崎裕英, 小林陽之助, 柴田弘俊 (2003) 核酸増幅検査導入後のHBVウィンドウ期の血小板製剤による輸血後肝炎. *日輸血会誌* 49: 444-448
  13. 宮崎泰彦, 中道尚人, 松本憲明, 全 勝弘, 尼川龍一, 岸本裕司, 福原資郎 (2003) 骨髄非破壊的臍帯血移植を実施した成人最重症型再生不良性貧血症例. *臨血* 44: 965-967
  14. 竹林匡史, 尾崎吉郎, 孫 瑛洙, 永濱美紀, 福原資郎 (2003) 仮性動脈瘤を伴う血管病変で発症し, パージャー病との鑑別に苦慮したベーチェット病の一例. *リウマチ* 43: 683-689
  15. 野村昌作, 金澤成紀, 福原資郎 (2002) 2型糖尿病を合併した高血圧症患者における活性型血小板測定の意義及びEfonidipine (ランデル) の治療効果との関係. *Ther Res* 23: 1641-1647
  16. 野村昌作, 金澤成紀, 福原資郎 (2002) 2型糖尿病を合併した高脂血症患者における血小板活性化マーカーの測定と柴胡加竜骨牡蠣湯の治療効果. *漢方医* 26: 216-219
- 総 説
1. 野村昌作 (2003) 特発性血小板減少性紫斑病概論. *日臨* 61: 552-557
  2. 尼川龍一, 伊藤量基, 福原資郎 (2003) ヒト樹状細胞と疾患. 炎症と免疫 11: 202-209
  3. 岸本裕司 (2003) 輸血過誤防止を目指す検査. 輸血検査の24時間体制の必要性 *臨病理* 51: 50-56
  4. 尾崎吉郎 (2003) 臨床: 自己免疫疾患の病態における樹状細胞の役割. *現代医療* 35: 1111-1117
  5. 伊藤量基, 福原資郎 (2003) ヒト樹状細胞とサブセットと産生サイトカイン. *臨免疫* 39: 254-261
  6. 野村昌作 (2002) 【閉塞性動脈硬化症 (ASO) の現状】閉塞性動脈硬化症の保存的治療法. *Angiol Front* 1: 54-59
  7. 野村昌作 (2003) 【特発性血小板減少性紫斑病】臨床研究の進歩. 特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) 概論. *日臨* 61: 552-557
  8. 野村昌作 (2002) 【抗血栓療法 新しい展開】血栓症の検査 活性化血小板の検出とその意義. *臨床医* 28: 2330-2331
  9. 尼川龍一, 伊藤量基, 福原資郎 (2003) ヒト樹状細胞と疾患. 炎症と免疫 11: 202-209
  10. 伊藤量基, 福原資郎 (2003) 【樹状細胞の機能をめぐって】ヒト樹状細胞サブセットと産生サイトカイン. *臨免疫* 39: 354-361
  11. 香川英生, 野村昌作 (2003) レイノー現象と止血凝固異常. *Angiology Frontier* 2: 283-288
  12. 野村昌作, 金澤成紀, 福原資郎, 服部尚子, 榎原巖 (2003) 【肺構造の変性と修復】気腫化した肺胞構造の修復. 呼吸と循環 51: 653-657
  13. 福原資郎 (2003) 【血液疾患研究の進歩 歴史

の検証】濾胞性リンパ腫・血液フロンティア  
13: 1365-1375

#### 学会発表

1. Ozaki Y, Amakawa R, Son Y, Takebayashi M, Nagahama M, Ito T, Konaka Y and Fukuhara S (2003) Peripheral Blood Dendritic Cells in Patients with Sjogren's Syndrome. 8th. International Workshop on Langerhans Cells, Tokyo
2. Uehira K, Amakawa R, Ito T, Tajima K, Naitoh S, Ozaki Y, Shimizu T, Yamaguchi K, Uemura Y, Kitajima H, Yonezu S and Fukuhara S (2003) Dendritic Cells are Decreased in Blood and Accumulated in Granuloma in Tuberculosis. 8th. International Workshop on Langerhans Cells, Tokyo
3. Ota M, Uehira K, Date Y, Yamaguchi K, Uemura Y, Yonezu S, Amakawa R and Fukuhara S (2003) Analysis of Dendritic Cells in Sarcoidosis. 8th. International Workshop on Langerhans Cells, Tokyo
4. Nakamura K, Takebayashi M, Tajima K, Ito T, Zen K, Kishimoto Y, Amakawa R and Fukuhara S (2003) Dynamics of Dendritic Cells and Cytokine Profile in Chronic GVHD. 8th. International Workshop on Langerhans Cells, Tokyo
5. 松本憲明, 中道尚人, 田嶋健一郎, 上平和孝, 山口和之, 藤本正博, 尼川龍一, 福原資郎 (2003) 当院での水痘集団発生の一事例. 第77回日本感染症学会総会, 福岡
6. 岸本裕司, 有元美代子, 細川美香, 阿部 操, 岡前文子, 山岡 学, 大谷哲司, 松崎龍典, 寺西節子, 寺岡敦子, 福原資郎, 大西修司 (2003) 輸血検査 24 時間体制の輸血過誤防止効果. 第51回日本輸血学会総会, 北九州
7. 松本憲明, 中井邦久, 田嶋健一郎, 森眞一郎, 全 勝浩, 藤本正博, 岸本裕司, 尼川龍一, 福原資郎 (2003) IgJH 再構成および TCR $\gamma$  構成を認めた非ホジキンリンパ腫. 第43回日本リンパ網内系学会総会, 福岡
8. 森眞一郎, 尼川龍一, 福原資郎 (2003) 低悪性度リンパ腫における樹状細胞と T 細胞. 第43回日本リンパ網内系学会総会, 福岡
9. 山本義尚, 石井一慶 (2003) PBSCT 後に蛋白漏出性胃腸症を併発した MDS 症例. 第45回日本臨床血液学会総会・第65回日本血液学会総会, 大阪
10. 松本憲明, 中井邦久, 田嶋健一郎, 全 勝浩, 藤本正博, 岸本裕司, 尼川龍一, 福原資郎 (2003) 成人造血器疾患に対する臍帯血移植の検討. 第45回日本臨床血液学会総会・第65回日本血液学会総会, 大阪
11. 河野誠司, 平本展大, 田嶋健一郎, 松本憲明, 宮崎泰彦, 全 勝弘, 藤本正博, 尼川龍一, 岸本裕司, 福原資郎 (2003) P53 変異と MLL 増幅をみとめた未分化白血病の一例. 第45回日本臨床血液学会総会・第65回日本血液学会総会, 大阪
12. 桂 薫子, 藤本正博, 村松美樹子, 金澤成紀, 梶浦孝之, 稲見則仁, 諫見康弘, 津田伸幸 (2003) サイクロフォスファミド及びシクロスポリンが有効であった血球貪食症候群 (HPS). 第171回日本内科学会近畿地方会, 大阪
13. 大城明寛, 上平和孝, 矢木泰弘, 太田麻衣子, 横井 崇, 谷尻 力, 山口和之, 福原資郎 (2003) 原発性肺癌と胃癌再発との鑑別が困難であった癌性胸膜炎の一例. 第172回日本内科学会近畿地方会, 和歌山
14. 石井一慶, 山本義尚, 野村昌作 (2003) 多発性骨折にて発症した成人 T 細胞リンパ腫. 第80回近畿血液学会地方会, 神戸
15. 尾崎吉郎, 尼川龍一, 孫 瑛洙, 竹林匡史, 永濱美紀, 福原資郎 (2003) シェーグレン症候群における樹状細胞の関与 (病期との関連). 第33回日本免疫学会総会・学術集会, 福岡
16. 中井邦久, 田嶋健一郎, 谷川 昇, 松本憲明, 全 勝弘, 野村昌作, 岸本裕司, 尼川龍一, 福原資郎 (2003) ステロイド難反応性の急性移植片対宿主病 (acute graft-versus-host disease: aGVHD) に対する局所的ステロイド動脈内注入療法. 第26回日本造血細胞移植学会総会, 横浜
17. 松本憲明, 中井邦久, 田嶋健一郎, 全 勝弘, 岸本裕司, 尼川龍一, 福原資郎 (2003) 成人造血器疾患に対する臍帯血移植の検討. 第26回日本造血細胞移植学会総会, 横浜
18. 石井一慶, 山本義尚 (2003) NST における B 型

- 肝炎の検討．第26回日本造血細胞移植学会総会，横浜
19. 太田麻衣子，上平和孝，藤田佳子，山口和之，尼川龍一，福原資郎，小柳津治樹，米津精文（2003）サルコイドーシス患者における樹状細胞の検討．第43回日本呼吸器学会総会，福岡
  20. 謙吾，竹林匡史，田嶋健一郎，伊藤量基，宮崎泰彦，全勝浩，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2003）同種造血幹細胞移植後慢性期における免疫状態．第43回日本リンパ網内系学会総会，福岡
  21. 中村謙吾，竹林匡史，田嶋健一郎，伊藤量基，松本憲明，全勝弘，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2003）慢性GVHD患者T細胞におけるサイトカイン動態．第45回日本臨床血液学会総会・第65回日本血液学会総会，大阪
  22. 宮地理彦，梅原久範，岡崎俊朗，尼川龍一，福原資郎（2003）raft形成とapoptosis誘導におけるスフィンゴミエリンの関与．第45回日本臨床血液学会総会・第65回日本血液学会総会，大阪
  23. 孫瑛洙，竹林匡史，永濱美紀，四宮敏章，尾崎吉郎，福原資郎（2003）ループ膀胱炎様の経過を認めた間質性膀胱炎の2症例．第47回日本リウマチ学会総会・学術集会，東京
  24. 宮地理彦，尼川龍一，福原資郎，井上博，合田征司，岡崎俊朗，梅原久範（2003）Fas依存性Apoptosisにおけるスフィンゴミエリンの関与．第33回日本免疫学会総会・学術集会，福岡
  25. 村上直子，全勝浩，中井邦久，田嶋健一郎，尾崎吉郎，松本憲明，藤本正博，尼川龍一，福原資郎（2003）骨格筋原発peripheral T cell lymphomaの1例．第170回日本内科学会近畿地方会，大阪
  26. 嶋本佳子，河野誠司，田嶋健一郎，松本憲明，森眞一郎，宮崎泰彦，全勝浩，藤本正博，尼川龍一，岸本裕司，福原資郎（2003）多発性骨髄腫治療後に発症したAngioimmunoblastic T cell lymphomaの1例．第79回近畿血液学会地方会，大阪
  27. 嶋元佳子，孫瑛洙，竹林匡史，永濱美紀，尾崎吉郎，福原資郎（2003）化膿性脊椎炎との鑑別を要した掌蹠膿疱性関節炎の一例．第172回日本内科学会近畿地方会，和歌山
  28. 小笹亮太郎，全勝弘，竹林匡史，中井邦久，田嶋健一郎，尾崎吉郎，松本憲明，尼川龍一，岸本裕司，福原資郎（2003）非血縁者間骨髄移植後に多発性筋炎を併発した1例．第80回近畿血液学会地方会，神戸
  29. 中道尚人，植田知代子，臼井忠男，安田典正（2003）Rituximab投与後，遅発性好中球減少症を認めた1例．第80回近畿血液学会地方会，神戸

## 内科学第二講座

### 研究概要

#### 循環器

循環器学では，心筋虚血，心不全の病態解明についての基礎研究とともに，虚血性心疾患や不整脈の患者予後に直接還元できる臨床研究を主体としてきた．同時に新しい再生医療としての骨髄移植療法やNOGAシステムの臨床応用など，今後の新しい医療と，QOLを重要視した臨床治療の確立を研究目標においている．

#### 1) 動物実験による心筋虚血再灌流障害の研究

心臓超音波法の進歩にともない，非侵襲的局所心機能評価が可能となってきた．特に，組織ドプラ法を用いれば定量的な局所心機能評価が可能となってきた．そこで，心房細動および虚血性心疾患を対象に，組織ドプラ法による心機能評価の有用性について検討し報告してきた．また，動物実験において，心筋虚血再灌流時の心筋障害の評価において，新たな生化学的マーカーの開発とともに，局所心機能の面から検討を行うため，従来の摘出還流心モデルを，ワーキングモードで還流できるシステムを導

入した。その結果、局所壁運動の評価を前述の組織ドップラーを用い評価することが可能となった。新たな心筋障害の生化学マーカーとしてアクロレインの評価を行い、心筋虚血再灌流時の新たなマーカーになることを報告した。同時に、心筋虚血再灌流時の局所心機能の回復過程を組織ドブラ法にて検討した結果、局所心機能は、生化学的指標の変化に遅れて出現することを証明し得た。このことは、臨床上の治療効果の判定においても重要であると考えられた。今後、摘出還流心のワーキングモデルを用い、新たな薬剤、治療法による局所心機能の変化を検討し、臨床治療に応用を試みていく予定である。

## 2) 心臓リハビリテーション・運動療法に関する研究

心臓リハビリテーションは、EBMにもとづく心筋梗塞後の再梗塞、心不全の予防医学として確立されてきた。当科においても、健康科学センターを中心に、心筋梗塞、狭心症リハビリテーションとして、積極的な運動、食事、カウンセリングによる2次予防に取り組み、特に冠動脈再狭窄術後の再狭窄においても良好な結果が得られ、その具体的機序を明らかにしているところである。この再狭窄の予防効果は、インスリン抵抗性、血小板機能、血管内皮機能、自律神経機能などさまざまな機序により得られ、今後、病態によりどの作用が主体であるかを解明し、より確実な再狭窄予防効果を、個々の症例に合った心臓リハビリテーションとして確立させているところである。また心不全の評価として化学受容体感受性の機能評価を交感神経機能活性として用い、心不全の評価、および心臓リハビリテーションの効果としての有用性を報告した。この化学受容体感受性は、心不全のみならず、肥満や糖尿病においても変化が認められ、今後、生活習慣病の新たな重症度、予後の指標として研究していく予定である。運動療法に関しては、肥満、高血圧、糖尿病、高脂血症において注目されると思われる。

その他の生活習慣病治療として、肥満外来を開設し、心理的指標による分析・治療、遺伝子レベルでの解析としてアドレナリンβ3受容体多型、レプチンによる評価を行い、個々の肥満の病態を明らかにしてきた。また、高血圧運動療法においては、降圧剤の併用薬として、Ca拮抗剤、ACE阻害剤の運動時の血管作動性交感神経機能による評価を行い、ACE阻害薬において、運動時の自律神経機能の改善を証明し、臨床面での薬剤選択基準の一つとして評価されている。運動時の血行動態、特に末梢循環動態においては、測定が困難であり今まで詳細な検討は少なかったが、今回我々はインピーダンス法を用い、自転車運動時の下肢血行動態の解析に成功した。その結果、運動強度の増加により下肢末梢循環量が変化していく過程で、有酸素運動閾値を越えてから新たな血液シフト（血流再分布）の出現の可能性が示唆され、今後我々の開発したインピーダンス法による運動時の詳細な血行動態の解明が期待される。健康科学センターとしては、心臓リハビリテーションを中心に、高血圧、糖尿病、高脂血症、肥満症において、運動、栄養、心理的介入方法を積極的に開発し、生活習慣病治療・予防の研究を行う予定である。

## 3) 慢性心不全例における交感神経活動に関する研究

慢性心不全において交感神経活動の亢進は予後を左右する上で重要な指標である。交感神経活動の測定は血中noradrenaline、心拍変動スペクトラムなどが一般的であったが、我々は筋交感神経活動(MSNA)の測定方法を会得し、交感神経活動を直接的に測定している。慢性心不全例における交感神経活動の亢進に關する因子としてはarterial baroreflex, cardiopulmonary baroreflex, metaboreflex, chemoreeflexの4つの圧受容体反射機能が関与していると報告されており、本施設において全て測定可能となっている。現在、これらの圧受容体反射機能とMSNAを用いて慢性心不全例における交感神経活動亢進の病態について検討している。さらに、ACE阻害薬、AngII拮抗薬などの交感神経活動に対する影響を比較検討中である。

## 4) 核医学を用いた冠動脈疾患における心筋灌流に関する研究

核医学を用いた心筋灌流イメージングは血管造影では評価できない心筋微小循環を非侵襲的に評価可能である。急性心筋梗塞症に対する冠動脈血行再建術後の心筋微小循環傷害の定量的評価法を確立し



た。加えて、心筋微小循環傷害に対する verapamil の有効性を証明した。最近開発された心電図同期 SPECT を用いることにより(1)心筋梗塞後の血流-収縮乖離(Stunned myocardium)の検出,(2)再灌流後の局所心機能回復における残存心筋血流の関与を明らかにしていく。

#### 5) 心筋微小循環の再生と評価

超音波造影剤の開発,心エコー装置の改良により,超音波造影剤を経静脈的投与することによって心筋コントラストエコーが可能となった。経静脈心筋コントラストエコー(MCE)撮像の至適条件と臨床的意義は明らかになっていない。急性心筋梗塞慢性期にMCEを施行し,心筋微小循環障害と心機能改善・左室再構築の関連を検討中である。また,虚血性心疾患に対する骨髄細胞移植による新生血管の定量的評価をMCEを用いて検討中であり,その結果の一部を報告した。さらに,超音波造影剤投与下に強度の超音波照射を行うとbioeffectにより毛細血管が破壊される事が明らかとなってきた。このbioeffectを利用しMCEによるdrug-delivery, cell-deliveryの基礎検討を開始している。

#### 6) 心筋組織性状と心機能の非侵襲的評価

梗塞心筋における心筋内膜外膜側の組織性状の変化が左室形態維持に及ぼす影響は明らかにされていない。心筋 Integrated backscatter (IBS) により,心筋内膜側・外膜側の viability が個別に解析可能となった。初回心筋梗塞の心筋内膜側と外膜側の IBS を記録し,その変動量と変動パターンを解析し,心筋内膜側と外膜側の IBS と左室形態との関連について検討中であり,その結果の一部を報告した。また,心外膜脂肪沈着が心機能に及ぼす影響は検討されていない。MRI,心エコー図を用いて心外膜脂肪の定量評価を行い,心外膜脂肪沈着が左室拡張能におよぼす影響を検討中である。さらに脂肪沈着群の心筋組織性状診断を IBS にて解析し *fatty heart* の概念を確立することを目的として検討を加えている。

#### 7) 循環器領域における冠動脈疾患に対する観血的検査法および治療法に関する検討

近年の我が国における,食生活の欧米化や高齢化社会の到来は,生活習慣病を基盤とする動脈硬化疾患の増加をもたらした。その結果,冠動脈硬化による狭心症,心筋梗塞は年々増加の傾向にある。また一方で,経皮的冠動脈形成術(PCI)も目覚ましい進歩をとげ,CABG と並ぶ有効な治療法として確立された。PCI は良好な初期成績に対して,慢性期の再狭窄が臨床上の大きな課題である。また急性心筋梗塞症に対する PCI 時には,再灌流に成功しても 10-15%の頻度で微少塞栓等による微小循環障害が生じ,慢性期予後に重大な影響を与えている。心臓カテーテル部門では,PCI のこれらの臨床上の課題についての検討を行っている。

一方,血行再建術のめざましい進歩にも関わらず,カテーテル治療やバイパス治療によっても治療困難な,重症下肢虚血や末期的冠動脈疾患が増加している。これら難治性の虚血性血管疾患に対する新しい治療法として,血管再生治療が注目されているが,われわれはこれまで,虚血下肢および心筋虚血に対する,骨髄単核球細胞移植を用いた血管新生療法の有効性,安全性を基礎的検討により明らかにし,現在,その臨床治験に取り組んでいる。

##### 1. PCI 後の再狭窄予防

##### 1.1 スタチン製剤による急性冠動脈症候群に対するステント植え込み後の再狭窄予防効果の検討

スタチンにはコレステロール低下作用以外に抗炎症作用,血小板凝集抑制作用,平滑筋増殖抑制などの多面的効果があるとされる。MIRACL study では,不安定狭心症例に対するスタチンの有効性を無作為二重盲検試験で検討し,16週間の観察期間中,心事故発生率が対照群に比べてスタチン投与群で16%抑制されたことが報告された。これらスタチンの多面的効果は,PCIによる血管損傷に起因する血栓形成や炎症によって生じる内膜肥厚を抑制し,再狭窄を予防する可能性が推察される。われわれは,冠動脈ステント植え込みの適応となった ACS 例を無作為に術前からスタチンを投与した群と非投与群に分け,高感度 CRP,接着因子などの液性因子の経時推移を観察し,慢性期の再狭窄率,再血行再建率,心事故

発生率などの長期成績についての検討を行っている。

### 1.2 積極的糖尿病治療による再狭窄予防の試み

糖尿病は、PCI後の再狭窄の最大の危険因子である。われわれが行った後ろ向き研究で、300例の糖尿病症例について検討し、糖尿病のコントロール状態が、ステント内再狭窄に大きく関わることを明らかにしてきた。この結果を踏まえ、待機的ステント植え込みを行う糖尿病例を無作為にアクトスを用いて積極的に治療する群と通常治療群に分け、上記のスタチンによる再狭窄予防の前向き研究と同様の検討を行っている。

### 1.3 ステント治療後の ticlopidine の長期投与の有効性に関する検討

Ticlopidine は、ステント治療後に生じる亜急性冠閉塞 (SAT) の予防に著効を示す。しかし低頻度であるが、血栓性血小板減少症 (数千人に一人) や顆粒球減少症 (1-2%) などの致命的な副作用を生じるため、一般的に SAT の危険性が高い術後 2 週間から 1ヶ月の間に限定されて投与されている場合が多い。しかしながら、術後 1ヶ月以降には SAT より頻度は低いが、0.6-0.8%の割合で晩期ステント閉塞が生じるとされ、かつステント閉塞は致命的な急性心筋梗塞を発症することを考えると、Ticlopidine の短期投与が必ずしも良いとは言えない。また Ticlopidine による Stent 内再狭窄の予防効果についても明確な evidence がないことから、われわれは、前向き研究として Ticlopidine の短期投与群 (1ヶ月) と長期投与群 (6ヶ月) において、凝固線容系因子の経時的変化を追跡し、ステント植え込み 1ヶ月以降 1年までの心事故発生率、再狭窄率、再血行再建術に関して比較検討している。

## 2. 冠動脈形成術時の微小循環障害の予防

2.1 急性心筋梗塞に対する PCI による微小循環障害には、不安定プラークの破壊によるプラーク内容物や血栓の末梢塞栓が関与することが明らかにされている。その予防法として、カテーテルによる血栓吸引法が近年行われるようになった。これに tPA を併用することにより、閉塞した血栓を減らし、PCI による機械的損傷後に生じる新たな血栓形成を予防し、微小循環障害を軽減する可能性が考えられる。われわれは前向き研究として、half dose tPA に引き続き血栓吸引療法を行う tPA 群と血栓溶解療法単独群の微小循環障害の頻度と急性期および慢性期予後についての検討を行っている。

### 2.2 Nicorandil による待機的冠動脈形成術時の微小循環障害の予防: randomized study

一方、安定したプラークに対する待機的 PCI においても、術後に心筋障害が生じ、CPK が上昇が高度な例ほど慢性期予後が不良であるという報告が多数ある。待機例における心筋障害の発生機序として、急性心筋梗塞例と同様の微小循環障害が考えられる。急性期 PCI の微小循環障害の予防薬である nicorandil が待機例においても有効であるか否かについて、投与群、非投与群の微小循環障害の発生頻度について比較検討している。

## 3. 再生医療

われわれは、骨髄単核球細胞移植術の Phase I trial として、3例の重症狭心症例に対して、移植治療を行い、重篤な合併症を伴うことなく、著明な臨床症状および心筋虚血の改善効果を認めている。1例目は開胸下に治療を行い、2例目以降は、カテーテルを使用した移植治療を行っている。今後も症例を重ね、この治療法の有効性、安全性について検証して行く予定である。

## 8) 超音波を用いた心筋微小循環の再生と評価

超音波造影剤の開発、心エコー装置の改良により、超音波造影剤を経静脈的投与することによって心筋コントラストエコーが可能となった。急性心筋梗塞慢性期に MCE を施行し、心筋微小循環障害と心機能改善・左室再構築の関連を検討中である。また、虚血性心疾患に対する骨髄細胞移植による新生血管の定量的評価を MCE を用いてを検討中であり、その結果の一部を報告した。さらに、超音波造影剤投与下に強度の低周波超音波照射を行うと bioeffect により毛細血管が破壊される事が明らかとなってきた。この bioeffect を利用した MCE による drug-delivery, cell-delivery の基礎検討を開始している。骨髄細胞移植は新たな血管・心筋再生治療法として有望であるが、この MCE による cell-delivery を用いると非常

に効率のよい虚血・梗塞心筋への骨髄細胞移植が可能であることが明らかとなり、結果の一部を報告した。今後、安全性を含め、臨床応用に向けた基礎検討の蓄積を行っていく予定である。

#### 9) 循環器疾患のデータベース構築

Evidence-based Medicine の普及に伴い、従来のメカニズムのみに基づく医療より、死亡など患者にとって重要な outcome を実際に減少させる事が証明された医療が重要視されてきている。そのためのデータベースとして急性心筋梗塞による死亡、致死性不整脈による死亡、心房細動に伴う血栓塞栓症の発症、Brugada 症候群の予後などの循環器疾患における重要な患者 outcome についてのデータベースを構築し、一部の結果を報告した。

#### 10) 脳性利尿ペプチド (BNP) の臨床応用についての検討

血漿脳性利尿ペプチド (BNP) 値は、心不全のマーカーとして広く臨床応用されているが、臨床所見との不一致もしばしば認められる。BNP 値の臨床応用について、その有効性と限界について各種の循環器疾患にて検討し、一部結果を報告した。また、心房性BNPと心室性BNPとの差についても検討中である。

#### 内分泌・代謝

内分泌・甲状腺外来、内分泌・代謝外来で、甲状腺疾患をはじめとする種々の内分泌・代謝疾患患者の診療を行うと共に、これらの臨床的ならびに基礎的研究を行っている。

##### 基礎研究分野

基礎的研究では、甲状腺ホルモン代謝酵素である type 1 (D1) 及び type 2 iodothyronine deiodinase (D2) の発現調節機構及び生理的意義に関する研究をしている。甲状腺から分泌される T4 は、D1 及び D2 により、生物学的により活性なホルモンである T3 に転換される。D1 は、血中に T3 を供給し、D2 は、局所での T3 含量を調節する。すなわち、D2 が発現する局所では、独自の T3 含量の調節系が働いていることになる。

ヒト大動脈血管平滑筋細胞 (HASMC) に、D2 が発現することを明らかにした。HASMC は、甲状腺ホルモンの標的臓器であると考えられる。更に、HASMC の D2 の発現が、platelet-derived growth factor 及び basic fibroblast growth factor など、血管平滑筋細胞 (VSMC) の増殖因子により up-regulation されることを明らかにし報告した。動脈硬化症の重要な病変である VSMC の増殖に、D2 及び甲状腺ホルモンがどのように関与しているのか研究を進めている。重症消耗性疾患患者では、下垂体 甲状腺機能が正常であっても、血清中 T3 濃度はしばしば低下する。このように、血中 T3 濃度の低下した状態を low T3 症候群と呼ぶ。Low T3 症候群の発現機序及び治療の是非に関してモデル動物を用いて研究している。

##### 臨床研究分野

悪性眼球突出症について、臨床的にステロイドパルス療法や照射療法を行うと共に、その病態を研究している。

#### 糖尿病

##### 基礎研究分野

糖尿病分野での基礎研究としては、糖尿病性合併症の成因を明らかにすることを目的に研究をおこなっています。これまで糖尿病性合併症の進展因子としてはポリオール系代謝、C キナーゼ活性、糖化蛋白および酸化ストレスなどの関与が報告されています。現在我々は糖化蛋白の受容体のひとつである RAGE (receptor for advanced glycation endproducts) のシグナル伝達様式の解明および、その新規リガンドである S100 関連蛋白の糖尿病性合併症への関与を、分子生物学的および発生工学的手法を用いて検討しています。

### 臨床研究分野

糖尿病は、それによる3大合併症である網膜症、神経障害、腎症のみならず、動脈硬化症の進展を基盤として、心筋梗塞、狭心症、脳卒中など、生命予後やQOLを規定する様々な病態を引き起こす危険因子の大きなものひとつです。これらを有機的に予防・治療するため当科では糖尿病専門外来、糖尿病教育を含む入院治療の連携で、きめ細かい診療を実施しています。糖尿病教室では、医師・薬剤師・看護師・栄養士・心理士がそれぞれ協力して患者さんの指導を行い糖尿病性合併症の予防と治療に力を注いでおります。合併症発症後は当科心臓・循環器や腎臓・透析グループおよび当院眼科と共にその管理治療を行っています。糖尿病治療の最近の特徴は、種々のインスリン製剤や経口血糖降下剤の開発により個々の病状に合わせた、よりオーダーメイドの治療が可能となってきたことです。しかし本邦において頻度の高い2型糖尿病の治療の基本は食事療法および運動療法であり、日常診療においてはこれら生活習慣の改善ができない事による血糖コントロールの不良例も多数みられます。現在我々はこれらの血糖コントロールの不良例とその行動習慣、性格、情緒、社会的要因などの関連性について調査し、それらへの行動科学的介入法を確立してゆく予定です。

次に糖尿病性合併症の治療への新しい試みとして、糖尿病性末梢神経障害や慢性閉塞性動脈硬化症が明らかでない糖尿病性足部潰瘍へ自家末梢血単核球細胞移植治療を行ってゆく予定です。他稿にありますように、当科においてこれまで多数の下肢慢性閉塞性動脈硬化症およびピュルガー病の方へ骨髄および末梢血単核球細胞移植による血管新生治療が行われ良好な臨床成績が得られています。今後、我々は下肢の微小血管障害に由来して発症または増悪すると考えられている糖尿病性末梢神経障害や糖尿病性足部潰瘍への自家末梢血単核球細胞移植治療の有効性を検討してゆく予定です。

### 腎臓・高血圧

#### 基礎研究分野

#### 1) 超音波音波造影剤(マイクロバブル)による腎局所への遺伝子導入

急増する末期腎不全抑制に対し、慢性腎障害進展抑制の新規治療法が必要である。その一つとして、安全かつ繰り返し可能な腎局所への腎保護遺伝子の導入は開発意義が大きい。安全性に疑問が出現したウイルスベクターに代わって、超音波造影剤(マイクロバブル)による遺伝子導入が注目を浴びている。同法では、超音波照射を組み合わせることにより局所臓器に安全な遺伝子導入が可能である。そこで、現在、我々はラット腎炎モデルに腎保護作用を有するアンジオテンシン2型受容体(AT2)や催線維化作用のあるTGF- $\beta$ の細胞内シグナルを抑制するSmad7等の遺伝子導入を試みている。

#### 2) 慢性腎障害における骨髄・末梢血単核球移植による腎微小血管再生

慢性腎障害進展抑制の更なる試みとして、骨格筋でその効果がヒトにおいても明らかとなった骨髄・末梢血単核球移植をラット腎炎モデルに施行する。慢性腎障害の予後規定因子である間質線維化に対して、尿細管周囲細血管網の再生により、その進展を抑制する試みである。

### 臨床研究分野

#### 1) 超音波音波造影剤(マイクロバブル)による腎局所血流評価

現在、腎局所とりわけ腎機能保持に重要な腎皮質血流を安全かつ簡便にベッドサイドで評価し、モニタリングし得る方法はない。私たちはすでに正常腎機能者に超音波音波造影剤を用いて、その評価法を新規に確立した。さらに機能的変化が定量的に観察できることをドパミン負荷の腎皮質血流増加描出により確認した。また、アンジオテンシン受容体拮抗薬(ARB)による腎皮質血流量の増加も観察した。今後、糖尿病性腎症やIgA腎症などの代表的な病的腎での血流異常状態の評価とARBなどの薬効評価の新しい検査法として確立する。

## 2) 降圧薬併用による至適高血圧治療に関する臨床トライアル

関西西大附属3病院, 関連病院, 関連医院・診療所を含めた降圧治療に関する臨床トライアルを行う。一般実地臨床に即した形でアンジオテンシン受容体拮抗薬 (ARB) + 利尿剤, ARB + カルシウム拮抗薬の併用療法間での予後判定を試みる。

### 血液浄化

#### 臨床研究分野

維持透析患者の心血管合併症に関する研究

- ・心筋シンチグラムを用いた「透析心」の発症のメカニズムおよび早期診断・重症度診断法の開発に関する研究を実施している。
- ・透析患者の重要な合併症に慢性閉塞性動脈硬化症 (ASO) が存在する。本疾患は進行すると四肢切断に至る重篤な合併症である。残念ながら既存の治療法の臨床効果は不十分である。そこで、我々は独自に開発した自己骨髄細胞移植を用いた血管新生療法を開発し、透析患者の ASO に対する臨床有効性の検討を実施している。

#### 基礎研究分野

腹膜中皮細胞再生に関する研究

腹膜透析法は有効な維持透析療法として確立しているが、腹膜機能の劣化の問題で実施できる期間に限りがあるという大きな問題がある。我々はこの問題を解決する方法として、自己骨髄細胞を用いた腹膜再生法を検討している。

動脈硬化・血管再生

#### 基礎研究分野

動脈硬化発症の分子メカニズムの解明に関する研究

動脈硬化発症には、VEGF, HGF などの血管内皮成長因子の作用が重要であるが、最近私達は炎症性サイトカイン IL-1 が動脈硬化薬で産生され、その IL-1 が VEGF, HGF 産生を刺激し、動脈硬化の進展をもたらすことをみいだした。また、IL-1 の作用発現は、PYK2 などの細胞内のチロシンキナーゼ活性化が重要であることもみいだした。

#### 臨床研究分野

2001年7月よりすでに自己骨髄細胞移植を用いた血管新生療法を開発し、ASO に対する臨床試験を開始し、その臨床有効性を 2002年 LANCET に報告した。現在も症例を蓄積し、更なる有効性と安全性の確認を実施するとともに、治療適応条件因子の検索・評価をおこなっている。

さらに、虚血性心疾患を対象疾患とした自己骨髄細胞移植を用いた血管新生療法の臨床試験を開始し、2例に実施してその有効性と安全性を報告している。今後、多施設共同臨床試験として症例の蓄積をおこなう予定である。

### 研究業績

#### 原著

1. Nakamura S, Takehana K, Sugiura T, Hatada K, Hamada S, Asada J, Yuyama R, Mimura J, Imura Y, Kurihara H, Fukui M, Baden M and Iwasaka T (2003) Quantitative estimation of myocardial salvage after primary percutaneous transluminal coronary angioplasty in patients with angiographic no reflow. *Eur J Nucl Med* 30: 383-389
2. Hasegawa T, Kosaki A, Kimura T, Matsubara H, Mori Y, Okigaki M, Masaki M, Toyoda N, Inoue-Shibata M, Nishikawa M and Iwasaka T (2003) The regulation of EN-RAGE (S100A12) gene expression in human THP-1 macrophages. *Atherosclerosis* 171: 211-218
3. Maeda A, Toyoda N, Yasuzawa-Amano S, Iwasaka T and Nishikawa M (2003) Type 2 deiodinase expression is stimulated by growth factors in human vascular smooth muscle cells. *Mol Cell*

- Endocrinol 200: 111–117
4. Takehana K, Beller GA, Ruiz M, Petruzella FD, Watson DD and Glover DK (2003) Accuracy of detection of myocardial viability and residual infarct vessel stenoses with rest 201Tl and adenosine 99mTc-sestamibi imaging following coronary reperfusion in dogs with experimental acute myocardial infarction. *J Nucl Cardio* 1 10: 375–384
  5. Ukita C, Yamaguchi M, Tanaka T, Shigeta H and Nishikawa M (2003) A novel missense mutation of the MEN1 gene in a multiple endocrine neoplasia type 1 patient associated with carcinoid syndrome. *Intern Med* 42: 1112–1116
  6. Hasegawa T, Kosaki A, Kimura T, Matsubara H, Mori Y, Okigaki M, Masaki H, Toyoda N, Inoue-Shibata M, Kimura Y, Nishikawa M and Iwasaka T (2003) The regulation of EN-RAGE (S100A12) gene expression in human THP-1 macrophages. *Atherosclerosis* 171: 211–218
  7. Kishimoto N, Mori Y, Nishiue T, Shibasaki Y, Iba O, Nose A, Uchiyama-Tanaka Y, Masaki H, Matsubara H and Iwasaka T (2003) Renal blood flow measurement with contrast-enhanced harmonic ultrasonography: evaluation of dopamine-induced changes in renal cortical perfusion in humans. *Clin Nephrol* 59: 423–428
  8. Nose A, Mori Y, Uchiyama-Tabaka Y, Kishimoto N, Maruyama K, Matsubara H and Iwasaka T (2003) Regulation of glucose transporter (GLUT1) gene expression by angiotensin II in mesangial cells; involvement of HB-EGF and EGF receptor transactivation. *Hypertens Res* 26: 67–73
  9. Miyazaki Y, Mori Y, Kishimoto N, Matsumoto N, Zen K, Amakawa R, Kishimoto Y and Fukuhara S (2003) Membranous Nephropathy with Donor Lymphocyte Infusion following Allogeneic Bone Marrow Transplantation. *Hematology* 78: 262–265
  10. Amano K, Matsubara H, Iba O, Okigaki M, Fujiyama S, Imada T, Kojima H, Nozawa Y, Kawashima S, Yokoyama M and Iwasaka T (2003) Enhancement of ischemia-induced angiogenesis by eNOS overexpression. *Hypertension* 41: 156–162
  11. Kyoi S, Otani H, Sumida T, Okada T, Osako M, Imamura H, Kamihata H, Matsubara H and Iwasaka T (2003) Loss of intracellular dystrophin—A potential mechanism for myocardial reperfusion injury—. *Circ J* 67: 725–727
  12. Hirowatari Y, Hara K, Kamihata H, Iwasaka T and Takahashi H (2004) High-performance liquid chromatographic method with column-switching and post-column reaction for determination of serotonin levels in platelet-poor plasma. *Clin Biochem* 37: 191–197
  13. Matsumoto N, Nomura S, Kamihata H, Kimura Y and Iwasaka T (2004) Increased level of oxidized LDL-dependent monocyte-derived microparticles in acute coronary syndrome. *Thromb Haemost.* 2004 Jan; 91(1): 146–154. *Thromb Haemost* 91: 146–154
  14. Uchiyama-Tanaka Y, Mori Y, Kimura T, Sonomura K, Umemura S, Kishimoto N, Nose A, Tokoro T, Kijima Y, Yamahara H, Nagata T, Masaki H, Umeda Y, Okazaki K and Iwasaka T (2004) Acute tubulointerstitial nephritis associated with autoimmune-related pancreatitis. *Am J Kidney Dis* 43: e18–25
  15. Uchiyama-Tanaka Y, Mori Y, Kishimoto N, Nose A, Kijima Y, Nagata T, Umeda Y, Masaki H, Matsubara H and Iwasaka T (2004) Membranous glomerulonephritis associated with hepatitis C virus infection: case report and literature review. *Membranous glomerulonephritis associated with hepatitis C virus infection: case report and literature review. Clin Nephrol* 61: 144–150
  16. 宮坂陽子, 拝殿未央, 津田信幸, 豊 紘, 岩坂壽二 (2002) Brugada syndrome: どう対処すべきか. *治療* 84: 152–155
  17. 岸本典子, 森 泰清, 内山葉子, 能勢敦子, 井庭 理, 柴崎泰延, 正木浩哉, 永田登志子, 梅田幸久, 松原弘明 (2002) 再発ならびに腸管出血をきたしたクリオグロブリン血症を伴うC型肝炎ウイルス腸性膜性増殖性糸球体腎炎の1例. *腎と透析* 53: 519–522

18. 松原弘明, 西上尚志, 岩坂壽二 (2002) 骨髄系細胞移植による狭心症治療の実際. 実験医 20: 2268-2271
19. 松原弘明, 天野克也, 藤山総一郎, 今田崇裕, 井庭 理, 岩坂壽二 (2002) 糖尿病性冠微小循環障害への再生医療の展望. 糖尿病と血管 17: 55-60
20. 松原弘明, 藤山総一郎, 井庭 理, 天野克也, 岩坂壽二 (2002) アンジオテンシン II と血管新生. 日臨 60: 1911-1915
21. 松原弘明, 正木浩哉, 今田崇裕, 岩坂壽二, 室原豊明, 今泉 勉, 池田宇一, 島田和幸 (2002) 骨髄系細胞を用いた血管新生治療. Heart View 6: 116-121
22. 梅村茂雄, 宮坂陽子, 岡本尚史, 松久誠治, 山原英樹, 拝殿未央, 岩坂壽二 (2002) 心筋虚血により一過性右脚ブロックを生じた一例. Heart nursing 15: 50-52
23. 神畠 宏, 岩坂壽二 (2002) 心筋再生. 最新医 221-225
24. 徳永 智, 豊 紘, 宮坂陽子, 拝殿未央, 山原英樹, 岩坂壽二 (2002) 心拡大. 看護誌 66: 714-719
25. 佐藤 啓, 梅村茂雄, 永浜 要, 木村 穰, 拝殿未央, 山原英樹, 湯山令輔, 塚 芳明, 辻久子, 岩坂壽二 (2002) Type I 2 度房室ブロックを伴った 2 束ブロックの. Heart nursing 15: 43-45
26. 下條ひろみ, 梅村茂雄, 西上尚志, 岩坂壽二 (2002) 胸痛を訴えた中年男性に認めた ST 上昇. Heart nursing 15: 9-11
27. 松原弘明, 神畠 宏, 西上尚志, 天野克也, 岩坂壽二 (2002) 骨髄細胞移植による虚血性心疾患への血管新生療法. 虚血性心疾患にたいする将来のインターベーション 158-163
28. 居原田善司, 西上尚志, 木村 穰, 岩坂壽二, 角玄一郎, 依岡寛和 (2002) 妊娠中の急性心不全の発症により三心房を診断し, 出産しえた一例. 大阪ハートクラブ 4-7
29. 岩坂壽二 (2002) 急性冠症候群の早期診断と治療. 虚血性心疾患診療のコツと落とし穴 中山書店 15-17
30. 豊田長興, 天野佐織, 前田章雅, 西川光重 (2003) 内分泌疾患: 診断と治療の進歩 I. 診断から治療まで 3. 甲状腺. 日内会誌 92: 562-56
31. 天野佐織, 豊田長興, 前田章雅, 西川光重 (2003) 甲状腺疾患でみられる甲状腺機能検査値の異常. Mod physician 23: 1079-1081
32. 丸山勝也, 松原弘明, 森 泰清, 正木浩哉, 内山葉子, 藤山総一郎, 井庭 理, 天野克也, 小宮山豊, 高橋伯夫, 岩坂壽二 (2003) 冠動脈におけるアンジオテンシン II 受容体を介した組織因子の発現調節機構に関する研究. 日臨生理会誌 33: 111-118
33. 内山葉子, 正木浩哉, 今田崇裕, 岸本典子, 福井政慶, 井庭 理, 早川 敬, 森 泰清, 西川光重 (2003) ネフロローゼ症候群を伴った慢性腎不全に対する腹膜透析療法. 日透析医学会誌 36: 1453-1456
34. 塚 芳明, 永濱 要, 神畠 宏, 森田 寛, 酢谷保夫, 山本克浩, 三好広典, 山田光一, 畑田憲吾, 河村晃弘, 岩坂壽二 (2003) Cutting balloon による stent 植え込み前拡張の有効性. 循環器 53: 339-342
35. 山本哲史, 山田光一, 神畠 宏, 酢谷保夫, 永濱 要, 塚 芳明, 栗本晃二, 河村晃弘, 京井志織, 岩崎真佳, 居原田善司, 岩坂壽二 (2003) 冠動脈拡張症に巨大血栓による心筋梗塞を発症し冠動脈内血栓溶解術と Rescue Catheter の併用が有効であった 1 症例. 日本心血管カテーテル治療学会誌 3: 120-124
36. 岩崎真佳, 神畠 宏, 酢谷保夫, 永濱 要, 塚 芳明, 河村晃弘, 居原田善司, 京井志織, 栗本晃二, 岩坂壽二 (2003) 真性多血症を合併した不安定狭心症症例に対する PCI 時に acute thrombosis をきたした 1 例. 日本心血管カテーテル治療学会誌 3: 273-276
37. 山形朋久, 木村 穰, 藤崎紘久, 山本哲史, 岩坂壽二 (2003) 生体電気インピーダンス法によるダイナミック運動負荷時の下肢血行動態評価の試み. 日本臨床生理学会雑誌. 日臨床生理会誌 33
38. 立本実紀, 木村 穰, 山本哲史, 居原田善司, 岩坂壽二 (2003) 心臓リハビリテーションにおける女性肥満患者の心理特性. 虚血性心疾患患者と単純性肥満患者の比較. 日本心臓リハビリテーション学会誌 8

39. 山本 恵, 木村 穰 (2003) 地域医療機関での院内運動療法施設. 日本臨床スポーツ医学会誌 11
40. 村上 順, 木村 穰 (2003) フィットネスクラブにおける医療機関との提携. 日本臨床スポーツ医学会誌 11
41. 清水典子, 木村 穰, 岩坂壽二 (2003) 虚血性心疾患患者の病棟リハビリ進行チェックシステムによる検討. 日本心臓リハビリテーション学会誌 8
42. 藤原紗容子, 木村 穰, 馬場天信, 佐藤 豪, 岩坂壽二 (2003) 心疾患患者の禁煙外来受診時の喫煙動機の検討. 本心臓リハビリテーション学会誌 8
43. 湯浅文雄, 湯山令輔, 味村 純, 河村晃弘, 岩崎真佳, 杉浦哲朗, 岩坂壽二 (2003) 左室機能不全例における運動耐用能と圧反射経路の検討. 心臓 35: 特別号 2
44. 正木浩哉, 神島 宏, 松原弘明, 岩坂壽二 (2003) 【糖尿病と大血管障害 心疾患を中心に】糖尿病性虚血下肢・心臓病への再生医療体性幹細胞移植. Diabetes Frontie 14: 608-614
45. 正木浩哉, 松原弘明, 天野克也, 岩坂壽二, 河合修三, 堀尾 武 (2003) 【補完代替医療と皮膚科】皮膚難治性潰瘍に適用される骨髄細胞移植を用いた血管新生治療の現状. Source: Derma 74: 14-18
46. 正木浩哉 (2003) 【エビデンスに基づく静脈注射の技術】薬剤投与方法としての静脈注射の特性と危険性. EB NURSING 3: 273-277
47. 松原弘明, 正木浩哉, 神島 宏, 岩坂壽二 (2003) 【血管新生療法の基礎と臨床】血管新生療法の臨床経験 その問題点と課題 細胞移植の立場から. 血栓と循環 11: 43-249
48. 神島 宏, 正木浩哉, 岩坂壽二, 松原弘明 (2003) 【末梢動脈疾患を診る】治す 骨髄細胞移植で治す. Heart View 7: 1280-1285
49. 酢谷保夫, 神島 宏, 岩坂壽二 (2003) 急性心筋梗塞症における最近のトピックス 急性心筋梗塞症後の心筋再生治療. 循環器科 54: 65-69
50. 神島 宏, 正木浩哉, 岩坂壽二, 松原弘明 (2003) 末梢動脈を診る. Heart View 7: 128-133
51. 正木浩哉 (2003) 糖尿病性虚血下肢・心臓病への再生医療. Diabetes Fonti 14: 608-614
52. 松原弘明 (2003) 骨髄細胞移植による虚血性心疾患への血管新生療法. Med View インターベンションの New Trends: 158-163
53. 辰己哲也 (2003) 虚血性心臓病への骨髄細胞移植による再生医療. 循環器科 Annual Review: 147-151
54. 木村 穰 (2003) 心筋梗塞予防の基本計画 ライフスタイル: 運動療法. 総合臨床 52
55. 木村 穰 (2003) 高脂血症の実際. 臨床スポーツ医 20
56. 木村 穰 (2003) 心筋梗塞の管理 運動強度: MET. 日臨 61
57. 田嶋佐和子, 木村 穰 (2003) 肥満症患者の栄養管理 心理カウンセリングおよび間欠的低エネルギー食療法を用いて. 栄養評価と臨床 20
58. 木村 穰 (2003) 肥満と虚血性心疾患. 内科 92
59. 岩坂壽二, 宮坂陽子, 高田厚照 (2003) 心房肥大・負荷. 心電図を読む 29-31

## 学会発表

- Masaki H, Matsubara H, Amano K, Imada T, Nishikawa M, Iwasaka T and Takahashi H (2003) Therapeutic Angiogenesis Using Autologous Bone Marrow Cell Transplantation For Clinical Limb Ischemia in ESRD. 第 76 回アメリカ心臓病学会, Orlando, Florida
- Haiden M, Kimura Y, Yamahara H, Miyasaka Y and Iwasaka T (2003) Effects of Edaravone on reperfusion injury in RAT heart, assessed by tissue Doppler echocardiography. International Society for Heart Research (ISHR), Mysteak, CT
- Iharada Y, Kamihata H, Sutani Y, Motohiro M, Yamamoto S, Kawamura A, Iwasaki M, Kyoi S, Kurimoto K and Iwasaka T (2003) Suboptimal Glycemic Control Associates with Diffuse Instant Restenosis after Coronary Stenting. American Heart Association scientific sessions, Orlando, Florida
- Yamamoto S, Kimura Y and Iwasaka T (2003) A Case of an Atrioventricular Block in a Triathlete. American College of Sport Medicine (ACSM),



San Francisco, CA

5. Yamamoto S, Matsui Y, Kimura Y, Yoshinaga M, Akita Y, Karakawa M, Iwasaka T (2003) Improvement in Left Ventricular Function in Patients with Chronic Atrial Flutter Treated by RF Ablation. International Society of Pace and Electrophysiology (ISPE), Honkong, Cina
6. Maeba H, Takehana K, Fukui M, Nakamura S, Kurihara H and Iwasaka T (2003) Assessment of myocardial perfusion and regional function with electrocardiographic gated SPECT in patients with severe left ventricular dysfunction. Annual Meeting of Society of Nuclear Medicine, Orleans, LA, USA
7. Maeba H, Takehana K, Fukui M, Nakamura S, Kurihara H and Iwasaka T (2003) Combined assessment of perfusion and regional function with single injection of electrocardiographic gated SPECT early after primary PTCA can evaluate myocardial salvage. Annual Meeting of Society of Nuclear Medicine, Orleans, LA, USA
8. Fukui M, Maeba H, Nakamura S, Kurihara H and Iwasaka T (2003) Cardioprotective effect of intravenous nicorandil in patients with primary percutaneous transluminal coronary angioplasty: assessment by serial 99mTc-tetrofomin single photon emission computed tomography. Annual Meeting of Society of Nuclear Medicine, New Orleans
9. Yasuzawa-Amano S, Toyoda N, Iwasaka T and Nisikawa M (2003) Presence and the regulatory mechanism of type 2 deiodinase in rat aorta Annual Meeting of the American Thyroid Association (75th) Florida, USA Sep. 2003. American Thyroid Association (75th) Florida, USA Sep. 2003, Florida
10. Kishimoto N, Mori Y, Tokoro T, Kijima Y and Iwasaka T (2003) Effects of Valsartan on renal cortical perfusion in human: evaluation by contrast-enhanced harmonic ultrasonography. Renal Week 2003, Annual meeting of American Society of Nephrology, San Diego, USA
11. Amano K and Masaki H (2003) Critical role of tyrosine kinase PYK2 in eNOS activation in aorta and ischemic muscle, leading to regulation of vascular tonus and angiogenesis revealed by analysis of PYK2 knockout mice. 第76回アメリカ心臓病学会, Orlando, Florida
12. Amano K and Masaki H (2003) Critical functional role of IL-1 beta in neovascularization revealed by analysis of its knock-out mice. 第76回アメリカ心臓病学会, Orlando, Florida
13. Iba O and Masaki H (2003) Implantation of platelets induced collateral vessel formation in VEGF-dependent manner. 第76回アメリカ心臓病学会, Orlando, Florida
14. 拜殿未央, 中谷 敏, 宮坂陽子, 田中教雄, 増田喜一, 山岸正和, 北風政史, 宮武邦夫, 岩坂壽二 (2003) 房細動における拡張能障害パルスドプラ法による検討. 第14回日本心エコー図学会, 神戸
15. 拜殿未央, 木村 穰, 岩坂壽二 (2003) Validation of modality to assess Aortic compliance by tissue Doppler echocardiography. 第67回日本循環器病学会総会, 博多
16. 拜殿未央, 木村 穰, 秋田雄三, 宮坂陽子, 原克子, 高橋伯夫, 岩坂壽二 (2003) 超音波組織ドプラ法およびアクロレインによるラット心筋虚血再灌流モデルにおける抗酸化剤エダラボンの作用効果の検討. 第23回近畿循環器疾患治療研究会, 大阪
17. 拜殿未央, 木村 穰, 岩坂壽二 (2003) 局所・全身からみた動脈硬化の評価 超音波組織ドプラ法及び脈波伝播速度による検討. 第40回日本臨床生理学会, 仙台
18. 竹花一哉, 水田英二, 山崎俊三, 久野貞子 (2003) MPTP 処理したカニクイザルのパーキンソン病モデルにおける I-123-MIBG 心筋シンチグラムを用いた心交感神経の検討. 平成 14 年度神経変性疾患に関する調査研究班班会議, 東京
19. 竹花一哉, 水田英二, 山崎俊三, 金森章人, 高柳秀彦, 中村誠志, 岩坂壽二, 久野貞子 (2003) Cardiac sympathetic imaging using I-123-MIBG in the Parkinson's disease model of MPTP-treated cynomolgus monkeys. パーキンソン病シンポジウム高松 2003, 高松
20. 竹花一哉, 中村誠志, 栗原裕彦, 福井政慶, 前

- 羽宏史, 岩坂壽二 (2003) 心電図同期心筋 SPECT 拡張期像による primary PTCA 後の心機能回復に関する検討. 第 24 回心臓核医学研究会, 札幌
21. 竹花一哉 (2003) Tc-99m-sestamibi の基礎: 動物実験の結果から臨床への応用. 第 4 回心臓核医学ミッドサマーセミナー, 大阪
  22. 竹花一哉 (2003) Tc-99m-sestamibi による心筋 Viability 評価と虚血の評価. 第 16 回北海道心臓核医学フォーラム, 札幌
  23. 竹花一哉 (2003) 虚血性・非虚血性の違いによる心電図同期心筋 SPECT の特徴: 高度左心機能障害患者の検討. 第 10 回日本心臓核医学学会学術総会, 東京
  24. 樋口嘉久, 竹花一哉, 本郷政子, 上山敬直, 木村兌弘, 浅田潤子, 正木元子 (2003) Duchenne 型進行性筋ジストロフィー患者の心筋障害に関する核医学的検討. 平成 15 年度筋ジストロフィーの治療と医学的管理に関する臨床研究 (川井班) 班会議, 東京
  25. 西川光重, 水口 潤 (2003) 透析患者と性機能と妊娠をめぐる. 第 48 回日本透析医学会総会ワークショップ, 大阪
  26. 西川光重 (2003) 甲状腺疾患診療のコツ. 京都府医師会講演会, 京都
  27. 正木浩哉, 松原弘明, 西川光重, 高橋伯夫 (2003) 透析患者の虚血下肢に対する骨髄細胞移植による血管新生療法の効果の検討. 第 48 回日本透析医学会学術集会, 大阪
  28. Masaki H, Yuyama E, Matsubara H, Murohara T, Ikeda U, Shintani S, Amano K, Takahashi H, Shimada K, Iwasaka T and Imaizumi T (2003) Therapeutic Angiogenesis for Patients with Limb Ischemia by Autologous Transplantation of Bone Marrow Cells: Randomized Controlled Trial. 第 67 回日本循環器学会学術集会, 博多
  29. Okigaki M, Amano K, Imada T, Iba O, Fujiyama S, Masaki H, Matsubara H, Kin N, Takai S, Miyazaki M, Yamashita T, Kawashima S, Yokoyama M and Iwasaka T (2003) eNOS Activation and Its Vascular Functions Critically Requires the Presence of Tyrosine Kinase PYK2. 第 67 回日本循環器学会学術集会, 博多
  30. 内山葉子, 正木浩哉, 森 泰清, 早川 敬, 井庭 理, 福井政慶, 岸本典子, 今田崇裕, 西川光重 (2003) CAPD 療法中出口部感染を繰り返し, 腹膜炎を発症した 2 症例. 第 47 回日本透析医学会学術集会, 大阪
  31. 長谷川隆正, 小崎篤志, 松原弘明, 四馬田恵, 森 泰清, 木村 稔, 沖垣光彦, 豊田長興, 正木浩哉, 西川光重, 岩坂壽二 (2003) 糖尿病モデルラットにおける末梢神経障害への末梢血単核球細胞移植の有効性. 第 46 回糖尿病学会年次学術集会・第 46 回日本糖尿病学会年次学術集会, 富山
  32. 小崎篤志, 長谷川隆正, 四馬田恵, 松原弘明, 森 泰清, 木村 稔, 沖垣光彦, 豊田長興, 正木浩哉, 西川光重, 岩坂壽二, 木村達治 (2003) ヒト血中 EN-RAGE (S100A12) 蛋白質濃度の臨床病態学的意義の検討. 第 46 回日本糖尿病学会年次学術集会, 富山
  33. 沖垣光彦, 森 泰清, 天野克也, 岸本典子, 内山葉子, 能勢敦子, 正木浩哉, 菅波孝祥, 向山政志, 松原弘明, 岩坂壽二 (2003) 脾 marginal zone B 細胞の抗糸球体基底膜抗体腎炎発症抑制作用: PYK2 遺伝子欠損マウスによる検討. 第 46 回日本腎臓学会学術総会, 東京
  34. Mimura J, Yuasa F, Yuyama R, Kawamura A, Iwasaki M, Iwasaka T (2003) The effect of exercise training on baroreflex control of heart rate and sympathetic activity in patients after acute myocardial infarction. 第 67 回日本循環器学会総会, 福岡
  35. 味村 純, 湯浅文雄, 楊 培慧, 岩坂壽二 (2003) 左室機能不全例における運動耐容能と圧反射経路の検討. 日本臨床生理学会, 仙台
  36. 内山葉子, 森 泰清, 能勢敦子, 岸本典子, 来島泰秋, 永田登志子, 梅田幸久, 岩坂壽二 (2003) エイコサペンタエン酸 (EPA) の IgA 腎症に対する有用性の検討. 第 46 回日本腎臓学会学術総会, 東京
  37. 沖垣光彦, 森 泰清, 天野克也, 岸本典子, 岩坂壽二 (2003) ノックアウトマウスの解析により明らかとなった, 動脈や虚血筋における血管トーン調整や血管新生作用における eNOS の活性化に必須の役割を果たすチロシンキナーゼ PYK2. 第 26 回日本高血圧学会総会, 宮崎

38. Komatsu K, Kimura Y, Iharada Y, Yamamoto S, Kosaki A and Iwasaka T (2003) Assessment of autonomic nerve response during aerobic exercise in hypertensive patient with long acting calcium antagonist or ACE inhibitor. 日本循環器学会, 福岡
39. Kimura Y, Yamamoto S, Iharada Y, Komatsu K, Kosaki A and Iwasaka T (2003) Evaluation of Smoking Cessation on Soluble Adhesion Molecules, Platelet-Derived Microparticles Activities, Platelet Activation Markers and High Sensitivity CRP. 日本循環器学会, 福岡
40. 木村 穰 (2003) 心臓リハにおける医療機関, 健康増進施設の新しいコラボレーション. 日本心臓リハビリテーション学会, 東京
41. 居原田善司, 木村 穰, 山本哲史, 秋田雄三, 岩坂壽二 (2003) 陳旧性心筋梗塞患者における運動療法の Chemosensitivity, VE/VCO<sub>2</sub> への影響. 心臓リハビリテーション学会, 東京
42. 居原田善司, 木村 穰, 山本哲史, 岩坂壽二 (2003) 陳旧性心筋梗塞患者における運動療法の Chemosensitivity, 骨格筋への影響. 日本心臓病学会, 東京
43. 拝殿未央, 木村 穰, 山原英樹, 宮坂陽子, 岩坂壽二 (2003) 超音波組織ドブラ法によるラット心筋虚血モデルにおけるエダラボンの作用効果の検討. フリーラジカル学会, 徳島
44. 木村 穰, 岩坂壽二 (2003) 運動療法と QOL. QOL 学会, 東京
45. 木村 穰, 居原田善司, 岩坂 壽二 (2003) 運動介入効果におよぼす老化の影響. 運動時のエネルギー効率による評価. 日本臨床生理学学会, 仙台
46. 居原田善司, 木村 穰, 岩坂壽二 (2003) 化学受容体と運動耐容能の関係. 日本臨床生理学学会, 仙台
47. Iharada Y, Kimura Y, Yamamoto S and Iwasaka T (2003) Effects of exercise therapy on chemosensitivity and VE/VCO<sub>2</sub> in patients with chronic heart failure. 心不全学会, 大阪
48. 木村 穰, 小崎篤志, 岩坂壽二 (2003) 肥満治療における睡眠時無呼吸治療の有用性. 日本肥満学会, 千葉
49. 木村 穰, 山本哲史, 居原田善司, 岩坂壽二 (2003) 脈波伝播速度による運動療法効果の検討. 日本臨床スポーツ学会, 千葉
50. Kawamura A, Yuasa F, Yuyama R, Mimura J, Iwasaki M and Iwasaka T (2003) Angiotensin converting enzyme inhibitor and angiotensin II receptor blocker for baroreflex function in patients with left ventricular dysfunction: mono- or combination therapy. 第 67 回日本循環器学会総会, 福岡
51. 湯浅文雄, 湯山令輔, 味村 純, 河村晃弘, 岩崎真佳, 神島 宏, 岩坂壽二 (2003) 左室機能不全例における  $\beta$  遮断薬の心肺圧受容体機能の効果. 第 40 回日本臨床生理学学会, 仙台
52. Tsuka Y, Nagahama Y, Kamihata H, Sutani Y, Morita Y, Yamada K, Yamamoto S, Kawamura A, Iwasaki M, Iharada Y, Kyoji S, Kurimoto K, Nukui M, Isono T, Hara K, Takahashi H, Sugiura T and Iwasaka T (2003) Preinterventional Coronary Artery Remodeling Influences In-Stent Restenosis: 3D-Volumetric Intravascular Ultrasound Analysis. The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Fukuoka, Japan
53. Kurimoto K, Kamihata H, Ueda S, Sutani Y, Tsuka Y, Kawamura A, Iwasaki M, Kyoji M, Iharada Z, Isono T and Iwasaka T (2003) Preventive Effect of Statin Treatment on In-Stent Restenosis after Primary Stenting for the Patient with Acute Myocardial Infarction. The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Fukuoka, Japan
54. Kamihata H, Matsubara H, Nishiue T, Fujiyama S, Amano K and Iwasaka T (2003) Catheter-Based Implantation of Bone Marrow or Peripheral Blood Mononuclear Cells into Hibernating Myocardium Using Left Ventricular Electromechanical Mapping. The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Fukuoka
55. Iharada Y, Kamihata H, Sutani Y, Nagahama Y, Tsuka Y, Yamamoto S, Kawamura A, Iwasaki M, Kyoji S, Kurimoto K, Isono T, Nukui M and Iwasaka T (2003) Suboptimal Glycemic Control Associates with Diffuse In-stent Restenosis after

- Coronary Stenting. The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Fukuoka
56. Nagahama Y, Tsuji H, Kamihata H, Sutani Y, Yamada K, Tsuka Y, Yamamoto T, Kawamura A, Iwasaki M, Kurimoto K, Kyoi S, Iharada Z, Nukui M, Isono T, Iwasaka T and Sugiura T (2003) Differences in Indication of Coronary Angiography within Class I of ACC/AHA Guideline between Japan and USA. The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Fukuoka
57. 河村晃弘, 神島 宏, 酢谷保夫, 塚 芳明, 山本哲史, 岩崎真佳, 居原田善司, 京井志織, 栗本晃二, 貫井未奈子, 岩坂壽二 (2003) 冠動脈造影時の N-Acetylcystein による腎障害の予防効果. 第 12 回日本心血管インターベンション学会学術集会, 東京
58. 酢谷保夫, 神島 宏, 塚 芳明, 河村晃弘, 京井志織, 岩崎真佳, 居原田善司, 栗本晃二, 山本哲史, 岩坂壽二 (2003) 前下行枝近位部びまん性小血管病変に対する至適ステントサイズに関する検討. 第 12 回日本心血管インターベンション学会学術集会, 東京
59. 栗本晃二, 神島 宏, 上田修司, 酢谷保夫, 塚 芳明, 河村晃弘, 岩崎真佳, 京井志織, 居原田善司, 五十野剛, 岩坂壽二 (2003) スタチン系薬剤 (HMG-CoA reductase 阻害薬) による急性心筋梗塞患者に対する primary STENT 後の STENT 内再狭窄の予防について. 第 12 回日本心血管インターベンション学会学術集会, 東京
60. 神島 宏, 酢谷保夫, 元廣将之, 河村晃弘, 山本哲史, 居原田善司, 京井志織, 岩崎真佳, 栗本晃二, 岩坂壽二, 松原弘明 (2003) Injection Catheter による自家骨髄単核球細胞移植 (BMI). 第 3 回日本心血管カテーテル治療学会学術集会, 仙台
61. 居原田善司, 神島 宏, 酢谷保夫, 元廣将之, 河村晃弘, 京井志織, 岩崎真佳, 栗本晃二, 岩坂壽二 (2003) 冠動脈ステント留置時の血糖コントロールがステント再狭窄の病変形態におよぼす影響. 第 3 回日本心血管カテーテル治療学会学術集会, 仙台
62. 森田 寛, 山本克浩, 朴 幸男, 佐久間孝雄, 峯園浩二, 酢谷保夫, 神島 宏, 岩坂壽二 (2003) 右冠動脈起始異常に対し PCI を施行した 4 症例についての検討. 第 3 回日本心血管カテーテル治療学会学術集会, 仙台
63. 居原田善司, 神島 宏, 酢谷保夫, 元廣将之, 河村晃弘, 岩崎真佳, 京井志織, 栗本晃二, 岩坂壽二 (2003) 冠動脈ステント留置時の血糖コントロールがステント再狭窄の病変形態におよぼす影響. 第 51 回日本心臓病学会学術集会, 東京
64. 神島 宏, 西上尚志, 酢谷保夫, 正木浩哉, 中村誠志, 藤山総一郎, 栗原裕彦, 栗本晃二, 岩坂壽二, 松原弘明 (2003) 重症狭心症に対する injection catheter を用いた自家骨髄単核球細胞移植 (BMI) による血管新生療法. 第 51 回日本心臓病学会学術集会, 東京
65. 酢谷保夫, 神島 宏, 岩坂壽二 (2003) PTCA による冠動脈壁傷害の程度と遠隔期の内皮機能に関する検討. 第 41 回日本臨床生理学会総会, 仙台
66. 居原田善司, 神島 宏, 酢谷保夫, 元廣将之, 山本哲史, 河村晃弘, 京井志織, 岩崎真佳, 栗本晃二, 岩坂壽二 (2003) 冠動脈ステント留置時の HbA1c による血糖コントロールがステント再狭窄におよぼす影響. 第 41 回日本臨床生理学会総会, 仙台
67. 神島 宏, 木村 穰, 酢谷保夫, 竹花一哉, 西上尚志, 栗本晃二, 正木浩哉, 岩坂壽二, 今村洋二, 松原弘明, 土師一夫, 村松俊哉 (2003) 重症冠動脈疾患に対する自家骨髄単核球細胞移植 (BMI) の臨床成績. 第 17 回冠疾患学会, 東京
68. 元廣将之, 神島 宏, 酢谷保夫, 山本哲史, 河村晃弘, 岩坂壽二 (2003) スタチンによるステント再狭窄予防効果 positive remodeling を伴う病変の検討. 第 17 回冠疾患学会, 東京
69. 前羽宏史, 中村誠志, 竹花一哉, 栗原裕彦, 福井政慶, 岩坂壽二, 竹花一哉 (2003) 高度左心機能障害患者の虚血性・非虚血性の違いによる心電図同期安静心筋 SPECT 上の特徴. 第 41 回六甲カルディアックセミナー, 神戸
70. 福井政慶, 中村誠志, 竹花一哉, 味村 純, 湯山令輔, 栗原裕彦, 前羽宏史, 杉浦哲朗, 岩

- 坂壽二 (2003) Preconditioning effect of intravenous nicorandil in patients with primary percutaneous transluminal coronary angioplasty: assessment by technetium-99m tetrofosmin SPECT. 第 67 回日本循環器学会総会, 福岡
71. 前羽宏史, 中村誠志, 竹花一哉, 栗原裕彦, 福井政慶, 岩坂壽二 (2003) 高度左心機能障害患者の虚血性・非虚血性の違いによる心電図同期安静心筋 SPECT 上の特徴. 第 24 回心臓核医学研究会
72. 前羽宏史, 中村誠志, 竹花一哉, 栗原裕彦, 福井政慶, 岩坂壽二 (2003) 高度左心機能障害患者の虚血性・非虚血性の違いによる心電図同期安静心筋 SPECT 上の特徴. 第 43 回日本核医学会学術総会, 東京
73. Imada T, Masaki H, Amano K, Fukui M, Kishimoto N, Iba O, Uchiyama Y, Hayakawa T, Mori Y, Matsubara H, Iwasaka T and Nishikawa M (2003) Efficacy and Safety of therapeutic Angiogenesis Using Autologous Bone Marrow Cell Transplantation For Clinical Limb Ischemia in hemodialysis patient. 第 48 回日本透析医学会学術集会, 大阪
74. 今田崇裕, 森 泰清, 岸本典子, 能勢敦子, 内山葉子, 所 敏子, 来島泰秋, 正木浩哉, 永田登志子, 梅田幸久, 岩坂壽二 (2003) サイトメガロウイルス感染症により増悪した IgA 腎症の一例. 第 33 回日本腎臓学会西部学術集会, 名古屋
75. Iwasaki M, Yuasa F, Yuyama R, Mimura J, Kawamura A and Iwasaka T (2003) Correlation of Heart Rate Turbulence with Sympathetic Balance. 第 67 回日本循環器学会総会, 福岡
76. 五十野剛, 神島 宏, 貫井未奈子, 栗本晃二, 居原田善司, 京井志織, 岩崎真佳, 河村晃弘, 山本哲史, 元廣将之, 酢谷保夫, 岩坂壽二 (2003) Small vessel に対する CBA は POBA と比較し再狭窄低減効果があるか? 第 3 回日本心血管カテーテル治療学会学術集会, 仙台
77. 五十野剛, 神島 宏, 貫井未奈子, 栗本晃二, 居原田善司, 京井志織, 岩崎真佳, 河村晃弘, 山本哲史, 元廣将之, 酢谷保夫, 岩坂壽二 (2003) Small vessel に対する CBA は POBA と比較し再狭窄低減効果があるか? 第 51 回日本心臓病学会学術集会, 東京
78. 京井志織, 神島 宏, 酢谷保夫, 永濱 要, 元廣将之, 塚 芳明, 山本哲史, 河村晃弘, 岩崎真佳, 居原田善司, 栗本晃二, 塚未奈子, 五十野剛, 岩坂壽二 (2003) 前壁中隔心筋梗塞に対して Stet 留置後 7 年後に Late-Thrombosis を生じた抗カルジオリピン抗体症候群の 1 例. 第 3 回日本心血管カテーテル治療学会学術集会, 仙台
79. Kurihara H, Nakamura S, Takehana K, Mimura J, Yuyama R, Maeba H, Fukui M, Sugiura T and Iwasaka T (2003) Quantitative electrocardiographic gated SPECT accurately estimates functional recovery after primary percutaneous transluminal angioplasty. 第 67 回日本循環器学会総会, 福岡
80. Imuro Y, Takehana K, Nakamura S, Maeba H, Kurihara H, Yuasa F, Kamihata H, Sugiura T and Iwasaka T (2003) Can corrected thrombolysis in myocardial infarction frame count evaluate the microcirculatory effect of nicorandil in patients with acute myocardial infarction? 第 67 回日本循環器学会, 福岡
81. 上山敬直, 竹花一哉, 樋口嘉久, 中村誠志, 前羽宏史, 栗原裕彦, 福井政慶, 正木元子, 岩坂壽二 (2003) Duchenne 型進行性筋ジストロフィー (DMD) 患者の心筋障害に関する核医学的考察. 第 43 回日本核医学会学術総会, 東京
82. Amano K, Matsubara H, Imada T, Iba O, Fujiyama S, Masaki H, Okigaki M, Mori Y, Nishiue T, Kamihata H, Nozawa Y, Togawa Y, Nakata M, Kawashima S, Yokoyama M, Iwasaka T (2003) Enhancement of Ischemia-Induced Angiogenesis by eNOS Overexpression Enhancement of Ischemia-Induced Angiogenesis by eNOS Overexpressio. 第 67 回日本循環器学会学術集会, 博多
83. Amano K, Okigaki M, Imada T, Iba O, Fujiyama S, Masaki H, Togawa Y, Nakata M, Matsubara H and Iwasaka T (2003) Critical Functional Role of IL-1- in Expression and Function of VEGF Revealed by Analysis of IL-1-/- Mice. 第 67 回日本循環器学会学術集会, 博多
84. 天野克也, 沖垣光彦, 森 泰清, 岸本典子, 岩

- 坂壽二 (2003) 虚血部位における血管新生に必須の役割を果たす IL-1 $\beta$ -IL-1 $\beta$  ノックアウトマウスを用いた検討. 第26回日本高血圧学会総会, 宮崎
85. 天野克也, 松原弘明, 井庭 理, 藤山総一郎, 正木浩哉, 沖垣光彦, 野澤良久, 川嶋成乃亮, 横山光宏, 岩坂壽二 (2003) Nitric Oxide と血管新生 eNOS 血管内皮過剰発現マウスを用いた虚血部血管新生におけるAkt-NOシグナルの役割. 第25回日本高血圧学会総会, 宮崎
86. 井庭友見子, 松原弘明, 小崎篤志, 正木浩哉, 木村 穰, 豊田長興, 西川光重, 岩坂壽二, 山中滋木, 河合修三, 堀尾 武 (2003) 単核球細胞移植後の皮膚移植が著効した難治性糖尿病性足潰瘍の1例. 第46回糖尿病学会年次学術集会, 富山
87. 西澤信也, 森 泰清, 岸本典子, 園村和宏, 内山葉子, 所 敏子, 正木浩哉, 永田登志子, 梅田幸久, 岩坂壽二 (2003) 統合失調症の経過中に膜性腎症を呈した混合性結合織病の1例. 第33回日本腎臓学会西部学術集会, 東京
88. 園村和宏, 森 泰清, 岸本典子, 内山葉子, 能勢敦子, 来島泰秋, 所 敏子, 正木浩哉, 永田登志子, 梅田幸久, 岩坂壽二 (2003) 原発性胆汁性肝硬変及びシェーグレン症候群に合併した膜性腎症によるネフローゼ症候群の一例. 3 原発性胆汁性肝硬変及びシェーグレン症候群に合併した膜性腎症によるネフローゼ症候群の一例. 第33回日本腎臓学会西部学術集会, 東京
89. 天野克也, 沖垣光彦, 森 泰清, 岸本典子, 内山葉子, 正木浩哉, 菅波孝祥, 向山政志, 松原弘明, 岩坂壽二 (2003) 遺伝子欠損マウスによるチロシンキナーゼ PYK2 の B 細胞増殖制御と糸球体腎炎発症抑制作用の検討. 第46回日本腎臓学会学術総会, 東京
90. 井庭 理, 正木浩哉, 今田崇裕, 天野克也, 岸本典子, 福井政慶, 能勢敦子, 内山葉子, 早川 敬, 森 泰清, 岩坂壽二, 西川光重 (2003) 透析患者 ASO における末梢血単核球細胞移植による血管新生療法の試み. 第51回大阪透析研究会, 大阪
91. 西澤信也, 正木浩哉, 森 泰清, 里井壮平, 福井政慶, 今田崇裕, 岸本典子, 内山葉子, 井庭 理, 能勢敦子, 柴崎泰延, 早川 敬, 上山泰男, 岩坂壽二, 西川光重 (2003) 透析導入期に腹腔内膿瘍を合併した1例. 第51回大阪透析研究会, 大阪
92. 小宮山豊, 董 顕輝, 西村典子, 樹田 緑, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2003) 質量分析によりヒト血液に見出した内因性ジギタリス, marinobufagin 及び telocinobufagin の解析. 第75回日本内分泌学会学術集会・第75回日本内分泌学会学術集会, 横浜
93. 河合修三, 堀尾 武, 立石恵里子, 正木浩哉, 松原弘明 (2003) 骨髄幹細胞移植が奏効したパージャー病・慢性閉塞性動脈硬化症の2例. 第102回日本皮膚科学会総会, 東京
94. 宮内 妙, 木村 穰, 山本哲史, 居原田善司, 上田加奈子, 田嶋佐和子, 小崎 篤, 西川光重, 岩坂壽二 (2003) 安静時エネルギー代謝に及ぼす下肢筋力および身体組成, 代謝因子の影響. 日本糖尿病学会, 富山
95. 豊嶋理恵, 木村 穰, 正木茂美, 岩坂壽二 (2003) 再狭窄例における急性期患者指導および退院後の心リハ継続率の検討. 日本心臓リハビリテーション学会, 東京
96. 山本 恵, 木村 穰 (2003) 医療機関運動療法施設での心臓リハビリテーション施行時の問題点. 日本心臓リハビリテーション学会, 東京
97. 久保田真由美, 大橋紳一郎, 一番ヶ瀬明, 森田真由, 木村 穰 (2003) 糖尿病運動療法室における虚血性心疾患の特徴. 日本心臓リハビリテーション学会, 東京
98. 田嶋佐和子, 木村 穰, 小崎篤志, 岩坂壽二 (2003) 肥満患者の食行動による行動療法治療. 日本栄養改善学会, 岡山
99. 正木茂美, 木村 穰, 岩坂壽二 (2003) AMI クリニカルパス適応例における再狭窄・入院期間の検討. 日本心臓病学会, 東京
100. 伊藤健一, 木村 穰, 山本哲史, 岩坂壽二 (2003) 変形性膝関節症予備軍における運動指導前膝関節機能スクリーニング項目の検討. 日本体力学会, 静岡
101. 久保田真由美, 一番ヶ瀬明, 大橋紳一郎, 森田真由, 木村 穰 (2003) 運動療法前後におけるDEXA法による局所体脂肪評価とエネルギー

- ギー代謝．日本体力学会，静岡
- 102.滝川瑠美，木村 穰，山本 恵，居原田善司  
(2003) 悪性腫瘍切除後の運動療法施行例の検討．日本体力学会，静岡
- 103.上田加奈子，木村 穰，山本哲史，岩坂壽二  
(2003) 肥満運動療法における代謝変化量におよぼす因子の検討．日本体力学会，静岡
- 104.宮内 妙，木村 穰，上田加奈子，山本哲史，岩坂壽二(2003) ストレングスエルゴ回転速度の時間微分値を用いた下肢筋加速度の新しい評価法の試み．日本体力学会，静岡
- 105.宮内 妙，木村 穰，小崎篤志，岩坂壽二(2003) レプチンのエネルギー代謝に及ぼす影響 安静時脂肪・糖燃焼での評価 ．日本肥満学会，千葉
- 106.伊藤健一，木村 穰，岩坂 壽二(2003) 膝関節機能に及ぼす肥満の影響．日本肥満学会，千葉
- 107.馬場天信，木村 穰，佐藤 豪(2003) 減量を目的とした治療的介入に有効な心理的サポートのあり方．日本臨床スポーツ学会，千葉
- 108.馬場天信，佐藤 豪，木村 穰．中井吉英，岩坂壽二(2004) 肥満外来におけるチーム医療の効果，および減量効果からみた心理特性の差異．日本心療内科学会，大分
- 109.伊藤健一，木村 穰，戸田佳孝，森本忠信，岩坂壽二，西山利正(2004) 変形性膝関節症早期発見のスクリーニング項目の検討．日本総合健診学会，東京
- 110.Ueda S, Kamihata H, Sutani Y, Tsuka Y and Iwasaka T (2003) Statin Therapy Can Prevent In-Stent Restenosis (ISR) after Coronary Stenting in the Patient with Acute Coronary Syndrome (ACS). The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Fukuoka
- 111.Nukui M, Nagahama Y, Kamihata H, Sutani Y, Morita Y, Yamada K, Tsuka Y, Yamamoto S, Kawamura A, Iwasaki M, Kyoji S, Iharada Y, Kurimoto K, Isono T, Hara K, Takahashi H, Sugiura T and Iwasaka T (2003) Inflammation May Lead to the Development of Coronary Spasm. The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Fukuoka
- 112.上田修司，神島 宏，酢谷保夫，岩坂壽二(2003) スタチンによる急性冠症候群(ACS)に対するステント再狭窄予防の有効性．第51回日本心臓病学会学術集会，東京

#### 著 書

1. 竹花一哉(2002) 医学書院 医学大辞典(伊藤正男，井村裕夫，高久史磨編)469頁，医学書院，東京
2. 竹花一哉，岩坂壽二(2003) 老年者における心サルコイドーシスについて．老年病 Q & A (小澤利男，永野 允，中村治雄，西山茂夫，藤田拓男編)860-1頁，六法出版，東京
3. 西川光重(2003) EMO 症候群 その他，17項目．医学書院 医学大辞典総編集(伊藤正男，井村裕夫，高久史磨編)88頁他，17箇所，医学書院，東京
4. 西川光重(2003) 甲状腺 発生・形態・触診．内科学第8版 総編集(杉本恒明，小俣政男編)1537-1545頁，朝倉書店，東京

## 内科学第三講座

### 研究業績

#### 原 著

1. Sugano Y, Matsuzaki K, Tahashi Y, Furukawa Y, Mori S, Yamagata H, Yoshida K, Matsushita M, Nishizawa M, Fujisawa J and Inoue Y (2003) Distortion of autocrine transforming growth factor  $\beta$  signal accelerates malignant potential by enhancing cell growth as well as PAI-1 and VEGF production in human hepatocellular carcinoma cells. *Oncogene* 22: 2309-2321
2. Yamashiki N, Kato T, Bejarano PA, Berho M, Montalvo B, Shebert RT, Goodman ZD, Seki T, Schiff ER and Tzakis AG (2003) Histopathological changes after microwave coagulation therapy for patients with hepatocellular carcinoma: review of 15 explanted

- livers. *Am J Gastroenterol* 98: 2052–2059
3. Furukawa F, Matsuzaki K, Mori S, Tahashi Y, Yoshida K, Sugano Y, Yamagata H, Matsushita M, Seki T, Inagaki Y, Nishizawa Y, Fujisawa J, Inoue K (2003) p38 MAPK mediates fibrogenic signal through smad3 phosphorylation in rat myofibroblasts. *Hepatology* 38: 879–889
  4. 宮崎浩彰, 久保田佳嗣, 塚本麗子, 佐藤正博, 渡辺敏彦, 関 寿人 (2003) 当科における肝癌患者への告知の現状. *医療マネジメント会誌* 3: 543–546
  5. 関 寿人, 玉井 徹, 池田耕造, 北野貴弘, 梅原秀人 (2003) 経皮的マイクロ波凝固治療. *肝胆膵* 46: 449–452
  6. 関 寿人 (2003) 肝細胞癌に対する局所治療はどの時点で治療を終了するべきか? *消化器診療二頁の秘訣* 196–197
  7. 仲野俊成 (2003) 「病診薬情報共有基盤構築研究開発・実証実験」処方・調剤における薬剤名称とその周辺に関する研究. 平成 14 年度病診薬情報共有基盤構築研究開発・実証実験実証実験報告書
  8. 廣原淳子, 仲野俊成 (2003) 原発性胆汁性肝硬変全国調査 (第 23 報). 厚生労働科学研究費補助金 (特定疾患対策研究事業) 難治性の肝疾患に関する研究平成 14 年度総括・分担研究報告書 55–59
  9. 仲野俊成, 廣原淳子, 有田清三郎 (2003) 原発性胆汁性肝硬変の予後 (2) 日本における長期予後の推移と病期進展の要因. *臨床内科* 18: 601–608
  10. 久保田佳嗣, 山本 伸, 高岡 亮 (2003) 良性胆道狭窄および総胆管結石に対する胆道 Stenting. *消内視鏡* 15: 1221–1228
  11. 玉井 徹, 関 寿人, 岡崎和一 (2003) 炎症性偽腫瘍の 1 症例. *肝胆膵* 47: 867–872
  4. 岡崎和一 (2003) 上部消化管疾患. *内科* 92: 1041–1044
  5. 岡崎和一 (2003) 免疫異常からみたクローン病の病因・病態 クローン病における腸管粘膜リンパ球の役割. *G.I. Research* 11: 19–25

#### 学会発表

1. Okazaki K, Uchida K, Asada M, Yoshizawa H, Oohashi S and Chiba T (2003) 104th Analysis of clinical phenotypes of autoimmune pancreatitis with special reference to immunological markers. Annual meeting of the American gastroenterological association, Orlando, USA
2. 山本 伸 (2003) 早期胃癌に対する内視鏡的胃粘膜切除術 (EMR) の適応と治療成績. くらわんか医療研究会, 大阪
3. 玉井 徹, 関 寿人, 池田耕造, 梅原秀人, 北野貴弘, 井口亮輔, 川上 剛, 是枝ちづ (2003) 当科における肝癌に対するラジオ波熱凝固療法後の合併症について. 第 78 回日本消化器病学会近畿支部例会, 神戸
4. 山本 伸, 久保田佳嗣, 島谷昌明, 柴谷伸行, 今井義仁, 村田美樹, 関本 剛 (2003) 肝 (S1) の背側液体貯留が発見の契機になった急性膵炎の一例. 第 78 回日本消化器病学会近畿支部例会, 神戸
5. 山本 伸, 久保田佳嗣, 島谷昌明, 柴谷伸行, 今井義仁, 梅原秀人, 中島 淳, 星野勝一, 川上 剛, 水野孝子 (2003) 膵管十二指腸ろうを合併した膵管癒合不全の一例. 第 70 回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
6. 山本 伸, 福島慎太郎, 仲野俊成, 竹内幸俊, 田橋賢也, 入江貴雄, 古川富紀子, 森 茂生, 河島祥彦, 梅原秀人, 中島 淳, 星野勝一, 川上 剛, 久保田佳嗣, 水野孝子, 中根恭司 (2003) 分化型腺癌 11 病変を認めた多発胃癌の一例. 第 70 回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
7. 山本 伸 (2003) 早期胃癌の内視鏡診断と治療. 布施医師会学術講演会, 大阪
8. 是枝ちづ, 村田美樹, 佐藤正博, 玉井 徹, 水野孝子, 関 寿人, 河 相吉 (2003) 慢性肝疾患の肝予備能検査における分枝鎖アミノ酸 / チロシン比 (BTR) の位置付け アシアロ

#### 総 説

1. 岡崎和一 (2003) 自己免疫性膵炎. 最新医 58: 129–135
2. 岡崎和一 (2003) 自己免疫性膵炎の病態とその基礎. *内科* 92: 734–736
3. 岡崎和一 (2003) 自己免疫性膵炎. *現代医療* 35: 137–143



- シンチ, ICG, ヒアルロン酸との解離例の検討  
第11回肝病態生理研究会, 福岡
9. 玉井 徹, 関 寿人, 植村芳子(2003)肝細胞癌との鑑別を要した肝原発内分泌細胞癌の1切除例. 第39回日本肝臓学会, 福岡
  10. 久保田佳嗣(2003)消化器内視鏡の診断から治療 原点, そして飛翔 - 胆膵病変の内視鏡診断から治療 ERCP を中心としたアプローチ . 第65回日本消化器内視鏡学会サテライトシンポジウム, 福岡
  11. 岡崎和一(2003)自己免疫性膵炎の概念と病態. 第98回日本消化器病学会東海支部例会 第9回教育講演会, 三重
  12. 是枝ちづ(2003)経口特殊アミノ酸製剤を用いた Late Evening Snack (LES) の有用性 アシアロシンチ, 分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比 (BTR) を中心に . 第11回関西肝疾患研究会, 大阪
  13. 岡崎和一(2003)免疫細胞を標的とした Drug delivery system による炎症性腸疾患治療 第40回臨床分子医学会学術総会, 東京
  14. 久保田佳嗣(2003)胆膵疾患の内視鏡治療. 日本消化器病学会近畿支部第12回教育講演会, 大阪
  15. 是枝ちづ, 佐藤正博, 玉井 徹, 関 寿人, 水野孝子, 岡崎和一, 上山泰男, 河 相吉(2003)肝細胞癌局所療法補助療法としての AHCC 投与症例の肝予備能に及ぼす影響についての検討. 第11回 AHCC 研究会第11回国際研究報告会, 札幌
  16. 久保田佳嗣(2003)経内視鏡ステントの有用性&ステントのクツ. 第3回九州胆・膵 IVE&R 研究会, 福岡
  17. 久保田佳嗣(2003) Endoscopic Management of Biliary Stricture. EFJ2003, 淡路
  18. 松崎恒一, 森 茂生, 吉田勝紀, 山縣英生, 松井裕史, 藤澤順一, 岡崎和一(2003) Smad2/3 リンカー部および C 末部特異的抗リン酸化抗体を用いた TGF- $\beta$  シグナル伝達機構の解析. 第62回日本癌学会総会, 名古屋
  19. 森 茂生, 松崎恒一, 吉田勝紀, 山縣英生, 松井裕史, 藤澤順一, 岡崎和一(2003) HGF による JNK を介した Smad2/3 リンカー部のリン酸化は TGF- $\beta$  シグナルと相乗的に働く. 第62回日本癌学会総会, 名古屋
  20. 山本 伸, 竹内幸俊, 福島慎太郎, 入江貴雄, 田橋賢也, 古川富紀子, 森 茂生, 梅原秀人, 井口亮輔, 中山新士, 仲野俊成, 河島祥彦, 久保田佳嗣, 水野孝子, 岡崎和一, 中根恭司(2003)胃粘液癌の一例. 第71回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 京都
  21. 岡崎和一, 久保田佳嗣, 高御堂祥一郎, 浅田全範, 内田一茂, 千葉 勉(2003)自験自己免疫性膵炎の臨床的検討. 第31回日本臨床免疫学会, 東京
  22. 廣原淳子, 大西三朗, 戸田剛太郎(2003)原発性胆汁性肝硬変(PBC)全国調査における自己免疫性肝疾患非定型例の検討. 第45回日本消化器病学会大会, 大阪
  23. 山本 伸, 田橋賢也, 梅原秀人, 村田美樹, 仲野俊成, 河島祥彦, 水野孝子, 久保田佳嗣, 岡崎 和一(2003)大口径ソフトキャップを用いた内視鏡的胃粘膜切除術(EMRC)の一括切除についての検討. 第66回日本消化器内視鏡学会総会, 大阪
  24. 岡崎和一(2003)自己免疫性膵炎の概念と病態. 第15回山陰消化器談話会, 米子
  25. 久保田佳嗣(2003)切除不能悪性胆道閉塞に対する治療戦略. 第2回甲信越胆膵内視鏡フォーラム, 甲府
  26. 松崎恒一, 山縣英生, 古川富紀子, 森 茂生, 吉田勝紀, 関本 剛, 川股聖二, 岡崎和一(2003)ヒト大腸の癌化過程における TGF- $\beta$  シグナル伝達 第11回浜名湖シンポジウム 浜松
  27. 吉田勝紀, 松崎恒一, 田橋賢也, 古川富紀子, 森 茂生, 山縣英生, 関 寿人, 岡崎和一(2003) Smad を介する肝線維化シグナル伝達機構:(急性・慢性肝障害過程の肝組織を用いた検討). 第41回京都肝疾患懇話会, 京都
  28. 今井義仁, 久保田佳嗣, 山本 伸, 辻 和之, 島谷昌明, 柴谷伸行, 高御堂祥一郎, 高岡亮, 岡崎和一(2003)癌浸潤能に及ぼす好中球の影響: invasion assay を用いた検討. 第45回日本消化器病学会大会, 大阪
  29. 関本 剛, 田橋賢也, 山本 伸, 竹内幸俊, 福島慎太郎, 入江貴雄, 森 茂生, 梅原秀人, 松崎恒一, 仲野俊成, 河島祥彦, 久保田佳嗣(2003)腹水貯留を伴った難治性胃潰瘍の一

- 例．第78回日本消化器病学会近畿支部例会，神戸
30. 村田美樹，是枝ちづ，玉井 徹，梅原秀人，池田耕造，佐藤正博，関 寿人，小島博之，河相吉（2003）造影エコーを施行した肝細胞癌リンパ節転移の1症例．第7回関西超音波造影剤研究会，大阪
  31. 村田美樹，久保田佳嗣，山本 伸，島谷昌明，柴谷伸行，今井義仁，楠田武生，井口亮輔，関本 剛，水野孝子（2003）チューブステントの胆管内留置2年後に除去し得た巨大総胆管結石の一例．第70回日本消化器内視鏡学会近畿地方会，大阪
  32. 井口亮輔，玉井 徹，池田耕造，梅原秀人，福島慎太郎，是枝ちづ，関 寿人，岡崎和一，海堀昌樹，上山泰男，植村芳子（2003）肝細胞癌との鑑別を要した肝原発内分泌細胞癌の1切除例．第38回近畿肝癌談話会，大阪
  33. 山縣英生，松崎恒一，森 茂生，吉田勝紀，藤澤順一，岡崎和一（2003）MAPK 依存性 Smad3Linker 部のリン酸化を介する signal がヒト大腸の癌化過程において亢進する．第62回日本癌学会総会，名古屋
  34. 佐藤行永，宮崎浩彰，福島慎太郎，山本 伸，廣原淳子，久保田佳嗣，岡崎和一（2003）プロテイン C 欠損症による上腸管膜静脈血栓症の一例．第171回日本内科学会近畿地方会，大阪
  35. 村田美樹，久保田佳嗣，山本 伸，島谷昌明，柴谷伸行，今井義仁，関本 剛，栗島亜希子，楠田武生，渡辺敏彦，水野孝子，岡崎和一（2003）IDUS で診断された胆管壁内嚢胞の一例．第71回日本消化器内視鏡学会近畿地方会，京都
  36. 川村梨那子，久保田佳嗣，山本 伸，島谷昌明，柴谷伸行，今井義仁，中島 淳，星野勝一，山口隆志，佐藤行永，水野孝子，岡崎和一（2003）MRI が治療方針の決定に有用であった脾性腹水の一例．第71回日本消化器内視鏡学会近畿地方会，京都
  37. 井口亮輔，玉井 徹，池田耕造，梅原秀人，福島慎太郎，是枝ちづ，関 寿人，岡崎和一（2003）PRFA 後に急速な肝外発育型の再発をきたし治療として TAE が奏効した肝細胞癌の1例．第35回日本肝臓学会西部会，岡山
  38. 栗島亜希子，池田耕造，玉井 徹，梅原秀人，是枝ちづ，山本 伸，福島慎太郎，関 寿人，岡崎和一，坂井田紀子，植村芳子（2003）十二指腸癌を原発巣とする石灰化を伴った転移性肝癌の一例．第35回日本肝臓学会西部会，岡山
- 著 書
1. 関 寿人（2002）マイクロ波とラジオ波による肝癌の治療．組織培養工学（ニュー・サイエンス社）28: 21-23 頁，東京
  2. 関 寿人（2002）経皮的マイクロ波凝固療法（PMCT）．肝細胞癌治療マニュアル（山中若樹，田中正俊，坂元亨宇編）85-89 頁，南江堂
  3. 関 寿人（2002）コラム - エタノール注入はなぜ少なくなったのか - ．肝細胞癌治療マニュアル（山中若樹，田中正俊，坂元亨宇編）90 頁，南江堂
  4. 関 寿人（2002）PMCT．消化器ナビゲーター（滝川 一編）304-305 頁，メディカルレビュー社
  5. 久保田佳嗣，高岡 亮，山本 伸（2002）経皮経肝的アプローチによる胆道ドレナージ術．胆膵内視鏡治療の実際 より安全な処置法を目指して（田尻久雄，藤田直孝編）81-88 頁，日本メディカルセンター，東京
  6. 久保田佳嗣（2002）胆道結石に対する tube stent．エンドスコピストとラパロスコピストのための最新消化器内視鏡治療（北島政樹編集主幹，熊井浩一郎，幕内博康，北野正剛，峯徹哉，渡邊昌彦編）202-205 頁，先端医療技術研究所
  7. 廣原淳子（2002）原発性胆汁性肝硬変．わかりやすい内科学第2版（井村裕夫，大井元晴，笹田昌孝，中井義勝，福田善弘，福山秀直，福田正俊，武曾恵理）528-531 頁，文光堂，東京
  8. 廣原淳子，久保田佳嗣（2002）原発性硬化性胆管炎．わかりやすい内科学第2版（井村裕夫，大井元晴，笹田昌孝，中井義勝，福田善弘，福山秀直，福田正俊，武曾恵理）531-533 頁，文光堂，東京
  9. 関 寿人（2002）肝癌に対する経皮的ラジオ波焼灼療法（PRFA）を安全で確実に施行する

- コツ・肝疾患診療のコツと落とし穴(井廻道夫) 101頁, 中山書店, 東京
10. 関 寿人(2002) 肝癌に対する経皮的マイクロ波凝固治療(PMCT)を安全で確実に施行するコツ・肝疾患診療のコツと落とし穴(井廻道夫編) 103頁, 中山書店, 東京
  11. 久保田佳嗣(2002)内視鏡処置具の選び方 A to Z 胆・膵 6. 採石バルーン(載石) 6.2 採石バルーン . 消化器内視鏡(東京医学社) 1397頁
  12. 久保田佳嗣(2002)内視鏡処置具の選び方 A to Z 胆・膵 7. 胆管ドレナージ(EBD) 7.2 胆管ドレナージ(EBD)-tube stent(消化器内視鏡) 1399頁, 東京医学社
  13. 久保田佳嗣, 五十嵐良典, 向井秀一(2002) ERCPガイドライン . 消化器内視鏡ガイドライン 第2版(日本消化器内視鏡学会監修) 94-107頁, 日本消化器内視鏡学会卒後教育委員会責任編集, 医学書院
  14. 松崎恒一(2002)慢性肝障害過程の筋線維芽細胞においては, 急性肝障害の星細胞とは異なる TGF- $\beta$  シグナル伝達の制御機構が認められる . Selected Articles from HEPATOLOGY(小俣政男編) 12頁, 日本ロッシュ社, 東京
  15. 岡崎和一(2003)ドラッグデリバリーシステムと粘膜ワクチンの進歩 . 遺伝子医学別冊 生物医学研究・先進医療のための最先端テクノロジー ドラッグデリバリーシステム DDS 技術の新たな展開とその活用法(田畑泰彦) 98-103頁, メディカル ドゥ
  16. 関 寿人, 玉井 徹, 池田耕造, 北野貴弘, 梅原秀人, 岡崎和一(2003)肝細胞癌の内科的治療法 マイクロ波凝固治療 . 医と薬学 39-43頁, 自然科学社, 東京
  17. 玉井 徹, 池田耕造, 梅原秀人, 関 寿人, 岡崎 和一(2003)肝細胞癌の治療方針(1)内科の立場から . コンセンサス癌治療 134-138頁, へるす出版, 東京

## 心療内科学講座

### 研究概要

心療内科の研究は, 身体疾患を対象に, 身体と心の相互関係(心身相関)についての病態解明と, 診断法および治療が中心である. このため, 従来のような「病原体 感染症」のような単純な線形モデルに基づく解析では困難なことが多く, bio-psycho-socio-ethical の各要素についての関係性を考えなければならない(システム論的解析). そこで生体のストレス反応についてカオス解析を試みることや, 行動科学的手法, 質的研究などの新しい手法を用いて研究を行なっている.

#### 消化器疾患に関する心身医学的研究

厚生省班会議の一員として, FD(functional dyspepsia)の病態解明を行なっている. FD患者の胃機能測定に胃電図や胃内 pH センサーを用い, さまざまなストレスを負荷することによって, 情動と胃運動機能との関係を研究している. 結果の分析においては, 複雑系の観点よりカオス解析を試みている. このほかにも食道機能, 腸管機能, 胆嚢機能についての同様の研究や, 消化性潰瘍, 慢性膵炎, 潰瘍性大腸炎などの心身医学的研究を行っている.

#### 慢性疼痛に関する心身医学的研究

慢性疼痛は心理社会的要因が密接に関連し, 治療においてはシステム論的アプローチが必要である. 研究についても同様で, たんなる病因論的な分析ではなく, 多元的病態把握を中心に研究を行なっている.

#### サイコオンコロジー(精神腫瘍学)に関する心身医学的研究

国立がんセンターと共同研究で, がん患者のリエゾン心身(精神)医学的解析を開始した. 参加施設

の中で心療内科は当施設のみで、他はすべて精神科であるためか、興味深い結果が出つつある。また、がん患者に心身医学的グループ療法を行ない、どのような臨床結果を得られるか試みている。

#### アレルギー疾患に関する心身医学的研究

約200名の気管支喘息患者に対し、心身医学的治療を行っている。とくに難治性の気管支喘息は一般内科的治療のみでは不十分であり、簡易心理療法、自律訓練法、交流分析などが必要となる。また、喘息患者の性格傾向について分析し、身体因子としてアトピー型/非アトピー型との関連について解析した。

#### 内分泌・代謝疾患に関する心身医学的研究

厚生省班会議の一員として、摂食障害患者の臨床研究を行なった。摂食障害患者の治療については病院のみでは困難なことが多く、米国では自助グループ、代替医療など、他の施設のかかわりも当然とされている。しかし日本での医療機関以外の施設の利用実態については不明なことが多く、その解析を行なった。また、糖尿病患者にたいするチームアプローチについても成果を発表した。

#### 代替医療に関する心身医学的研究

米国では西洋医学理論に基づかない治療以外はすべて代替医療とされ、われわれ心療内科領域の治療はほとんどが代替医療の範疇ということになる。その中の1つであるバイオフィードバック(BF)については、従来のオペラント条件付け学習モデルとなる疾患(書痙、斜頸など)から、さまざまな疾患を広く対象とするようになり、研究対象も広がった。さらに東洋医学など、他の代替医療についても臨床研究中である。

### 研究業績

#### 原著

1. 福永幹彦, 中井吉英(2003)やまいと病気. 心身医 43: 617-618
2. 西田慎二, 西本 隆, 中井吉英(2003)抑肝散の母子同服例について. 日東洋心身医研 18: 45-47
3. 所 昭宏, 小笹裕美子, 神原憲治, 西田慎二, 四宮敏章, 福永幹彦, 中井吉英(2003)生活習慣病における心身医療 絶食療法を通して. 日本心療内科学会誌 7: 273-277
4. 所 昭宏(2003)国立療養所近畿中央病院におけるサイコオンコロジーの取り組み. 日本サイコオンコロジー学会ニューズレター 35: 9-10
5. 六浦裕美子, 橋爪 誠, 四宮敏章, 大野勝治, 阿部哲也, 西田慎二, 中井吉英(2003)心身医学介入が奏効した難治性喘息の1症例. 心療内科学会誌 7: 9-12
6. 六浦裕美子, 橋爪 誠, 四宮敏章, 大野勝治, 阿部哲也, 西田慎二, 中井吉英(2003)難治性喘息患者さんの学ばせていただいたこと.

こころの臨床, a ra carte 本当に困った症例集  
心療内科編 5-7

#### 総説

1. Nakai Y and Fukunaga M (2003) M.: Peptic Ulcer. JMAJ 46(2): 61-65
2. 中井吉英(2003)複雑系よりみた消化管運動機能異常. Pharma Medica 21: 100-104
3. 中井吉英, 町田英世, 阿部哲也(2003)痛み治療 心理療法. Pharma Medica 21: 61-64.
4. 中井吉英, 町田英世, 竹林直紀, 阿部哲也(2003)腰痛に対する集学的・多面的アプローチ 心療内科の立場から. 第14回腰痛シンポジウム講演記録集 59-62
5. 中井吉英, 所 明宏(2003)緩和ケアにおけるスタッフケア. 第26回日本医学会総会誌
6. 中井吉英, 西山順滋, 四宮敏章, 小笹裕美子, 福永幹彦(2003)軽症うつ病の診断と対応 内科医の治療上の注意. 内科 92: 649-653
7. 福永幹彦, 石野振一郎(2003)心理的側面と NUD. 臨消内科 18: 467-473
8. 福永幹彦, 石野振一郎(2003)心身医学的に

みた NUD の診断と治療 . 消臨 6: 60-64

9. 福永幹彦, 石野振一郎 (2003) プライマリー・ケアのストレス緩和 機能性胃腸症 . 総合臨 52: 2221-2224
10. 福永幹彦 (2003) 複雑系の科学と心療内科 . サイエнтиスト 3: 42-52
11. 水野泰行, 中井吉英 (2003) 心理的要因の関与する咳 . JIM 13: 1034-1037
12. 町田英世, 中井吉英 (2003) 心療内科からみた疼痛発生のメカニズム . 痛みと臨 1: 73-77
13. 町田英世, 中井吉英 (2003) Functional Dyspepsia と痛み . 痛みと臨 4: 383-389
14. 竹林直紀, 中井吉英 (2003) 知っておくべき新しい診療概念 (27) 『セルフメディケーション』 . 日医師会誌 129: 82-83
15. 竹林直紀, 中井吉英 (2003) 第三の医学を目指して 代替医療の今日・明日 『代替医療と心療内科』 . 臨と薬物治療 22: 554-557
16. 竹林直紀, 相原由花, 垣内晶代, 中井吉英 (2003) 慢性疼痛の代替補完医療 『ヘルスプロモーション』 . ペインクリニック 12: 1622-1629

#### 学会発表

1. Kanbara K, Mitani Y, Fukunaga M, Ishino S, Takebayashi N and Nakai Y (2003) Paradoxical Results of Psychophysiological Stress Profile in Psychosomatic Disorders: An Attempt at the Evidence of Alexsomnia. 17th World Congress on Psychosomatic Medicine, Waikoloa, Hawaii, USA
2. Mutuura H, Kanbara K, Fukunaga M, Takebayashi N and Nakai Y (2003) Traditional Japanese Treatment for Chronic Pain Patients. Association for Applied Psychophysiology and Biofeedback, Florida, USA
3. Mutuura H, Kanbara K, Fukunaga M, Takebayashi N and Nakai Y (2003) Integration of Psychophysiology and Biofeedback into Integrative Medicine in Japan. Association for Applied Psychophysiology and Biofeedback, Florida, USA
4. 中井吉英 (2003) シンポジウム「医学・医療の進歩を世界へ向けて 15. 緩和医療」緩和ケアにおけるスタッフケア . 第 26 回日本医学会総会, 福岡
5. 中井吉英 (2003) 特別公開講演「医学における人間的ファクター」. 第 12 回日本性格心理学会, 京都
6. 中井吉英 (2003) シンポジウム; リウマチ性疾患の疼痛発症機序とその対策「心療内科よりみた慢性疼痛」. 第 47 回日本リウマチ学会総会, 東京
7. 中井吉英 (2003) 講演 (ランチョンセミナー) 「慢性疼痛のセルフケア ペインスコア表を用いた治療」. 第 14 回日本スポーツ医学会学術集会, 千葉
8. 福永幹彦, 中井吉英 (2003) 社会文化的背景と心身症病気を通したからだところの概念と言葉 . 心身医学会総会, 沖縄
9. 福永幹彦, 中井吉英 (2003) アートを科学したい . 消化器心身医学会, 埼玉
10. 福永幹彦, 西山順滋, 四宮敏章, 石野振一郎, 中井吉英 (2003) 全人的コミュニケーション教育の試み . 保険医療行動科学会, 千葉
11. 福永幹彦, 中井吉英 (2003) 家族機能と行動障害, 心身症と家族機能 . 行動療法学会, 鹿児島
12. 福永幹彦, 中井吉英 (2003) 不安と身体症状 . 不安と身体症状セミナー, 仙台
13. 山本玉雄, 西山順滋, 四宮敏章, 石野振一郎, 福永幹彦, 中井吉英, 西田慎二, 宮川真一 (2003) 絶食療法中断から自殺に至った IBS (ガスタイプ) の一症例及び絶食療法中行方不明となった慢性疼痛 (歯痛) の一症例 . 第 24 回日本絶食療法学会, 仙台市
14. 四宮敏章, 福永幹彦, 中井吉英 (2003) 森田療法的アプローチにて症状改善を得た, 難治性気管支喘息の一例 . 日本森田療法学会, 大阪
15. 四宮敏章, 西田慎二, 所 昭宏, 中井吉英, 尾崎吉郎 (2003) 原因不明の「心身症」にて心療内科に紹介されたループ膀胱炎の一症例 . 第 35 回日本心身医学会 近畿地方会, 神戸
16. 小笹裕美子 (2003) 胃食道逆流症により不眠を呈した症例 . 第 19 回不眠研究会, 東京
17. 竹林直紀, 相原由花, 垣内晶代, 有城幸男, 足立比呂美, 浅蔵りか子, 三谷有子, 四宮智章, 神原憲治, 所 昭宏, 西田慎二, 中井吉英 (2003) 大学附属病院での補完代替医療の試み

- 新しい医療システムとしての「統合医療」の提言 . 第 35 回日本心身医学会近畿地方会, 神戸
18. 竹林直紀, 垣内晶代, 相原由花, 中井吉英 (2003) <パネルディスカッション>慢性疼痛に対する補完代替医療を用いた「ホリスティックチーム医療」. 第 32 回日本慢性疼痛学会, 京都
  19. 竹林直紀 (2003) <教育セミナー> バイオフィードバック法 第 32 回日本慢性疼痛学会, 京都
  20. 竹林直紀 (2003) インド, グローバルホリスティックヘルスサミット報告. 日本代替・相補・伝統医療連合会議第 2 回版奈和支部大会, 大阪
  21. 竹林直紀, 相原由花, 垣内晶代, 有城幸男, 中井吉英 (2003) <シンポジウム関連ワークショップI>ヘルスプロモーションの心身医学 (1)「補完・代替医療を利用したヘルスプロモーションの試み 全人的医療としての心療内科の役割」. 第 44 回日本心身医学会, 沖縄
  22. 竹林直紀, 相原由花, 垣内晶代, 有城幸男, 足立比呂美, 中井吉英 (2003) <公開討論会> 代替療法家とのチーム医療に必要な条件とは 大学附属病院でのホリスティックチーム医療の試みから . 第 3 回日本統合医療学会, 神奈川
  23. 竹林直紀 (2003) <資格認定講習会> 補完・代替医療 (Complementary & Alternative Medicine: CAM) Mind-Body Medicine としての心身医学 . 第 31 回日本バイオフィードバック学会, 大阪
  24. 竹林直紀, 相原由花, 垣内晶代, 有城幸男, 足立比呂美, 中井吉英 (2003) 統合医療 (Integrative Medicine)における心療内科の役割 Mind-Body Medicine という枠組みから . 第 36 回日本心身医学会近畿地方会, 京都
  25. 竹林直紀, 相原由花, 垣内晶代, 有城幸男, 足立比呂美, 中井吉英 (2003) 医学教育における補完・代替医療 関西医科大学における統合医療プロジェクトの試み . 第 6 回日本補完代替医療学会, 仙台
  26. 竹林直紀, 相原由花, 中井吉英 (2003) 医学生に対する統合医療教育 5・6 回生へのアロマセラピー実習の試み . 第 6 回日本アロマセラピー学会, 東京
  27. 竹林直紀, 相原由花, 中井吉英 (2003) 医学生に対する統合医療教育の試み 心身医学における全人的医療教育の枠組みの中で . 第 7 回日本代替・相補・伝統医療連合会議, 神戸
  28. 神原憲治, 三谷有子, 竹林直紀, 福永幹彦, 中井吉英 (2003) 心療内科におけるバイオフィードバック 当科 BF 外来における取り組み . 第 44 回日本心身医学会, 沖縄
  29. 神原憲治, 三谷有子, 竹林直紀, 福永幹彦, 中井吉英 (2003) 身体感覚の気づきとバイオフィードバック . 第 31 回日本バイオフィードバック学会, 大阪
  30. 三谷有子, 神原憲治, 竹林直紀, 福永幹彦, 中井吉英 (2003) 筋緊張型頭痛への「ストレッチ・バイオフィードバック併用アプローチ」の有効性 自覚, 自信, そして安心へ . 第 31 回日本バイオフィードバック学会, 大阪
  31. 神原憲治, 三谷有子, 福永幹彦, 竹林直紀, 中井吉英 (2003) 心身症における Psychophysiological Assessment と CAM への応用 第 7 回日本代替・相補・伝統医療連合会議, 神戸
  32. 三谷有子, 神原憲治, 町田英世, 中井吉英 (2003) 本態性振戦への新しいアプローチの可能性 ストレッチから患者と治療者が学んだもの . 第 33 回日本心身医学会近畿地方会, 神戸
  33. 三谷有子, 佐久間春夫, 中井吉英 (2003) Walking がもたらす心理的効果について 自己爽快ペースに関する精神生理学的アプローチ . 第 44 回日本心身医学会総会, 沖縄
  34. 三谷有子 (2003) シンポジウム VI 「ヘルスプロモーションの心身医学」. 第 44 回日本心身医学会総会, 沖縄
  35. 神原憲治, 四宮敏章, 三谷有子, 福永幹彦, 石野振一郎, 中井吉英 (2003) FGD と Functional Somatic Syndrome (心身症) における Psychophysiological Stress Response 第 61 回 消化器心身医学研究会, 大阪
  36. 神原憲治, 三谷有子, 福永幹彦, 竹林直紀, 中井吉英 (2003) 心身症における Psychophysiological Assessment と CAM への応用 . 第 7 回 JACT 大会, 神戸

37. 村上典子, 村松知子 (2003) 当院における担がん患者への全人的ケアのとりくみ～院内勉強会を通じてのチーム医療をめざして. 第44回日本心身医学会総会, 沖縄
38. 石野振一郎, 福永幹彦, 中井吉英 (2003) 心因性嘔吐症のストレス負荷胃電図. 第44回心身医学会総会, 沖縄
39. 水野泰行, 垣内晶代, 西山順滋, 松本英夫, 竹林直紀, 所 昭宏, 西田慎二, 福永幹彦, 中井吉英 (2003) 認知行動療法が奏功した慢性疼痛に伴う歩行障害の一例 (第2報). 第7回日本心療内科学会, 新潟
40. 水野泰行, 橋爪 誠, 中井吉英 (2003) 認知療法によりコントロール良好となり受診回数が激減した気管支喘息の一例. 第35回日本心身医学会近畿地方会, 神戸
41. 水野泰行, 相原由花, 垣内晶代, 宮川眞一, 六浦裕美, 小笹裕美子, 竹林直紀, 福永幹彦, 中井吉英 (2003) 慢性疼痛における代替補完医療者と医師の共同治療の利点. 第32回日本慢性疼痛学会, 京都
42. 水野泰行, 所 昭宏, 西田慎二, 竹林直紀, 福永幹彦, 中井吉英 (2003) 対応困難な患者の特徴とその対応方法に関する考察 チーム医療の現場より 第44回日本心身医学会総会, 沖縄
43. 水野泰行, 森 研二, 中井吉英 (2003) 自己臭症様の症状を呈した過敏性腸症候群の一例. 第36回日本心身医学会近畿地方会, 京都
44. 所 昭宏 (2003) 心療内科におけるサイコオンコロジーに関する研究. 平成15年度第1回「がん医療における緩和医療及び精神腫瘍学の在り方とその普及に関する」研究班, 班会議, 東京
45. 所 昭宏, 小笹裕美子, 神原憲治, 西田慎二, 四宮敏章, 福永幹彦, 中井吉英 (2003) 生活習慣病における心身医療 絶食療法を通して. 第7回日本心療内科学会, 新潟
46. 所 昭宏, 四宮敏章, 関原ひとみ, 西田慎二, 福永幹彦, 中井吉英 (2003) 心療内科における全人的チーム医療教育 エスコート実習を通じて 第44回日本心身医学会 総会 沖縄
47. 所 昭宏 (2003) 心療内科におけるサイコオンコロジーに関する研究. 平成15年度第2回「がん医療における緩和医療及び精神腫瘍学の在り方とその普及に関する」研究班, 班会議, 東京
48. 所 昭宏 (2003) サイコオンコロジー癌患者のこころのケア 第2回SAKAI LUNG CANCER CONFERENCE, 大阪
49. 所 昭宏 (2003) 癌患者のこころのケア サイコオンコロジー 入門. 第334回近畿中央CC, 大阪
50. 所 昭宏, 中井吉英 (2003) 心療内科における全人的医療教育 エスコート実習を通じて. 第35回日本心身医学会 近畿地方会, 神戸
51. 所 昭宏 (2003) 癌患者の心をサポートする「サイコオンコロジー」. 第4回関西大乳癌患者会「ひまわり会」, 大阪
52. 所 昭宏 (2003) 乳癌患者の家族と関わり. 第5回関西大乳癌患者会「ひまわり会」, 大阪
53. 所 昭宏 (2003) 呼吸器専門施設におけるサイコオンコロジー. 第2回関西サイコオンコロジー研究会, 大阪
54. 所 昭宏 (2003) ストレス科学から見た身体と心. 東住吉区女性講座, 大阪
55. 中 宣敬, 所 昭宏, 小河原光正 (2003) 肺癌患者の外来化学療法移行の意思決定に関する行動科学的研究. 平成15年度第2回「外来通院がん医療の安全性の確立とその評価法に関する研究」研究班, 班会議, 名古屋
56. 西田慎二, 西本 隆, 小笹裕美子, 六浦裕美, 水野泰行, 四宮敏章, 関原ひとみ, 所 昭宏, 福永幹彦, 中井吉英 (2003) 過敏性腸症候群における漢方治療の臨床効果. 第7回日本心療内科学会, 新潟
57. 水野泰行, 垣内晶代, 西山順滋, 松本英夫, 竹林直紀, 所 昭宏, 西田慎二, 福永幹彦, 中井吉英 (2003) 認知行動療法が奏功した慢性疼痛に伴う歩行障害の一例 (第2報). 第7回日本心療内科学会, 新潟
58. 竹林直紀, 相原由花, 垣内晶代, 有城幸男, アダチヒロ, 浅蔵りか子, 三谷有子, 四宮敏章, 神原憲治, 所 昭宏, 西田慎二, 中井吉英 (2003) 大学病院での補完代替医療の試み 新しい医療システムとしての「統合医療」の提言 第35回日本心身医学会 近畿地方会 神戸
59. 村上典子, 村松知子, 金子晃久, 所 昭宏, 中

- 井吉英 (2003) ターミナルケアにおけるリエゾン心療内科医の役割について. 第35回日本心身医学会 近畿地方会, 神戸
60. 中井吉英, 所 昭宏 (2003) 「21世紀における緩和医療」 緩和医療におけるスタッフケア. 第26回日本医学会総会, 福岡
61. 小笹裕美子, 仁木 稔, 中井吉英, 宮川眞一, 所 昭宏 (2003) 痛みについてたくさん話してください 痛みを気兼ねなく語る場を設けたことに治療的効果があった慢性疼痛の一例. 第36回日本心身医学会近畿地方会, 京都
62. 水野泰行, 所 昭宏, 西田慎二, 竹林直紀, 福永幹彦, 中井吉英 (2003) 対応困難な患者の特徴とその対処方法に関する考察 チーム医療の現場より. 第44回日本心身医学会 総会, 沖縄
63. 宮川眞一, 福永幹彦, 西田慎二, 所 昭宏, 中井吉英 (2003) 当科を受診した慢性疼痛患者の受療行動について. 慢性疼痛学会, 京都
64. 町田英世, 中井吉英 (2003) 摂食障害の連携治療への取り組み. 第44回日本心身医学会総会, 沖縄
65. 町田英世, 中井吉英 (2003) 慢性疼痛に対する抗うつ剤の位置付け 心療内科領域からのアプローチ. 第1回ストレス関連疾患研究会, 大阪
66. 町田英世 (2003) ストレス社会と心身症. 第4回神戸薬科大学公開市民講座, 神戸
67. 町田英世 (2003) 慢性疼痛患者の投薬方および面接のコツ. 第33回日本ペインクリニック学会関西地方会, 大阪
68. 西田慎二, 小笹裕美子, 六浦裕美, 水野泰行, 四宮敏章, 関原ひとみ, 所 昭宏, 福永幹彦, 中井吉英, 西本 隆 (2003) 過敏性腸症候群における漢方治療の臨床効果. 第7回日本心療内科学会学術大会, 新潟市
69. 西田慎二, 西本 隆, 中井吉英 (2003) 抑肝散の母子同服例について. 第39回日本東洋心身医学研究会学術集会, 東京都
70. 西田慎二 (2003) 心療内科領域の疾患と漢方治療. 第11回兵庫漢方医学談話会, 神戸市
71. 西田慎二, 保田佳苗, 小山敦子, 中井吉英 (2003) 漢方薬にて軽快した過敏性腸症候群の一例. 第36回日本心身医学会近畿地方会, 京都
- 都市
72. 西田慎二 (2003) 口腔領域の慢性疼痛に対する心身医学的治療. 第4回南大阪緩和医療研究会, 堺市
73. 西田慎二, 西本 隆 (2003) 抑肝散の母子同服をおこなった症例について. 平成15年度日本東洋医学会関西支部例会, 和歌山市
74. 町田英世, 竹林直紀, 浅野浩子, 生野照子 (2003) 摂食障害の連携治療への取り組み. 第44回日本心身医学会, 沖縄
75. 水野泰行, 所 昭宏, 西田慎二, 竹林直紀, 福永幹彦, 中井吉英 (2003) 対応困難な患者の特徴とその対応方法に関する考察 チーム医療の現場より. 第44回日本心身医学会 沖縄
76. 有城幸男, 相原由花, 竹林直紀, 中井吉英 (2003) 全人的医療としての気功法の有用性. 第35回日本心身医学会近畿地方会, 神戸
77. 相原由花, 竹林直紀, 中井吉英 (2003) アロマセラピーの併用が有効であった頸部慢性疼痛の一症例. 第35回日本心身医学会近畿地方会, 神戸
78. 垣内晶代, 竹林直紀, 水野泰行, 石野振一郎, 六浦裕美, 小笹裕美子, 中井吉英 (2003) 難治性慢性疼痛患者に対する統合医療的アプローチ - 鍼灸師による「びわ温灸療法」併用の効果と意義. 第35回日本心身医学会近畿地方会, 神戸
79. 高木彰子, 宮嶋佐千子, 浅野浩子, 生野照子, 竹林直紀, 町田英世, 小池明子 (2003) 摂食障害自助的グループへの意識調査. 第35回日本心身医学会近畿地方会, 神戸
80. 浅野浩子, 町田英世, 竹林直紀, 小池明子, 生野照子 (2003) 摂食障害自助的グループの現状. 第44回日本心身医学会, 沖縄
81. 有城幸男, 相原由花, 竹林直紀, 中井吉英 (2003) ヘルスプロモーションとしての気功法の有用性について 心療内科の集団療法としての気功教室の意義. 第44回日本心身医学会, 沖縄
82. 相原由花, 竹林直紀, 中井吉英 (2003) 医療従事者自身のヘルスプロモーションの試み - 看護師へのボランティアによるアロマセラピーの実践を通じて. 第44回日本心身医学会, 沖縄



83. 垣内晶代, 竹林直紀, 水野泰行, 石野振一郎, 六浦裕美, 小笹裕美子, 中井吉英 (2003) 難治性慢性疼痛患者に対する統合医療的アプローチ 鍼灸師による「びわ温灸療法」併用の効果と意義. 第44回日本心身医学会, 沖縄
  84. 相原由花, 宮川眞一, 竹林直紀, 中井吉英 (2003) アロマセラピーを併用した摂食障害の一症例 スピリチュアルケアとしての意義. 第36回日本心身医学会近畿地方会, 京都
  85. 足立比呂美, 水野泰行, 竹林直紀, 中井吉英 (2003) カラーセラピーを併用した慢性疼痛の一症例. 第36回日本心身医学会近畿地方会, 京都
  86. 有城幸男, 竹林直紀, 中井吉英 (2003) 全人的医療としての気功法の有用性 (第2報) 心療内科の集団療法での気功教室の意義. 第36回日本心身医学会近畿地方会, 京都
  87. 相原由花, 竹林直紀, 中井吉英 (2003) ホリスティックアロマセラピーの実践 心療内科の現場から. 第6回日本アロマセラピー学会, 東京
  88. 相原由花, 竹林直紀, 中井吉英 (2003) 医療従事者自身のヘルスプロモーションとしてのアロマセラピーの意義 大学附属病院看護師へのボランティア・アロマセラピーマッサージの実践を通して. 第7回日本代替・相補・伝統医療連合会議, 神戸
- 著書
1. 中井吉英, 久保千春, 野添新一編著 (2003) 現代心療内科学. 現代心療内科学 (中井吉英, 久保千春, 野添新一編), 永井書店, 東京
  2. 中井吉英 (2003) 心身医学的診断の実際 - 自覚症状, 主訴から (分担執筆). 心身医療実践マニュアル (久保千春編), 文光堂, 東京
  3. 中井吉英 (2003) 痛み 心理療法 (分担執筆). 痛み 基礎・診断・治療 (花岡一雄編), 朝倉書店, 東京
  4. 中井吉英 (2003) 慢性疼痛の心療内科的治療 (分担執筆). 慢性疼痛 病態と治療法. 別冊・医学のあゆみ (宮崎東洋編) 医歯薬出版, 東京
  5. 中井吉英 (2003) 慢性疼痛 (分担執筆). 今日から使える患者指導ノート (前沢政次編), Nikkei Medical 日経 BP 社, 東京
  6. 中井吉英 (2003) 心身症 (分担執筆), 今日の治療方針, 医学書院, 東京
  7. 竹林直紀 (2003) バイオフィードバック. 医療従事者のための補完・代替医療 (第1版) (今西二郎編) pp 215-221, 金芳堂, 京都
  8. 相原由花, 竹林直紀, 中井吉英 (2003) 香りとストレス 『心療内科からのコメント』. 皮膚心療内科 (第1版) (宮地良樹, 久保千春編) pp 259-262, 診断と治療社, 東京
  9. 相原由花, 竹林直紀, 中井吉英 (2003) 香りとストレス 『心療内科からの症例呈示』, 皮膚心療内科 (第1版) (宮地良樹, 久保千春編) pp 262-264, 診断と治療社, 東京
  10. 町田英世, 竹林直紀, 中井吉英 (2003) 「心理療法」痛み 基礎・診断・治療. 痛み (花岡一雄編) pp 315-317, 朝倉書店, 東京
  11. 西田慎二 (2003) 東洋医学. 現代心療内科学 (久保千春, 中井吉英, 野添新一編) pp 267-274, 永井書店, 東京
  12. 所 昭宏 (2003) サイコオンコロジー (精神腫瘍学)・緩和ケア. 現代心療内科学 (久保千春, 中井吉英, 野添新一編) pp 210-223, 永井書店, 大阪
  13. 所 昭宏 (2003) 心療内科医による緩和ケア. 現代心療内科学 (久保千春, 中井吉英, 野添新一編) pp 556-562, 永井書店, 大阪
  14. 四宮敏章, 西山順滋, 中井吉英 (2003) 行動医学で治す消化器疾患「慢性膵炎」. 毎日ライフ (福土審) pp 56-61, 毎日新聞社, 東京
  15. 水野泰行, 神原憲治, 所 昭宏, 竹林直紀, 柳生隆視, 中井吉英, 黒川順夫 (2003) 統合医療的アプローチにて軽快した痙攣性斜頸の1例. 心療内科 pp 149-155
  16. 水野泰行, 相原由花, 垣内晶代, 有城幸男, 竹林直紀, 福永幹彦, 中井吉英, 宮川眞一 (2003) 慢性疼痛における補完代替医療者と医師の共同治療の利点. 慢性疼痛 pp 63-68
  17. 三谷有子, 佐久間春夫, 福永幹彦, 中井吉英 (2003) ヘルスプロモーションにおける Walking のあり方について 自己爽快ペースによる検討. Japanese Journal of psychosomatic medicine. In Print. (日本心身医学会), 三輪書店, 東京

## 神経内科学講座

### 研究業績

#### 原著

1. Izumi Y, Maruyama H, Oda M, Morino H, Okada T, Ito Hidefumi, Sasaki I, Tanaka H, Komure O, Udaka F, Nakamura S, Kawakami H. (2003) "SCA8 repeat expansion: Large CTA/CTG repeat alleles are more common in ataxic patients, including those with SCA6." *Am J Hum Genet* 72: 704-709
2. Nakano S, Shinde A, Ito H, Ito H, Kusaka H (2003) MAP kinase phosphatase-1 is induced in abnormal fibers in inclusion body myositis. *Neurology* 61: 322-326
3. 伊藤恒, 中野智, 伊東秀文, 日下博文 (2003) 顔面神経障害後の異常顔面共同運動に対する botoxulinum toxin type A 治療, *神経治療* 20: 77-80
4. 伊藤恒, 日下博文 (2003) 真菌性髄膜炎, *Clin Neurosci* 21: 904-906
5. 千葉陽一, 新出明代, 幸原伸夫, 秋口一郎, 中野智, 林由起子, 柴崎浩 (2003) 異なる臨床型を呈した dysferlinopathy の姉妹例, *臨神経* 43: 188-191
6. 伊藤恒, 吉賀正亨, 大西静生, 飯室麗香, 八木彩香, 中野智, 伊東秀文, 日下博文 (2003) 塩酸メキシレチンが奏効した難治性吃逆の1例, *日内会誌* 92: 316-317
7. 八木彩香, 日下博文, 伊藤恒, 中野智, 伊東秀文 (2003) 下垂足, 下垂手で再燃した重症筋無力症の1例, *神経内科* 58: 189-192

#### 総説

- 日下博文 (2003) 病巣部位診断の原則 「中脳」, *Clin Neurosci* 21: 320-322

#### 学会発表

1. H Ito, H Ito, M Nagano, S Nakano, Y Shigeyoshi, H Kusaka (2003) In situ Detection of Hepatitis C Virus (HCV) RNA within skeletal muscle fibers in patients with inflammatory myopathy associated with HCV infection, XVth International Congress Of Neuropathology トリ

#### ノ・イタリア

2. 中野智, 新出明代, 伊藤恒, 伊東秀文, 日下博文 (2003) 封入体筋炎, DMRV における核輸送タンパク importin の異常, 第44回日本神経学会総会, 横浜
3. 伊藤恒, 中野智, 伊東秀文, 日下博文, 長野護, 重吉康史 (2003) HCV 陽性筋炎の生検筋における HCV in situ hybridization, 第44回日本神経学会総会, 横浜
4. 新出明代, 中野智, 日下博文, 岡伸幸, 幸原伸夫 (2003) Myofibrillar myopathy におけるアクチンおよび微小管モータータンパクの異常, 第44回日本神経学会総会, 横浜
5. 中野智, 新出明代, 伊藤恒, 伊東秀文, 日下博文 (2003) Rimmed vacuole を伴う筋疾患における核周囲の封入体の意義, 第44回日本神経病理学会総会学術研究会, 名古屋
6. 伊藤恒, 木下芳美, 西井誠, 藤田賢吾, 佐藤啓, 中村正孝, 中野智, 伊東秀文, 日下博文 (2003) ジストニアに対する Muscle Afferent Block 療法, 第21回日本神経治療学会総会, 福島
7. 伊藤恒, 中野智, 伊東秀文, 日下博文 (2003) 眼瞼痙攣・片側顔面痙攣に対するボツリヌス毒素の反復投与と治療効果, 第21回日本神経治療学会総会, 福島
8. 伊藤恒, 中野智, 伊東秀文, 日下博文 (2003) 血管炎症候群における横隔神経伝導と呼吸機能, 第14回日本末梢神経学会学術集会, 東京
9. 中野智, 藤田賢吾, 伊藤恒, 中村聖香, 守田純一, 高島望, 新出明代, 伊東秀文, 日下博文 (2003) ガラクトシアリドーシスと考えられる1例, 平成15年度 京都大学医学部神経内科同門会研究会, 京都
10. 大西静生, 和手麗香, 張健華, 八木彩香, 高島望, 新出明代, 伊藤恒, 中野智, 伊東秀文, 日下博文 (2003) 脊髄症と意識障害を呈した真性多血症の一部検例, 第31回臨床神経病理懇話会, 兵庫
11. 和手麗香, 張健華, 大西静生, 守田純一, 中村正孝, 高島望, 新出明代, 伊藤恒, 中野智, 伊東秀文, 日下博文 (2003) 変異 SOD1 トラ

- ンスジェニックマウスの脊髄における GRP の異常蓄積, 第 3 回関西フリーラジカル研究会学術集会, 大阪
12. 藤田賢吾, 伊藤恒, 中野智, 伊東秀文, 日下博文 (2003) ポツリヌス毒素治療と Muscle Afferent Block 療法を併用した頸部ジストニアの 3 例, 第 21 回日本神経治療学会総会, 福島
  13. 西井誠, 藤田賢吾, 中村正孝, 伊藤恒, 木下芳美, 佐藤啓, 中野智, 伊東秀文, 日下博文 (2003) 痙縮に対する Muscle Afferent Block 療法, 第 21 回日本神経治療学会総会, 福島
  14. 西井誠, 中村正孝, 木下芳美, 藤田賢吾, 佐藤啓, 高畠望, 飯室麗香, 大西静生, 新出明代, 伊藤恒, 中野智, 伊東秀文, 日下博文 (2003) 眼咽頭型筋ジストロフィー (Oculopharyngeal muscular dystrophy:OPMD) の一例, 日本神経学会第 78 回近畿地方会, 大阪
  15. 佐藤啓, 木下芳美, 中村正孝, 西井誠, 藤田賢吾, 飯室麗香, 大西静生, 伊藤恒, 中野智, 伊東秀文, 日下博文 (2003) 脳震盪けいれんの一例, 第 27 回大阪てんかん研究会, 大阪
  16. 木下芳美, 中村聖香, 守田純一, 佐藤啓, 西井誠, 藤田賢吾, 飯室麗香, 高畠望, 大西静生, 伊藤恒, 新出明代, 中野智, 伊東秀文, 日下博文, 高山吉弘 (2003) 緩徐進行性失語の一例, 第 26 回 OSK, 大阪
  17. 高畠望, 中村聖香, 守田純一, 中村正孝, 新出明代, 伊藤恒, 中野智, 伊東秀文, 日下博文, 杉本達哉 (2003) 電気けいれん療法が著効した精神症状を伴うパーキンソン病の 1 症例, 第 3 回パーキンソン病フォーラム, 舞浜
  18. 新出明代, 中野智, 高畠望, 伊藤恒, 伊東秀文, 日下博文, 田中恵子 (2003) 呼吸筋筋力低下, 洞性徐脈をみとめた rimmed-vacuole を伴う遠位型ミオパチー (DMRD) の一例, 日本神経学会第 79 回近畿地方会, 奈良
  19. 木下芳美, 新出明代, 高畠望, 伊藤恒, 中野智, 伊東秀文, 日下博文, 高山吉弘 (2003) 緩徐進行性失語の一例, 日本神経学会第 79 回近畿地方会, 奈良

## 精神神経科学講座

### 研究概要

教室の伝統として、脳波に関する研究が主になされてきた。特に向精神薬の脳波に及ぼす影響を研究する定量薬物脳波学が中心であった。現在は、新しい高度な脳波解析手法を用い、薬物のみならず精神疾患の研究を行っている。更に種々の Brain Imaging technique を用いて精神疾患の原因解明に向け研究を進展させている。一方増加の一途をたどる痴呆患者の臨床研究や、統合失調症を中心とした精神科リハビリテーションの充実に向けた臨床研究にも力を入れている。さらに分子生物学部門を進展させ、神経伝達物質や受容体の機能解明による脳機能の研究をおこなっている。

#### 1 脳波を用いた Brain Imaging

(統合失調症の大脳空間構造の研究)

Dipole 追跡法や LORETA (Low Resolution Brain Electromagnetic Tomography) を用いて統合失調症の陽性症状 (幻覚, 妄想など), 陰性症状 (無為, 会話の貧困, 感情鈍麻など) と 3 次元的大脳電場構造変化との関係を検討している。統合失調症の情報処理時間が健常者に比較して減少している事を突き止めた。このことは大脳の情報処理が時間が短すぎて不十分な状態に陥る可能性があり, そのことで精神症状が発現しているのではないかと推測している。

(抗精神病薬の健常男子被験者を用いた研究)

統合失調症の治療薬である抗精神病薬において, 4 種の新薬が登場した。従来のものに比べ, 副作用が少なく, 統合失調症の陰性症状にも効果を有する事が明らかになってきた。この新しい抗精神病薬は非定型抗精神病薬と呼ばれている。定量脳波学的手法を用いてこの 4 種の薬物の相違を研究している。

## 2 MRI や SPECT を用いた Brain Imaging

(統合失調症の形態学研究)

アイオワ大学とカロリンスカ研究所との共同研究で統合失調症の容積の変化を微細に検討する研究をおこなっている。MRI を 0.5mm 間隔で測定することおよびアイオワ大学で開発された解析ソフト BRAINS2 を用いることで微細な変化を捉えることが可能となった。今までに判明したことは、前頭前野皮質、辺縁系、視床、小脳の容積が減少し、これらを繋ぐ神経回路の障害が統合失調症の病因に深く関与していることである。特に我々は小脳虫部の容積減少を見出し、小脳の関与が非常に強いのではないかと考え研究を進めている。現在症例を収集している。また各部位の容量を測定している。

(Diffusion Tensor Imaging)

Diffusion Tensor Imaging (DTI: 拡散異方性画像) は MRI を用いて体内の自由水プロトンのブラウン運動を検出、画像化する手法で今まで画像化困難な超急性期虚血性病変の抽出を始めとして、出血、脱髄、腫瘍性病変、感染症、外傷などの画像化において「拡散能の変化」という面から病態を捉える研究である。統合失調症の大脳各領域白質の拡散能がコントロール群と比較して有意に低下していることを突き止めた。このことは統合失調症の病態が神経回路網の接続不良によるとする仮説を支持する所見であると考えている。さらに症例を増やす事で今後の研究の発展が待たれる。

(痴呆の研究)

痴呆疾患センターを併設している関係上、痴呆患者が来院し診断を依頼されるケースが多い。脳波、MRI、SPECT、神経心理検査を駆使して診断を行っている。近年、アルツハイマー型痴呆や脳血管性痴呆に関する研究は臨床、基礎を問わず飛躍的に進歩しているが非アルツハイマー型痴呆の重要性も言うまでもない。症例研究の集積が新しい知見への貢献である。

## 3 精神疾患の疫学研究

精神疾患の社会に及ぼす影響が甚大であるという認識が浸透してきた。特にうつ病の生涯有病率が 10% を越え経済に及ぼす影響が計り知れないということが欧米の調査で分かってきた。しかるに本邦においては精神疾患に対する偏見とあいまって精神疾患の疫学研究がほとんどなされていなかった。このたび公衆衛生学と共同で邦人海外赴任者のうつ病を中心とする疫学研究をおこなっている。

## 4 肝代謝酵素 P450 の遺伝子多型の研究

薬物の代謝にチトクローム P450 が関与していることが知られており、その遺伝子多型によって代謝が異なることが分かってきた。我々は、SSRI (選択的セロトニン再取り込み阻害薬) であるパロキセチンと SNRI であるミルナシプランの臨床効果の比較を、チトクローム P450 2D6 を中心に研究をしている。将来のオーダーメイド医療に向けた研究基盤の蓄積を目指している。

## 5 コンサルテーション、リエゾン精神医学に関する検討

コンサルテーション、リエゾン精神医学は、総合病院において精神科以外の領域で精神科医の行う診断、治療、教育、研究のすべての活動を含む臨床精神医学の分野である。われわれは、平成 8 年秋より、リエゾン専門外来を設置し、救命救急センターをはじめとする定期的回診や院内懇話会開催を含む活動を進めている。これに先立ち、過去 2 年間のリエゾン医療の実態、ならびに精神科医療、患者に対する他科の意識を調査し、うつ状態とせん妄の症例が多いこと、リエゾン医療を必要としているにもかかわらず理解が不十分であることなどを浮き彫りにしてきた。特に、他科から依頼のあった自殺未遂患者の分析を積極的に行っている。また平成 15 年秋より形成外科、産婦人科、泌尿器科と共同でジェンダー、クリニックを開設し、性同一性障害の包括的医療に取り組んでいる。

## 研究業績

## 原著

1. "Agartz I, Brag S, Franck J, Hammarberg A, Okugawa G, Svinhuvud K, Bergman H"(2003) MR volumetry during acute alcohol withdrawal and abstinence: a descriptive study Alcohol 3871-78
2. Gaku Okugawa, GoranC.Sedvall, Ingrid Agartz (2003) Smaller cerebellar vermis but not hemisphere volumes in chronic schizophrenia Am J Psychiatry 160: 1614-1616
3. Gaku Okugawa, Katsunori Takase Kenji Nobuhara, Tsunetaka Yoshida, Tomohisa Minami Chiharu Tamagaki, VincentA.Magnotta, NancyC.Andreasen, Toshihiko Kinoshita (2003) Inter- and Intraoperator reliability of brain tissue measures using magnetic resonance imaging Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci 253: 301-306
4. T. Minami, K. Nobuhara, G. Okugawa, K. Takase, T. Yoshida, S. Sawada, S. Ha-Kawa, K. Ikeda, T. Kinoshita(2003) Diffusion Tensor Magnetic Resonance Imaging of Disruption of Regional White Matter in Schizophrenia Neuropsychobiology 47: 141-145
5. 延原健二, 吉田常孝, 河相吉, 吉村匡史, 南智久, 青木良純, 澤田敏, 木下利彦(2003) 晩発性アルツハイマー病患者における薬物治療効果判定に関する SPECT 研究, Intervention 18: 57
6. 吉村匡史, 磯谷俊明, 柳生隆視, 吉田常孝, 木下利彦(2003) 薬物脳波学の進歩 新しい脳波空間解析手法の応用 軽症アルツハイマー型痴呆の脳電位場構造とその塩酸ドネペジルによる変化, 臨神生 31: 5-12
7. 分野正貴, 柳生隆視, 入澤聡, 谷万喜子, 木下利彦(2003) 電気けいれん療法が奏効した Pisa 症候群を呈する分裂感情障害の一例 精神医 11: 1215-1218
8. 分野正貴, 柳生隆視, 入澤聡, 谷万喜子, 木下利彦(2003) 鍼治療と mianserin が奏効した頸部ジストニアを生じたうつ病の一例, 精神科治療 7: 811-816
9. 有木永子, 福島正人, 村上貴栄, 柿永佳良子, 砂原千穂, 服部裕子, 田近亜蘭, 杉山祐夫, 北代麻美, 木下利彦(2003) 精神科デイケアにおける“心理教育”の成長過程～治療構造論的観点から～, 日本集団精神療法学会誌 19: 136-142
10. 南智久, 延原健二, 奥川学, 吉村匡史, 吉田常孝, 高瀬勝教, 池田耕士, 河相吉, 澤田敏, 木下利彦(2003) 統合失調症における脳白質の拡散異方性, 脳と精の医 14: 261-268
11. 南智久, 延原健二, 奥川学, 吉田常孝, 高瀬勝教, 田近亜蘭, 柳生隆視, 河相吉, 澤田敏, 木下利彦(2003) 高齢者うつ病患者における電気けいれん療法の大脳の局所脳血流および拡散異方性に及ぼす影響について, 大阪てんかん研会誌 14: 7-14
12. 磯谷俊明, 笹田強兵, 分野正貴, 田近亜蘭, 吉村匡史, 入澤聡, 杉山祐夫, 斎藤直巳, 柳生隆視, 木下利彦(2003) 種々の催眠暗示が空間的脳電位活動に及ぼす影響, 催眠と科 18: 49-54
13. 吉田常孝, 河相吉, 吉村匡史, 南智久, 青木良純, 延原健二, 木下利彦, 澤田敏, (2003) アルツハイマー病の 123I-IMP ARG 法を用いた脳血流 SPECT と治療効果予測の可能性について, 臨床脳放射線 48: 306-310

## 総説

1. 有木永子(2002) 私とロールシャッハ～地方会員からの便り～, 包括システムによる日本ロールシャッハ学会ニュースレター, No5

## 学会発表

1. M.Kato, M.Wakeno, Y.Ikenaga, T.Fukuda G.Okugawa, K.Nobuhara, J.Azuma, T.Kinoshita (2003) Clinical comparison of paroxetine and fluvoxamine considering of the serotonin transporter polymorphism in patients with affective disorder. 2nd Annual Meeting of the International Society of Pharmacogenomics(ISP) a joint meeting with the Pacific Rim Association for Clinical Pharmacogenetics (PRACPG), Losangels
2. T.Isotani, T.Kinoshita, T.Yagyu, D.Lehmann, R.D.Pascual-Marqui, J.Wackermann (2003) Spatial configuration of brain electric activity

- during hypnotically induced relaxation and anxiety. 54th Annual Workshops and Scientific Program of the Society for Clinical and Experimental Hypnosis, Chicago
3. K.Yamada, T.Isotani, S.Irisawa, M.Yoshimura, A.Tajika, N.Saito, T.Yagyu, A.Saito, T. Kinoshita (2003) EEG changes after a single dose of atypical antipsychotics in healthy volunteers" "International Society of Electromagnetic Tomography, Santa Fe, USA
  4. 南 智久,延原健二,奥川 学,吉田常孝,高瀬勝教,田近亜欄,池田耕士,河相 吉,澤田 敏,木下利彦(2003)統合失調症患者における脳白質の拡散異方性.第62回日本医学放射線学会,横浜
  5. 南 智久,延原健二,奥川 学,高瀬勝教,吉田常孝,吉村匡史,田近亜欄,杉本達哉,池田耕士,河相 吉,澤田敏,木下利彦(2003)統合失調症における白質拡散異方性の検討 臨床症状及び抗精神病薬投与量との相関 .第25回日本生物学的精神医学会,金沢
  6. 杉本達哉,延原健二,奥川 学,南 智久,池田耕士,澤田 敏,木下利彦(2003)統合失調症患者の脳白質における拡散テンソル解析.第31回日本磁気共鳴医学会大会,山梨
  7. 加藤正樹,田中孝也,梶本心太郎,西憲一郎,平川昭彦,松尾信昭,山本 透,中谷壽男,織田裕行,木下利彦(2003)救急施設における精神科医の取り組み リエゾン医配置後2年間の考察 .日本臨床救急医学会,横浜
  8. 加藤正樹,分野正貴,奥川学,永田昌弘,延原健二,越智友子,池永有香,福田剛史,福田和弘,東純一,木下利彦(2003)セロトントランスポーター遺伝子多型を考慮したParoxetine, Fluvoxamine 無作為群間比較試験.日本臨床精神神経薬理学会,弘前
  9. 加藤正樹,織田裕行,磯谷俊明,柳生隆視,吉田常孝,田近亜欄,分野正貴,松田郷美,吉村匡史,木下利彦(2003)高度救命センターにおける精神医学の変遷 リエゾン医配置後2年間を経て .日本総合病院精神医学会,京都
  10. 織田裕行,有木永子,中平暁子,鈴木美佐,木下利彦(2003)関西医科大学附属病院精神神経科を受診した性同一性障害患者に対する検討.第99回日本精神神経学会,東京
  11. 織田裕行,加藤正樹,井村 徹,南 良武,木下利彦(2003)精神疾患に伴い高所落下をきたし,高度救命救急センターに搬送された4症例 そのリハビリテーションを行う際に精神病院と整形外科病院の連携が果たす役割 .第31回日本精神科病院協会精神医学会,札幌
  12. 織田裕行,磯谷俊明,柳生隆視,加藤正樹,吉田常孝,田近亜欄,分野正貴,松田郷美,吉村匡史,木下利彦(2003)多発骨折を来した統合失調症患者の治療 高度救命救急センターと整形外科病院の連携 .第16回日本総合病院精神医学会,京都
  13. 奥川 学(2003) Quantitative volumetric study of cerebellar vermis in chronic schizophrenia .第25回日本生物学的精神医学会,金沢
  14. 北代麻美,穴井己里子,林もも子,伊野美幸,吉田敬子,三宅由子,青葉安里,木下利彦,皆川那直(2003)児童虐待をする母親の対人関係についての検討.第99回日本精神神経学会総会,東京
  15. 北代麻美,皆川那直,関谷秀子,古橋裕子,中澤富美子,田上美千佳,新村順子,木下利彦(2003)力動的なグループ親ガイダンス 思春期問題解決のための親支援プログラム .日本思春期青年期精神医学会第16回大会,横浜
  16. 北代麻美(2003)エディプス葛藤を抱えた青年の精神療法過程.日本精神分析学会第49回大会,札幌
  17. 有木永子,福島正人,村上貴栄,柿永佳良子,服部裕子,砂原千穂,北代麻美,木下利彦(2003)精神科デイケアにおける"心理教育"の成長過程~治療構造的観点から~.第21回日本集団精神療法学会,秋田
  18. 有木永子,福島正人,村上貴栄,柿永佳良子,服部裕子,砂原千穂,杉山祐夫,北代麻美,木下利彦(2003)単一プログラムで行う心理教育の工夫~小グループ討論を導入して~.第8回日本デイケア学会,石川
  19. 有木永子(2003)情緒の"描写"から"語り"そして"やりとり"へ 強迫心性からみた精神療法過程 .第49回 日本精神分析学会,

## 北海道

20. 磯谷俊明, 柳生隆視, 斎藤直巳, 入澤 聡, 吉村匡史, 木下利彦 (2003) 脳電位空間における複雑性の指標 global-Omega-complexity( )とその応用. 第5回日本ヒト脳機能マッピング学会大会, 茨城
21. 入澤 聡, 磯谷俊明, 柳生隆視, 斎藤直巳, 吉村匡史, 木下利彦 (2003) 統合失調症の脳電位活動空間構造の特徴. 第6回日本薬物脳波学会, 淡路島
22. 木下利彦 (2003) 神経症の薬物治療の動向. 第21回日本森田療法学会, 大阪
23. 分野正貴, 加藤正樹, 奥川 学, 木下利彦 (2003) Paroxetine の退薬症状として眼球運動時の知覚異常を認めた2症例. 第13回日本臨床精神神経薬理学会, 青森県弘前市
24. 分野正貴, 柳生隆視, 入澤聡, 中村康, 木下利彦 (2003) Pisa 症候群を合併した精神障害に対して電気けいれん療法が奏効した2例. 第16回日本総合病院精神医学会, 京都
25. 南 智久, 延原健二, 奥川 学, 高瀬勝教, 吉田常孝, 田近亜蘭, 木下利彦 (2003) 統合失調症における脳白質の拡散異方性. 第62回日本医学放射線学会, 横浜
26. 南 智久, 延原健二, 奥川 学, 高瀬勝教, 吉田常孝, 吉村匡史, 田近亜蘭, 杉本達哉, 木下利彦 (2003) 統合失調症における白質拡散異方性の検討 - 臨床症状及び抗精神病薬投与量との相関 -. 第25回日本生物学的精神医学会, 金沢
27. 杉本達哉, 織田裕行, 柳生隆視, 田近亜蘭, 吉田常孝, 奥川 学, 木下利彦 (2003) 電気けいれん療法が有効であった難治性パーキンソン病の1例. 第95回近畿精神神経学会, 大阪
28. 中平暁子, 吉野真紀, 中島文, 有木永子 (2003) 性同一性障害4事例のロールシャッハテストの検討. 第7回日本ロールシャッハ学会, 名古屋
29. 吉村匡史, 磯谷俊明, 柳生隆視, 入澤 聡, 吉田常孝, 玉垣千春, 杉山祐夫, 南 智久, 杉本達哉, 有木永子, 中平暁子, 鈴木美佐, 延原健二, 奥川 学, 木下利彦 (2003) 軽症アルツハイマー病における知的機能と global multichannel EEG descriptors ( , and )との関連. 第6回日本薬物脳波学会, 淡路島
30. 松田郷美, 磯谷俊明, 分野正貴, 加藤正樹, 吉田常孝, 杉本達哉, 田近亜蘭, 吉村匡史, 織田裕行, 入澤 聡, 玉垣千春, 木下利彦 (2003) Quetiapine はせん妄に有効か. 本院での2年半の調査から. 第16回日本総合病院精神医学会, 京都

## 著書

1. 延原健二 (2003) 精神障害および心身症の病態と治療 統合失調症 (概説). 一般医, 研修医のためのメンタルケア. ドラッグガイド 2004-05 (上島国利編) 148-149 頁, メディカルドゥ (株), 東京
2. 延原健二 (2003) 精神障害および心身症の病態と治療 統合失調症 (急性期). 一般医, 研修医のためのメンタルケア. ドラッグガイド 2004-05 (上島国利編) 150-151 頁, メディカルドゥ (株), 東京
3. 延原健二 (2003) 精神障害および心身症の病態と治療 統合失調症 (慢性期). 一般医, 研修医のためのメンタルケア. ドラッグガイド 2004-05 (上島国利編) 152-153 頁, メディカルドゥ (株), 東京
4. 延原健二 (2003) 精神障害および心身症の病態と治療 統合失調症 (幻覚妄想状態). 一般医, 研修医のためのメンタルケア. ドラッグガイド 2004-05 (上島国利編) 154-155 頁, メディカルドゥ (株), 東京
5. 織田裕行, 田近亜蘭, 加藤正樹, 磯谷俊明, 木下利彦 (2003) 無床総合病院心療内科外来の経験から - 限られた治療関係のなかで薬物療法の果たす役割 -. 強迫性障害の研究・4, 39-44 頁, 星和書店
6. 木下利彦, 織田裕行 (2003) 精神医学症候群 II 摂食・睡眠・性・人格障害など VI 性障害性機能不全 性器反応不全. 領域別症候群シリーズ 39 261-264 頁, 日本臨牀
7. 木下利彦, 織田裕行 (2003) 精神医学症候群 II 摂食・睡眠・性・人格障害など VI 性障害性機能不全 オルガズム障害. 領域別症候群シリーズ 39 265-267 頁, 日本臨牀
8. 木下利彦, 織田裕行 (2003) 精神医学症候群 II 摂食・睡眠・性・人格障害など VI 性障害

- 性機能不全 早漏・領域別症候群シリーズ  
39268-270 頁, 日本臨牀
9. 木下利彦, 織田裕行 (2003) 精神医学症候群

- II 摂食・睡眠・性・人格障害など VI 性障害  
性機能不全 物質誘発性性機能不全・領域別  
症候群シリーズ 39 280-282 頁, 日本臨牀

## 小児科学講座

### 研究概要

本教室の研究は、種々の小児疾患の的確な診断法と病態とを把握するための新しい技法の開発およびより専門的な治療の確立をはかるための研究が主体である。特に、慢性肉芽腫症をはじめとする好中球機能異常症に関する研究は、小児科研究室に設置しているフローサイトメトリーを駆使して行っている。中でも、慢性肉芽腫症の診断と治療とは本教室の伝統である。

アレルギー・免疫に関する領域では、今年度は食物アレルギーとビフィズス菌について着目し、腸内細菌叢とアレルギー症状の関係について検討した。糞便菌叢中に *Bifidobacterium* が少ない食物アレルギー児に対してビフィズス菌の投与を試み、プレバイオティクスやプロバイオティクスを用いた腸内環境の整備によるアレルギー疾患治療の効果を検討した。また、経皮吸収型  $\beta_2$  刺激薬の小児気管支喘息患児への使用、乳幼児アトピー性皮膚炎児の血清エンドセリン-1 値について報告した。症例報告では、CD4 陽性 T 細胞減少症を伴う Down 症候群の男児例を報告した。

新生児領域では、本学附属病院 NICU における 24 年間の新生児敗血症 106 例のまとめを報告し、近年の新生児感染症の変遷を報告した。症例研究では抗 HLA 抗体による同種免疫性血小板減少症、新生児難治性低血糖症に対するグルカゴンの有用性、Potter sequence の管理、未熟児貧血に対する臍帯血自己血輸血の実績について報告した。

消化器疾患領域では、本学外科学教室との協力で 19 年間に経験した先天性胆管拡張症 21 例の診断の変遷についてまとめた。腹部超音波検査が早期診断に有用であること、本症では spiral CT 検査で膵胆管合流異常が 44% にみられること、MR 膵胆管造影が小児の術前検査に有用であることを報告した。また、腸間膜ヘルニアの 2 症例の腹部単純エックス線写真所見の重要性について報告した。

循環器領域の研究では、今年度は川崎病患児における外因性一酸化窒素 (nitric oxide: NO) 濃度を検討し、川崎病急性期における血管炎発症に高濃度の一酸化窒素の関与について検討した。川崎病急性期の血漿一酸化窒素濃度は、第 1 病週から第 3 病週にかけて冠動脈病変の有無にかかわらず増高し、第 3 病週から発病 2 か月にかけ漸減した。川崎病児における一酸化窒素産生は血管炎の重症度には関与しないと推定された。この第 3 病週の一酸化窒素高値の成因については種々の推論があり、J. Pediatrics 誌上で論議された。臨床症例報告では、 $I^{123}$ -(R,S)-15-p-iodophenyl)-3-methylpentadecanoic acid 取込み欠損を示す心筋症を伴う CD36 欠損症例を報告した。

血液領域では他施設との共同研究で、ピルビン酸キナーゼ欠損症児では脾臓における赤血球系産生が障害されていることを報告した。また、蚊アレルギー患者の肺に発生した NK 細胞由来の大顆粒リンパ球性リンパ腫と EB ウイルスの再活性化とについて報告した。

内分泌代謝関係では、血小板の細胞内マグネシウム濃度を糖尿病児と肥満児で検討した。蛍光プローブである mag-fura-2 を用い、血小板の細胞内 Mg の変化と基礎値を検討した。1 型および 2 型糖尿病と肥満児では血小板細胞内 Mg が対象に比較して著明に低い。血小板の細胞内 Mg はインスリン刺激により増加するが、インスリン抵抗性の児ではインスリン反応不良というより以前から減少している。細胞内 Mg の減少はインスリン抵抗性や血小板凝集を惹起する病態であると推定される。

小児神経領域では、Down 症候群に結節性硬化症を合併した症例、注意欠陥/多動性障害 (AD/HD) の診断テスト、持続処理課題 (CPT) の応用について検討し報告した。

本教室は日本心身医学会認定研修診療施設認定を受けている。小児心身症に関する研究では、本年は



他施設との共同研究で、難病児・障害児の同胞のための取組み、小児がん患児・家族の QOL アンケート調査、ヘッドダウンによるベッドレスト試験の腸内細菌叢に及ぼす影響を報告した。また、乳幼児からはじまる思春期の健全育成についての教育講演報告や、平成15年度厚生科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)「小児心身症対策の推進に関する研究班」(主任研究者:小林陽之助)「子どもの心の健康問題ハンドブック」の作成を行った。

### 研究業績

1. Mizuki M, Ueda S, Tagawa S, Shibayama H, Nishimori Y, Shibano M, Asada H, Tanaka M, Nagata S, Kohdera U, Suzuki K, Machii T, Ohsawa M, Aozasa K, Kitani T and Kanakura Y (1998) Natural killer cell-derived large granular lymphocyte lymphoma of lung developed in a patient with hypersensitivity to mosquito bites and reactivated Epstein-Barr virus infection. *Am J Hematol* 59: 305-315
2. Hasui M, Kotera F, Tsuji S, Yamamoto A, Taniuchi S, Fujikawa Y, Nakajima M, Yoshioka A and Kobayashi Y (2002) Successful resumption of trimethoprim-sulfamethoxazole after oral desensitisation in patients with chronic granulomatous disease. *Eur J Pediatr* 161: 356-357
3. Aizawa S, Kohdera U, Hiramoto M, Kawakami Y, Aisaki K, Kobayashi Y, Miwa S, Fujii H and Kanno H (2003) Ineffective erythropoiesis in the spleen of a patient with pyruvate kinase deficiency. *Am J Hematol* 74: 68-72
4. Ikemoto Y, Teraguchi M, Ono A, Kino M, Yoshimura K and Kobayashi Y (2003) Serial changes of plasma nitrate in the acute phase of Kawasaki disease. *Pediatr Int* 45(4): 421-425
5. Ikemoto Y (2003) Nitric oxide in Kawasaki disease (letter). *J Pediatr* 145: 594-595
6. Suzukawa J, Omori K, Yang L, Inagaki C (2003) Continuous administration of antisense oligonucleotides to c-fos reduced the development of seizure susceptibility after ethacrynic acid-induced seizure in mice. *Neurosci Lett* 349: 21-24
7. Takaya J, Higashino H, Kotera F and Kobayashi Y (2003) Intracellular magnesium of platelets in children with diabetes and obesity. *Metabolism* 52(4): 468-471
8. Takaya J, Muneyuki M, Tokuhara D, Takada K, Hamada Y, Kobayashi Y (2003) Congenital dilatation of the bile duct: Changes in diagnostic tools over the past 19 years. *Pediatr Int* 45(4): 383-387
9. Tanaka S, Teraguchi M, Hasui M, Taniuchi S, Ikemoto Y and Kobayashi Y (2003) Idiopathic CD4+ T-lymphocytopenia in a boy with Down syndrome. Report of a patient and a review of the literature. *Eur J Pediatr* 163(2): 122-123
10. Teraguchi M, Ohkohchi H, Ikemoto Y, Higashino H and Kobayashi Y (2003) CD36 deficiency and absent myocardial iodine-123-(R,S)-15-p-iodophenyl)-3-methylpentadecanoic acid uptake in a girl with cardiomyopathy. *Eur J Pediatr* 162(4): 264-266
11. Nagai T, Mtsumoto N, Kurotaki N, Harada N, Niikawa N, Ogata T, Imaizumi K, Kurosawa K, Kondoh T, Ohashi H, Tsukahara M, Makita Y, Sugimoto T, Sonoda T, Yokoyama T, Uetake K, Sakazumi S, Fukushima Y and Naritomi K (2003) Sotos syndrome and haploinsufficiency of NSD 1: clinical features of mutations and submicroscopic deletions. *J Med Genet* 40(4): 285-289
12. Nakaya H, Yasuhara A, Yoshimura K, Oshihoi Y, Izumiya H and Watanabe H (2003) Life-threatening infantile diarrhea from fluoroquinolone-resistant *Salmonella enterica* typhimurium with mutations in both *gyrA* and *parC*. *Emerg Infect Dis* 9(2): 255-257
13. Hernandez PA, Gorlin RJ, Lukens JN, Taniuchi S, Bohinjec J, Francois F, Klotman ME and Diaz GA (2003) Mutations in the chemokine receptor gene *CXCR4* are associated with WHIM syndrome, a combined immunodeficiency disease. *Nat Genet* 34: 70-74
14. Fujita A, Takaya J, Takada K, Ishihara T, Hamada Y, Harada Y, Nakamura M and Kobayashi Y

- (2003) Transmesenteric hernia: report of two patients with diagnostic emphasis on plain abdominal X-ray findings. *Eur J Pediatr* 162: 147-149
15. Yasuda T, Inagaki T, Yamanouchi Y, Kawamoto K, Kohdera U, Kawasaki H and Nakano T (2003) A case of primary Ewing's sarcoma of the occipital bone presenting with obstructive hydrocephalus. *Childs Nerv Syst* 19: 792-799
  16. Yasuhara A, Yoshida Y, Hijikata Y (2003) Effect of herbal therapy on chronic herpes virus infections. *Altern Ther Health Med* 9(5): 132-136
  17. Yang L, Omori K, Omori K, Otani H, Suzukawa J and Inagaki C (2003) GABA<sub>A</sub> receptor agonist suppressed ammonia-induced apoptosis in cultured rat hippocampal neurons by restoring phosphorylated BAD level. *J Neurochem* 87: 791-800
  18. 小島崇嗣, 寺口正之, 畑尻ともこ, 前田京子, 中野博光 (1998) 紫斑病性腎炎に対する柴苓湯の使用経験. *漢方医* 12(1): 22-23
  19. 荒 勝俊, 福岡秀興, 石崎優子, 上西一弘, 海老沢秀, 伊藤昌子, 陳 鋼, 上田伸男 (2003) ヘッドダウンによるベッドレスト試験が成年男子の腸内環境および菌叢に及ぼす影響. *栄養学雑誌* 61: 243-250
  20. 荒木 敦, 廣瀬陽子, 小林陽之助 (2003) 転座型 Down 症候群に結節性硬化症を合併した症例のてんかん経過について. *大阪てんかん研究会誌* 14(1): 1-5
  21. 石崎優子, 服部祐子, 深井善光, 小林陽之助 (2003) 難病児・障害児の同胞のためのワークショップの予備的試み. *子どもの心とからだ(児心身誌: JJSPP)* 12(1): 46-51
  22. 石田也寸志, 本郷輝明, 堀 浩樹, 足立壮一, 園府寺 美, 青柳憲幸, 脇口 宏, 上田一博 (2003) 小児がん患児・家族の QOL アンケート調査: 第 1 報 調査票の信頼性と妥当性. *日小児血液会誌* 17(5): 364-376
  23. 石田也寸志, 本郷輝明, 堀 浩樹, 足立壮一, 園府寺 美, 青柳憲幸, 脇口 宏, 上田一博 (2003) 小児急性リンパ性白血病患児の QOL アンケート調査研究: 第 2 報 親の視点からの患児・家族の QOL. *日小児血液会誌* 17(5): 377-385
  24. 石田也寸志, 本郷輝明, 堀 浩樹, 足立壮一, 園府寺 美, 青柳憲幸, 脇口 宏, 上田一博 (2003) 小児急性リンパ性白血病の QOL アンケート調査研究: 第 3 報 本人の視点と親の視点との比較. *日小児血液会誌* 17(5): 386-393
  25. 石田也寸志, 本郷輝明, 園府寺 美, 堀 浩樹, 青柳憲幸, 稲田浩子, 脇口 宏 (2003) 白血病診療の QOL に関係する諸問題の施設間のバリエーションについて. *小児がん* 40(1): 53-59
  26. 伊藤太一, 高屋淳二, 木下 洋, 小林陽之助, 野澤政代, 大野 勉 (2003) 新生児難治性低血糖症におけるグルカゴンの有効性と安全性. *小児科* 44(8): 1264-1270
  27. 大谷尚子, 木下 洋, 竹安晶子, 田村和夫, 井上武司 (2003) 抗 HLA 抗体に起因したと考えられる同種免疫性血小板減少症の 1 例. *周産期医* 33(7): 900-902
  28. 梶 勝史, 大戸起久男, 藪田研介, 村上貴孝, 園府寺美, 木野 稔 (2003) 地域医療連携を目的とした検査状況の公開. *外来小児科* 6(3): 302-304
  29. 岸本裕司, 有元美代子, 細川美香, 阿部 操, 岡前文子, 山岡 学, 大谷哲司, 松崎龍典, 大西修司, 寺岡敦子, 福原資郎, 河崎裕英, 小林陽之助, 柴田弘俊 (2003) 核酸増幅検査導入後の HBV ウィンドウ期の血小板製剤による輸血後肝炎. *Transfusion-transmitted HBV infection through platelet concentrate donated during the window period after introduction of the nucleic acid amplification test. 日輸血会誌* 49(3): 444-448
  30. 園府寺 美 (2003) インフルエンザワクチンの効果. *治療* 85(12): 3159-3164
  31. 園府寺 美, 藤本雅之, 村上貴孝, 木野 稔, 村上 司, 入谷展弘, 久保英幸, 春木孝祐 (2003) 鼻汁からインフルエンザウイルス AH3 型とエコーウイルス 9 型が, 髄液から AH3 型が分離された無菌性髄膜炎の 1 例. *病原微生物検出情報* 24(4): 10-11
  32. 小島崇嗣, 谷内昇一郎, 青木孝夫, 畑埜泰子,

- 山本明美, 笹井みさ (2003) 乳幼児アトピー性皮膚炎児にみられるレイノー様現象と血清エンドセリン-1 との関係. アレルギー 52(12): 1114-1121
33. 小寺史子, 喜多俊二, 野田令子, 大橋 敦, 北村直行, 蓮井正史, 磯崎夕佳, 東野博彦, 木下 洋, 小林陽之助 (2003) Potter sequence の 1 症例. 日小児腎不全会誌 23: 185-187
34. 下野九理子, 今井克美, 島川修一, 玉井 浩, 荒木 敦, 杉本健郎, 池田浩子, 川脇 寿, 森本恭子, 服部英司, 岡田伸太郎 (2003) 小児期発症の後頭葉てんかんの臨床的特徴について <他施設共同研究>. 脳と発達 35: 388-393
35. 田辺創一, 西村敏英, 中村 洋, 山本明美, 谷内昇一郎 (2003) 抗原特異的ペプチド減感作療法のツールとしての酵素分解食品. 食品工業 45: 42-48
36. 谷内昇一郎, 山本明美, 畑埜泰子, 小野 厚, 卯西 元 (2003) 小児気管支喘息の長期管理における経皮吸収型  $\beta_2$  刺激薬 (ツロブテロールテープ) の臨床的効果. アレルギーの臨 23: 546-551
37. 辻 章志, 木下 洋, 緒方 肇, 北村直行, 辰巳貴美子, 大橋 敦, 黒柳裕一, 小林陽之助 (2003) 関西医科大学病院 NICU における敗血症起因菌の 23 年間の推移. 日新生児会誌 39(1): 1-4
38. 服部和裕, 笹井みさ, 山本明美, 谷内昇一郎, 小島崇嗣, 小林陽之助, 岩本 洋, 八重島智子 (2003) 食物アレルギーとピフィズ菌. アレルギーの臨 23(9): 731-736
39. 服部和裕, 笹井みさ, 山本明美, 谷内昇一郎, 小島崇嗣, 小林陽之助, 岩本 洋, 八重島智子, 早沢宏紀 (2003) アトピー性皮膚炎患時児に対するピフィズ菌末の投与が児の腸内細菌叢とアレルギー症状に与える影響の検討. アレルギー 52: 20-30
40. 藤井喜充, 岡本真由美, 寺口正之, 小林陽之助 (2003) 多彩な肝胆道系の病変を来した川崎病の 1 症例. Prog Med 23(7): 1714-1717
41. 船本仁一, 田中英高, 松下 享, 寺口正之, 新宅治夫, 森口直彦, 杉本充彦, 塩見正司, 藤村正哲, 岡田伸太郎 (2003) 救急担当小児科医師へのアンケート. 日小児会誌 107(1): 109-114
42. 安原昭博, 吉田由香, 堀あいこ (2003) パソコンを用いた注意欠陥/多動性障害 (AD/HD) 診断用テスト「もぐらーず」の使用経験. 脳と発達 35(2): 165-167
43. 安原昭博, 船戸正久, 鈴木周平, 服部英司, 原田徳蔵, 北島博之, 富和清隆, 中川喜美子, 川本 豊, 吉岡靖史, 田中祥介, 笹井康典, 井戸正利, 渡辺信子, 千代豪昭, 杉田隆博, 濱田和孝, 吉川邦彦 (2003) 小児の在宅医療の実態について; 第 2 回小児の在宅医療に関するアンケート調査. 大阪医 36: 9-16
44. 安原昭博, 吉田由香, 堀あいこ, 鍋谷まこと (2003) 注意欠陥・多動性障害 (ADHD) における持続処理課題 (CPT) の応用. 臨脳波 45: 384-388
45. 安原昭博, 吉田由香, 堀あいこ (2003) ADHD における No-Go Potential 「ADHD は反応抑制機構の障害である. 臨脳波 45(12): 755-758
46. 山村幸代, 志水信彦, 里村憲一, 蔭山 昂, 道上敏美, 島田憲次 (2003) Denys-Drash 症候群の 3 例. 日小児腎不全会誌 23: 191-194
47. 蓮井正史, 伊藤太一, 畑埜泰子, 辻 章志, 山本明美, 谷内昇一郎, 小林陽之助, 植村芳子 (2003) 明らかな消化器症状を認められなかった CGD 腸炎の 2 例. 原発性免疫不全症候群に関する調査研究 平成 14 年度総括・分担報告書 74-76
48. 辻 章志, 谷内昇一郎, 蓮井正史, 伊藤太一, 畑埜泰子, 山本明美, 小林陽之助, 植村芳子 (2003) 慢性肉芽腫症患児の好中球におけるスルファミソキサゾール・トリメトプリム合剤の一酸化窒素産生量増加. 原発性免疫不全症候群に関する調査研究 平成 14 年度総括・分担報告書 77-80
49. 桃井真里子, 山形崇倫, 李 虹, 森 雅人, 安原昭博, Nelson David L (2003) 自閉性障害の病因遺伝子解明に関する研究. 厚生労働省精神・神経疾患研究委託費による 12 年度総括研究報告書. 発達期における高次脳機能障害の病態解明に関する研究 21-26
50. 安原昭博, 吉田由香, 堀あいこ (2003) ADHD における持続処理課題 (Continuous

Performance Test: CPT)とNO-GO potential .厚生労働省精神・神経疾患研究委託費, 発達期における高次脳機能障害の病態解明に関する研究 35-40

## 総説

1. 石崎優子 (2003) 慢性疾患児・障害児の母親に責任を追及し過ぎてはいけない! 治療 85: 727-729
2. 石崎優子 (2003) 乳幼児期からはじまる思春期の健全育成 思春期患者の乳幼児期を振り返って 小児保健研究 62: 168-172
3. 石崎優子 (2003) キャリーオーバー患者を引き継がないケースにおける心理社会的問題の理解とその予防のために. 治療 85: 2648-2651
4. 石崎優子 (2003) 思春期の保健と心身の健全育成. 保健の科学 45: 633-636
5. 石崎優子 (2003) 熱っぽい. 小児内科 35: 1962-1965
6. 伊藤太一, 高屋淳二, 木下 洋 (2003) IUGR 新たな治療への挑戦. IUGR の代謝. 水・電解質の代謝. 周産期医学 33(11): 1351-1354
7. 浦岡美奈子, 杉本健郎, 吉田多加代 (2003) けいれんにおける生理検査の選択と実施上の注意点. 小児内科 35(2): 164-166
8. 緒方 肇, 木下 洋 (2003) 未熟児貧血 (臍帯血による自己血輸血). 小児内科 35(6): 990-995
9. 木下 洋 (2003) 周産期の薬物療法 新生児編各論 ヒト免疫グロブリン製剤. 周産期医学 33(増): 851-859
10. 木下 洋 (2003) 周産期の薬物療法 新生児編各論 高抗体ガンマグロブリン製剤. 周産期医学 33(増): 860-864
11. 木野 稔 (2003) 外来診療に役立つ検査: 腎・尿路エコー. 小児科診療 66(2): 265-270
12. 木野 稔 (2003) 小児外来の検査の要領と診断への活かし方: 便検査. 小児臨 56(s): 1237-1245
13. 木野 稔 (2003) 小児救急看護に必要な基礎知識と処置技術: めまい・頭痛. 小児看護 26(9): 1161-1163
14. 木野 稔 (2003) 小児救急初期対応: 吐血. 救急・集中治療 15(1): 1164-1165
15. 囃府寺 美 (2003) 病中児・病後児とは. チャイルドヘルス 6(10): 730-733
16. 杉本健郎 (2003) 日本小児神経学会と社会的活動. 脳と発達 35: 2-2
17. 杉本健郎 (2003) 家族へのケア・父親として小児神経科医として, そして子どもの視点で. 小児看護 26(9): 1292-1294
18. 杉本健郎 (2003) てんかん治療で小児科医が精神科医に期待すること. 精神科治療学 18(1): 29-31
19. 杉本健郎 (2003) 医療的ケア・日本小児神経学会の提案と今後の課題. 養護学校の教育と展望 131: 19-23
20. 杉本健郎 (2003) 学童期の支援・養護学校における医療的ケアについて. 発達障害研究 25(3): 141-149
21. 杉本健郎 (2003) 小児脳死の問題点と判定基準. 小児内科 35: 164-166
22. 高屋淳二, 小林陽之助 (2003) 最近話題の用語: クリティカルパス (クリニカルパス). 小児科 44(4): 728-728
23. 田中英高, 塩川宏郷, 汐田まどか, 石崎優子, 村山隆志, 星加明德, 富田和巳 (2003) 小児心身医学に EBM は必要か? 量的研究と質的研究の融合. 日本心療内科学会誌 7: 133-139
24. 谷内昇一郎, 小林陽之助 (2003) 好中球の殺菌作用における主役はプロテアーゼか. 臨床免 39(1): 99-103

## 学会発表

1. Tkaya J, Kotera F and Kobayashi Y (2003) The relation of birth weight to intracellular magnesium of cord-blood. 10th International Magnesium Symposium, Cairns
2. Taniuchi S, Hattori K, Yamamoto A, Sasai M, Hatano Y, Kojima T, Kobayashi Y, Iwamoto H and Yaeshima T (2003) Symptomatic improvement of atopic dermatitis in infants following modulation of intestinal microflora by Bifidobacterium. World Allergy Organization Congress-18th, Vancouver
3. Tsuji S, Taniuchi S, Hasui M, Yamamoto A and Kobayashi Y (2003) Production of nitric oxide in human neutrophils by phagocytosis. The 8 th

Annual Meeting of the European Hematology Association, Lyon

4. Yasuhara A, Yoshida Y, Hori A and Suzukawa J (2003) Event-related potentials for a NO-GO task in children with ADHD. The 27 th International Congress of Clinical Neurophysiology, San Francisco
5. Fujimoto S, Noda Y, Nakano T, Taniuchi S and Kobayashi Y (2003) Infiltration of natural killer cells infected with Epstein-Barr virus in laryngeal tumor of severe chronic active Epstein-Barr virus infection. The 8 th Annual Meeting of the European Hematology Association, Lyon
6. 荒木 敦, 橋本 卓, 服部英司, 田川哲三, 鈴木周平, 村上貴孝, 杉本健郎 (2003) 養護学校の学校医としての小児神経科医 (大阪府下の現状と今後の課題). 第 45 回日本小児神経学会, 福岡
7. 荒木 敦, 石崎優子, 小林陽之助 (2003) バルプロ酸内服中に多剤耐性緑膿菌による肺炎に罹患したカルバペネム系抗生物質を投与した 1 症例. 第 30 回日本小児臨床薬理学会, 高槻
8. 池本裕実子, 寺口正之, 荻野廣太郎 (2003) 川崎病既往者における早期動脈硬化の進行に関する検討 血管進展性検査による検討 . 第 39 回日本小児循環器学会, 神戸
9. 石崎優子, 小林陽之助, 衛藤 隆, 沖 潤一, 小枝達也, 田中英高, 星加明德, 三池輝久, 渡辺久子 (2003) 小児心身症対策の推進に関する研究「子どもの心の健康問題ハンドブック」の作成. 第 106 回日本小児科学会, 福岡
10. 石崎優子, 小林陽之助, 木野 稔, 中野博光 (2003) Habit cough か? tic か? 抗精神薬が奏功した慢性咳嗽の 2 症例. 第 30 回日本小児臨床薬理学会, 高槻
11. 中村彰利, 杉本健郎, 原田佳明 (2003) 重症心身障害児の嚥下困難・呼吸不全に対する管理 喉頭気管分離術の有用性. 第 45 回日本小児神経学会, 福岡
12. 大橋 敦, 北村直行, 辰巳貴美子, 辻 章志, 竹安晶子, 木下 洋 (2003) 在胎 22 週 2 日, 体重 340 g で出生した超低出生体重児の管理経験について. 第 48 回日本未熟児新生児学会, 前橋
13. 木下 洋 (2003) 医学生に対する実習. 大学の考え方と取り組み. 日本外来小児科学会教育検討会第 7 回実習指導者研修会, 西宮
14. 園府寺 美, 木野 稔, 村上 司, 入谷展弘, 春木孝祐 (2003) 髄液からインフルエンザウイルスが分離された無菌性髄膜炎の 1 例. 第 44 回日本臨床ウイルス学会, 鹿児島
15. 園府寺 美, 奥田晃司, 木野 稔 (2003) 点状出血を呈したヒトパルボウイルス B19 感染 5 症例の臨床的検討. 第 77 回日本感染症学会, 福岡
16. 高屋淳二, 藤井善充, 小林陽之助 (2003) 過去 15 年間に当科で経験した十二指腸および小腸閉鎖 / 狭窄をきたした患児のまとめ. 第 106 回日本小児科学会, 福岡
17. 高屋淳二, 小寺史子, 東野博彦 (2003) インスリン抵抗性状態で見られる細胞内マグネシウムの低下は子宮内発育不全の臍帯血ですでに認められる. 第 37 回日本小児内分泌学会, 札幌
18. 辰巳貴美子, 寺口正之, 池本裕実子 (2003) 単純ヘルペスウイルス (HSV) 胎内感染による, 劇症型心筋炎の新生児期発症例. 第 39 回日本小児循環器病学会, 神戸
19. 辰巳喜美子, 木下 洋, 大橋 敦, 辻 章志, 竹安晶子, 小林陽之助 (2003) 当院 NICU で内科・外科的治療を行った未熟児動脈管開存症 (PDA) の 8 年のまとめ. 第 106 回日本小児科学会, 福岡
20. 田中智子, 辻 章志, 北村直行, 辰巳喜美子, 大橋 敦, 伊藤太一, 竹安晶子, 畑埜泰子, 木下 洋 (2003) 当院での過去 10 年間における脳室周囲白室軟化症のまとめ. 第 48 回日本未熟児新生児学会, 前橋
21. 辻 章志, 木下 洋, 北村直行, 辰巳貴美子, 大橋 敦, 竹安晶子, 伊藤太一, 畑埜泰子 (2003) セレウス菌による新生児敗血症. NICU 内での Bacillus cereus 定着の危険性とその対策. 第 48 回日本未熟児新生児学会, 前橋
22. 辻 章志, 北村直行, 辰巳貴美子, 大橋 敦, 伊藤太一, 黒柳裕一, 木下 洋 (2003) 新生児 TSS 様発疹症患児における CD62L 陽性 T 細胞の経時的変化. 第 39 回日本新生児学会, 郡山

23. 辻 章志, 谷内昇一郎, 蓮井正史, 山本明美, 小林陽之助 (2003) 慢性肉芽腫症患児の好中球における ST 合剤による NO 産生量の増加. 第 106 回日本小児科学会, 福岡
24. 寺口正之, 藤井喜充, 池本裕実子, 辰巳貴美子, 角田智彦, 今村洋二, 小林陽之助 (2003) 右肺動脈近位部欠損・動脈管開存・肺高血圧に対する静注 PGI<sub>2</sub> 投与の経験. 第 2 回フローラン治療研究会, 大阪
25. 中野崇秀 (2003) 小児白血病の病因・病態・診断に関する最近の知見. Genetic polymorphism and response / side effects. 日本小児白血病研究会セミナー, 岐阜
26. 中野崇秀, 今井雄一郎, 田中智子, 河崎裕英 (2003) HLA1 座不一致 allo-PBSCT 後に DEK/CAN キメラ mRNA が消失した t(6;9) 転座型 AML(M5b) の 1 例. 第 45 回日本小児血液学会, 金沢
27. 野田幸弘, 中野崇秀 (2003) allo-PBSCT を施行し寛解に至った, 二次がんと考えられる P 糖蛋白陽性骨髄 /NK 前駆細胞性急性白血病の 1 例. 第 26 回日本造血細胞移植学会, 横浜
28. 蓮井正史, 伊藤太一, 畑埜泰子, 辻 章志, 谷内昇一郎, 小林陽之助 (2003) 特異的な経過を呈した CGD 骨髄炎の 1 症例. 第 11 回食細胞機能異常症研究会, 東京
29. 蓮井正史, 伊藤太一, 畑埜泰子, 辻 章志, 谷内昇一郎, 小林陽之助 (2003)  $\beta$ -D グルカンの一過性上昇を呈した CGD の一例. 第 11 回食細胞機能異常症研究会, 東京
30. 蓮井正史, 伊藤太一, 畑埜泰子, 辻 章志, 谷内昇一郎, 小林陽之助 (2003) CGD 日誌作製の試み. 第 11 回食細胞機能異常症研究会, 東京
31. 蓮井正史, 上松一永, 中野崇秀, 畑埜泰子, 伊藤太一, 辻 章志, 谷内昇一郎, 小林陽之助 (2003) 診断時に肺の炎症性瘢痕を認めた common variable immunodeficiency の 1 症例. 第 35 回日本小児感染症学会, 富山
32. 藤井喜充, 石崎優子, 木野 稔, 中野博光, 小林陽之助 (2003) 遺糞症の直腸肛門機能評価の心身医学的意義. 第 21 回日本小児心身医学会, つくば
33. 安原昭博, 吉田由香, 堀あいこ (2003) ADHD に対する methylphenidate 投与が持続処理課題 (もぐら一ず) に与える影響. 第 106 回日本小児科学会, 福岡
34. 安原昭博, 堀あいこ, 片山正寛, 江口博美, 吉田千里, 乾 敏郎 (2003) 自閉症の認知障害: Biological Motion の認知について. 第 106 回日本小児科学会, 福岡
35. 安原昭博, 鈴川純子, 吉田由香, 堀あいこ (2003) 徐波睡眠時に持続性棘徐波を示すてんかん (CSWS) に対する clobazam の治療効果. 第 37 回日本てんかん学会, 仙台
36. 安原昭博, 堀あいこ, 片山正寛, 江口博美, 吉田千里, 乾 敏郎 (2003) 自閉症における Biological Motion の認知障害. 第 1 回日本認知心理学会, 東京
37. 安原昭博, 荒木 敦, 鈴川純子, 堀あいこ (2003) 歪成分耳音響放射 (DPOAE) によるダウン症の聴力障害早期発見. 第 33 回日本臨床神経生理学会, 旭川
38. 安原昭博, 吉田由香 (2003) Down 症における血清尿酸値の検討. 第 45 回日本小児神経学会, 福岡
39. 吉田由香, 安原昭博, 鈴川純子, 吉村 健, 室田卓之 (2003) 糖尿病の発症を契機に発見された腎尿路奇形の 1 症例. 第 37 回日本小児内分泌学会, 札幌
40. 大橋 敦, 北村直行, 辰巳貴美子, 辻 章志, 竹安晶子, 木下 洋, 小林陽之助 (2003) 原疾患の異なる新生児遷延性肺高血圧症に対する一酸化窒素吸入療法の使用経験. 第 16 回近畿小児科学会, 高槻
41. 木下 洋 (2003) 日常よくみかける子供の病気. 守口市医師会学術講演会, 守口
42. 木下 洋 (2003) 母親のウイルス感染症と子供の病気. 第 31 回守口門真外来小児科勉強会, 守口
43. 木下 洋 (2003) 新生児仮死の蘇生の実際. 平成 15 年度第 2 回周産期医療研修会, 大阪
44. 木野 稔, 石崎優子, 服部祐子, 中野景司, 崔 信明, 奥田晃司, 藤本雅之, 村上貴孝, 囿府寺 美, 中野博光 (2003) 小児科専門病院における常勤心理士の役割とその意義. 第 106 回日本小児科学会, 福岡
45. 木野 稔, 中野景司, 服部祐子, 崔 信明, 奥田晃司, 藤本雅之, 村上貴孝, 囿府寺美, 中

- 野博光 (2003) 小児救急医療における観察入院制度の意義. 第 17 回日本小児救急医学会, さいたま
46. 崔 信明, 囡府寺 美, 中野景司, 服部祐子, 奥田晃司, 村上貴孝, 木野 稔 (2003) 急性期疾患で入院中に貧血を呈した乳児例の検討. 第 157 回大阪小児科学会, 大阪
47. 鈴川純子, 安原昭博 (2003) 14 歳の百日咳の 1 例 てんかんと間違えた? 第 34 回枚方・交野小児懇話会, 寝屋川
48. 中野崇秀, 藤本幸子, 野田幸弘 (2003) 急激な経過をたどった肝原発 malignant rhabdoid tumor の 1 例. 第 40 回小児がんカンファレンス, 大阪
49. 中野崇秀 (2003) t (6;9) (p23;q34) を伴う急性骨髄性白血病 (M5b) の 1 男児例 DEK/CAN mRNA の検索. 第 38 回小児がんカンファレンス, 大阪
50. 中野崇秀 (2003) 先天性脳腫瘍 (immature teratoma) の 1 症例. 第 38 回小児がんカンファレンス, 大阪
51. 中野崇秀 (2003) 化学療法中に多彩な副作用を認め治療中止となったが寛解を維持している t (4:11) (q21;q23) ALL の 1 症例. 難治性白血病研究会, 大阪
52. 蓮井正史, 生方公子, 原田佳明, 今井雄一郎, 野田令子, 池本裕実子, 小林陽之助 (2003) PCR 法が診断に有用であった細菌性髄膜炎の 1 症例. 第 16 回近畿小児科学会, 高槻
53. 藤井喜充, 寺口正之, 池本裕実子, 野木俊二, 今村洋二, 小林陽之助 (2003) 右肺動脈近位部欠損・動脈管開存・高度左肺高血圧の 1 乳児例. 第 17 回日本小児循環器学会近畿・中四国地方会, 大阪
54. 藤井喜充, 岡本真由美, 寺口正之, 小林陽之助 (2003) 多彩な肝胆道系の病変をきたした川崎病の 1 例. 第 27 回近畿川崎病研究会, 大阪
55. 安原昭博, 鈴川純子, 吉田由香, 吉村 健, 堀 あいこ (2003) クロバザムの著効した CSWS の姉妹例. 第 28 回大阪てんかん学会, 大阪
56. 安原昭博 (2003) 成長障害を示した歌舞伎役者様顔貌症候群・ターナー症候群の 1 例. 第 34 回枚方・交野小児懇話会, 寝屋川
57. 吉田由香, 安原昭博 (2003) 在宅人工呼吸に移行した Beals 症候群の 1 例. みなさんよろしくをお願いします. 第 34 回枚方・交野小児懇話会, 寝屋川
58. 吉村 健, 安原昭博 (2003) 麻疹が疑われたメイアクトの薬疹例. テグレートルの薬疹と思われたのだけど. 第 34 回枚方・交野小児懇話会, 寝屋川
59. 小寺史子, 宗行正敏, 須藤博明, 園田典明 (2003) 浴槽浮き輪による溺水の 2 乳児例. 第 17 回日本小児救急医学会, さいたま
60. 小寺史子, 高屋淳二, 東野博彦 (2003) 性線抑制療法中に大腿骨頭すべり症を合併した鞍上部くも膜嚢胞術後の中枢性思春期早発症の 1 男児例. 第 37 回日本小児内分泌学会, 札幌
61. 小寺史子, 東野博彦, 山内康雄, 末原 洋, 小林陽之助 (2003) 性腺抑制療法中に大腿骨頭すべり症を合併した鞍上部くも膜嚢胞術後思春期早発症の 1 男子例. 第 33 回発育異常研究会, 大阪
62. 中野景司, 服部祐子, 奥田晃司, 崔 信明, 藤本雅之, 村上貴孝, 囡府寺 美, 木野 稔, 中野博光, 稲垣隆介 (2003) 副鼻腔炎に合併した硬膜外膿瘍の 1 男児例. 第 16 回近畿小児科学会, 高槻
63. 磯崎夕佳, 蓮井正史, 佐々木万弓, 喜多俊二, 今井雄一郎, 藤井喜充, 野田令子, 小林陽之助 (2003) 慢性肉芽腫症の腎病変 腎機能障害を伴った 2 症例. 第 35 回日本小児腎臓病学会, 東京
64. 磯崎夕佳, 蓮井正史, 野田令子, 東野博彦, 小寺史子, 野田幸弘, 木野 稔, 小林陽之助 (2003) 反復腎生検で前回の瘢痕組織の影響がみられたと思われる IgA 腎症の 1 症例. 第 106 回日本小児科学会, 福岡
65. 江口博美, 乾 敏郎, 吉田千里, 片山正寛, 堀 あいこ, 安原昭博 (2003) バイオロジカルモーションの認知発達. 第 67 回日本心理学会, 東京
66. 金田智絵, 田中由美子, 榎本良江, 北村直行, 木下 洋, 稲垣隆介, 山内康雄 (2003) NICU における脊髄髄膜瘤患児のラテックスアレルギー発症予防への取り組み. 第 20 回日本二分脊椎学会, 名古屋
67. 杉山由利子, 安原 昭博 (2003) 高機能自閉症児に対する音楽劇の役割. 第 2 回日本音楽療

法学会, 西宮

68. 竹安晶子 (2003) 当院 NICU における NeoBar (TM) の使用経験について. 第 5 回新生児呼吸療法モニタリングフォーラム, 白馬
69. 徳原克治, 濱田吉則, 渡邊健太郎, 棚野晃秀, 高田晃平, 大橋 敦, 北村直行, 木下 洋 (2003) 汎発性腹膜炎, 羊水過少を併発した重複水腫症を伴う cloaca 遺残症の 1 例. 第 39 回日本新生児学会, 福島
70. 長濱輝代, 豆板律子, 金谷弘美, 杉村省吾, 石崎優子, 村上貴孝, 囃府寺 美, 木野 稔, 中野博光 (2003) 多動や集中力のなさを主訴として受診した児の最終診断について 最近 10 年の変遷. 第 21 回日本小児心身医学会, つくば
71. 原田佳明 (2003) 小児科医療の歴史と現状. 第 43 回医学史研究会, 寝屋川
72. 土方康世, 安原昭博, 吉田由香, 日比野健 (2003) WTTC 加霊芝, 梅寄生のアトピー性皮膚炎への効果. 第 20 回和漢薬医学会, 熊本
73. 土方康世, 安原昭博, 吉田由香 (2003) Epstein-Barr virus, Varicera-Zoster virus 慢性感染症に対する生薬の効果. 第 54 回東洋医学会, 福岡
74. 藤田安奈, 木下 洋, 大橋 敦, 北村直行, 辰巳喜美子, 辻 章志, 竹安晶子, 伊藤太一, 畑埜泰子 (2003) 日齢 2 から高熱が持続した新生児腎性尿崩症の 1 例. 第 48 回日本未熟児新生児学会, 前橋
75. 三宅 岳, 濱田吉則, 渡邊健太郎, 徳原克治, 棚野晃秀, 高田晃平, 田中智子, 野田幸弘, 中野崇秀, 木下 洋 (2003) 新生児仙尾部神経芽腫の 1 例. 第 39 回日本新生児学会, 福島
76. 村上貴孝, 中野博光 (2003) 初回熱性痙攣における HHV 6,7 感染症の関係に関する検討. 第 45 回日本小児神経学会, 福岡
77. 村上貴孝 (2003) 症候性てんかんに対する Clobazam の効果. 第 37 回日本てんかん学会, 仙台
78. 村上貴孝, 中野景司, 服部祐子, 崔 信明, 奥田晃司, 藤本雅之, 囃府寺 美, 木野 稔, 中野博光 (2003) 小児急性疾患へのクリティカル・パスの適用 第 1 報: バリアンスの検討. 第 53 回日本病院学会, 大阪
79. 山村幸代, 位田 忍, 吉村文一, 中長利子 (2003) 胎児治療を行った, 胎児甲状腺腫性甲状腺機能低下症 3 例の経過. 第 37 回日本小児内分泌学会, 札幌
80. Yang L, Omori K, Otani H, Suzukawa J and Inagaki C (2003) 培養ラット海馬神経細胞におけるアンモニア誘発アポトーシスの GABAC 受容体刺激を介した抑制. 第 26 回日本神経科学学会, 名古屋
81. 今井雄一郎, 池本裕実子, 寺口正之, 小林陽之助 (2003) 孤立性左室心筋緻密化障害の 1 乳児例. 第 13 回関西小児心筋症研究会, 和泉
82. 今井雄一郎, 池本裕実子, 寺口正之, 東野博彦, 藤田安奈, 蓮井正史, 木野 稔, 小林陽之助 (2003) 下痢を伴う溶血性尿毒症症候群の 2 症例. 経時的にみた心エコー所見の検討. 第 16 回近畿小児科学会, 高槻
83. 今井雄一郎, 池本裕実子, 寺口正之 (2003) 孤立性左室心筋緻密化障害の 1 乳児例. 第 41 回大阪小児循環器談話会, 大阪
84. 奥田晃司, 小池宣之, 服部祐子, 崔 信明, 藤本雅之, 村上貴孝, 囃府寺美, 木野 稔, 中野博光, 岡本健治 (2003) Wilson-Mikity 症候群と考えられた成熟児例. 第 16 回近畿小児科学会, 高槻
85. 大戸起久男, 藪田研介, 村上貴孝, 囃府寺美, 木野 稔 (2003) 地域医療連携を目的とした検査状況の公開. 第 5 回近畿外来小児科研究会, 大阪
86. 梶本心太郎, 田中孝也, 平川昭彦, 松尾信昭, 中谷壽男, 小林陽之助 (2003) タンザニアにおける診療研修報告. 第 119 回関西医科大学学術集談会, 守口
87. 喜多俊二, 辻 美代子, 卯西 元 (2003) 硫酸アトロピン静注療法を行った肥厚性幽門狭窄の 1 例. 第 27 回大阪市東部小児科談話会, 大阪
88. 木全貴久, 寺口正之, 野田幸弘, 池本裕実子, 荒木 敦, 小林陽之助 (2003) 在宅人工呼吸療法を行っている GM1 gangliosidosis に合併した拡張型心筋症の 1 例. 第 16 回近畿小児循環器 HOT 研究会, 大阪
89. 服部祐子, 石崎優子, 中野景司, 奥田晃司, 崔 信明, 藤本雅之, 村上貴孝, 囃府寺 美, 木野 稔, 中野博光 (2003) 代理によるミュンヒハウゼン症候群の辺縁疾患と考えられた 1



例・第16回近畿小児科学会,高槻

90. 藤田安奈,大橋 敦,木下 洋,小林陽之助 (2003) 早期のCHDFが奏効したメチルマロン酸血症の1新生児例.第16回近畿小児科学会,高槻
91. 藤田安奈,大橋 敦,高屋淳二,木下 洋,小林陽之助 (2003) 不明熱と高ナトリウム血症の持続とを契機に発見された腎性尿崩症の1新生児例.第157回大阪小児科学会,大阪
92. 村上貴孝,藤本雅之,中野景司,服部祐子,崔信明,奥田晃司,園府寺 美,木野 稔,中野博光 (2003) Clobazan が著効した細菌性髄膜炎後の症候性部分てんかん.第16回近畿小児科学会,高槻
93. 村上貴孝 (2003) てんかん児の日常生活におけるリスクと生活指導について.第44回大阪てんかん研究会,大阪
94. 山村幸代,川井正信,吉村文一,里村憲一,位田 忍 (2003) 耐等能異常を呈したPrader-Willi症候群の3症例.第18回近畿小児内分泌研究会,大阪
95. 山村幸代 (2003) 低リン性ビタミンD抵抗性クル病の1女児例.第16回近畿小児科学会,高槻
96. 渡邊健太郎,濱田吉則,徳原克治,棚野晃秀,高田晃平,上山泰男,北村直行,木下 洋 (2003) 脾臓に被膜形成不全を伴った新生児特発性乳び腹水の1例.第50回小児外科わからん会,大阪

#### 著 書

1. Ishizaki Y, Ishizaki T, Kobayashi Y, Ozawa K, Nagahama T, Hattori Y, Kino M, Nakano H (2003) Social factors associated with the psychosocial relationships between Japanese parents and their children — A comparison of Japanese residents in rural Japan with overseas Japanese temporary residents or Japanese residents in urban Japan. Trends in Social Psychology (John Z Arlsdale ed) pp 1-15, Nova Publishers, NY, USA
2. 「小児心身症対策の推進に関する研究班」(小林陽之助,石崎優子,深井善光含む):(2002) 子どもの心の健康問題 ハンドブック.(平成14年度厚生科学研究(子ども家庭総合事業)) 「小児心身症対策の推進に関する研究班」(主任研究者:小林陽之助)) 1-143 頁
3. 石崎優子 (2003) 診断.よくわかる子どもの心身症(星加明徳・宮本信也編) 41-52 頁,永井書店,大阪
4. 木下 洋 (2003) 4. 新生児疾患.壊死性腸炎(NEC).今日の治療指針第13版第1刷(大関武彦,古川 斬,横田俊一郎編) 121-122 頁,医学書院,東京
5. 木下 洋 (2003) III部 新生児編 3・特有な症候の鑑別診断 73.低体温,発熱.コア・ローテーション小児科(眞弓光文,亀山順治,寺澤秀一編) 239-241 頁,金芳堂,京都
6. 木下 洋 (2003) 新生児肝炎.医学書院医学大辞典(伊藤正男,井村裕夫,高久史磨編) 1264-1264 頁,医学書院,東京
7. 木下 洋 (2003) 新生児感染症.医学書院医学大辞典(伊藤正男,井村裕夫,高久史磨編) 1264-1264 頁,医学書院,東京
8. 木下 洋 (2003) 新生児寒冷障害.医学書院医学大辞典(伊藤正男,井村裕夫,高久史磨編) 1264-1264 頁,医学書院,東京
9. 木下 洋 (2003) 新生児偽性腸閉塞.医学書院医学大辞典(伊藤正男,井村裕夫,高久史磨編) 1264-1264 頁,医学書院,東京
10. 木下 洋 (2003) 新生児機能性イレウス.医学書院医学大辞典(伊藤正男,井村裕夫,高久史磨編) 1264-1264 頁,医学書院,東京
11. 木下 洋 (2003) 新生児筋緊張症.医学書院医学大辞典(伊藤正男,井村裕夫,高久史磨編) 1264-1264 頁,医学書院,東京
12. 木下 洋 (2003) 新生児クラミジア感染症.医学書院医学大辞典(伊藤正男,井村裕夫,高久史磨編) 1264-1264 頁,医学書院,東京
13. 木下 洋 (2003) 新生児痙攣.医学書院医学大辞典(伊藤正男,井村裕夫,高久史磨編) 1264-1265 頁,医学書院,東京
14. 木野 稔 (2003) 超音波検査.外来小児科初診の心得 21 か条(絹巻 宏,熊谷直樹編) 186-193 頁,医学書院,東京
15. 杉本健郎 (2003) 子どもの脳が水でパンパン・ライ症候群と急性脳症.小児疾患のとなえかた・眼でみるベッドサイドの病態生理(別所文雄,水谷修紀,松井 陽,榎原洋一編) 181-195 頁,文光堂,東京

16. 杉本健郎 (2003) 脊髄炎 (横断性脊髄炎). 今日の治療指針第13版第1刷(大関武彦,古川 斬,横田俊一郎編)449-450頁,医学書院,東京
17. 杉本健郎 (2003) 子どもの脳死・移植. 子どもの脳死・移植. 1-183頁,クリエイツかもがわ,京都
18. 杉本健郎 (2003) 小児脳死移植は認めるべきか. 日本の論点2004(文藝春秋)580-583頁,文藝春秋,東京
19. 安原昭博 (2003) 脳梗塞. 今日の治療指針第13版第1刷(大関武彦,古川 斬,横田俊一郎編)463-464頁,医学書院,東京
20. 「小児心身症対策の推進に関する研究班」(小林陽之助,石崎優子,深井善光含む):(2003)平成15年度版子ども心の健康問題ハンドブック.平成15年度版子ども心の健康問題ハンドブック(平成15年度厚生科学研究(子ども家庭総合事業))「小児心身症対策の推進に関する研究」班(主任研究者:小林陽之助)1-148頁

## 外科学講座

### 研究業績

#### 原著

1. Hamada Y, Takada K, Fukunaga S and Hioki K (2003) Hepatoblastoma associated with Beckwith-Wiedemann syndrome and hemihypertrophy. *Pediatr Surg Int* 19: 112-114
2. Kwon AH, Matsui Y, Inui H, Imamura A and Kamiyama Y (2003) Laparoscopic treatment using an argon beam coagulator for nonparasitic liver cysts. *Am J Surg* 185: 273-277
3. Kwon AH, Matsui Y, Satoi S, Kaibori M and Kamiyama Y (2003) Prevention of pleural effusion following hepatectomy using argon beam coagulation. *Br J Surg* 90: 302-305
4. Kwon AH, Inui H, Yoshida K, Kaibori M and Kamiyama Y (2003) Pancreatic islet preservation at temperatures just above the freezing point. *Transplant Proc* 35: 480-482
5. Takai S, Satoi S, Toyokawa H, Yanagimoto Y, Sugimoto N, Tsuji K, Araki H, Matsui Y, Imamura A, Kwon AH and Kamiyama Y (2003) Clinicopathologic Evaluation After Resection for Ductal Adenocarcinoma of the Pancreas: A Retrospective, Single-Institution Experience. *Pancreas* 26: 243-249
6. Kaibori M, Matsui Y, Kitade H, Kwon A-H and Kamiyama Y (2003) Hepatic Resection for Hepatocellular Carcinoma in Severely Cirrhotic Livers. *Hepato-Gastroenterology* 50: 491-496
7. Kaibori M, Yokoigawa N, Yanagida H, Nagahama T, Kwon AH, Kamiyama Y and Okumura T. (2003) Effect of exogenously administered HGF activator in liver regeneration. *Transplant Proc* 35: 439-440
8. Kaibori M, Nagahama T, Yokoigawa N, Yanagida H, Nakamoto H, Kitade H, Satoi S, Onishi S, Kwon AH and Kamiyama Y (2003) Refractoriness to Platelet Transfusion following Partial Hepatectomy for Hepatocellular Carcinoma: Report of Two cases. *Hepato-Gastroenterology* 50: 832-836
9. Kaibori M, Matsui Y, Kitade H, Kwon AH and Kamiyama Y (2003) Hepatic resection for hepatocellular carcinoma in severely cirrhotic livers. *Hepato-gastroenterology* 50: 491-496
10. Kaibori M, Kwon AH, Teshima S, Nakanishi H, Kitano T, Kamiyama Y and Okumura T (2003) Hepatocyte growth factor inhibits insulin-stimulated glycogen synthesis in primary cultured hepatocytes. *J Hepatol* 38: 407-413
11. Yamamoto D, Senzaki H, Nakagawa H, Okugawa H, Gondo H and Tanaka K (2003) Detection of Chromosomal Aneuploidy by Fluorescence In Situ Hybridization for Patients with Nipple Discharge. *Cancer* 97: 690-694
12. Yamamoto D, Yamada M, Okugawa H and Tanaka K (2003) A comparison between electrocautery and scalpel plus scissor in breast conserving surgery. *Oncology Reports* 10: 1729-1732
13. Toyokawa H, Matsui Y, Uhara J, Tsuchiya H,

- Teshima S, Nakanishi H, Kwon AH, Azuma Y, Nagaoka T, Ogawa T and Kamiyama Y (2003) Promotive effects of far-infrared ray on full-thickness skin wound healing in rats. *Exp Biol Med* 50: 724-729
14. Yamamoto H, Maetani Y, Kiuchi T, Ito T, Kaihara S, Egawa H, Itoh K, Kamiyama Y and Tanaka K (2003) Background and Clinical Impact of Tissue Congestion in Right-Lobe Living-Donor Liver Grafts: A Magnetic Resonance Imaging Study. *Transplantation* 76: 164-169
15. Sakamoto J, Morita S, Yumiba T, Narahara H, Kinoshita K, Nakane Y, Imamoto H and Shiozaki H (2003) A Phase II Clinical Trial to Evaluate the Effect of Paclitaxel in Patients with Ascites Caused by Advanced or Recurrent Gastric Carcinoma: a New Concept of Clinical Benefit Response for Non-measurable Type of Gastric Cancer. *Jpn J Clin Oncol* 33: 238-240
16. Tu W, Sato S, Zhang Z, Kitade H, Okumura T, Kwon A-H and Kamiyama Y (2003) Hepatocellular Dysfunction Induced by Nitric Oxide Production in Hepatocytes Isolated From Rats with Sepsis. *Shock* 19: 373-377
17. 中根恭司 (2003) 再建法. 2002年度後期日本消化器外科学会教育集会 7-15
18. 中根恭司, 桜本和人, 中野誠人, 渡辺健太郎 (2003) イレウス 特に機械的イレウスについて. *消化器外科スタッフマニュアル* 426-432
19. 中根恭司, 道浦 拓, 三宅 岳, 馬殿徹也, 中井宏治, 井上健太郎, 佐藤睦哉, 奥村俊一郎, 山道啓吾 (2003) 胃全摘後の再建法 貯留および排出能の確保 胃全摘後の空腸パウチ (食道側) 間置再建術式. *消外* 26: 169-173
20. 浜田吉則, 北川克彦, 中井宏治, 渡辺健太郎, 棚野晃秀, 徳原克治, 高田晃平, 上山泰男, 加藤泰規, 竹中 温, 日置紘士郎 (2003) QOLを高める栄養療法 癌と栄養療法. *静脈経腸栄養* 18: 17-23
21. 吉岡和彦, 米倉康博, 岩本慈能, 森田美佳, 上山泰男 (2003) 肛門手術の術後障害とその対策. *外科治療* 89: 679-682
22. 田中完児, 山本大悟, 田中義人, 上山泰男 (2003) 非触知微細石灰化乳腺病変に対するステレオガイド下マンモトーム生検の検討. *日臨外会誌* 64: 2967-2969
23. 山道啓吾 (2003) 食道癌に対する術前化学放射線療法. *日気食会誌* 54: 117-119
24. 上原正憲, 長谷川健司, 高橋完治, 田川豊秋, 小松邦志, 浦元智司, 木寺摩美 (2003) 脳室腹腔髄液シャント術後にシャントチューブが横行結腸に穿通した1例. *外科* 65: 239-241
25. 佐藤正人, 棚野晃秀, 高田晃平, 浜田吉則 (2003) VP shunt revision における腹腔鏡手術の有用性. *日小児外会誌* 39: 603-606
26. 海堀昌樹, 田上修司, 内田洋一朗, 尾崎 岳, 柳田英佐, 横井川規巨, 川口雄才, 権 雅憲, 上山泰男 (2003) 肝内胆管肉腫様癌の1例. *日臨外会誌* 64 (増): 1003 (P-1551)
27. 海堀昌樹, 権 雅憲, 柳田英佐, 上山泰男, 奥村忠芳 (2003) 肝臓の糖質および脂質代謝におよぼす肝細胞増殖因子 (HGF) の影響. *外科と代謝・栄* 37: 239-245
28. 里井壯平, 松井陽一, 北出浩章, 山本栄和, 海堀昌樹, 大久保遊平, 山本智久, 高井惣一郎, 権 雅憲, 上山泰男 (2003) 肝細胞癌に対するmicrocave凝固療法を用いた肝切除術 根治切除症例の検討. *J Microwave Surg* 21: 53
29. 柳田英佐, 海堀昌樹, 横井川規巨, 権 雅憲, 上山泰男 (2003) 胆嚢原発 MALT リンパ腫の1例. *手術* 57: 1290-1294
30. 柳田英佐, 海堀昌樹, 横井川規巨, 奥村忠芳, 権 雅憲, 上山泰男 (2003) 会議録 HGF activator による肝部分切除後の肝再生促進効果. *日外会誌* 104 (臨増): 232
31. 柳本泰明, 里井壯平, 小池保志, 寺川直良, 川口雄才, 高井惣一郎, 権 雅憲, 上山泰男 (2003) 術後 sepsis に併発した急性肺障害に対し血液浄化療法で救命し得た3例. *日腹部救急医会誌* 23: 837-842
32. 徳原克治, 浜田吉則, 渡辺健太郎, 棚野晃秀, 高田晃平, 佐藤正人, 中野景司, 木野 稔, 上山泰男 (2003) 巨大腸間膜リンパ管腫に対し腹腔鏡補助下嚢腫全摘術と硬化療法を併用した1例. *日小児外会誌* 39: 970-975
33. 河 相吉, 米虫 敦, 谷川 昇, 澤田 敏, 海堀昌樹, 上山泰男 (2003) 99mTc-GSA による生体肝移植前後の肝機能評. *薬理と治療*

31suppl. S53-S57

## 学会発表

1. Kwon A-H, Kaibori M, Imamura A and Kamiyama Y (2003) Prevention of Pleural Effusion after Hepatectomy Using Argon Beam Coagulation. 5th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association, Tokyo
2. Takai S, Sato S, Yanagimoto Y, Araki H, Kwon A-H and Kamiyama Y (2003) Surgical Experiences in Patients with Locally Advanced Pancreatic Cancer Following Preoperative Chemoradiation. European Society for Surgical Research(ESSR), Belgium
3. Imamura A, Nakamoto H, Ozaki T, Tanaka H, Yamada H and Kamiyama Y (2003) A case of infrarenal AAA complicated by persistent endotensin after endovascular repair treated by retroperitoneal endoscopic and endovascular procedures. International Endovascular Laparoscopic Congress, Canada
4. Kitade H, Kawai M, Koshiba T, Overbergh L, Giulietti A, Waer M, Mathieu C and Pirenne J (2003) Nature, generation and expansion of regulatory cells: requirements, compartments involved and timing in transplant tolerance, Annual Meeting of the Belgian Transplantation Society, Brussels
5. Kitade H, Kawai M, Koshiba T, Overbergh L, Giulietti A, Van Damme B, Waer M, Mathieu C and Pirenne J (2003) Significance of early IFN- $\gamma$  upregulation in cardiac allografts of rats rendered tolerant by donor specific blood transfusion. Annual Meeting of the Belgian Transplantation Society, Brussels
6. Kitade H, Kawai M, Koshiba T, Mathieu C, Waer M and Pirenne J (2003) Requirements, compartment involved and timing for development of regulatory cells. 38th Meeting of the European Society for Surgical Research, Belgium
7. Kitade H, Kawai M, Koshiba T, Mathieu C, Waer M and Pirenne J (2003) IFN- upregulation in tolerized cardiac allografts: a friend or an enemy. 38th Meeting of the European Society for Surgical Research, Belgium
8. Kitade H, Kawai M, Koshiba T, Mathieu C, Waer M and Pirenne J (2003) IFN- upregulation in tolerized cardiac allografts: a friend or an enemy. 38th Meeting of the European Society for Surgical Research, Belgium
9. Kaibori M, Yanagida H, Uchida Y, Yokoigawa N, Kwon A-H, Okumura T and Kamiyama Y (2003) Pirfenidone Protects Endotoxin-induced Liver injury after Hepatic Ischemia in Rats. 8th CAST Congress of the Asian Society of Transplantation, Kuala Lumpur, Malaysia
10. Kaibori M, Yanagida H, Yokoigawa N, Hijikawa T, Kwon A-H, Okumura T and Kamiyama Y (2003) Effect of Pirfenidone on Endotoxin-induced Liver injury after Partial Hepatectomy in Rats. 8th CAST Congress of the Asian Society of Transplantation, Kuala Lumpur, Malaysia
11. Kaibori M, Yanagida H, Nakanishi H, Yokoigawa N, Kwon A-H, Okumura T and Kamiyama Y (2003) Effect of Hepatocyte Growth Factor on Induction of Cytokine-Induced Neutrophil:1 Chemoattractant in Rat Hepatocytes. 8th CAST Congress of the Asian Society of Transplantation, Kuala Lumpur, Malaysia
12. Kaibori M, Yanagida H, Yokoigawa N, Kwon A-H, Okumura T and Kamiyama Y (2003) Effect of Pirfenidone on induction of chemokines in Rat Hepatocytes. 8th CAST Congress of the Asian Society of Transplantation, Kuala Lumpur, Malaysia
13. Sato S, Matui Y, Kitade H, Yamamoto H, Terakawa N, Takai S, Kawaguchi Y, Kwon A-H and Kamiyama Y (2003) Clinical Impact of Non-Anatomical Liver Resection followed by functional food Intake on The HCC Patient. 1th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Brasil Association, Rio de Janeiro-Brasil
14. Sato S, Kamiyama Y, Matsui Y, Yanagimoto H, Yamamoto T, Takai S and Kwon A-H (2003) Clinical Outcome of 214 Liver Resections Using

- Microwave Tissue Coagulation. European Liver Transplantation Association, Birmingham England
15. Nakai K, Hamada Y, Kato Y, Kitagawa K, Habara K, Yamada Y, Kamiyama Y and Okumura T (2003) Two way methods of glucose absorption test after small bowel transplantation on rats. VIII International Small Bowel Transplant Symposium, Florida USA
  16. Nakai K, Kitagawa K, Hamada Y, Habara K, Yamada M, Okumura T and Nakane Y (2003) EGF stimulated the graft function after small bowel transplantation on rats. 第25回 ESPEN, Cannes, France
  17. Nakai K, Nakane Y, Inoue K, Habara K, Ueda S, Michiura T, Sato M, Okumura S and Yamamichi K (2003) Evaluation for sentinel node navigation surgery of early gastric cancer using ICG method. 第5回国際胃癌学会, Roma, Italy
  18. Yamamoto H, Kiuchi T, Kamiyama Y and Tanaka K (2003) Changes in Portal Venous Pressure in the early phase after adult living donor liver transplantation: Background and Clinical Implications. Rio de Janeiro-Brasil, Rio de Janeiro-Brasil
  19. Yanagimoto Y, Takai S, Toyokawa H, Satoi S, Kwon AH and Kamiyama Y (2003) Neoadjuvant Therapy of Advanced Pancreatic Cancer: Is Radiochemotherapy Immunologically Effective?. European Society for Surgical Research(ESSR), Belgium
  20. Terakawa N, Satoi S, Takai S, Ozaki S, Kwon AH and Kamiyama Y (2003) Clinicopathologic Features of Cholangiocellular Carcinoma in Patients with Hepatitis C Virus. European Society for Surgical Research(ESSR), Belgium
  21. Terakawa N, Satoi S, Takai S, Yamamoto H, Yamada H, Fukui J, Yamaki S, Iwaki R, Kwon A-H and Kamiyama Y (2003) Clinical Effects of Underlying type C Hepatitis on Surgical Treatment of Patients with Cholangiocellular Carcinoma. 11th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association, Rio de Janeiro-Brasil
  22. 畑 堃武彦, 佐藤正人, 八木清貴, 配島弘真 (2003) 腹腔鏡下直腸固定術における一工夫. 第58回日本消化器外科学会, 東京
  23. 中根恭司 (2003) 再建法. 2002年度後期日本消化器外科学会教育集会, 大阪
  24. 中根恭司, 道浦 拓, 三宅 岳, 小松優治, 馬殿徹也, 中井宏治, 井上健太郎, 佐藤睦哉, 奥村俊一郎, 山道啓吾 (2003) RI 胃排出試験を用いた幽門保存胃切除術 (PPG) 後の機能評価. 第75回日本胃癌学会総会, 東京
  25. 中根恭司 (2003) 神経温存の手術手技 胃. 第57回手術手技研究会, 大阪
  26. 中根恭司, 道浦 拓, 三宅 岳, 馬殿徹也, 中井宏治, 井上健太郎, 佐藤睦哉, 奥村俊一郎, 山道啓吾 (2003) 胃全摘後の再建法として空腸 pouch(食道側) 間置法は有用か? 第103回日本外科学会定期学術集会, 札幌
  27. 中根恭司, 道浦 拓, 三宅 岳, 小松優治, 中井宏治, 佐藤睦哉, 井上健太郎, 山道啓吾 (2003) 噴門側切除後の再建法 - 幽門形成は必要か? 第58回日本消化器外科学会, 東京
  28. 中根恭司 (2003) 胃全摘術の再建法として, pouch の機能の長期成績は良好ですか? 第33回胃外科・術後障害研究会, 金沢
  29. 浜田吉則, 渡辺健太郎, 徳原克治, 棚野晃秀, 高田晃平, 佐藤正人 (2003) 膵胆管合流異常症における画像診断法の現状. 第40回日本小児外科学会総会, 京都
  30. 吉岡和彦, 中野雅貴, 岩本慈能, 米倉康博, 森田美佳 (2003) Dynamic graciloplasty により患者は何を失い何をを得るか? 第103回日本外科学会定期学術集会, 札幌
  31. 吉岡和彦, 中野雅貴, 米倉康博, 岩本慈能, 森田美佳 (2003) 下部直腸癌に対する dynamic graciloplasty による会陰部新肛門の造設. 第58回日本消化器外科学会, 東京
  32. 権 雅憲, 松井陽一, 海堀昌樹, 里井壯平, 今村 敦, 高井惣一郎, 上山泰男 (2003) 残存肝のアシアロ糖蛋白受容体量を指標とした肝切除術式の選択. 第15回肝胆膵外科学会, 金沢
  33. 権 雅憲, 邱 澤雨, 海堀昌樹, 上山泰男 (2003) D- ガラクトサミン /LPS 誘発エンドトキシシンショックにおけるフィブロネクチンの生体保護効果. 第58回日本消化器外科学会総

- 会, 東京
34. 山中英治, 羽原弘造, 伊藤達雄, 小柴孝友, 今田世紀, 小切匡史 (2003) 急性期病院の外科におけるクリニカルパスの役割の実証. 第103回日本外科学会定期学術集会, 札幌
  35. 山中英治, 羽原弘造, 伊藤達雄, 今田世紀, 小柴孝友, 小切匡史 (2003) クリニカルパスによる根拠のある消化器癌周術期管理と効果. 第58回日本消化器外科学会, 東京
  36. 高井惣一郎, 里井壯平, 豊川秀吉, 柳本泰明, 杉本直俊, 辻 勝成, 寺川直良, 荒木 浩, 松井陽一, 権 雅憲, 高橋伯夫, 上山泰男 (2003) 浸潤性膵管癌切除例における臨床病理学的分析に基づいた集学的治療の検討. 第103回日本外科学会定期学術集会, 札幌
  37. 高井惣一郎, 里井壯平, 柳本泰明, 荒木 浩, 辻 勝成, 福井淳一, 寺川直良, 山本栄和, 松井陽一, 権 雅憲, 上山泰男 (2003) 当科における進行膵癌の治療戦略. 第34回日本膵臓学会大会, 千葉
  38. 山道啓吾, 道浦 拓, 馬殿徹也, 三宅 岳, 小松優治, 中井宏治, 井上健太郎, 浅井 晃, 中根恭司 (2003) 進行食道癌に対する集学的治療のあり方 特に術前化学療法について. 第57回日本食道学会学術集会, 京都
  39. 山道啓吾, 馬殿徹也, 浅井 晃, 道浦 拓, 三宅 岳, 中井宏治, 中根恭司 (2003) 胸部食道癌周術期におけるサイトカインおよびプロテアーゼインヒビターの変動とステロイド投与の影響. 第103回日本外科学会定期学術集会, 札幌
  40. 山道啓吾, 道浦 拓, 浅井 晃, 三宅 岳, 小松優治, 馬殿徹也, 中井宏治, 井上健太郎, 中根恭司 (2003) 術前化学放射線療法施行進行食道癌切除例における術後再発の検討. 第58回日本消化器外科学会, 東京
  41. 今村 敦, 中本博之, 斎藤隆道, 尾崎 岳, 田中宏典, 山田 斉, 上山泰男 (2003) 腹部大動脈瘤ステントグラフト留置後Endotensionにより瘤拡大を認め治療に難渋した1例. 第31回日本血管外科学会, 金沢
  42. 今村 敦, 中本博之, 斎藤隆道, 尾崎 岳, 田中宏典, 山田 斉, 奥野雅史, 上山泰男 (2003) Hostile abdomen を伴う腹部大動脈瘤患者に対するステントグラフト治療の有用性. 第65回日本臨床外科学会, 福岡
  43. 佐藤正人, 配島弘真, 八木清貴, 畑埜武彦 (2003) 先天性胆道拡張症に対する腹腔鏡補助下根治術. 第40回日本小児外科学会総会, 京都
  44. 佐藤正人, 浦岡美奈子, 杉本健郎, 畑埜武彦, 連 利博 (2003) 咽頭気管分離, 気管食道吻合の1例 QOLを考えて. 第39回日本小児外科学会近畿地方会, 大阪
  45. 佐藤正人, 徳原克治, 小切匡史 (2003) 腹腔鏡補助下癒着剥離術の1例 成人症例と比較して. PSJM2003 第23回日本小児外科手術手技・小児内視鏡手術研究会, 淡路島
  46. 元廣高之, 真田俊明, 森田美佳, 大道道大 (2003) 麻痺を有する鼠径ヘルニアの手術例の検討 - クリティカルパスを導入して. 第103回日本外科学会定期学術集会, 札幌
  47. 山田 斉, 今村 敦, 尾崎 岳, 田中宏典, 中本博之, 斎藤隆道, 上山泰男 (2003) 当科における腸骨動脈領域閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療. 第31回日本血管外科学会学術総会, 金沢
  48. 高田晃平, 佐藤正人, 桜本和人, 中野誠人, 渡辺健太郎, 徳原克治, 棚野晃秀, 浜田吉則 (2003) 腹腔鏡下 V-P シヤント留置術の検討. 第40回日本小児外科学会総会, 京都
  49. 海堀昌樹, 横井川規巨, 柳田英佐, 山本栄和, 北出浩章, 江川裕人, 田中紘一, 上山泰男 (2003) 抗 Fya 抗体保有レシビエントにおける生体部分肝移植術. 第39回日本移植学会総会, 大阪
  50. 海堀昌樹, 横井川規巨, 柳田英佐, 権 雅憲, 上山泰男 (2003) 肝切除後の再発肝細胞癌における予後因子の検討. 第62回日本癌学会総会, 名古屋
  51. 海堀昌樹, 松井陽一, 山本栄和, 柳田英佐, 横井川規巨, 肱川 健, 内田洋一朗, 田上修司, 権 雅憲, 上山泰男 (2003) 肝切除後再発肝細胞癌の予後因子の検討. 第58回日本消化器外科学会総会, 東京
  52. 海堀昌樹, 柳田英佐, 中西英樹, 山田正法, 羽原弘造, 上山泰男, 奥村忠芳 (2003) ラット初代培養肝細胞における HGF の CINC 発現誘導. 第10回肝細胞研究会, 東京

53. 海堀昌樹, 柳田英佐, 中西英樹, 上山泰男, 奥村忠芳(2003) Effect of hepatocyte growth factor on the induction of cytokine-induced neutrophil chemoattractant in primary cultures of rat hepatocytes. 第76回日本生化学会, 横浜
54. 里井壯平, 高井惣一郎, 豊川秀吉, 柳本泰明, 寺川直良, 廣岡 智, 松井陽一, 權 雅憲, 上山泰男(2003) 膵癌患者における末梢血樹状細胞を中心とした免疫モニタリングの有用性. 第103回日本外科学会定期学術集会, 札幌
55. 井上健太郎, 佐藤睦哉, 道浦 拓, 中井宏治, 奥村俊一郎, 山道啓吾, 中根恭司(2003) 関西医科大学第二外科の胃癌手術成績. 第75回日本胃癌学会総会, 東京
56. 井上健太郎, 山道啓吾, 森田美佳, 道浦 拓, 中井宏治, 佐藤睦哉, 中根恭司(2003) GISTs・Imatinib Therapyにおける維持療法の必要性を示唆する2症例. 第58回日本消化器外科学会, 東京
57. 池袋一哉, 浜田吉則, 池原 進(2003) 骨髄内骨髄移植(IBM-BMT)による免疫寛容誘導: ラット門脈内膵島移植を用いて. 第103回日本外科学会定期学術集会, 札幌
58. 豊島 茂, 中西英樹, 海堀昌樹, 山田正法, 羽原弘造, 中竹利知, 濱田吉則, 上山泰男, 奥村忠芳(2003) インターロイキン $1\beta$ による肝細胞の誘導型一酸化窒素合成酵素の誘導促進にはその受容体の増加が必要である. 第10回肝細胞研究会, 東京
59. 豊島 茂, 中西英樹, 北川克彦, 海堀昌樹, 權 雅憲, 上山泰男, 西澤幹雄, 伊藤誠二, 奥村忠義(2003) Up-regulation of interleukin 1 receptor through phosphatidylinositol 3-kinase is required for the induction of inducible nitric oxide synthase in hepatocytes. 第76回日本生化学会, 横浜
60. 中井宏治, 中根恭司, 上田創平, 道浦 拓, 井上健太郎, 佐藤睦哉, 山道啓吾, 山本 伸, 仲野俊成(2003) 当科におけるEMR後の胃切除例の検討. 第75回日本胃癌学会総会, 東京
61. 山本栄和, 里井壯平, 高井惣一郎, 米虫 敦, 谷川 昇, 寺川直良, 山本智久, 山尾 順, 松井陽一, 權 雅憲, 澤田 敦, 上山泰男(2003) 膵臓外科領域における Multidetector row CT (MDCT)の有用性. 第103回日本外科学会定期学術集会, 札幌
62. 棚野晃秀, 浜田吉則, 佐藤正人, 高田晃平, 徳原克治, 渡辺健太郎, 上山泰男(2003) 有茎空腸間置術後7年を経過したGrossA型食道閉鎖症の1例. PSJM2003 第23回日本小児外科手術手技・小児内視鏡手術研究会, 淡路島
63. 棚野晃秀, 浜田吉則, 徳原克治, 高田晃平, 佐藤正人, 片岡洋祐, 山田久夫(2003) Hirschsprung's病をはじめとする病的腸管における各種神経マーカー(PGP9.5, p75NGFRなど)の免疫組織学的所見について. 第40回日本小児外科学会総会, 京都
64. 北川克彦, 浜田吉則, 中井宏治, 加藤泰規, 伊藤誠二, 奥村忠芳(2003) ラット小腸上皮細胞におけるEGFの一酸化窒素産生誘導. 第103回日本外科学会定期学術集会, 札幌
65. 北川克彦, 浜田吉則, 中井宏治, 加藤泰規, 奥村忠芳(2003) EGFによるiNOS遺伝子の発現誘導とそのシグナル解析. 第15回日本小腸移植研究会, 京都
66. 横井川規巨, 稲葉隆明, 海堀昌樹, 小倉徳裕, 高田秀穂, 井上瑞江, 權 雅憲, 上山泰男, 中田 博(2003) 消化器癌患者末梢血単球のシクロオキシゲナーゼ-2の発現と血中 $\mu$ チン存在量の相関性について. 第62回日本癌学会総会, 名古屋
67. 横井川規巨, 海堀昌樹, 柳田英佐, 柳葉隆明, 奥村忠芳, 小倉徳裕, 高田秀穂, 權 雅憲, 上山泰男, 中田 博(2003)  $\mu$ チンによる担癌患者の単球/マクロファージのシクロオキシゲナーゼ-2の誘導. 第58回日本消化器外科学会総会, 東京
68. 柳本泰明, 高井惣一郎, 里井壯平, 豊川秀吉, 荒木 浩, 高橋完治, 寺川直良, 權 雅憲, 上山泰男(2003) 膵癌症例の放射線化学療法における免疫機能評価. 第34回日本膵臓学会大会, 千葉
69. 柳本泰明, 高井惣一郎, 里井壯平, 豊川秀吉, 高橋完治, 寺川直良, 權 雅憲, 上山泰男(2003) 膵癌患者における末梢血樹状細胞モニタリングの有用性. 第16回日本バイオセラピー学会集会総会, 富山
70. 柳本泰明, 豊川秀吉, 高井惣一郎, 里井壯平,

- 寺川直良, 小池保志, 田上修司, 権 雅憲, 上山泰男 (2003) 膵癌症例における放射線化学療法治療前後の免疫機能評価. 第 103 回日本外科学会定期学術集会, 札幌
71. 徳原克治, 浜田吉則, 高田晃平, 中野崇秀 (2003) JPLT91A2 を施行した新生児破裂性肝芽腫の 1 例. 日本小児肝臓スタディグループ (JPLT) 研究会 2003, 東京
  72. 徳原克治, 渡辺健太郎, 棚野晃秀, 高田晃平, 浜田吉則 (2003) 当科における小児緊急手術例の検討. 第 119 回関西医科大学学術集談会
  73. 徳原克治, 桜本和人, 棚野晃秀, 高田晃平, 佐藤正人, 浜田吉則 (2003) 巨大腸間膜リンパ管腫に対し腹腔鏡補助下嚢腫垂全摘術と硬化療法を併用した 1 例. 第 40 回日本小児外科学会総会, 京都
  74. 徳原克治, 浜田吉則, 渡辺健太郎, 棚野晃秀, 高田晃平, 大橋 敦, 北村直行, 木下 洋 (2003) 汎発性腹膜炎. 羊水過少を併発した重複水腫症を伴う Cloaca 遺残症の 1 例. 第 39 回日本新生児学会総会学術集会, 福島
  75. 徳原克治, 浜田吉則, 渡辺健太郎, 高田晃平, 上山泰男 (2003) 小児期に発見された肝左葉形成不全の 1 例. 第 39 回日本小児外科学会近畿地方会, 大阪
  76. 徳原克治, 浜田吉則, 渡辺健太郎, 高田晃平, 上山泰男 (2003) 術後癒着性腸閉塞に対する腹腔鏡下癒着剥離術の経験. PSJM2003 第 23 回日本小児外科手術手技・小児内視鏡手術研究会, 淡路島
  77. 道浦 拓, 三宅 岳, 小松優治, 中井宏治, 井上健太郎, 佐藤睦哉, 山道啓吾, 中根恭司 (2003) 空腸 pouch 造設再建術における逆流防止の工夫. 第 103 回日本外科学会定期学術集会, 札幌
  78. 道浦 拓, 三宅 岳, 小松優治, 中井宏治, 井上健太郎, 佐藤睦哉, 山道啓吾, 中根恭司 (2003) 再建法変更が有効であった胃切除後ダンピング症候群の 1 例. 第 58 回日本消化器外科学会, 東京
  79. 道浦 拓, 三宅 岳, 小松優治, 中井宏治, 井上健太郎, 浅井 晃, 山道啓吾, 中根恭司. (2003) 食道癌術後再発例の検討. 第 57 回日本食道学会学術集会, 京都
  80. 道浦 拓, 三宅 岳, 中井宏治, 井上健太郎, 佐藤睦哉, 山道啓吾, 中根恭司 (2003) 進行胃癌に対する術前 TS-1/CDDP 併用療法. 第 75 回日本胃癌学会総会, 東京
  81. 道浦 拓, 中根恭司, 中井宏治, 井上健太郎, 佐藤睦哉, 山道啓吾, 川口雄才, 上山泰男 (2003) Latarjet 神経温存噴門側胃切除術. 第 33 回胃外科・術後障害研究会, 金沢
  82. 高橋完治, 里井壯平, 高井惣一郎, 山本栄和, 米虫 敦, 谷川 昇, 松井陽一, 寺川直良, 山本智久, 大久保遊平, 権 雅憲, 澤田 敏, 上山泰男 (2003) MDCT による膵癌症例の術前評価. 第 15 回肝胆膵外科学会, 金沢
  83. 上田創平, 高田晃平, 徳原克治, 浜田吉則 (2003) 胎便性腹膜炎, 羊水過小を伴った Rectocoloacal fistula の 1 例. 第 49 回小児外科わからん会, 大阪
  84. 寺川直良, 里井壯平, 高井惣一郎, 豊川秀吉, 柳本泰明, 山本智久, 小宮山豊, 権 雅憲, 高橋伯夫, 上山泰男 (2003) 膵癌症例における低用量 LPS 刺激による全血 TNF $\alpha$  産生能の検討. 第 103 回日本外科学会定期学術集会, 札幌
  85. 寺川直良, 里井壯平, 高井惣一郎, 柳本泰明, 尾崎 岳, 山本智久, 山尾 順, 松井陽一, 権 雅憲, 上山泰男 (2003) 膵癌症例における免疫機能評価 LPS 刺激による全血 TNF $\alpha$  産生能の比較. 第 34 回日本膵臓学会大会, 千葉
  86. 尾崎 岳, 寺川直良, 小池保志, 柳本泰明, 里井壯平, 高井惣一郎, 権 雅憲, 上山泰男 (2003) 膵頭部癌との鑑別が困難な自己免疫性膵炎と考えられた 1 例. 第 34 回日本膵臓学会大会, 千葉
  87. 小松優治, 山道啓吾, 三宅 岳, 上田創平, 馬殿徹也, 道浦 拓, 中井宏治, 浅井 晃, 中根恭司 (2003) TS-1/CDDP 療法が奏効した食道癌術後進行胃管癌の一例. 第 57 回日本食道学会学術集会, 京都
  88. 岡本真由美, 桜本和人, 中野誠人, 渡辺健太郎, 徳原克治, 高田晃平, 浜田吉則 (2003) 仙骨前嚢胞状奇形腫の 2 例. 第 40 回日本小児外科学会総会, 京都
  89. 三宅 岳, 山道啓吾, 桜本和人, 小松優治, 道浦 拓, 中井宏治, 井上健太郎, 浅井 晃, 中根恭司 (2003) Nedapuratin, Vindesine (併用



- 療法)が奏効した再発食道癌の1例.第57回日本食道学会学術集会,京都
90. 三宅 岳, 浜田吉則, 渡辺健太郎, 徳原克治, 棚野晃秀, 高田晃平, 中野崇秀, 木下 洋 (2003)新生児仙尾部神経芽腫の1例.第39回日本新生児学会総会学術集会, 福島
91. 山本智久, 里井壯平, 寺川直良, 尾崎 岳, 柳本泰明, 山尾 順, 高井惣一郎, 権 雅憲, 上山泰男 (2003)急性胆嚢炎で発症した胆嚢捻転症の1例.第15回肝胆膵外科学会, 金沢
92. 山尾 順, 里井壯平, 松井陽一, 山本栄和, 高井惣一郎, 寺川直良, 山本智久, 大久保遊平, 権 雅憲, 上山泰男 (2003)局在診断に Multi-detector row CT (MDCT) が有用であった Insulinoma の一例.第34回日本膵臓学会大会, 千葉
93. 中野誠人, 渡辺健太郎, 桜本和人, 木田裕之, 高田晃平, 浜田吉則 (2003)仙骨前嚢胞状リンパ管腫の1例.第173回近畿外科学会, 京都
94. 渡辺健太郎, 徳原克治, 棚野晃秀, 高田晃平, 佐藤正人, 浜田吉則 (2003)肥厚性幽門狭窄症における家族内発症の検討.第40回日本小児外科学会総会, 京都
95. 渡辺健太郎, 浜田吉則, 徳原克治, 高田晃平, 上山泰男 (2003)臍ポリープの2例.第39回日本小児外科学会近畿地方会, 大阪
96. 桜本和人, 山道啓吾, 鎌野尚子, 道浦 拓, 中根恭司 (2003)腹部大動脈瘤の圧迫により十二指腸狭窄を来した一例.第101回大阪血管外科同好会, 大阪
97. 桜本和人, 中野誠人, 渡辺健太郎, 矢内勢司, 田中義人, 二階堂 任, 田中完児 (2003)術前診断が困難であった線維腺腫内のDCISの一例.第173回近畿外科学会, 京都
98. 田中朋子, 岩本慈能, 森田美佳, 吉岡和彦 (2003) Pagetoid spread を呈した肛門管腺癌の1例.第174回近畿外科学会, 神戸

#### 著 書

1. 中根恭司 (2003) パウチ法. 胃外科の要点と盲点 (荒井邦佳編) 302-304 頁, 文光堂
2. 松井陽一, 上山泰男 (2003) 肝細胞癌術後補助療法としての AHCC の効果. AHCC の基礎と臨床 (山崎正利, 上山泰男編) 173-178 頁, (株) ライフ・サイエンス, 東京
3. 川口雄才 (2003) 消化器癌に対する AHCC の使用経験. AHCC の基礎と臨床 (山崎正利, 上山泰男編) 179-184 頁, (株) ライフ・サイエンス, 東京
4. 寺川直良, 里井壯平, 上山泰男 (2003) 肝外胆管癌切除症例における AHCC の使用経験. AHCC の基礎と臨床 (山崎正利, 上山泰男編) 185-189 頁 (株) ライフ・サイエンス, 東京
5. 荒木 浩, 高井惣一郎, 上山泰男 (2003) 膵癌に対する AHCC の使用経験. AHCC の基礎と臨床 (山崎正利, 上山泰男編) 190-96 頁, (株) ライフ・サイエンス, 東京
6. 松井陽一, 上山泰男 (2003) AHCC を摂取した乳癌患者の retrospective な調査結果. AHCC の基礎と臨床 (山崎正利, 上山泰男編) 197-201 頁, (株) ライフ・サイエンス, 東京

## 胸部心臓血管外科学講座

### 研究概要

胸部心臓血管外科は、心臓血管外科と呼吸器外科に大別される。心臓血管外科は心臓血管病センターの外科部門として、循環器内科や小児科循環器グループとともに、先天性心疾患、虚血性心疾患、弁膜症、大動脈疾患等の心大血管疾患に対し、内科と外科が一体となって研究活動を行っている。また、呼吸器外科は、肺癌の外科治療を中心として、第一内科呼吸器グループ、放射線科、病態検査科病理部門と研究グループを作り、協力して研究活動を行っている。

心臓血管外科部門では、手術件数は300例を超え、手術内容も含めて、大学病院としての標準的レベルを維持している。先天性心疾患の治療は心臓血管外科医の基本である。小児科循環器グループやNICUと密接な関係を保ち、術前より互いに協力して治療を行っており、今後も、成績向上のため、術前状態

の改善，迅速で正確な手術，きめ細かい術後管理が必要である。虚血性心疾患の治療方針は，動脈グラフとを用いた完全血行再建である。術中の心停止時間の短縮，長年の心筋保護法の研究成果が実り，安全に手術が行えるようになり，最近8年間の予定手術例に死亡例がなく，良好な成績を維持している。再生医療として，循環器内科での基礎的研究の臨床への応用として，本学倫理委員会の許可を得て，骨髄幹細胞移植による血管再生治療を他施設に先駆けて臨床に試みている。また無輸血手術遂行のための研究も行い，最近8年間の成人予定手術の約90%が無輸血手術であった。弁膜症の治療方針は，可能な限り自己弁温存をはかる弁形成，弁輪形成術を第一選択とし，不可能な例に人工弁置換術を行う方針である。経食道エコーの術中導入により適切な弁機能の判定が可能となった。大血管疾患は，破裂性大動脈瘤や急性大動脈解離が含まれ，脳合併症や多臓器不全，感染による死亡例が多いが，大動脈弓部3分枝置換も超低体温循環停止法と選択的脳灌流法の併用により，安全に手術が可能になった。すべての動脈瘤は破裂するものと考え，今後も，早期の適切な外科治療により，成績向上の努力が必要である。また，大動脈遮断に伴う脊髄麻痺予防の問題も極めて重要であり，その予防法の研究をすすめている。

呼吸器外科は，年間ほぼ200例前後の手術症例があり，その約半数が，原発性肺癌，悪性縦隔腫瘍，転移性腫瘍である。肺癌は，地域医師会の協力も受け，早期発見例も増加しており，治療成績は向上し，その成績を逐次公表している。悪性縦隔腫瘍に対しては手術前後の化学療法等の併用により著明な成績向上をみた。また自然気胸，転移性肺腫瘍，開胸肺生検等において，胸腔鏡下手術を多用している。平成13年度も，これらの臨床経験に基づいた研究発表が行いえた。

実験的研究では，1) 組織培養装置の導入により，引き続き分子生物学的側面からの研究に基づいた心筋保護に関する臨床的，基礎的研究，2) 同種弁および気管の凍結保存および生物学的活性の基礎的研究，4) 肺癌に関する細胞免疫学的研究，5) 大動脈遮断に伴う中枢神経障害発生予防の研究，6) 複雑心奇形に対する新しい手術法の開発に関する研究，7) 冬眠を応用した臓器保存の研究，8) 組織培養を用いた損傷血管壁，血管吻合部組織増殖抑制の研究などを行っている。また，循環器内科と，虚血性心疾患に対する系統的治療戦略として，骨髄幹細胞移植による再生医療の研究，大阪工業大学生体システム研究室とともに1) 赤血球変形能，2) 磁界の生体への影響，3) 生体細胞インピーダンス測定などの共同研究も進めている。

## 研究業績

### 原著

- Hochhauser E, Kitiv S, Offen D, Maulik N, Otani H, Barhum Y, Pannet H, Shneyvays V, Shainberg A, Galstab V, Toar A and Vine BA (2003) Bax ablation protects against myocardial ischemia-reperfusion injury in transgenic mice. *Am J Physiol Heart Circ Physiol* 284: H2351-2359
- Zhan H, Yokoyama K, Otani H, Tanigaki K, Shirata N, Takano S and Ohkuma S (2003) Different roles of proteolipids and 70-kDa subunits of V-ATPase in growth and death of cultured human cells. *Genes Cells*. 8: 501-513
- Uchiyama T, Otani H, Wakeno M, Okada T, Uchiyama T, Sumia T, Kido M, Imamura H, Nakao S and Shingu K (2003) Role of mitochondrial KATP channels and protein kinase C in ischemic preconditioning. *Clin Exp Pharmacol Physiol* 30: 426-436
- Saito Y (2003) Problems in assessment of serum carcinoembryonic antigen level in cancers. *J Thorac Cardiovasc Surg* 125: 1565-1566
- Uchiyama Y, Otani H, Okada T, Uchiyama T, Ninomiya H, Kido M, Imamura H, Nakao S and Shingu K (2003) Integrated pharmacological preconditioning in combination with adenosine, a mitochondrial KATP channel opener and a nitric oxide donor. *J Thorac Cardiovasc Surg* 126: 148-159
- Shomura Y, Saito Y, Minami K and Imamura H (2003) A new method for establishing an intrapulmonary tumor in the Rabbit. *J J Thorac Cardiovasc Surg* 51: 337-343
- Kyoi S, Otani H, Sumita T, Okada T, Osako M, Imamura H, Kamihata H, Matsubara H and Iwasaka T (2003) Loss of intracellular

dystrophin:a potential mechanism for myocardial reperfusion injury. *Circulation J* 67: 725-727

8. Otani H, Okada T, Fujiwara H, Uchiyama T, Sumita T, Kido M and Imamura H (2003) Combined pharmacological preconditioning with a G-protein-coupled receptor against a mitochondrial KATP channel opener and a nitric oxide donor. *Clin Exp Pharmacol Physiol* 30: 684-693
  9. 藤井弘史, 今村洋二 (2003) 大動脈解離に対するステント治療の効果と展望. *外科治療* 88: 831-834
  10. 斎藤幸人 (2003) 理想的な気道ステントの開発をめざして. *気管支学* 25: 405-407
  11. 南健一郎, 斎藤幸人, 庄村裕三, 今村洋二 (2003) 自然気胸に対する胸腔鏡下手術における術後気腫防止の工夫. *胸部外科* 56: 904-907
  12. 大迫茂登彦, 中尾佳永, 榎木千春, 藤原祥司, 宮本隆, 森口暁, 大谷肇, 今村洋二 (2003) Radio-frequency ablationによるPV isolationを併用したMaze変法の2手術例. *心臓* 35suppl 5: 9-10
- 学会発表
1. Saito Y (2003) Bronchoscopy clinic: What Went Wrong. 99th International Conference- American Thoracic Society-, USA
  2. Otani H, Okada T, Sumita T, Fujiwara H and Imamura H (2003) Integrated pharmacological preconditioning: a novel approach to enhance myocardial protection. 25th International Society for Heart Research, USA
  3. Hochhauser E, Kivity S, Offen D, Maulik N, Otani H, Barhaum Y, Pannet H, Shneyvays V, Shainberg A and Vitne B (2003) Bax ablation protects against myocardial ischemia/reperfusion (I/R) injury in transgenic mice. 11, USA
  4. Fukuda S, Sasaki H, Kaga S, Zhan L, Zha L, Otani H, Das DK and Maulik N (2003) Angiogenic signal triggered by ischemic stress induces myocardial repair in rat during chronic infarction. 25th International Society for Heart Research, USA
  5. Sasaki H, Fukuda S, Otani H, Kaga S, Zhu L, Das DK and Maulik N (2003) Hypoxic preconditioning triggers myocardial angiogenesis: a novel approach to enhance contractile functional reserve in rat with myocardial infarction. 25th International Society for Heart Research, USA
  6. Saito Y, Shomura Y, Omiya H, Minami K, Kaneda H, Kobayashi M, Maniwa T and Imamura H (2003) Induction therapy for NSCLC-A prognostic assessment-. 10th World Conference on Lung Cancer, Canada
  7. Otani H, Imamura H, Takahashi M, Nakao S and Shingu K (2003) Integrated pharmacological preconditioning with isoflurane, G protein-coupled receptor agonists and nitric oxide donors: An ideal alternative to ischemic preconditioning. American Anesthesiology annual meeting, USA
  8. Sumita T, Otani H, Okada T, Uchiyama T, Ninmiya H, Kio M and Imamura H (2003) Reversal of p38MAP kinase-mediated myocardial stunning exacerbates myocardial necrosis. 25th International Society for Heart Research, USA
  9. Otani H, Sumita T, Fujiwara H and Imamura H (2003) Anti-apoptotic effect of integrated pharmacological preconditioning is mediated by PI-3 kinase. 25th International Society for Heart Research, USA
  10. Otani H, Okada T, Sumita T, Fujiwara H, Imamura H, Kamihata H and Iwasaka T (2003) Ischemic preconditioning restores membrane dystrophin and prevents myocardial necrosis. Ischemic preconditioning restores membrane dystrophin and prevents myocardial necrosis, USA
  11. Otani H, Okada T, Sumita T, Fujiwara H, Imamura H, Kamihata H and Iwasaka T (2003) Ischemic preconditioning preserves membrane dystrophin-glycoprotein complex and prevents contractile force-induced cardiomyocyte necrosis. 76th American Heart Association annual meeting, USA
  12. 南健一郎, 斎藤幸人, 庄村裕三, 大宮英泰, 金田浩由紀, 小林正嗣, 馬庭知弘, 今村洋二

- (2003)縦隔原発性胚細胞性腫瘍の治療.第20回日本呼吸器外科学会,福岡
13. 大迫茂登彦,佐藤 正,中尾佳永,榎木千春,宮本 隆,藤原祥司,大谷 肇,今村洋二(2003)洞機能不全症候群(Rubenstein III型)のペースング治療におけるペースングパラメーターの最適化.第18回日本心臓ペースング電気生理学会,大阪
  14. 斎藤幸人,南健一郎,馬庭知弘,金田浩由紀,庄村裕三,今村洋二(2003)新ニット型気道ステント(new tubular bioabsorbable knitted poly-L-lactic acid stent):健常気道および狭窄気道におけるステント誘導および展開法の検討.第103回日本外科学会総会,札幌
  15. 大谷 肇,角田智彦,藤原弘佳,岡田隆之,榎木千春,宮本 隆,中尾佳永,藤原祥司,大迫茂登彦,今村洋二(2003)Ischemic preconditioning は心筋細胞 dystrophin の回復を促し再灌流障害を予防する.第103回日本外科学会総会,札幌
  16. 南健一郎,斎藤幸人,庄村裕三,大宮英泰,馬庭知弘,今村洋二(2003)EWSを用いた気管支充填術による治療経験.第7回日本気胸嚔胞性肺炎患学会,東京
  17. 庄村裕三,斎藤幸人,大宮英泰,南健一郎,坂井田紀子,今村洋二(2003)肺放線菌症を合併し,術前診断が困難であった肺腺癌の1例.第44回日本肺癌学会総会,東京
  18. 大谷 肇,角田智彦,岡田隆之,藤原弘佳,榎木千春,宮本 隆,中尾佳永,藤原祥司,大迫茂登彦,今村洋二(2003)Ischemic preconditioning はミトコンドリアKATPチャネルの活性化を介して dystrophin-glycoprotein 複合体を保存し再灌流障害を予防する.第56回日本胸部外科学会総会,東京
  19. 藤原弘佳,二宮英樹,藤井弘史,吉丸清道,田中聡彦(2003)民間二次救急病院におけるStanford B型急性大動脈解離の管理に関する検討.第31回救急医学会総会,東京
  20. 大迫茂登彦,佐藤正,中尾佳永,宮本 隆,角田智彦,榎木千春,大谷 肇,今村洋二(2003)ペースングアルゴリズムによる心房細動予防効果 心房同期化ペースングの有用性に関する検討.第41回人工臓器学会大会,仙台
  21. 角田智彦,大谷 肇,岡田隆之,藤原弘佳,中尾佳永,榎木千春,藤原祥司,宮本 隆,今村洋二(2003)Differential effect of P38MAP kinase activation on myocardial stunning and necrosis.第67回日本循環器学会学術集会,福岡
  22. 角田智彦,今村洋二,榎木千春,藤原弘佳,宮本 隆,中尾佳永,藤原祥司,大迫茂登彦,大谷 肇(2003)大血管転位症に対する動脈スイッチ手術.第40回日本小児外科学会,京都
  23. 角田智彦,大谷 肇,藤原弘佳,岡田隆之,今村洋二(2003)心筋収縮抑制剤2,3Butanedione Monoximeの再灌流障害予防効果はDystrophinの回復に依存する.第103回日本外科学会総会,札幌
  24. 角田智彦,大谷 肇,藤原弘佳,岡田隆之,宮本 隆,榎木千春,中尾佳永,藤原祥司,大迫茂登彦,今村洋二(2003)活性酸素はp38MAPキナーゼの活性化を介してstunningを惹起するが,心筋stunningは再灌流障害に対する自己防衛反応である.第56回日本胸部外科学会総会,東京
  25. 京井志織,大谷 肇,岡田隆之,角田智彦,大迫茂登彦,神島 宏,松原弘明,今村洋二,岩坂壽二(2003)Ischemic preconditioning preserves membrane dystrophin:A novel mechanism of cardioprotection against reperfusion injury.第67回日本循環器学会学術集会,福岡
  26. 岡田隆之,大谷 肇,角田智彦,今村洋二(2003)P38 MAP kinase differentially regulates apoptosis and necrosis in ischemic neonatal rat cardiomyocytes.第67回日本循環器学会学術集会,福岡

## 脳神経外科学講座

### 研究業績

#### 原著

1. Peng Liang, Zhao Shiguang, Keiji Kawamoto, Lianhong Jin, Enzhong Liu (2003) Neuronal and glial differentiation following culture of the human embryonic cortical stem cells. *Hum Cell* 16: 151-156
2. 久徳茂雄, 稲垣隆介, 山内康雄 (2003) 頭蓋狭窄症に対する頭蓋冠延長術. *日創外固定骨延長会誌* 14: 99-103
3. 稲垣隆介, 久徳茂雄, 山内康雄 (2003) 頭蓋縫合早期癒合症と骨延長術. *脳外速報* 13: 634-640
4. 沖井 裕, 河本圭司, 赤根 敦, 岩瀬正顕, 神寄清一郎, 中谷壽男 (2003) 脳波自動解析システムによる小児の平坦脳波解析. *臨脳波* 45: 406-410
5. 有田和徳, 栗栖 薫, 河本圭司 (2003) 脳神経外科救急における今後の展開 全国アンケート調査の結果より 国立大学附属病院における運営状況. *Neurosurg Emerg* 8: 1-5
6. 松前光紀, 黒田清司, 平山晃康, 河本圭司 (2003) 脳神経外科救急における今後の展開 私立大学の現状. *Neurosurg Emerg* 8: 11-14
7. Inagaki T, Yoshimura K, Yamahara T, Kasai H, Yamanouchi Y, Nakano T, Kawasaki H (2003) The management of optic pathway glioma with malignant component. *Neuro-Oncol (abstract)* 5: 46
8. Takasumi Yasuda, Takayuki Inagaki, Yasuo Yamanouchi, Keiji Kawamoto, Urara Kohdera, Hirohide Kawasaki, Takahide Nakano (2003) A case of primary Ewing's sarcoma of the occipital bone presenting with obstructive hydrocephalus. *Childs Nerv Syst* 19: 792-799
9. T Inagaki, Y Yamanouchi, K Kawamoto (2003) Surgical intervention for retethered spinal dysraphism. *Childs Nerv Syst (abstract)* 19(7-8): 607-608
10. 梅山圭似子, 木本高志, 小川 豊, 山内康雄, 和田光正, 国富 薫, 上原雅美 (2003) 著明

な眼瞼, 眼窩血腫をきたした小児眼窩血管腫の1症例. *臨眼* 57: 836-840

11. 龍 堯志, 大重英行, 笠井治文, 沼 義博, 櫻井靖夫, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2003) 再発と考えられたglioblastomaの放射線壊死の一例. *Oncologyの進歩* 13: 10-15
12. 辻 雅之, 稲垣隆介, 笠井治文, 李 強, 山内康雄, 河本圭司 (2003) 小児骨腫瘍の1例. *Oncologyの進歩* 13: 55-56
13. 沼 義博 (2003) Detection of DNA content analysis by using Laser Scanning Cytometry(LSC) in brain tumor. *日本顕微鏡学会平成15年度生体物質の可視化セミナー* 36-46
14. 河本圭司 (2003) 悪性グリオーマにおけるp130遺伝子の機能解析 平成13年度-14年度科学研究費補助金研究成果報告書

#### 総説

1. 山内康雄 (2003) 脳血管障害とその症状・検査方法. 第118号おとづれ(財団法人加多乃会) 12-14
2. 松田 壯正, 河本圭司 (2003) Cytometry Technology Workshop テキスト. *Cytometry Technology Workshop テキスト* 75
3. 河本圭司 (2003) 第1回救急医を目指すための脳神経領域セミナーテキスト. 第8回日本脳神経外科救急学会

#### 学会発表

1. Takayuki Inagaki (2003) The cause and management of spinal dysraphism. *Korea University Medical Center, Korea*
2. Takayuki Inagaki (2003) The management of children with non-accidental head trauma. *15th Annual Meeting of the Korean Society for Pediatric Neurosurgery, Korea*
3. 河本圭司 (2003) Clinical application of cytometry for brain tumor. 第2回広州脳腫瘍学会, 広州
4. 河本圭司 (2003) Clinicopathology of new entity glioma. 広州中医薬大学, 広州

5. Takayuki Inagaki, Yasuo Yamanouchi, Keiji Kawamoto (2003) Surgical intervention for re-tethered spinal dysraphism. 31st Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery, Monaco
6. Shiguang Zhao, Enzhong Liu, Keiji Kawamoto (2003) Arsenic Trioxide Induce Cell Cycle Arrest in Human Glioblastoma Through Down-Regulation of Cyclin B1 and Cyclin D1 Expression. 3rd International Symposium of Brain Tumor Pathology, 東京
7. 韓 富, 魏 正懷, 許 建平, 河本圭司 (2003) 頭蓋底腫瘍の手術. 第2回広州脳腫瘍学会, 広州
8. 趙 世光, 劉恩重, 河本圭司 (2003) AS208の抗腫瘍効果. 第2回広州脳腫瘍学会, 広州
9. 沖井 裕, 河本圭司, 赤根 敦, 岩瀬正顕, 神寄清一郎, 中谷壽男 (2003) 脳波自動解析システムを用いた小児の平坦脳波の解析. 第8回日本脳神経外科救急学会, 大阪
10. 岩瀬正顕, 神寄清一郎, 平川昭彦, 田中孝也, 中谷壽男, 河本圭司 (2003) 重症脊椎損傷患者の急性期管理. 第8回日本脳神経外科救急学会, 大阪
11. 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2003) 救急医療における小児虐待の現状. 第8回日本脳神経外科救急学会, 大阪
12. 久徳茂雄, 黒岡定浩, 南方竜也, 山下耕助, 上羽哲也, 岩瀬正顕, 川上勝弘, 河本圭司 (2003) 前頭蓋底顔面外傷の急性期治療における形成外科の役割. 第8回日本脳神経外科救急学会, 大阪
13. 我妻敬一, 沼 義博, 栗本匡久 (2003) 診断に3DCTが有用であった外傷性髄液漏の1例. 第8回日本脳神経外科救急学会, 大阪
14. 矢吹 輝, 岩瀬正顕, 田中孝也, 中谷壽男, 日原正勝, 河本圭司 (2003) 広範囲開頭術および術後洗浄が有効であった鼻性硬膜下膿瘍の1例. 第8回日本脳神経外科救急学会, 大阪
15. 浅井 悌, 岩瀬正顕, 神寄清一郎, 平川昭彦, 田中孝也, 中谷壽男, 河本圭司 (2003) 強直性脊椎炎に脊髄硬膜外血腫を合併した1例. 第8回日本脳神経外科救急学会, 大阪
16. 松前光紀, 黒田清司, 平山晃康, 河本圭司 (2003) 私立大学附属病院における運営状況. 全国アンケート調査の結果より. 第8回日本脳神経外科救急学会, 大阪
17. 沼 義博, 今堀 巧, 笠井治文, 塚崎裕司, 加藤隆行, 我妻敬一, 山内康雄, 河本圭司 (2003) 巨大下垂体腺腫の手術治療. 第13回日本間脳下垂体腫瘍学会, 出雲
18. 川上勝弘, 吉村晋一, 河本圭司, 辻 裕之, 中村晶彦, 久徳茂雄 (2003) 頭蓋底領域における内視鏡手術. 第15回日本頭蓋底外科学会, 東京
19. 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2003) 低位脊髄円錐症例の手術適応の検討. 第18回日本脊髄外科学会, 東京
20. 稲垣隆介, 吉村晋一, 大重英行, 瀬野敏孝, 笠井治文, 山内康雄, 河本圭司 (2003) 閉鎖性二分脊椎症の再繋留に対する対応. 第31回日本小児神経外科学会, 新潟
21. 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2003) 二分脊椎症の手術: 特に, 脊髄繋留に対する治療. 第62回日本脳神経外科学会総会 (推薦ビデオセッション), 新潟
22. 山原崇弘, 吉村晋一, 笠井治文, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2003) Meningeal heterotopiaの一例. 第31回日本小児神経外科学会, 新潟
23. 大重英行, 笠井治文, 吉村晋一, 今堀 巧, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2003) 新生児immature teratomaの一例. 第31回日本小児神経外科学会, 新潟
24. 瀬野敏孝, 吉村晋一, 笠井治文, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2003) 眼窩内膿瘍の二例. 第31回日本小児神経外科学会, 新潟
25. 加藤隆行, 土田高宏, 河本圭司 (2003) 実験脳腫瘍における血管透過性: ランタナムを用いたトレーサースタディ. 第62回日本癌学会総会, 名古屋
26. 沼 義博, 笠井治文, 塚崎裕司, 山内康雄, 河本圭司 (2003) 脳腫瘍におけるDNA ploidyの臨床応用の可能性. 第62回日本脳神経外科学会総会, 仙台
27. 沼 義博, 笠井治文, 塚崎裕司, 山内康雄, 河本圭司 (2003) 再発 astrocytoma の治療. 第62回日本脳神経外科学会総会, 仙台
28. 稲垣隆介, 山内康雄, 下川尚子, 林 隆士, 長

- 坂昌登,坂本博昭,北野昌平,長嶋達也(2003)水無脳症の実態調査結果.第62回日本脳神経外科学会総会,仙台
29. 吉村晋一,今堀 巧,塚崎裕司,笠井治文,稲垣隆介,山内康雄,河本圭司(2003)ワーファリン服用中の頭蓋内出血の治療.第62回日本脳神経外科学会総会,仙台
30. 岩瀬正顕,神寄清一郎,田中孝也,中谷壽男,河本圭司(2003)重症頭部外傷の管理各種モニターを用いたバルビタール療法の工夫.第62回日本脳神経外科学会総会,仙台
31. 李 強,安水良知,池原 進,吉村晋一,龍堯志,土田高宏,山内康雄,河本圭司(2003)虚血脳モデルに対する骨髓細胞を用いた脳内移植療法の検討.第62回日本脳神経外科学会総会,仙台
32. 李 強,沼 義博,笠井治文,塚崎裕司,土田高宏,山内康雄,河本圭司(2003)悪性グリオーマの初発,再発例の部位別 DNA-ploidy とサイクリンの検討.第62回日本脳神経外科学会総会,仙台
33. 久徳茂雄,富野祐里,黒岡定浩,稲垣隆介,山内康雄,河本圭司(2003)頭蓋冠拡大術における延長器の小さな問題点.第21回日本頭蓋顎顔面外科学会,東京
34. 沼 義博,笠井治文,塚崎裕司,山内康雄,河本圭司(2003)脳腫瘍手術における DNA ploidy の臨床応用の可能性.第8回日本脳腫瘍の外科学会,沖縄
35. 沼 義博,塚崎裕司,笠井治文,李 強,河本圭司(2003)サイトメトリーによる臨床応用:グリオーマ摘出における境界切除部位決定.第13回日本サイトメトリー学会,東京
36. 李 強,安水良知,河本圭司,池原 進(2003)FCM と immunohistochemistry にて骨髓細胞移植による神経再生の検討.第13回日本サイトメトリー学会,東京
37. 河本圭司,笠井治文,大石哲也,稲垣隆介,山内康雄(2003)LSC を用いたグリオーマの悪性度診断.第35回日本臨床電子顕微鏡学会,東京
38. 龍 堯志,笠井治文,大石哲也,稲垣隆介,山内康雄,河本圭司,西村 巖(2003)頭蓋底に発生した軟骨肉腫 2 例の電子顕微鏡学的検討.第35回日本臨床電子顕微鏡学会,東京
39. 吉村晋一,塚崎裕司,笠井治文,稲垣隆介,山内康雄,河本圭司(2003)ワーファリン服用中の脳内出血の加療.第45回日本脳神経外科学会近畿地方会,大阪
40. 笠井治文,大重英行,塚崎裕司,山内康雄,河本圭司(2003)腫瘍内出血を呈した小脳膠芽腫の一例.第45回日本脳神経外科学会近畿地方会,大阪
41. 川上勝弘,神寄清一郎,河本圭司,中村晶彦(2003)optic canal decompression を施行した脊索腫の1例.第45回日本脳神経外科学会近畿地方会,大阪
42. 塚崎裕司,笠井治文,川口琢也,今堀 巧,稲垣隆介,山内康雄,河本圭司(2003)硬膜転移を来した急性リンパ性白血病(ALL)の一例.第58回近畿脳腫瘍研究会,大阪
43. 大石哲也,笠井治文,山内康雄,山原崇弘,辻雅之,稲垣隆介,河本圭司(2003)嚢胞性髄膜腫の一例.第58回近畿脳腫瘍研究会,大阪
44. 山原崇弘,稲垣隆介,笠井治文,山内康雄,河本圭司(2003)出血による視力障害で発症した眼窩内血管腫の一例.第26回日本脳神経CI学会総会,名古屋
45. 山原崇弘,塚崎裕司,加藤隆行,笠井治文,稲垣隆介,山内康雄,河本圭司(2003)前方・後方固定術を施行した交通事故による頸椎損傷の一例.第26回日本神経外傷学会,奈良
46. 李 強,安水良知,富田 実,池袋一哉,崔雲澤,王晓麗,宋 昌曄,張 玉明,河本圭司,池原 進(2003)ラット虚血脳モデルにおける骨髓細胞移植による神経再生の検討.第92回日本病理学会総会,福岡
47. 李 強,河本圭司(2003)Expression of Rb2/p130 and p53 protein correlates with the degree of malignancy in glioma.第21回日本脳腫瘍病理学会,東京
48. Li Qiang, Yasumizu Ryoji, Ikehara Susumu, Kawamoto Keiji (2003) Bone Marrow-Derived Cells Differentiate into Neural Cells after Grafting into the Ischemic Brain of Rat.第21回日本ヒト細胞学会,埼玉
49. 李 強,沼 義博,笠井治文,塚崎裕司,土田高宏,山内康雄,河本圭司(2003)悪性グ

- リオーマの初発，再発例の部位別 DNA-ploidy とサイクリンの検討．第4回日本分子脳神経外科学会，東京
50. 辻 雅之，稲垣隆介，笠井治文，川口琢也，大石哲也，山内康雄，河本圭司，新出明代，日下博文（2003）脳槽ドレナージを必要とした頭蓋内感染症の一例．第46回日本脳神経外科学会近畿地方会，大阪
51. 松岡純子，塚崎裕司，稲垣隆介，笠井治文，山内康雄，河本圭司，岡 信行（2003）針治療によると考えられたくも膜下出血の一例．第46回日本脳神経外科学会近畿地方会，大阪
52. 金田智絵，田中由美子，榎本良枝，北村直行，木下 洋，稲垣隆介，山内康雄（2003）NICUにおける脊髄髄膜瘤患児のラテックスアレルギー発症予防への取り組み．第20回日本二分脊椎研究会，名古屋
53. 上坂達郎，吉村晋一，稲垣隆介，笠井治文，山内康雄，河本圭司（2003）白血病の治療との関係が示唆される小児悪性グリオーマの一例．第21回日本脳腫瘍学会，淡路
54. 川口琢也，大石哲也，山原崇弘，辻 雅之，龍堯志，櫻井靖夫，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司，北村直行，木下 洋（2003）低体重出生児の脳室内出血．第21回日本こども病院神経外科医会，名古屋
55. 藤本幸子，中山崇秀，野田幸弘，小林陽之助，稲垣隆介，山内康雄（2003）先天性脳腫瘍の2症例．第19回日本小児がん学会，東京
56. 大重英行，稲垣隆介，笠井治文，上坂達郎，瀬野敏孝，山内康雄，河本圭司（2003）高齢者の水頭症の治療における合併症について：頭蓋内圧測定の意義に関する検討も含め．第7回日本水頭症治療シンポジウム，出雲
57. 大石哲也，瀬野敏孝，上坂達郎，笠井治文，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2003）感染性皮膚洞の二症例．第48回近畿脊髄外科研究会，大阪

## 整形外科学講座

### 研究概要

#### 手の外科

リウマチ手の変形や腱損傷，外傷による手の障害に対し外科的治療を行うと共に種々の手関節疾患に対し，手関節鏡等を用いその病態の解明を行っている．また，腱移行や腱を用いた手の再建手術に対し術後早期より運動療法を行いこれらの臨床成績について報告の機会を得た．

#### 電気生理診断学

電気生理学的手法を用いて，中枢・末梢神経を対象とした基礎的・臨床的研究を行ってきた．臨床面では術中脊髄モニタリングの臨床応用，脊髄症術後機能回復の電気生理学的評価方法の確立を中心とした研究を行いこれらの成果を，国内外の学会で発表した．基礎的研究では，末梢神経連続性損傷に対する端側吻合の原理を引用した bypass 移植術の有用性，末梢神経端側吻合後の再生軸索の起源をウサギ腓骨神経損傷モデルを用いて証明し，末梢神経関連学会に発表した．

#### 関節疾患

関節炎，関節症に対して，人工関節置換術，種々の骨切り術を行い，その術後成績を検討してきた．特に人工関節ではインプラントの素材やセメントテクニックについて追求し，臨床応用している．近年問題とされる手術に伴った合併症の一つである深部静脈血栓症やセメントの人体への影響を術中のエコーなど種々のモニタリングで検討し評価している．また，人工関節術後の緩みや感染に対して同種骨を用いたりして，様々な角度からの再建を行っている．



## 脊椎外科

脊椎外科全般に関して、臨床的研究を行っている。主たる内容は、頸髄症に対する後方支持組織温存術式の開発、頸椎椎間板ヘルニアに対する後方からの摘出術、術後 C5 麻痺の発生メカニズム、腰椎変性側彎症の手術成績、脊椎感染症の外科的治療、骨粗鬆症性の脊椎骨折後の遅発性神経障害の病態、胸腰椎に対する脊椎インストルメンテーションの合併症、脊椎外科における低侵襲手術、脊椎固定術後の隣接椎障害等であり、手術成績の向上に努めている。研究面では、腰椎前方固定術式のバイオメカニカルな検討を行なっている。

## 研究業績

### 原著

1. Sasai K, Saito T, Akagi S, Kato I, Ohnari H and Iida H (2003) Preventing C5 Palsy After Laminoplasty. SPINE 28: 1972-1977
2. Akagi S, Kato I, Hashiguchi J, Saito T, Sasai K and Ogawa R (2003) Osteochondroma of the Upper Cervical Spine Presenting as Vertigo. Orthopedics 26: 187-188
3. Esumi T, Inaba M, Ichioka N, Kushida T, Iida H and Ikehara S (2003) Successful allogeneic leg transplantation in rats in conjunction with intrabone marrow injection of donor bone marrow cells<sup>1</sup>. Transplantation 76: 1543-1548
4. Fujita H, Iida H, Shimizu K, Kitaori T, Hiroshima Y and Nakamura T (2003) A Novel Femoral Intramedullary Plug With Sliding Mechanism. The Journal of Arthroplasty 18: 367-370
5. Maekawa T, Sasai K, Iida H, Yamashita K and Sakaida M (2003) Atlantoaxial Arthrodesis for Vertebrobasilar Insufficiency Due to Rheumatoid Arthritis. JBJS 85-A: 711-714
6. 池田一博, 脇田重明, 新井竜也, 大澤正実, 吉田雄吾 (2002) ACUTRAK SCREW の使用経験. 中部整災誌 45: 165-166
7. 池田一博, 脇田重明, 新井竜也, 大澤正実, 吉田雄吾 (2002) ガンマネイルの術後早期の歩行時痛の検討. 中部整災誌 45: 985-986
8. 笹井邦彦, 飯田寛和 (2003) Neurosurgical tissue vaporizer 顕微鏡視下脊椎脊髄外科への electromagnetic field system の応用. 整・災外 46: 1475-1482
9. 斉藤貴徳, 市岡直也, 藤澤礼子, 森 良樹, 笹井邦彦, 飯田寛和 (2003) 腕神経叢損傷に対する横隔神経移行による肘屈曲再建術の成績. 整・災外 46: 1361-1368
10. 和田孝彦, 徳永裕彦, 飯田寛和 (2003) 両側同時人工股関節置換術例の経験 2 段階手術例と比較して. 整・災外 46: 365-368
11. 谷川暢之, 赤木繁夫, 加藤勇司, 笹井邦彦, 斉藤貴徳, 飯田寛和 (2003) 化膿性頸椎炎の検討. 整・災外 46: 767-774
12. 和田孝彦, 松矢浩暉, 飯田寛和 (2003) 成人に発症した化膿性股関節炎に対する THA の経験. Hip Joint 29: 545-548
13. 吉田雄吾, 前川 徹, 佐々木万弓 (2003) 大腿骨頸部骨折に対する人工骨頭置換術の治療経験. Hip Joint 29: 309-310
14. 中村誠也, 重栖 孝, 宮島茂夫, 飯田寛和 (2003) 難治性骨髄炎に対しイリザロフ法を用いて治療している症例について. 日骨関節感染研究会誌 17: 118-124
15. 松矢浩暉, 徳永裕彦, 飯田寛和 (2003) 当科における化膿性股関節炎および感染性人工股関節例の検討 Antibiotics Loaded Acryl Cement (ALAC) の使用経験. 日骨関節感染研究会誌 17: 58-62
16. 中村誠也, おおえ賢一, 南川義隆, 浅井聖子, 飯田寛和 (2003) 手関節 zone VII における多数指伸筋腱断裂に対する早期運動療法の検討. 日手会誌 20: 106-110
17. おおえ賢一, 中村誠也, 飯田寛和, 南川義隆 (2003) 中手骨骨腫瘍に対し再建術を要した 2 症例についての検討. 日手会誌 20: 524-528
18. 吉田雄吾, 脇田重明, 前川 徹, 大澤正実, 佐々木万弓 (2003) 大腿骨頸部骨折に対する人工骨頭置換術の治療成績. 中部整災誌 46: 961-962
19. 大窪 博, 徳永裕彦, 橋口淳一, 小川浩司, 中谷晃之 (2003) 感染性人工股関節の治療経験. 中部整災誌 46: 975-976
20. 池田一博, 新井達也, 脇田重明, 大澤正実, 吉

- 田雄吾 (2003) 伴性劣性無ガンマグロブリン血症に伴った小児化膿性股関節炎の1例. 中部整災誌 46: 411-412
21. 塚本英資, 千束福司, 池田 登, 三木堯明, 上尾豊二 (2003) 外側型腰椎椎間板ヘルニアに対するMRI診断の試み. 中部整災誌 46: 489-490
22. 島田博文, 清水和也 (2003) 遅発性に神経障害を呈した前腕骨骨折の3症例. 中部整災誌 46: 519-520
23. 佐々木万弓, 吉田雄吾, 大澤正実, 前川 徹, 脇田重明 (2003) 母指MP関節ロッキングの2症例. 中部整災誌 46: 1157-1158
24. 斉藤貴徳, 藤澤礼子, 市岡直也, 森 良樹, 谷川暢之, 小串むつみ, 飯田寛和 (2003) 手根管症候群に対するmotor point刺激による伝導速度測定. 末梢神経 14: 203-205
25. 谷川暢之, 斉藤貴徳, 今田直紀, 飯田寛和 (2003) 末梢神経 bypass 移植術の有用性と再生軸索の起源についての検討. 末梢神経 14: 121-124
26. 笹井邦彦, 梶野弘毅, 大成浩征, 飯田寛和 (2003) 小切開による後方侵入顕微鏡視下胸椎椎間板ヘルニア摘出術. 脊椎・脊髄神経手術手技 5: 19-21
27. 笹井邦彦, 飯田寛和 (2003) 顕微鏡視下脊椎脊髄手術におけるelectromagnetic find systemの有用性. 別冊整形外科 44: 142-146
28. 橋谷 実, 吉田 真, 太田悟司, 松下 睦, 漆谷英禮 (2003) 大腿二頭筋遠位筋腱移行部皮下断裂の1例. 整形外科 54: 60-62
29. 橋谷 実, 川口 洋, 吉田 真, 中桐祥勝, 松下 睦, 漆谷英禮 (2003) 脛骨高原骨折治療後におけるX線OA変化の検討. 骨折 25: 319-321
30. 和田孝彦, 松矢浩暉, 徳永裕彦, 飯田寛和 (2003) 当科における化膿性股関節炎およびTHA後感染例の検討 Antibiotics Loaded Acryl Cementの使用経験. 日人工関節会誌 33: 7-8
31. 湯川尚哉, 辻 裕之, 岩井 大, 永田基樹, 小椋 学, 宮本 真, 竹村博一, 山下敏夫, 笹井邦彦 (2003) 頸神経における知覚および運動機能の検討 頸部郭清における経験. 頭頸部腫瘍 29: 76-80
32. 高田達良, 和田正明, 高田敬蔵, 中谷壽男 (2003) 抹消動脈循環障害を疑う. medicina 40: 718-723
33. 塚本英資, 池田 登 (2003) 尺骨急性骨塑性変形を伴った陳旧性外傷性橈骨頭脱臼の一例. 日肘会誌 10: 155-156
34. 菅 俊光, 今井義広 (2003) リハビリテーション(肺理学療法)施行前後の呼吸音の変化について 小児症例. 薬理と臨 13: 347-353
35. 菅 俊光, 今井義広 (2003) 呼吸リハビリテーション施行前後の呼吸音の変化について 肺気腫症例. 薬理と臨 13: 355-363
36. 和田孝彦, 宮島茂夫, 飯田寛和 (2003) 関節リウマチ患者へのエチドロネートの抗炎症効果の検討 第5回ビスフォスフォネートフォーラム発表要旨集 20

#### 総 説

1. 飯田寛和 (2003) 股関節疾患治療の諸問題. 整形外科 54: 1209-1218
2. 重栖 孝 (2003) 骨髄内骨髄移植 (IBM-BMT). 整形外科 54: 826
3. 坂井田稔 (2003) 人生折り返し. 滋賀県医師会報 1: 44
4. 坂井田稔 (2003) 私のコーヒープレイク「不足しているが不足している」. 滋賀県医師会報 12: 39
5. 丸山東勲, 梅田眞志 (2003) 急性破壊型股関節症の1例. 大津市医師会誌 26: 644-646

#### 学会発表

1. Iida H (2003) Total hip replacement for dysplastic hip. Seminar in Haukeland Hospital, Bergen University, ノルウェー
2. Sasai K, Saito T, Ohnari H and Iida H (2003) Microcervical foraminotomy with en-bloc laminoplasty for radiculo-myelopathy caused by cervical spondylosis. Spine Across the Sea, Maui, USA
3. Ohnari H, Sasai K, Akagi S and Iida H (2003) Axial Symptoms After Cervical Laminoplasty. Spine across the sea 2003, Maui, Hawaii
4. Ogushi M (2003) EFFECTS OF VIBRATION

- AND FINGER MOVEMENTS ON HIGH FREQUENCY OSCILLATION OF SEP. 50th American Association of Electrodiagnostic Medicine, San Francisco, California
5. Saito T, Fujisawa R, Imada N, Adachi T, Ichioka N and Mori Y (2003) Intraoperative Monitoring of Sciatic Nerve During Total Hip Replacement. 27th International congress of clinical neurophysiology, San Francisco, California
  6. Imada N, Saito T, Fujisawa R, Adachi T, Ichioka N and Mori Y (2003) Limitation of Intraoperative Monitoring by MEP Following Scalp Electric Stimulation. 50th Annual Scientific Meeting and Anniversary of the American Association of Electrodiagnostic Medicine, San Francisco, California
  7. Takada K, Inaba M, Ichioka N, Baba S, Taira M, Nakamura K, Iida H and Ikehara S (2003) Prevention of senile osteoporosis in SAMP6 mice by intra-bone marrow injection of allogeneic bone marrow cells. The 2nd International Conference on Senescence: the SAM Model, 札幌
  8. 飯田寛和 (2003) 人工股関節置換術の術前設計と手術の実際. 第100回中部日本整形外科災害外科学会, 京都
  9. 和田孝彦, 松矢浩暉, 徳永裕彦, 飯田寛和 (2003) 当科における化膿性股関節炎およびTHA後感染例の検討. Antibiotics Loaded Acryl Cement (ALAC)の使用経験. 第33回日本人工関節学会, 別府
  10. 宮島茂夫, 森本忠信, 若林 英, 飯田寛和 (2003) 当科での感染TKAに対する治療経験. 第33回日本人工関節学会, 別府
  11. 川那辺圭一, 田村治郎, 清水基行, 中村孝志, 飯田寛和 (2003) 感染人工関節の一次的再置換術. 第33回日本人工関節学会, 別府
  12. 浅田 卓, 和田孝彦, 松矢浩暉, 徳永裕彦, 飯田寛和 (2003) セメント人工股関節置換術 (THA) 時の経食道心エコーの検討. 第33回日本人工関節学会, 別府
  13. 塚本英資, 池田 登, 上尾豊二 (2003) 両側感染性人工股関節に対して再置換術を行った一症例. 第33回日本人工関節学会, 別府
  14. 斉藤貴徳, 藤澤礼子, 森 良樹, 笹井邦彦, 飯田寛和 (2003) 腕神経叢損傷に対する横隔神経移行による肘屈曲再建術. 第17回東日本手の外科学会, 東京
  15. 橋谷 実, 松下 睦, 川口 洋, 坂本 啓, 塩出速雄, 漆谷英禮 (2003) 当院における小児外傷性肘関節脱臼の検討. 第15回日本肘関節研究会, 東京
  16. 塚本英資, 池田 登, 小谷博信, 上尾豊二 (2003) 尺骨の骨塑性変形を伴った陳旧性外傷性橈骨頭脱臼の1例. 第15回日本肘関節研究会, 東京
  17. 岡村泰三, 松田康孝, 梁瀬義章 (2003) 明らかな骨折前に画像診断が可能であった大腿骨頸部疲労骨折の1例. 第24回大阪整形外科症例検討会, 大阪
  18. 和田孝彦, 宮島茂夫, 飯田寛和 (2003) 関節リウマチ患者のMMP-3とCARFの比較検討. 第47回日本リウマチ学会総会, 東京
  19. 和田孝彦, 宮島茂夫, 飯田寛和 (2003) 関節リウマチ患者に対するエチドロネートの効果疾患活動性への影響. 第47回日本リウマチ学会総会, 東京
  20. 宮島茂夫, 和田孝彦, 重栖 孝, 飯田寛和 (2003) RAにおける坑ガラクトース欠損 IgG抗体の経時的変化 IgM-RFとの比較. 第47回日本リウマチ学会総会, 東京
  21. 串田剛俊, 飯田寛和, 池原 進 (2003) レトロウイルスを用いた human heme oxygenase-1 gene のヒト内皮細胞への導入. 第47回日本リウマチ学会総会, 東京
  22. 竹村清介, 二宮俊憲, 飯田寛和, Jorg J. Goronzy, Cornelia M. Weyand (2003) リウマチ滑膜のリンパ濾胞におけるT細胞とB細胞の役割. 第47回日本リウマチ学会総会, 東京
  23. 南川義隆, 菅 俊光, 松原 司, 小山芳伸 (2003) PIP関節の再建. 第47回日本リウマチ学会総会, 東京
  24. 若林 英, 笹井邦彦, 斉藤貴徳, 赤木繁夫, 飯田寛和 (2003) 胸椎脊柱管内病変に対する顕微鏡視下片側侵入後方椎弓切除術. 第100回中部日本整形外科災害外科学会, 京都
  25. 大成浩征, 笹井邦彦, 松矢浩暉, 飯田寛和 (2003) 腰部脊柱管狭窄症に対する顕微鏡視下

- 片側侵入黄色靱帯全切除術．第100回中部日本整形外科災害外科学会，京都
26. 佐々木万弓，脇田重明，前川 徹，大澤正実，吉田雄吾（2003）母指MP関節ロッキングの2症例．第100回中部日本整形外科災害外科学会，京都
  27. 大窪 博，橋口淳一，小川浩司，中谷晃之，徳永裕彦（2003）感染性人工股関節の治療成績．第100回中部日本整形外科災害外科学会 京都
  28. 笹井邦彦，斉藤貴徳，大成浩征，飯田寛和（2003）頸椎々間板ヘルニアに対する椎弓形成術を併用した顕微鏡視下後方ヘルニア摘出術．第100回中部日本整形外科災害外科学会，京都
  29. 吉田雄吾，前川 徹，佐々木万弓（2003）大腿骨頸部骨折に対する人工骨頭置換術の治療成績．第100回中部日本整形外科災害外科学会，京都
  30. おおえ賢一，中村誠也，南川義隆，飯田寛和中手骨骨腫瘍に対し再建術を要した2症例についての検討（2003）第46回日本手の外科学会，名古屋
  31. 中村誠也，おおえ賢一，飯田寛和，南川義隆，浅井聖子（2003）手関節 zone VII における多数指伸筋腱断裂に対する早期運動療法 の検討．第46回日本手の外科学会，名古屋
  32. 斉藤貴徳，中東康純，森 良樹（2003）顕微鏡下片側進入全周除圧術術後の傍脊柱筋の変化と術後短期成績 従来法による両側開窓術との比較検討 第32回日本脊椎脊髄病学会，福岡
  33. 斉藤貴徳，中東康純，森 良樹（2003）脊髄症を呈した胸椎椎間板ヘルニアの手術療法 後方アプローチによる顕微鏡下椎間板摘出術．第32回日本脊椎脊髄病学会，福岡
  34. 大成浩征，笹井邦彦，松矢浩暉，飯田寛和（2003）腰椎変性疾患に対する手術用顕微鏡の活用 片側侵入全周除圧術．第32回日本脊椎脊髄病学会，福岡
  35. 笹井邦彦，斉藤貴徳，大成浩征，加藤勇司，赤木繁夫，飯田寛和（2003）頸椎変性疾患に対する手術用顕微鏡の活用 椎弓形成術併用椎間孔拡大術．第32回日本脊椎脊髄病学会，福岡
  36. 斉藤貴徳，中東康純，森 良樹，笹井邦彦，赤木繁夫，飯田寛和（2003）MED を用い後方支持組織を完全に温存した椎弓形成術．第76回日本整形外科学会学術集会，金沢
  37. 飯田寛和（2003）（ケーススタディー）変形性股関節症 どの治療法を選択するか．第76回日本整形外科学会学術集会，金沢
  38. 和田孝彦，松矢浩暉，浅田 卓，徳永裕彦，飯田寛和（2003）人工股関節置換術（THA）時の経食道心エコー - の検討 セメントとセメントレスおよび両側同時置換術を比較して．第76回日本整形外科学会学術集会，金沢
  39. 笹井邦彦，大成浩征，飯田寛和（2003）腰部脊柱管狭窄症に対する片側侵入顕微鏡視下全周除圧術 第76回日本整形外科学会学術集会，金沢
  40. 大成浩征，笹井邦彦，赤木繁夫，斉藤貴徳，加藤勇司，飯田寛和（2003）頸椎椎弓形成術後の軸性疼痛に関するアンケート調査．第76回日本整形外科学会学術集会，金沢
  41. 中谷健治，石倉宏泰，三木重樹，斎藤福樹，松尾信昭，田中考也，中村誠也，中谷寿男（2003）当センターにおける墜落外傷の検討．第17回日本外傷学会，大阪
  42. 中村誠也，宮島茂夫，重栖 孝，飯田寛和（2003）難治性骨髄炎に対しイリザロフ法を用いて治療している症例について．第26回日本骨・関節感染症研究会，東京
  43. 菅 俊光，橋本寿子，沖井 明，奥中美早，北村多愛（2003）人工股関節置換術におけるクリニカルパスの疾患別検討 関節リウマチ．第40回日本リハビリテーション医学会，札幌
  44. 斉藤貴徳，藤澤礼子，市岡直也，森 良樹，谷川暢之，小串むつみ，飯田寛和（2003）手根管症候群に対する motor point 刺激による伝導速度測定 第14回日本末梢神経学会学術集会，東京
  45. 和田孝彦，宮島茂夫，飯田寛和（2003）関節リウマチ患者に対するエチドロネートの効果．第4回日本ビスフォスフォネートフォーラム
  46. 笹井邦彦，斉藤貴徳，大成浩征，赤木繁夫，飯田寛和（2003）頸椎椎間板ヘルニアによる脊

- 髄症と脊髄神経根症に対する椎弓形成術併用顕微鏡視下後方ヘルニア摘出術. 第10回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会, 東京
47. 大成浩征, 笹井邦彦, 赤木繁夫, 飯田寛和 (2003) 腰椎椎間板嚢腫 ヘリカル CT Discogramによる病態の検討. 第10回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会, 東京
48. 岡村泰三, 松田康孝, 松島正弘, 梁瀬義章 (2003) 腰椎変性疾患の再手術症例に対するPLIFの検討. 第10回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会, 東京
49. 和田孝彦, 松矢浩暉, 浅田 卓, 徳永裕彦, 飯田寛和 (2003) 人工股関節置換術 (THA) 時の経食道心エコーの検討 セメントとセメントレスおよび両側同時置換術を比較して. 第30回日本股関節学会, 東京
50. 佐々木万弓, 矢野光紀, 前川 徹 (2003) 当科における大腿骨転子部骨折に対するGamma Nailの治療成績. 第30回日本股関節学会, 東京
51. 斉藤貴徳, 市岡直也, 藤澤礼子, 森 良樹, 今田直記, 谷川暢之, 飯田寛和 (2003) 経頭蓋磁気刺激傍脊柱筋記録運動誘発電位の臨床応用における促進法の比較. 第33回日本臨床神経生理学学会, 旭川
52. 斉藤貴徳, 藤澤礼子, 森 良樹, 今田直紀, 谷川暢之, 飯田寛和 (2003) 手根管症候群にたいする motor point 刺激による伝導速度測定. 第33回日本臨床神経生理学学会, 旭川
53. 藤澤礼子, 斉藤貴徳, 森 良樹, 今田直紀, 谷川暢之, 飯田寛和 (2003) 慢性関節リウマチ患者におけるリウマチ性神経障害の検討第33回日本臨床神経生理学学会, 旭川
54. 小林義輝, 二宮俊憲, 竹村清介, 長谷川充子, 中島保典 (2003) 大腿骨頸部内側骨折に対するハンソンピンシステムの術後成績の検討. 第101回中部日本整形外科災害外科学会, 浜松
55. 大窪 博, 徳永裕彦, 塚本英資, 中谷晃之, 濱田 彰 (2003) 感染性人工関節の治療結果の評価について. 第101回中部日本整形外科災害外科学会, 浜松
56. 池田一博, 亀山 修, 山本文孝, 中尾浩志, 上田祐輔 (2003) 多発性骨軟骨腫症による両側前腕変形の1治療例. 第101回中部日本整形外科災害外科学会, 浜松
57. 竹村清介, 長谷川充子, 中島保典, 小林義輝, 二宮俊憲 (2003) 母指 MCP 関節に生じた滑膜性軟骨腫症の1例第101回中部日本整形外科災害外科学会, 浜松
58. 田井俊明, 坂井田稔, 丸山東勲, 梅田眞志 (2003) 当科で経験した結核性膝関節炎の3例. 第101回中部日本整形外科災害外科学会, 浜松
59. 田島剛史, 良原公浩, 加藤勇司 (2003) 術後感染性股関節炎の2症例に対する手術経験第101回中部日本整形外科災害外科学会, 浜松
60. 飯田寛和 (2003) 生体活性骨補填材料使用実態調査の報告. 第4回バイオアクティブペースト研究会, 東京
61. 宮島茂夫, 赤木繁夫, 中村誠也, 和田孝彦, 飯田寛和 (2003) フィン付き髓内釘を使用したRA足関節固定術の問題点 再手術例を経験して. 第31回日本リウマチ・関節外科学会, 東京
62. 和田孝彦, 徳永裕彦, 飯田寛和 (2003) THA術後感染に対する再置換術 (一期的, 二期的再建術の経験). 第31回日本リウマチ・関節外科学会, 東京
63. 前川 徹, 佐々木万弓, 矢野光紀 (2003) 当科におけるクリニカルパス. 第4回日本クリニカルパス学会, 広島
64. 坂井田稔, 丸山東勲, 田井俊明, 梅田眞志 (2003) 加圧筋力トレーニングの効果. 第23回滋賀県整形外科医会学術集会, 大津市
65. 飯田寛和 (2003) 股関節手術における合併症愛媛整形外科集談会, 愛媛
66. 飯田寛和 (2003) 整形外科感染症の現状と対策. 伏見京整会学術講演会, 京都
67. 飯田寛和 (2003) Cemented femoral Component concept & technique. 第5回関西股関節研究会, 大阪
68. 飯田寛和 (2003) 人工関節について. 第32回病院薬剤師臨床セミナー, 関西医科大学附属病院
69. 飯田寛和 (2003) 足腰の痛み. 関西医大白菊会, 大阪
70. 飯田寛和 (2003) 人工股関節における最近の話題. 第105回北海道整形災害外科学会, 釧路市
71. 飯田寛和 (2003) THA (primary & revision) に

- おける骨欠損への治療戦略．第9回人工関節基礎研究会，東京
72. 坂井田稔(2003)アンチドーピングコントロールについて．東レアローズ女子バレーボールチーム，大津市
  73. 飯田寛和(2003)股関節における最近の話題．京都関西医大若手の会，京都
  74. 飯田寛和(2003)人工股関節における最近の話題．佐世保整形外科医会，佐世保市
  75. 亀山 修(2003)たかが骨粗鬆症，されど骨粗鬆症．第20回堺市医師会整形外科医会学術講演会，堺市
  76. 宮島茂夫(2003)関節リウマチに対する薬物療法 最近の動向．第6回京都市北部整形外科勉強会，京都
  77. 和田孝彦(2003)リウマチと骨粗鬆症．第8回北河内リウマチ膠原病勉強会，守口市
  78. 飯田寛和(2003)骨セメントの再評価．第4回骨・関節免疫研究会，三重
  79. 坂井田稔(2003)健康づくりに係わる講話(腰痛の原因と予防)．滋賀県社会保険協会，滋賀県甲賀郡
  80. 坂井田稔(2003)寝たきり予防について．滋賀県老人クラブ連合会，草津市
  81. 亀山 修(2003)骨がいつの間にか壊れてくる骨粗鬆症．第2回市民公開講座，京都
  82. 中村誠也(2003)開放性骨折に対する YSK medical 創外固定器を用いた初期治療．第1回Limb Deformity Course KOBE JAPAN, KOBE
  83. 高田敬蔵，稲葉宗夫，市岡直也，馬場 奨，平充，中村洪一，飯田寛和，池原 進(2003)骨髄移植による SAMP/6 マウスの老人性骨粗鬆症の治療．第33回日本免疫学会総会・学術総会，福岡
  84. 平 充，稲葉宗夫，池袋一哉，中村洪一，馬場 奨，高田敬蔵，上山康男，池原 進(2003)骨髄内骨髄移植 (IBM-BMT) の併用による膝島移植 Mixed chimerism を利用して．第33回日本免疫学会総会・学術総会，福岡
  85. 馬場 奨，稲葉宗夫，高田敬蔵，平 充，中村洪一，山下敏夫，池原 進(2003)マウス造血前駆細胞 (Lin 陰性 / c-kit 陽性) の動態解析 骨髄内骨髄移植法を用いて．第33回日本免疫学会総会・学術総会，福岡
  86. 松矢浩暉，和田孝彦，徳永裕彦，飯田寛和(2003)成人化膿性股関節炎および人工股関節置換術 (THA) 後感染に対する治療経験，第26回日本骨・関節感染症研究会，東京
  87. 松矢浩暉，徳永裕彦，和田孝彦，飯田寛和(2003)両変形性股関節症に対する片側人工股関節置換術症例の反対側の検討．第30回日本股関節学会，東京
  88. 谷川暢之，斉藤貴徳，今田直紀，飯田寛和(2003)末梢神経 bypass 移植術の有用性と再生軸索の起源についての検討．第14回日本末梢神経学会学術集会，東京
  89. 谷川暢之，斉藤貴徳，今田直紀，飯田寛和(2003)末梢神経バイパス移植術の検討．第18回日本整形外科学会基礎学術集会，北九州
  90. 今田直紀，斉藤貴徳，谷川暢之，飯田寛和，藤澤礼子，森 良樹(2003)経頭蓋電気刺激筋記録法による術中モニタリングの適応限界．第33回日本臨床神経生理学学会，旭川
  91. 足立 崇，笹井邦彦，大成浩征，赤木繁夫，飯田寛和(2003)下肢症状のみを呈した頸胸椎ダブルヘルニアの1例．第386回整形外科集談会京阪神地方会，大阪
  92. 大窪 博，徳永裕彦，橋口淳一，小川浩司，中谷晃之，濱田 彰(2003)遠位上腕二頭筋腱断裂の1例．第387回整形外科集談会京阪神地方会，大阪
  93. おおえ賢一，宮島茂夫，和田孝彦，重栖 孝，飯田寛和(2003)皮膚腫瘍性病変を呈したrheumatoid lymphedemaの1例 第387回整形外科集談会京阪神地方会，大阪
  94. 大窪 博，徳永裕彦，橋口淳一，小川浩司，中谷晃之，濱田 彰，石田尊啓(2003)原発性腸腰筋膿瘍の1例．第388回整形外科集談会京阪神地方会，大阪
  95. 足立 崇，斉藤貴徳，藤澤礼子，森 良樹，飯田寛和(2003)全型腕神経叢損傷に対して対側C7神経根移行術を施行した1例．第388回整形外科集談会京阪神地方会，大阪
  96. 山城成康，坂根正則，児島 新，飯田寛和(2003)上腕骨顆上骨折後の内反肘に生じた遅発性尺骨神経麻痺の1例．第388回整形外科集談会京阪神地方会，大阪
  97. 三木孝人，松矢浩暉，和田孝彦，飯田寛和

- (2003)類宦官症に合併した成人大腿骨頭すべり症の一例. 第389回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
98. 山城成康, 山本龍範, 児島 新, 中村誠也, 飯田寛和, 中谷健二, 中谷壽男, 谷川 昇, 澤田 敏(2003)大腿骨外骨腫骨折により下肢血行障害を来した一例. 第390回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
99. 上田祐輔, 赤木繁夫, 笹井邦彦, 大成浩征, 飯田寛和(2003) von Recklinghausen 病に伴う胸椎部巨大 dural ectasia の1例. 第391回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
100. 石田 響, 中村誠也, 児島 新, 梅野弘毅, 飯田寛和(2003)上腕動脈断裂を伴った肘関節閉塞性脱臼の1例. 第392回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
101. 長谷川潔, 足立 崇, 原田理人, 岩崎圭志, 北西正光(2003)無輸血治療を希望するエホバの証人大腿骨骨折の一治療経過. 第392回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
102. 三木孝人, 笹井邦彦, 吉田雄吾, 大成浩征, 赤木繁夫, 飯田寛和, 坂井田紀子(2003)腰椎椎間関節から発生した色素性絨毛性滑膜炎の1例. 第393回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
103. 三木孝人, 上島大輔, 宮島茂夫, 和田孝彦, 飯田寛和(2003)腸恥滑液包炎に多量のフィブリン塊を認めた関節リウマチの1例. 第394回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
104. 長谷川潔, 原田理人, 当麻俊彦, 岩崎圭至, 北西正光(2003)京セラ KLS システムで再置換術を行ったハックスステップシステム破損例の検討. 第395回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
105. 小津 敏, 坂根正則, 児島 新, 三木孝人, 飯田寛和(2003)両側同時に大腿骨顆上骨折を起こした TKA 後 RA 患者の1例. 第395回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪

#### 著 書

1. 和田孝彦(2003)人工股関節全置換術. 整形外科インフォームドコンセントとパス 229-234頁, 中外医学社, 東京
2. 飯田寛和(2003)人工股関節再置換術. NEW MOOK 整形外科 13 股関節外科(越智隆弘, 菊池臣一編) 259-267頁, 金原出版, 東京
3. 飯田寛和(2003)チャンレイ人工股関節置換術. 股関節症 患者と医師のためのガイド 第2版(村瀬鎮雄, 廣橋賢次編) 202-208頁, 金原出版, 東京
4. 飯田寛和(2003) 日常遭遇する疾患を中心に 成人. 改訂3版 整形外科ナースのための知識と実際(飯田寛和編) 159-167頁, メディカ出版, 大阪
5. 坂根正則(2003) 日常遭遇する疾患を中心に 小児. 改訂3版 整形外科ナースのための知識と実際(飯田寛和編) 167-177頁, メディカ出版, 大阪

## 形成外科学教室

### 研究概要

形成外科学の対象は解剖学的には体表を中心とする全身におよび, 奇形, 外傷, 腫瘍等による形態の変化・損傷・欠損の機能的, 整容的再建を目的とするものであり, 従ってその研究対象も多岐にわたる. 現在までの形成外科学教室における主な基礎・臨床研究は1)創傷治癒に関するもの, 2)ケロイド・瘢痕に関するもの, 3)毛成長に関するもの, 4)熱傷の病態生理および臨床に関するもの, 5)頭蓋顔頸面骨発育および計測に関するもの, 6)骨添加物, 骨誘導物質, 骨代用人工材料に関するもの, 7)皮膚腫瘍の臨床とそのレーザー治療に関するもの, 8)マイクロサージャリー, 微小循環再建に関するもの, 9)眼瞼・眼窩領域の再建とその解剖に関するもの, 10)顔面における新しい皮弁の開発に関するもの, 11)頭蓋底の発生, 解剖, 手術に関するもの, 12)頭頸部腫瘍手術に関するもの, 13)唇裂口蓋裂患者の集学的治療に関するもの, 14)食品による癌抑制, 15)皮膚, 皮膚付属器腫瘍における免疫組織学的検討, 16)その他 と概別できる. その詳細を下記のごとく項目別に列挙する.

- 1) 創傷治癒一般に関する研究
  - ・創傷治癒における線維芽細胞の動態
  - ・線維芽細胞のケモタキシス
  - ・各種創傷被覆剤の臨床応用の比較検討
  - ・ラットリンパ浮腫モデルにおける創傷治癒への影響
  - ・家兎耳介を用いた創傷被覆材と創傷治癒過程に関する研究
- 2) ケロイド・癬痕に関する研究
  - ・ケロイド体質と発生病理
  - ・ケロイドと毛孔性苔癬との関連に関する臨床統計学的研究
  - ・性ホルモンのケロイド・肥厚性癬痕への関与に関する研究
- 3) 毛成長に関与すると考えられるサイトカイン, 成長因子に関する研究
  - ・Wister rat および C57BL6 mouse を用いた毛成長・毛周期に関する研究
- 4) 熱傷の病態生理および臨床に関する研究
  - ・熱傷ラットショックモデルによる生体反応に関する研究
  - ・スクワランによる超低温の熱傷局所治療
  - ・熱傷医療チームによる重傷度判定法と後遺症スコアの作成
  - ・早期植皮とくにアログラフトを用いての積極的臨床利用についての研究
- 5) 頭蓋顎顔面骨発育および計測に関する研究
  - ・頭蓋顎顔面外科一般における解剖および計測学
  - ・下顎骨形態に関する比較人類学的検討
  - ・FCR による当科における頭部 X 線規格写真分析
  - ・CT 計測による正常頭蓋骨成長過程の研究
- 6) 骨添加物, 骨誘導物質, 骨代用人工材料に関する研究
  - ・人工骨・人工材料一般の基礎研究と臨床応用について
  - ・rhBMP-2 による軟部組織内骨誘導能に関する実験的研究
  - ・HAP の臨床 (頭蓋顎顔面外科領域への応用)
- 7) 皮膚腫瘍の治療とレーザー
  - ・単純性血管腫のレーザー治療とその病理に関する研究
  - ・血管腫・母斑のレーザー治療
  - ・単純性血管腫に対する色素レーザーの効果と血管破壊とその再生の機序
  - ・顔面皮膚腫瘍の治療および切除後再建
- 8) マイクロサージャリー, 微小循環再建に関する研究
  - ・マイクロサージャリー後の組織の血流に関する研究 (レーザー・ドップラー血流計を用いたモニタリング)
  - ・切断指肢再接着術における当施設統計とケミカルメディエーターの動向に関する研究
- 9) 眼瞼・眼窩領域の再建とその解剖に関する研究
  - ・眼瞼・眼窩再建/義眼床再建全般 (眼科・オキュラリストを含む集学的研究)
  - ・義眼床の臨床分類と再建術について
- 10) 顔面における新しい皮弁の開発に関する研究
  - ・皮弁の開発: sub-mandibular flap と lateral orbital flap (その血行と微小解剖)
  - ・ソフロンを用いた各種皮弁の血管網の検索
- 11) 頭蓋底の発生, 解剖, 手術に関する研究
  - ・前頭蓋底延長術等の外科的侵襲による前頭洞発育への影響に関する臨床研究
  - ・胎児前頭蓋底および頭蓋冠の発生についての解剖学的研究



- ・胎児頭蓋縫合部の組織発生の検討
- 12) 頭頸部腫瘍手術における解剖と再建に関する研究
  - ・頭蓋底外科一般（チームによる集学的治療）
  - ・前頭蓋底悪性腫瘍の可及的積極的切除への新しい侵入経路の開発
  - ・新しい前頭蓋底悪性腫瘍の切除分類と臨床利用
- 13) 唇裂口蓋裂患者の集学的治療に関する研究
  - ・唇裂・口蓋裂の治療と言語療法
  - ・上顎骨切りあるいは咽頭弁手術前後の VPI の変化について
  - ・口蓋裂手術前後のニューモタコグラムによる鼻腔通気量変化の測定
- 14) 食品による癌抑制
- 15) 皮膚，皮膚付属器腫瘍における免疫組織学的検討
- 16) その他
  - ・バーチャル・リアリティの形成外科的応用
  - ・下肢再建の臨床例における新しいティシューエキスパンダーの開発
  - ・合指症手術におけるピンサーによる新しい体外拡張法の開発
  - ・上下顎骨切り術施行患者の術前後心理社会的影響について

以上の基礎・臨床研究の成果は，各部門リーダーを中心に国際学会や国内全国規模学会・研究会発表，学会雑誌・一般学術誌投稿が活発におこなわれている。

この他，形成外科臨床部門において当教室では下記のごとく対外的にも研究会，カンファレンス等を持ち，研究を進めている。

- ・義眼床手術研究会（全国規模，1989年～）
  - ・近畿大学・形成外科との臨床症例検討会
  - ・大阪市立大学・形成外科との臨床症例検討会
  - ・院内熱傷医療チーム症例カンファレンス（形成外科，救命センター）
  - ・院内頭蓋底外科手術チーム症例カンファレンス（形成外科，脳神経外科，耳鼻咽喉科）
- 以上

## 研究業績

### 原著

1. Tsujita-Kyutoku M, Kiuchi K, Danbara N, Yuri T, Senzaki H and Tsubura A (2003) p63 expression in normal human epidermis and epidermal appendages and their tumors. *J Cutan Pathol* 30: 11-17
2. Yuri T, Danbara N, Tsujita-Kyutoku M, Fukunaga K, Takada H, Inoue Y, Hada T and Tsubura A (2003) Dietary docosahexaenoic acid suppresses N-methyl-N-nitrosourea-induced mammary carcinogenesis in rats more effectively than eicosapentaenoic acid. *Nutr Cancer* 45: 211-217
3. Wang YB, Ogawa Y, Doi H, Kusumoto K, Jin TN and Ikehara S (2003) Long-term immunologic induction of donor-specific tolerance to skin allografts by bone marrow transplant in rabbits. *Plast Reconstr Surg* 111 (1): 291-297
4. Hayami J, Kurokawa I, Hashimoto K and Kusumoto K (2003) Malignant fibrous histiocytoma of scalp with intracranial invasion twenty years after postoperative irradiation. *J Craniofac Surg* 14 (1): 74-77
5. Kurokawa I, Kusumoto K, Sensaki H, Shikata N, Tsubura A and Nishijima S (2003) Trichofolliculoma: case report with immunohistochemical study of cytokeratins. *Br J Dermatol* 148 (3): 597-598
6. Okubo Y, Bessho K, Fujimura K, Kusumoto K, Suzuki T, Segami N, Ogawa Y and Iizuka T

- (2003) Preclinical study of recombinant human bone morphogenetic protein-2: Application of hyperbaric oxygenation during bone formation under unfavourable condition. *Int J Oral Maxillofac Surg* 32: 313-317
7. 久徳茂雄, 黒岡定浩, 南方竜也 (2003) 各種薬剤による実験動物胎仔頭蓋顔面奇形発生について 第三報. *医と薬学* 49: 239-241
  8. 黒岡定浩, 久徳茂雄, 南方竜也, 脇田重明, 吉田雄吉 (2003) 大腿骨骨髓炎を伴う大転子褥瘡の治療経験. *形成外科* 46: 719-724
  9. 久徳茂雄, 黒岡定浩, 日原正勝, 南方竜也, 北澤康秀 (2003) 過去5年間の乳幼児熱傷症例の検討. *熱傷* 29: 79-84
  10. 久徳茂雄, 稲垣隆介, 山内康雄 (2003) 頭蓋狭窄症に対する頭蓋冠延長術. *日創外固定骨延長会誌* 14: 99-103
  11. 南方竜也, 久徳茂雄, 黒岡定浩 (2003) 難治性潰瘍におけるジェット洗浄器の有用性について. *形成外科* 46: 1173-1177
  12. 久徳茂雄, 北澤康秀 (2003) 手の深達熱傷の早期手術の必要性について. *オペナーシング* 18: 108-110
  13. 山中英治, 加藤裕子, 黒岡定浩, 佐藤美香, 北野らん子, 狩谷佳寛, 小倉幸子, 谷藤美幸, 久徳茂雄, 北澤康秀 (2003) 褥瘡管理と NST. *JJPEN* 25: 31-37
  14. 久徳茂雄, 稲垣隆介, 山内康雄 (2003) 頭蓋縫合早期癒合症と骨延長. *脳外速報* 13: 634-640
  15. 日原正勝, 久徳茂雄, 南方竜也, 小川 豊 (2003) 眼瞼脂腺癌の3例. *Oncologyの進歩* 13 (1): 1-6
  16. 葛西健一郎 (2003) レーザー治療. *眼科診療プラクティス* 6 (10): 134-135
  17. 葛西健一郎 (2003) 眼瞼手術のシュミレーション. *眼科診療プラクティス* 6 (10): 138-139
  18. 小川 豊 (2003) モイストウンドヒーリング. *治療* 85 (10): 2721-2727
  19. 小川 豊 (2003) 義眼. *形成外科* 46 (増刊): S242-S243
  20. 小川 豊 (2003) 頭頸部の疾患 眼窩内容除去後変形. *形成外科* 46 (増刊): S143-S144
  21. 小川 豊 (2003) エピテーゼ. *形成外科* 46 (増刊): S243-S244
  22. 小川 豊 (2003) 熱傷の局所療法 創傷被覆材. *救急医学* 27 (1): 74-76
  23. 小川 豊 (2003) 熱傷後肥厚性瘢痕の予防と術後後療法. *形成外科 ADVANCE シリーズ II-10*: 269-276
  24. 堀尾 修, 小川 豊, 松島貴志, 土井秀明 (2003) 色素性蕁麻疹を合併した異所性蒙古斑にレーザー治療を行い術中呼吸障害を呈した1例. *日形会誌* 23 (3): 203-206
  25. 奥村 薫, 北西 剛, 伊藤文人, 菅 豊明 (2003) 耳下部に生じた顆粒細胞腫例. *耳鼻臨床* 96 (11): 975-978
  26. 佐々木富美子, 楠本健司, 小川 豊 (2003) 免疫抑制剤 (FK506, CsA) による培養ヒト線維芽細胞への影響の検討. *熱傷* 29 (1): 21-27
  27. 佐々木富美子, 楠本健司, 小川 豊 (2003) ヒト線維芽細胞培養での自家, 同種および牛血清使用の比較. 第9回ケロイド・肥厚性瘢痕研究会 記録集 35-39
  28. 田辺敦子, 小川 豊, 楠本健司, 日原正勝, 南方竜也 (2003) 前頭部 MRSA 感染性硬膜外膿瘍に対する抗生剤入り骨セメントピースの使用経験. *日本頭蓋顎顔面外科学会誌* 18 (3): 294-299
  29. 海原真治, 別所和久, 藤村和磨, 大久保康則, 園部純也, 楠本健司, 飯塚忠彦 (2003) アテロコラーゲンスポンジ (TERUPLUG) を担体とする遺伝子組み換えヒト骨形成因子の骨誘導に関する実験的研究 アテロペプチドコラーゲン (Cellmatrix LA) を担体とした場合との比較. *日口腔外会誌* 49 (4): 241-245
  30. 楠本健司, 小川 豊 (2003) 骨再建材としての体内埋入異物の問題点と展望. *日美容外会報* 25: 55-62
  31. 福田 智, 大西早百合, 楠本健司, 小川 豊 (2003) 頬骨骨折整復時に鼻・口腔内から大量の動脈性出血を来した1例. *関西医大誌*
  32. 野中信之, 村尾卓也, 酒井俊一, 中島 誠, 馬場朱美, 西岡奈美江, 山口忍, 國吉京子, 川野通夫, 内藤 泰, 伊藤壽一 (2003) 人工内耳によって発達する聴覚性情動的認知. *音声言語医* 44: 15-22
  33. 國吉京子 (2003) 「母子関係とことば」解説.

シリーズ言語臨床事例集 7: 210-216

34. 國吉京子 (2003) 「ことばの障害」の理解を求めて シリーズ 「失語症」. 広報もりぐち 1月号
35. 國吉京子 (2003) 「ことばの障害」の理解を求めて シリーズ 「ことばの発達遅れ」. 広報もりぐち 2月号
36. 國吉京子 (2003) 「ことばの障害」の理解を求めて シリーズ 「機能性構音障害, 吃音」. 広報もりぐち 3月号

#### 学会発表

1. 久徳茂雄, 黒岡定浩, 富野祐里, 川上勝弘 (2003) Nasofrontal Duct Management in the Surgery of a Craniofacial Junction. X International Congress, Monterey, USA
2. 黒岡定浩, 久徳茂雄, 富野祐里 (2003) Correction of whistling deformity or tubercle defect with Mtau's procedure. The 5th Asian-Pacific Cleft Lip & Palate Conference, Seoul, Korea
3. 下間亜由子, 楠本健司, 小川 豊 (2003) Standard cephalometric values of nose for modern Japanese. IPRAS World Congress 2003, Sydney, Australia
4. 安井浩司, 松本幸子 (2003) 治療に難渋する透析患者の下肢潰瘍・壊死症例について. 第27回 KC会, 大阪 (守口)
5. 松本幸子, 安井浩司 (2003) 当院における過去3年間の熱傷患者の治療経験と問題点. 第29回日本熱傷学会総会・学術集会, 大阪
6. 安井浩司, 松本幸子 (2003) 肛門機能を温存し得た肛門全周性の扁平上皮癌の1例. 第80回日本形成外科学会関西支部学術集会, 神戸
7. 清水隆之, 安井浩司, 森小夕里, 伊藤洋子, 藤田友美 (2003) 臨床における体圧分散寝具の適正体圧と創傷治癒について. 第5回日本褥瘡学会学術集会, 埼玉
8. 安井浩司, 松本幸子 (2003) 当院における過去3年間の熱傷患者の治療経験について. 第29回京都医学会, 京都
9. 松本幸子, 安井浩司 (2003) 右下肢ガス壊疽の1例. 第29回 KC会, 大阪 (守口)
10. 土井秀明, 小川 豊 (2003) 上眼瞼 unfavorable result の種々相. 第87回日本美容外科学会学術集会, 京都
11. 土井秀明 (2003) SS式ケーブルスーチャーの臨床使用経験. 第87回日本美容外科学会学術集会, 京都
12. 南方竜也, 久徳茂雄, 黒岡定浩, 北澤康秀 (2003) 野宿生活者への放火による熱傷の2例. 第11回日本熱傷学会近畿地方会, 和歌山
13. 黒岡定浩, 久徳茂雄, 南方竜也 (2003) 内シャント形成後のリンパ浮腫に対してリンパ管静脈吻合を行った1例. 第16回大阪マイクロサージャリー研究会, 大阪
14. 久徳茂雄, 黒岡定浩, 南方竜也, 山下耕助, 上羽哲也, 岩瀬正顕 (2003) 前頭蓋底顔面外傷の急性期治療における形成外科の役割 (シンポジウム「急性期頭部外傷における頭蓋底顔面形成術」). 第8回日本脳神経外科救急学会, 大阪 (千里)
15. 南方竜也, 久徳茂雄, 黒岡定浩 (2003) 眼球突出を来した副鼻腔嚢胞の2例. 第14回義眼床手術研究会, 大阪
16. 久徳茂雄, 黒岡定浩, 南方竜也, 稲垣隆介, 山内康雄 (2003) 頭蓋拡大のための仮骨延長法に対する意見 日本における絶対的適応について. 第46回日本形成外科学会総会・学術集会, 神戸
17. 黒岡定浩, 久徳茂雄, 南方竜也 (2003) 前頭洞嚢胞の治療について. 第46回日本形成外科学会総会・学術集会, 神戸
18. 南方竜也, 久徳茂雄, 黒岡定浩, 島影達也, 中村智之 (2003) 当院における創傷被覆材の選択とその使用について. 第46回日本形成外科学会総会・学術集会, 神戸
19. 中村智之, 島影達也, 久徳茂雄, 黒岡定浩, 南方竜也, 神田栄光 (2003) 皮膚腫瘍の術前評価のための Microscopy coil MRI の有用性 病理組織像との比較検討. 第46回日本形成外科学会総会・学術集会, 神戸
20. 久徳茂雄, 黒岡定浩, 富野祐里, 川上勝弘 (2003) 前頭洞嚢胞の治療と鼻前頭管の開放について. 第15回日本頭蓋底外科学会, 東京
21. 川上勝弘, 吉村晋一, 河本圭司, 辻 裕之, 中村昌彦, 久徳茂雄 (2003) 頭蓋底領域における内視鏡手術. 第15回日本頭蓋底外科学会,

東京

22. 丹羽慎弥, 赤松栄之, 島 盛隆, 黒岡定浩, 富野祐里, 久徳茂雄 (2003) 下顎歯肉癌切除後の再建に血管柄付き遊離腸骨皮弁を用いた 1 例. 第 17 回大阪マイクロサージャリー研究会, 大阪 (岸和田)
23. 黒岡定浩, 久徳茂雄, 富野祐里, 加藤裕子, 北野らん子, 佐藤美香, 山中英治, 北澤康秀, 島影達也 (2003) 当院における褥瘡対策の現況 (その 2) 褥瘡手術と周術期管理の重要性について. 第 5 回日本褥瘡学会, 大宮
24. 加藤裕子, 北野らん子, 佐藤美香, 黒岡定浩, 狩谷佳寛, 久徳茂雄, 山中英治, 北澤康秀 (2003) 当院における褥瘡対策の現況 (その 3) 褥瘡回診による病院全体のレベルアップ効果について. 第 5 回日本褥瘡学会, 大宮
25. 久徳茂雄 (2003) 病院機能評価を受審して (受審病院体験談). 第 23 回病院機能改善セミナー, 大阪
26. 久徳茂雄 (2003) 病院機能評価を受審して「シンポジウム: 病院機能評価受審に向けた取り組み」. 滋賀県病院協会病院機能評価受審フォーラム, 滋賀
27. 久徳茂雄, 稲垣隆介, 山内康雄, 黒岡定浩, 富野祐里 (2003) 頭蓋冠拡大術における延長器の小さな問題点. 第 21 回日本頭蓋顔面外科学会, 東京
28. 川上勝弘, 神崎清一郎, 久徳茂雄 (2003) 前頭蓋底顔面外傷の急性期治療と戦略. 第 31 回日本救急医学会総会, 東京
29. 久徳茂雄, 黒岡定浩, 富野祐里, 北澤康秀 (2003) 頬骨骨折の統計と治療のための新しい分類. 第 31 回日本救急医学会総会, 東京
30. 黒岡定浩, 久徳茂雄, 富野祐里 (2003) 胸腔・縦隔皮膚瘻に対する死腔充填術. 第 81 回形成外科関西支部学術集会, 神戸
31. 葛西健一郎 (2003) 皮下茎皮弁を用いた眉毛再建術における手技のポイント. 第 9 回日本臨床毛髪学会 (シンポジウム), 大阪
32. 葛西健一郎 (2003) 単純性血管腫のレーザー治療 皮膚表面冷却の重要性. 第 21 回日本頭蓋顔面外科学会 (パネルディスカッション), 東京
33. 葛西健一郎 (2003) アザのレーザー治療 最近の進歩. 第 18 回大阪皮膚科医会例会, 大阪
34. 山村有美, 葛西健一郎, 酒井めぐみ, 久野文 (2003) 新型色素レーザー (V-Star) によるポートワイン母斑の治療について. 第 80 回日本形成外科学会関西支部学術集会, 神戸
35. 南方竜也, 王 毅彪, 日原正勝, 堀尾 修, 田中義人, 小川 豊 (2003) 皮下に埋入された避妊具摘出の 2 例. 第 80 回日本形成外科学会関西支部学術集会, 神戸
36. 南方竜也 (2003) 直腸瘻孔が膀胱, 膣, 仙骨部開放創の一体腔に通じた 1 例. 第 28 回 KC 会, 大阪
37. 南方竜也, 松島貴志, 日原正勝, 堀尾 修, 小川 豊, 伊藤文人 (2003) 涙嚢悪性腫瘍 4 例の診断と治療. 第 21 回日本頭蓋顔面外科学会, 東京
38. 堀尾 修 (2003) Rubinstein-Taybi 症候群の 1 例. 第 16 回大阪形成外科医会, 大阪
39. 堀尾 修, 王 毅彪, 楠本健司, 小川 豊 (2003) 動物実験における骨髄細胞移植による創傷治癒の研究. 第 1 回 OWH 研究会, 大阪
40. 堀尾 修, 王 毅彪, 楠本健司, 小川 豊 (2003) 熱傷創に対する骨髄細胞移植による同種皮膚移植のウサギによる実験. 第 29 回日本熱傷学会総会, 大阪
41. 堀尾 修, 沖野 毅, 西山利正, 石田高明, 松尾信昭, 小川 豊 (2003) 腋窩部皮下に発症したマンソン孤虫症の 1 例. 第 14 回日本臨床寄生虫学会, 長崎
42. 伊藤文人, 菅 豊明, 日原正勝, 楠本健司, 小川 豊 (2003) Microcystic Adnexal Carcinoma (MAC) 3 例. 第 46 回日本形成外科学会総会・学術集会, 神戸
43. 伊藤文人, 菅 豊明, 小川 豊 (2003) 顔面原発メルケル細胞癌 6 例についての臨床経過, 治療経過についての検討. 第 21 回日本頭蓋顔面外科学会, 東京
44. 下間亜由子, 小川 豊, 楠本健司 (2003) 頭部 X 線規格写真を用いた鼻部の硬組織, 軟組織の形態分析. 第 46 回日本形成外科学会総会・学術集会, 神戸
45. 楠本健司, 山本一郎, 國吉京子, 小川 豊 (2003) 唇裂例における非接触式モーションキャプチャーシステムによる口唇運動解析の

- 試み(第1報).第46回日本形成外科学会総会・学術集会,神戸
46. 山本一郎,楠本健司,國吉京子(2003)唇裂例における光学式動作解析システムによる口唇運動解析の試み(第1報).第27回日本口蓋裂学会,大阪
47. 楠本健司,別所和久,藤村和磨,王 毅彪,飯塚忠彦,小川 豊(2003)ビタミン K2 による骨形成タンパク(BMP)による骨誘導への影響の検討.第12回日本形成外科学会基礎学術集会,東京
48. 竹本剛司,楠本健司,小川 豊(2003)頬骨弓下にダンベル状に生じた脂肪腫の2例.第21回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会,東京
49. 下間亜由子,小川 豊,楠本健司(2003)頭部 X 線規格写真による前額から鼻部の軟部組織の形態分析.第21回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会,東京
50. 日原正勝,松島貴志,楠本健司,小川 豊,田中孝也(2003)眼瞼熱傷とその再建術式.第29回日本熱傷学会総会・学術集会(シンポジウム),大阪
51. 楠本健司,小川 豊(2003)皮膚悪性腫瘍の切除後再建のための皮下茎皮弁.第19回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会(ビデオコンピュータセッション),札幌
52. 楠本健司,小川 豊(2003)頭部・顔面・頸部領域の High flow hemangioma に対する種々の治療について.第21回日本頭蓋顎顔面外科学会総会・学術集会(パネルディスカッション),東京
53. 竹本剛司,南方竜也,小川 豊,堀尾 修(2003)マンソン孤虫症の1例と寄生虫が原因と思われたクリーピング病の1例.第80回日本形成外科学会関西支部集会,神戸
54. 竹本剛司,小川 豊,大西早百合(2003)眼瞼下垂のプロトコールによる分析.第46回日本形成外科学会総会・学術集会,神戸
55. 下間亜由子,小川 豊,楠本健司(2003)頭部 X 線規格写真を用いた鼻部の硬組織,軟組織の形態分析.第46回日本形成外科学会総会・学術集会,神戸
56. 松島貴志,小川 豊,王 毅彪,井上唯史(2003)多重切断における fish mouth 終了時期について.第17回大阪マイクロサージャリー研究会,大阪
57. 田辺敦子,楠本健司,下間亜由子,黒岡定浩,小川 豊(2003)下顎骨折および下顎歯槽骨骨切り術後の歯髓神経回復過程の評価検討.第46回日本形成外科学会総会・学術集会,神戸
58. 田辺敦子,王 毅彪,小川 豊(2003)創傷治癒関連因子と毛成長.第12回日本形成外科学会基礎学術集会,東京
59. 井上唯史,王 毅彪,松島貴志,田辺敦子,小川 豊(2003)バイクのチェーンによる指尖部切断症例の検討.第46回日本形成外科学会総会・学術集会,神戸
60. 井上唯史,王 毅彪,松島貴志,小川 豊(2003)デグロージング損傷に対するarterializationによる再接着例.第30回日本マイクロサージャリー学会学術集会,岡山
61. 福田 智,下間亜由子,久徳茂雄,楠本健司,小川 豊(2003)顔面熱傷における小顎症様顔貌に対するおとがい骨切り術.日本美容外科学会地方会,東京
62. 藤森佐和子(2003)進行性下腿潰瘍と認めた Werner 症候群の1例.第27回 KC 会,大阪
63. 黒岡定浩(2003)漏斗胸のペクタスパー抜去後の問題点について.第28回 KC 会,大阪
64. 鈴木健司,楠本健司,小川 豊(2003) thenar flap にて修復した指尖部ボタン状欠損の一例.第45回日本形成外科学会中四国支部学術集会,岡山
65. 鈴木健司(2003)抜歯後に発症した難治性側頭下窩膿瘍の一例.第46回日本形成外科学会中四国支部学術集会,松山
66. 富野祐里,久徳茂雄,黒岡定浩(2003)乳腺悪性葉状腫瘍の2例 予後判定と 'stromal overgrowth' について.第80回形成外科関西支部集会,神戸
67. 富野祐里,久徳茂雄,黒岡定浩,加藤裕子,狩谷佳寛,小倉幸子,山中英治,北澤康秀(2003)当院における褥瘡対策の現況(その1) 褥瘡対策チームの活動とその意義について.第5回日本褥瘡学会,大宮
68. 富野祐里,久徳茂雄,黒岡定浩(2003)左下腿 AVM の手術例.第17回大阪形成外科医会,大阪

69. 安達ゆかり, 竹内 寛, 吹角善隆 (2003) acne acarの治療 第81回日本形成外科学会関西支部学術集会, 神戸
70. 吹角善隆, 竹内 寛, 安達ゆかり (2003) 毛細血管拡張症の治療 (レーザーとIPLの比較). 第 81 回日本形成外科学会関西支部学術集会, 神戸
71. 久野 文, 酒井めぐみ, 山村有美, 葛西健一郎 (2003) 異所性蒙古斑のレーザー治療. 第 81 回日本形成外科学会関西支部学術集会, 神戸
72. 菅 豊明, 伊藤文人 (2003) 前腕部に生じた glomus tumor of uncertain malignant potential の 1 例. 第 81 回日本形成外科学会関西支部学術集会, 神戸
73. 仙崎英人, 上田 恵, 辻田美樹, 段原直行, 坎貴司, 螺良愛郎 (2003) 食道静脈瘤硬化療法後に門脈・上腸間膜静脈血栓症を合併した肝硬変の一剖検例. 第 92 回日本病理学会, 福岡
74. 清塚康彦, 坎 貴司, 段原直行, 辻田美樹, 二階堂泰資, 螺良愛郎 (2003) Gemcitabine 耐性卵巣癌における ATP-binding cassette transporter family の遺伝子発現. 第 92 回日本病理学会, 福岡
75. 辻田美樹, 段原直行, 坎 貴司, 仙 英人, 高田秀穂, 井上良計, 羽田尚彦, 螺良愛郎 (2003) ヒト乳癌株 (KPL-1) における共役ドコサヘキサエン酸による増殖抑制効果. 第 92 回日本病理学会, 福岡
76. 段原直行, 坎 貴司, 辻田美樹, 森口佳映, 高田秀穂, 井上良計, 羽田尚彦, 螺良愛郎 (2003) 共役ドコサヘキサエン酸のヒト大腸癌細胞株 (COLO 201) に対する増殖抑制効果. 第 92 回日本病理学会, 福岡
77. 佐々木富美子, 楠本健司, 小川 豊 (2003) ヒト線維芽細胞培養での自家, 同種および牛血清使用の比較. 第 9 回ケロイド・肥厚性瘢痕研究会, 東京
78. 佐々木富美子, 楠本健司, 小川 豊 (2003) ケロイドと正常皮膚由来線維芽細胞における L6, IL8 の産生, 増殖への影響の検討およびその組織, 培養線維芽細胞での IL6receptor, IL8receptor の局在の検討. 第 12 回日本形成外科学会基礎学術集会, 東京
79. 國吉京子, 楠本健司, 山本一郎, 川野通夫 (2003) 先天性鼻咽腔閉鎖不全例における軟口蓋挙上装置装用効果の検討. 第 27 回日本口蓋裂学会, 大阪
80. 王 毅彪, 堀尾 修, 楠本健司, 小川 豊 (2003) 熱傷創に対する骨髄細胞移植による同種皮膚移植のウサギによる実験. 第 12 回日本形成外科学会基礎学術集会, 東京
81. 笹尾卓史, 小川 豊, 楠本健司 (2003) 遊離上腕外側皮弁により症状改善を認めた先天性絞扼輪症候群の 1 例. 第 81 回日本形成外科学会関西支部学術集会, 神戸
82. 山本 純 (2003) 咽頭側壁までおよぶ広範な頭頸部 venous malformation の 1 例. 第 29 回 KC 会, 大阪
83. 三宅ヨシカズ, 大西早百合, 日原正勝, 竹本剛司, 小川 豊, 梅山圭以子, 上原雅美 (2003) 前頭開頭下眼窩内腫瘍摘出術後動眼神経麻痺をきたした症例. 第 81 回日本形成外科学会関西支部学術集会, 神戸
84. 覚道奈津子 (2003) 上眼瞼悪性腫瘍の局所皮弁による再建. 第 21 回日本臨床皮膚外科学会総会・学術集会, タイ (プーケット島)
85. 覚道奈津子 (2003) 造臍術の一例. 第 81 回日本形成外科学会関西支部学術集会, 神戸
86. 覚道奈津子 (2003) 仙骨部腸骨部化膿性脊椎炎の一例. 第 28 回 KC 会, 大阪
87. 畔 熱行 (2003) リンパ漏, 感染に難渋している MMK の再建例. 第 29 回 KC 会, 大阪
88. 富野祐里 (2003) 四肢 AVM の 2 例. 第 29 回 KC 会, 大阪
89. 木下慎介 (2003) Transgender 症例における尿道再建について. 第 27 回 KC 会, 大阪
90. 鈴木健司 (2003) 抜歯後に発症した難治性側頭下窩膿瘍の一例. 第 27 回 KC 会, 大阪
91. 大西早百合, 下間亜由子, 小川 豊 (2003) 頬部, 口唇の悪性腫瘍に対する局所皮弁による再建. 第 21 回日本臨床皮膚外科学会総会・学術集会, タイ (プーケット島)
92. 大西早百合 (2003) 下顎骨骨髄炎後, 胸鎖関節炎を生じたと考えられる 1 例. 第 28 回 KC 会, 大阪
93. 大西早百合 (2003) 前立腺癌患者に生じた男性乳癌の 1 例. 第 29 回 KC 会, 大阪

94. 久徳茂雄 (2003) 前頭蓋底顔面外傷の急性期治療について . 第 8 回近畿外傷フォーラム(特別講演), 大阪
95. 小川 豊 (2003) 眼窩・眼瞼の再建 . 第 62 回日本形成外科学会中部支部北陸地方会, 金沢
96. 楠本健司 (2003) 理想的骨再建をめざして形成外科の観点から . 第 25 回骨・カルシウム代謝研究会 (特別講演), 京都
97. 楠本健司 (2003) Panfacial fracture Assessment and access and soft tissue management. 8th AO Cranio-Maxillofacial Course in Niseko, Niseko
98. 楠本健司 (2003) 体表外科に役立つ形成外科の基本手技 . 第 3 回和歌山体表外科研究会教育講演, 和歌山
99. 國吉京子 (2003) 病院の言語臨床と地域の学校との連携 . 守口市教育委員会, 守口
100. 國吉京子 (2003) 子育てって楽しい? 池田市立古江保育所 子育て講演会, 池田
101. 國吉京子 (2003) 自閉性障害児への言語指導 . 大阪府立交野養護学校 専門性向上研修会, 交野
102. 國吉京子 (2003) 発達障害児の認知と言語の指導について . 高槻市職員研修, 高槻
103. 國吉京子 (2003) 地域療育と親子関係で最も大切なこと . 池田 AD サポート(自閉症児親の会), 池田
104. 國吉京子 (2003) 低年齢児における認知発達 . 守口市養護教育夜間懇談会, 守口
105. 國吉京子 (2003) ソーシャルストーリーズについて . 池田 AD サポート(自閉症児親の会), 池田

#### 著書

1. Kusumoto K, Bessho K (2003) Bone morphogenetic protein and vascular endothelial growth factor in bone formation. recent research developments in biophysics & biochemistry 3 ( ) pp 671-684, Research Signpost Trivandrum-695 023, Kerala, India
2. 一瀬正治, 磯貝典孝, 大久保文雄, 大慈弥裕之, 金子 剛, 楠本健司, 小林一夫, 茂木定之, 柴田 実, 秦 維郎, 百束比古, 平瀬雄一, 平林慎一, 湊 祐廣, 山本有平 (2003) 形成外科用語集 第 4 版 (日本形成外科学会用語委員会編), 日本形成外科学会, 東京

## 皮膚科学講座

### 研究業績

#### 原著

1. Okamoto H, Mizuno K and Horio T (2003) Monocyte-derived multinucleated giant cells and sarcoidosis. J Dermatol Sci 31: 119-128
2. Akitomo Y, Akamatsu H, Okano Y, Masaki H and Horio T (2003) Effects of UV irradiation on the sebaceous gland and sebum secretion in hamsters. J Dermatol Sci 31: 151-159
3. Uetsu N and Horio T (2003) Treatment of persistent severe atopic dermatitis in 113 Japanese patients with oral psoralen photochemotherapy. J Dermatol 30: 450-457
4. Horio T, Horio O, Miyauchi-Hashimoto H, Ohnuki M and Isei T (2003) Photodynamic therapy of sebaceous hyperplasia with topical 5-aminolaevulinic acid and slide projector. Br J Dermatol 148: 1274-1276
5. Okamoto H, Mizuno K and Horio T (2003) Circulating CD14+CD16+ Monocytes are expanded in sarcoidosis patients. J Dermatol 30: 503-509
6. Okamoto H, Mizuno K and Horio T (2003) Langerhans-type and foreign-body-type multinucleated giant cells in cutaneous lesions of sarcoidosis. Acta Derm Venereol 83: 171-174
7. Hayami J, Kurokawa I and Kusumoto K (2003) Malignant fibrous histiocytoma of scalp with intracranial invasion twenty years after postoperative irradiation. J Cranio Facial Surg 14: 74-77
8. Kurokawa I, Hayami J and Kita Y (2003) A therapy-resistant chronic leg ulcer treated successfully with topical basic fibroblast growth

factor. *J Int Med Res* 31: 149-151

9. Kurokawa I, Nakahigashi Y and Teramachi M (2003) Erythema multiforme-type drug eruption due to ethambutol with eosinophilia and liver dysfunction. *Int J Anti Agent* 21: 596-597
10. 中嶋とう子, 岡本祐之, 堀尾 武 (2003) 義歯着用側の頬粘膜に多くの色素斑をみた Langier-Hunziker-Baran症候群の1例. *皮膚臨床* 45: 477-479
11. 山崎文和, 橋本洋子, 堀尾 武 (2003) 非ステロイド系消炎鎮痛剤の光毒性, 光感作能及び持続性光線過敏に対する検討. *日皮会誌* 113: 405-411
12. 河本慶子, 木村 穰, 堀尾 武 (2003) 梅干しによる運動誘発性アナフィラキシーの1例. *日皮アレルギー* 11: 62-66
13. 岡本祐之, 水野可魚, 河本慶子, 堀尾 武 (2003) 皮脂欠乏性皮膚炎に対する抗アレルギー薬の早期止痒効果のVASによる検討. *皮膚科* 2: 3-8
14. 水野可魚, 岡本祐之, 堀尾 武 (2003) 血管拡張を伴った皮下型皮膚サルコイドの3例. *日本サルコイドーシス / 肉芽腫性疾患学会雑誌* 23: 91-94
15. 太田 馨, 水野可魚, 岡本祐之, 堀尾 武 (2003) 湿布貼付部位に生じたサルコイドーシス. *Visual Dermatology* 2: 364-365
16. 速水淳史, 黒川一郎, 楠本健司 (2003) 指爪囲に生じた nodular hidradenoma の1例. *皮膚の臨* 45: 75-77
17. 黒川一郎, 保津真一郎 (2003) Muehrche's nail の1例. *西日皮* 65: 419-420
18. 島田浩光, 石井文人, 文森健明, 根井まり子, 名嘉真武国, 井上光世, 安元慎一郎, 森理, 橋本 隆, 黒川一郎 (2003) コルヒチン内服が奏効した後天性表皮水疱症の4例. *皮膚の臨* 45: 949-953
3. 堀尾 武 (2003) 多形日光疹 小丘疹性日光疹. *Visual Dermatology* 2: 436-437
4. 堀尾 武 (2003) 日光蕁麻疹. *アレルギー科* 15: 431-435
5. 堀尾 武 (2003) 光皮膚科学 I. 日やけから発癌へ. *皮膚科* 2: 261-268
6. 堀尾 武 (2003) 日光による皮膚反応の病態悪性化へのプロセス. *Skin Cancer* 18: 101-105
7. 為政大幾, 堀尾 武 (2003) UV 治療により誘発される皮膚の前癌状態・悪性腫瘍. *Skin Cancer* 18: 148-155
8. 堀尾 武 (2003) 光皮膚科学 II. 光線過敏症. *皮膚科* 2: 384-397
9. 堀尾 武 (2003) 尋常性白斑の治療. *日事新報* 4154: 97-98
10. 堀尾 武 (2003) 日やけ, 光老化から発癌へ. *Aesth Derma* 13: 131-137
11. 岡本祐之 (2003) サルコイドーシスの発疹. *Medicina* 40: 990-992
12. 岡本祐之 (2003) 紫外線の抗アレルギー作用. *アレルギー科* 15: 436-441
13. 岡本祐之, 水野可魚, 堀尾 武 (2003) 壊死を伴ったサルコイドーシス. *Visual Dermatol* 2: 366-367
14. 水野可魚, 岡本祐之 (2003) 結節性紅斑様皮疹. *Visual Dermatol* 2: 346-347
15. 藤井啓子, 岡本祐之, 大貫雅子, 堀尾 武 (2003) 苔癬様型皮膚サルコイド (毛包一致性). *Visual Dermatol* 2: 342-343
16. 水野可魚, 岡本祐之, 堀尾 武 (2003) 皮膚サルコイド (局面型). *Visual Dermatol* 2: 334-335
17. 岡本祐之 (2003) 皮膚サルコイド (結節型). *Visual Dermatol* 2: 332-333
18. 岡本祐之 (2003) サルコイドーシス 診断における癬痕潤潤の重要性. *Visual Dermatol* 2: 327-331
19. 岡本祐之 (2003) 口唇炎. *ENTONI* 32: 23-28
20. 黒川一郎 (2003) 集簇性座瘡. *Visual Dermatol* 2: 238-239
21. 河合修三 (2003) 褥瘡, 各種潰瘍治療剤の特性, 皮膚科医から. *皮膚病診療* 25 (増1): 57-59

#### 総説

1. Okamoto H, Mizuno K and Horio T (2003) Monocyte-derived multinucleated giant cells and sarcoidosis. *J Dermatol Sci* 31: 119-128
2. 堀尾 武 (2003) 光アレルギー. *総合臨床* 52: 471-475



22. 河合修三 (2003) DESIGN と褥瘡ダイアグラム. エキスパートナース 19(2): 118-122
23. 河合修三 (2003) 創傷管理に必要な皮膚の解剖生理. 小児看護 26(4): 448-452
24. 河合修三 (2003) 創傷に使用する軟膏類の選択と適応. 小児看護 26(4): 478-482
25. 河合修三 (2003) 褥瘡の薬物療法の基礎知識. 薬局 53(4): 1601-1607
26. 河合修三 (2003) よくみられる皮膚疾患 内科医ができるマネジメント 褥瘡. Medicina 40(6): 953-956
27. 河合修三(2003) 褥瘡 皮の臨 45(11)特: 1513-1519
28. 河合修三 (2003) 褥瘡. 今月の治療 11(8): 79-82
29. 河合修三 (2003) コメディカルのためのデブリードマン講座 内科医や在宅で可能なデブリードマン. エキスパートナース 19(15): 103-104
30. 正木浩哉, 松原弘明, 天野克也, 岩坂壽二, 河合修三, 堀尾 武 (2003) 補完代替医療と皮膚科 皮膚難治性潰瘍に適応される骨髄細胞移植を用いた血管新生治療の現状. MB Derma74: 14-18
- HN (2003) The platelet-activating factor pathway is involved in psoralen+UVA(PUVA)-induced skin damage and apoptosis. The 4th International Investigative Dermatology, Florida
5. Kurokawa I, Higashida T, Oshima S, Nakaya H and Nishijima S (2003) *Staphylococcus* coagulase types and production of exfoliative toxin of *Staphylococcus aureus* isolated from bullous impetigo and *Staphylococcus* scaled skin syndrome patients: comparative study of methicillin sensitive *Staphylococcus aureus* and methicillin resistant *Staphylococcus aureus*. The 5th European Chemotherapy Congress, Rhodes
6. 堀尾 武 (2003) ひやけ, 光老化から発瘡へ. 第21回日本美容皮膚科学会, 東京
7. 河合修三(2003) 褥瘡対策チーム結成から1年: 課題と今後 (パネルディスカッション). 第5回日本褥瘡学会総会, 埼玉
- 著 書
1. 堀尾 武 (2003) 光線過敏症の分類. 皮膚科専門医にきく最新の臨床 (玉置邦彦, 日野治子, 古江増隆編)206-207 頁, 中外医学社, 東京
2. 堀尾 武 (2003) “hardening” とは. 皮膚科専門医にきく最新の臨床 (玉置邦彦, 日野治子, 古江増隆編) 211-212 頁, 中外医学社, 東京
3. 堀尾 武 (2003) 遮光剤. 皮膚科専門医にきく最新の臨床 (玉置邦彦, 日野治子, 古江増隆編) 213-214 頁, 中外医学社, 東京
4. 堀尾 武 (2003) 光線による皮膚障害. 日光蕁麻疹. 最新皮膚科学大系 16 巻 (玉置邦彦, 飯塚 一, 清水 宏, 富田 靖, 宮地良樹, 橋本公二, 古江増隆編) 314-318 頁, 中山書店, 東京
5. 堀尾 武 (2003) 光線による皮膚障害. 多形日光疹. 最新皮膚科学大系 16 巻 (玉置邦彦, 飯塚 一, 清水 宏, 富田 靖, 宮地良樹, 橋本公二, 古江増隆編) 319-322 頁, 中山書店, 東京
6. 堀尾 武 (2003) 光線過敏性疾患. ダイナミックメディシン 7 巻 (下条文武, 斎藤 康編) 53-55 頁, 西村書店, 東京
7. 堀尾 武 (2003) その他の全身療法 DDS, ヨウ化カリウム, その他の薬剤. 最新皮膚科学

## 学会発表

1. Horio T (2003) Involvement of DNA damage in UV induced immunosuppression. International Photo-Immunosuppression Conference, Awaji
2. Matsumura Y, Nghiem DX, Moodycliffe AM, Ullrich SE and Ananthaswamy HN (2003) Resistance of CD1-deficient mice to UV skin carcinogenesis is associated with increased keratinocyte apoptosis. The 4th International Investigative Dermatology, Florida
3. Wolf P, Nghiem DX, Walterscheid JP, Matsumura Y, Kazimi N, Khaskina P, Ananthaswamy HN and Ullrich SE (2003) Activation of the platelet-activating factor (PAF) receptor: crucial molecular step in psoralen+UVA-induced immune suppression. The 4th International Investigative Dermatology, Florida
4. Wolf P, Nghiem DX, Matsumura Y, Walterscheid JP, Bucana CD, Ullrich SE and Ananthaswamy

- 大系 2巻(玉置邦彦,飯塚 一,清水 宏,富田 靖,宮地良樹,橋本公二,古江増隆編)153-156頁,中山書店,東京
8. 堀尾 武(2003)光線療法,光化学療法.最新皮膚科学大系 2巻(玉置邦彦,飯塚 一,清水 宏,富田 靖,宮地良樹,橋本公二,古江増隆編)170-180頁,中山書店,東京
  9. 岡本祐之(2003)PUVA療法.今日の治療指針(山口 徹,北原光夫編)776頁,医学書院,東京
  10. 岡本祐之(2003)肉芽腫症.皮膚科学テキスト(石川 治,宮地良樹編)105-107頁,中外医学社,東京
  11. 岡本祐之(2003)環状肉芽腫.皮膚疾患最新の治療2003-2004(新村真人,瀧川雅浩編)85頁,南江堂,東京
  12. 松村康洋(2003)皮膚科検査法.図解皮膚科学テキスト(石川 治,宮地良樹編)54-57頁,中外医学社,東京
  13. 河合修三(2003)褥瘡を治す(局所療法).皮膚科診療プラクティス 15 難治性皮膚潰瘍を治すスキル(宮地良樹,滝川雅浩編)172-184頁,文光堂,東京
  14. 河合修三(2003)皮膚潰瘍外用薬.最新皮膚科学大系 2巻(玉置邦彦,飯塚 一,清水 宏,富田 靖,宮地良樹,橋本公二,古江増隆編)58-62頁,中山書店,東京
  15. 河合修三(2003)創傷被覆材.最新皮膚科学大系 2巻(玉置邦彦,飯塚 一,清水 宏,富田 靖,宮地良樹,橋本公二,古江増隆編)63-67頁,中山書店,東京
  16. 河合修三,末平智子(2003)適切な治療薬剤とパッチグラフトによる褥瘡治療.褥瘡状態評価法 DESIGNのつけ方,使い方(宮地良樹,大浦武彦編)69-74頁,照林社,東京

## 泌尿器科学講座

### 研究業績

#### 原著

1. Yoichi Arai, Shin Egawa, Toshiro Terachi, Kazuo Suzuki, Momokazu Gotoh, Mutsushi Kawakita, Masatoshi Tanaka, Naoki Terada, Shiro Baba, Kazuhiro Okumura, Shinsuke Hayami, Yoshinari Ono, Tadashi Matsuda and Seiji Naito (2003) Morbidity of laparoscopic radical prostatectomy: Summary of early multi-institutional experience in Japan. *Int J Urol* 10: 430-434
2. 田中正利,東原英二,原林 透,中川 健,頼川 晋,牛山知己,小野佳成,戸澤啓一,寺地敏郎,川喜田睦司,川端 岳,内藤誠二(2003)日本の腹腔鏡下前立腺全摘除術における合併症の調査:日本 Endourology and ESWL学会学術委員会報告. *Jpn Endourol ESWL* 16: 72-77
3. 松田公志,川喜田睦司,島田 治,中川雅之(2003)尿路結石症に対する腹腔鏡手術:レビューとわれわれの経験. *Urol View* 1: 96-101
4. 室田卓之,松田公志(2003)泌尿器科領域における Liga Sure(TM)を用いた腹腔鏡下手術.

日内視鏡外会誌 8: 423-427

5. 川喜田睦司,島田 治,松田公志(2003)副腎腫瘍診断のための最小限の検査計画. *Urol View* 1: 106-114
6. 松田公志(2003)鏡視下根治的腎摘除術:各種術式の整理とそれぞれの特徴. *Urol View* 1: 34-36
7. 大口尚基,川端和史,室田卓之,川喜田睦司,松田公志(2003)マイクロウェーブを用いた後腹膜鏡下腎部分切除術の経験. *J Microwave Surg* 21: 107-109

#### 総説

1. 松田公志(2003)泌尿器腹腔鏡下手術における技術認定の現状と展望. *日内視鏡外会誌* 8: 112-114
2. 松田公志(2003)閉塞性無精子症の診断と治療:生殖外科医の役割. *日生殖外会誌* 16: 21-27
3. 松田公志,巽 一啓(2003)男性更年期障害の診断と治療. *泌外* 16: 831-837
4. 松田公志(2003)各種術式の整理とそれぞれの特徴. *Urol View* 1: 34-36

5. 松田公志, 三村芳和 (2003) 再考 内分泌疾患の周術期管理: 特集にあたって. 内分泌外科 20: 301-302
6. 松田公志 (2003) 腎動脈遮断による腹腔鏡下腎部分切除術. Urol View 1: 50-55

## 学会発表

1. T.Matsuda (2003) Present Status of Urological Laparoscopic Surgery in Japan. Departmental grand Rounds conference
2. H.Akaza Y.Arai, M.Usami, S.Naito, H.Kanetake, T.Kotake, Y.Ohashi, A.Yamaguchi and T. Matsuda, M.Igawa (2003) Bicalutabide 80 mg in combination with a luteinizing hormone-releasing hormone agonist (LHRHa) versus LHRHa monotherapy as first-line treatment for advanced prostate cancer. th anual meeting of American Society of Clinical Oncology, アメリカ
3. 中川雅之, 西田晃久, 矢西正明, 大口尚基, 河源, 六車光英, 松田公志 (2003) 腎結石術後腎盂尿管移行部狭窄症に対し後腹膜鏡下腎尿管吻合術を行った一例. 第91回日本泌尿器科学会総会, 徳島
4. 松田公志, 中川雅之, 西田晃久, 矢西正明, 藤田一郎, 大口尚基, 河源, 六車光英 (2003) 腹腔鏡下回腸尿管置換術. 第91回日本泌尿器科学会総会, 徳島
5. 河源, 六車光英, 松田公志, 山本章嗣, 森山芳則 (2003) ヒト精細管におけるグルタミン酸輸送体の免疫組織学的局在. 第91回日本泌尿器科学会総会, 徳島
6. 杉素彦, 中川雅之, 福井勝一, 島田治, 檀野祥三, 大口尚基, 六車光英, 室田卓之, 松田公志 (2003) 泌尿器科各種手術前後のホルモン, 炎症反応, 免疫能の変動手術侵襲評価法の検討. 第91回日本泌尿器科学会総会, 徳島
7. 岡田日佳, 河源, 地崎竜介, 西田晃久, 島田治, 藤田一郎, 大口尚基, 六車光英, 室田卓之, 松田公志 (2003) 当科における前立腺針生検 1140 例の検討. 第91回日本泌尿器科学会総会, 徳島
8. 西田晃久, 大口尚基, 河源, 六車光英, 松田公志 (2003) M-VAC 療法へのクリティカルパス (CP) 導入の経験. 第91回日本泌尿器科学会総会, 徳島
9. 福井勝一, 田中朋子, 巽一啓, 西田晃久, 中川雅之, 大口尚基, 河源, 六車光英, 松田公志 (2003) 腹腔鏡下前立腺全摘除術の経験. 第15回日本内分泌外科学会総会, 京都
10. 巽一啓, 西田晃久, 中川雅之, 檀野祥三, 日浦義仁, 六車光英, 松田公志 (2003) 男性更年期におけるホルモン補充療法の有用性. 日本アンドロロジー学会総会 第22回学術大会, 広島
11. 六車光英 (2003) EBM から見た精索静脈瘤手術. 第26回日本生殖外科学会, 京都
12. 檀野祥三, 巽一啓, 日浦義仁, 六車光英, 松田公志 (2003) 男性更年期症患者に関するホルモン補充療法はEDを改善するか? 第14回日本性機能学会総会, 東京
13. 六車光英, 日浦義仁, 松田公志 (2003) 無精子症の臨床的検討. 第48回日本不妊学会総会, 東京
14. 日浦義仁, 六車光英, 松田公志 (2003) 当科での男性不妊症における精索静脈瘤手術の検討. 第48回日本不妊学会総会, 東京
15. 室田卓之 (2003) 前立腺癌の内分泌療法前後における POMS (気分調査表) を用いた QOL 調査. 第41回日本癌治療学会総会, 札幌
16. 松田公志, 中川雅之, 福井勝一, 矢西正明, 大口尚基, 河源 (2003) 腎動脈遮断による腹腔鏡下腎部分切除術: 腫瘍部位別の手術手技. 第17回日本 Endourology・ESWL 学会総会, 福岡
17. 大口尚基, 福井勝一, 巽一啓, 田中朋子, 河源, 松田公志 (2003) 後腹膜鏡下右上半腎摘除術の一例. 第17回日本 Endourology・ESWL 学会総会, 福岡
18. 中川雅之, 福井勝一, 西田晃久, 大口尚基, 河源, 六車光英, 松田公志 (2003) 当院における後腹腔鏡下腎部分切除術. 第17回日本 Endourology・ESWL 学会総会, 福岡
19. 福井勝一, 田中朋子, 巽一啓, 西田晃久, 中川雅之, 大口尚基, 河源, 松田公志 (2003) 腹腔鏡下前立腺全摘除術の経験. 第17回日本 Endourology・ESWL 学会総会, 福岡
20. 中川雅之, 西田晃久, 矢西正明, 河源, 六車光英, 松田公志 (2003) 分枝腎動脈遮断に

よる後腹膜腔鏡下腎部分切除術．第16回日本内視鏡外科学会総会，岡山

21. 松田公志，馬場志郎，寺地敏郎，小野佳成，三木恒治，内藤誠二（泌尿器腹腔鏡技術認定制度委員会）（2003）泌尿器腹腔鏡技術認定制度の進捗状況と泌尿器科での腹腔鏡手術教育体

制．第16回日本内視鏡外科学会総会，岡山  
著書

1. 松田公志（2003）遊走腎 腎下垂．今日の治療指針（Today's Therapy 2003）（多賀須幸男，尾形悦郎監修，山口 徹，北原光夫編）747頁，医学書院，東京

## 眼科学講座

### 研究概要

#### 臨床研究

1. 網膜深層および脈絡膜の病変は通常の診療技術ではとらえにくく，それを補うものとしてフルオレスセインとインドシアニングリーンの蛍光造影剤を用いた蛍光眼底造影による検査所見と遠赤外光を用いた網膜断面観察計 optical coherence tomography（OCT）とにより黄斑部病変の詳細な観察を行う研究に力を注いできた．高齢者の視機能低下の一大原因である加齢黄斑変性症とポリープ状脈絡膜血管症は，似ていて異なる疾患であることがわかってきた．日本人におけるこの疾患の病態と疫学を明らかにし，治療法の開発に取り組んでいる．
2. 高齢者の視機能をおびやかす加齢黄斑変性症において脈絡膜新生血管が網膜中心窩に発生した時には有効な治療法がない現状であるが，従来の光凝固治療に加えて光線力学療法，経瞳孔温熱療法の共同研究をすすめる程度があきらかになってきた．特に光線力学療法は治験を終わり，本格的に今年度から臨床応用を開始する．
3. 日本人に多い高度近視は眼軸が伸びて網膜脈絡膜が伸展し，黄斑円孔網膜剥離を起こして極度に視力低下する．新世代のOCT3は網膜内構造の描出にすぐれ，黄斑円孔ができる前に後極部網膜が分離を起こす時期があることがわかってきたので，その時期に手術治療を行って視力低下をくいとする方向に進んでいる．
4. 糖尿病網膜症，網膜静脈閉塞症といった血管閉塞性病変は併発する黄斑浮腫によって視力が低下する．従来有効な薬物治療がなかったが，長期間作用のステロイドの局所投与が有効な例があることがわかってきた．投与の時期や方法，投与量，適応の基準を明らかにするべく臨床研究を行っている．
5. 慢性の緑内障はゆっくりと視野障害が進行し，決定的な治療法にかけるが，新しい眼圧下降薬と新しい手術術式が登場し，その効果を確かめる臨床成績を報告し，なお長期的に継続中である．

#### 実験研究

1. ラットにおいて一過性虚血をおこした網膜では，網膜血管内皮細胞に血管内皮細胞成長因子 vascular endothelial growth factor（VEGF）とその受容体が発現しており，高濃度酸素状態ではVEGFの発現と内皮細胞のアポトーシスが低下すること，神経栄養因子である Pigment epithelium derived factor（PEDF）が増加することを観察した．
2. 神経栄養因子である Pigment epithelium derived factor（PEDF）は同時に血管新生抑制作用ももつ．ヒトの硝子体における PEDF 濃度は，増殖糖尿病網膜症で低く，網膜剥離では高いことがわかった．増殖糖尿病網膜症における新生血管の発生メカニズムに PEDF の低下が関与していることは今後の治療を考えるうえで新たな一歩である．
3. 視細胞が持続的に VEGF を発現し続けるトランスジェニックマウスの網膜下新生血管は，長期に持続するという点で人の加齢黄斑変性症に類似する．この研究から，VEGF が出続けると新生血管は時間経過しても消退せずに持続するが，それを網膜色素上皮細胞が取り囲みその上の神経網膜を健常に近い状

態に維持することがわかった。加齢黄斑変性症の治療にヒントを与えられる。

4. 網膜色素上皮は高濃度のオルニチンで傷害されるが、培養網膜色素上皮においては傷害されるタイプとされないタイプの2種類があり、障害はプロリンによってレスキューされ、その傷害のメカニズムが徐々に解明されつつある。

#### 原 著

1. Yamanaka R, Ogata N, Yamamoto C, Matsushita M, Matsuzaki K, Uyama M and Matsumura M (2002) Expression of Transforming Growth Factor- $\beta$  Receptors in Normal Rat Retina and Experimental Choroidal Neovascularization. *Japanese Journal of Ophthalmology* 46: 525-532
2. Takagi H, Koyama S, Seike H, Oh H, Otani A, Matsumura M and Honda Y (2003) Potential Role of the Angiopietin/Tie2 System in Ischemia-Induced Retinal Neovascularization. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 44: 393-402
3. Kiuchi K, Yoshizawa K, Shikata N, Moriguchi K and Tsubura A (2003) Morphologic characteristics of retinal degeneration induced by sodium iodate in mice. *Current Eye Research* 25: 373-379
4. Kiuchi K, Kondo M, Ueno S, Moriguchi K, Yoshizawa K, Miyake Y, Matsumura M and Tsubura A (2003) Functional rescue of N-methyl-N-nitrosourea-induced retinopathy by nicotinamide in Sprague-Dawley rats. *Current Eye Research* 26: 355-362
5. Moriguchi K, Yuri T, Yoshizawa K, Kiuchi K, Takada H, Inoue Y, Hada T, Matsumura M and Tsubura A (2003) Dietary docosahezaenoic acid protects against N-methyl-N-induced retinal degeneration in rats. *Experimental Eye Research* 77: 167-173
6. Kiriya N, Ando A, Fukui C, Nambu H, Nishikawa M, Terauchi H, Kuwahara A and Matsumura M (2003) A comparison of optic disc topographic parameters in patients with primary open angle glaucoma, normal tension glaucoma, and ocular hypertension. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 241: 541-545
7. Nakauchi T, Ando A, Ueda-Yamada M, Yamazaki Y, Uyama M, Matsumura M and Ito S (2003) Prevention of Ornithine Cytotoxicity by Nonpolar Side Chain Amino Acids in Retinal Pigment Epithelial Cells. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 44: 5023-5028
8. Sho K, Takahashi K, Yamada H, Wada M, Nagai Y, Otsuji T, Nishikawa M, Mitsuma Y, Yamazaki Y, Matsumura M and Uyama M (2003) Polypoidal Choroidal Vasculopathy—Incidence, Demographic Features, and Clinical Characteristics—. *Arch Ophthalmol* 121: 1392-1396
9. Ida H, Tobe T, Nambu H, Matsumura M, Uyama M and Campochiaro P A (2003) RPE Cells Modulate Subretinal Neovascularization, but Do Not Cause Regression in Mice with Sustained Expression of VEGF. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 44: 5430-5437
10. The Japanese age-related macular degeneration trial (JAT) study group (2003) Japanese age-related macular degeneration trial: 1-year results of photodynamic therapy with Verteporfin in Japanese patients with subfoveal choroidal neovascularization secondary to age-related macular degeneration. *Am J Ophthalmology* 136: 1049-1061
11. Okada AA, Wakabayashi T, Morimura Y, Kawahara S, Kojima E and Hida T (2003) Trans-Tenon's retrobulbar triamcinolone infusion for the treatment of uveitis. *Br J Ophthalmology* 87: 968-971
12. Ohtake Y, Tanino T, Suzuki Y, Miyata H, Taomoto M, Azuma N, Tanihara H, Araie M and Mashima Y (2003) Phenotype of cytochrome P4501B1 gene (CYP1B1) mutations in Japanese patients with primary congenital glaucoma. *Br J Ophthalmol* 87: 302-304
13. 三間由美子, 高橋寛二, 寺井実知子, 有澤章子, 西村哲哉, 松村美代 (2003) シリコーンオイル抜去術後に発症した交感性眼炎. *日眼会誌* 107: 445-450
14. 低線量放射線照射による加齢黄斑変性治療研

- 究班(2003)滲出型加齢黄斑変性に対する低用量放射線療法の効果に関する多施設無作為割付け比較対照試験:中間報告.日眼会誌 107: 326-330
15. 郡山昌敬, 福島伊知郎, 岩下憲四郎, 松村美代(2003) Shaken baby syndrome の2症例. 臨眼 56: 1491-1495
  16. 西川真生, 緒方奈保子, 西村哲哉, 三間由美子, 松村美代(2003) 糖尿病網膜症の pigment epithelium-derived factor と血管内皮細胞増殖因子. 臨眼 57: 351-355
  17. 梅山圭以子, 木本高志, 小川 豊, 山内康雄, 和田光正, 國富 薫, 上原雅美(2003) 著名な眼瞼, 眼窩血腫をきたした小児眼窩血管腫の1症例. 臨眼 57: 836-840
  18. 津村晶子, 高橋寛二, 正健一郎, 永井由巳, 松原 孝, 河原澄枝, 松村美代(2003) ポリーブ状脈絡膜血管症に対する経瞳孔温熱療法後に網膜下血腫をきたした症例. 臨眼 57: 1077-1080
  19. 木内克治, 山田晴彦, 河合江実, 藤関義人, 和田光正, 森口佳映, 津村晶子, 畑埜浩子, 松村美代(2003) 糖尿病網膜症による血管新生緑内障の目標とする光凝固数. 臨眼 57: 1099-1103
  20. 森口佳映, 山田晴彦, 河合江実, 藤関義人, 和田光正, 木内克治, 津村晶子, 畑埜浩子, 松村美代(2003) 糖尿病性網膜症による血管新生緑内障の視力予後. 臨眼 57: 1095-1098
  21. 有澤章子, 喜多美穂里, 桐山直子, 川越直顕, 樋口暁子, 鈴木拓也, 池口有紀, 小岸淳一, 河本知栄, 松本美保(2003) 黄斑剥離を伴う裂孔原性網膜剥離に対する硝子体手術・経強膜手術後の視力推移と OCT 所見. 臨眼 57: 1199-1201
  22. 星野 健, 福島伊知郎, 河原澄枝, 西村哲哉, 松村美代(2003) 多剤耐性を示した淋菌性結膜炎の症例. 眼科 45: 783-788
  23. 金子志帆, 新井英子, 松村美代(2003) 外傷性毛様体解離に対する毛様体および虹彩根部強膜縫合. 眼科手術 16: 567-570
  24. 安藤 彰, 福井智恵子, 高橋寛二, 松村美代, 竹内正光, 坂井田紀子(2003) 白内障術後 30年で発症し除去手術が奏功した前房内上皮増殖の1例. あたらしい眼科 20: 521-524
  25. 椿井尚子, 安藤 彰, 福井智恵子, 尾辻 剛, 桑原敦子, 竹内正光, 粉川弥栄子, 松村美代(2003) 投与前眼圧 16 mmHg 以上と 15 mmHg 以下の正常眼圧緑内障に対するラタノプロストの眼圧下降効果の比較. あたらしい眼科 20: 813-815
  26. 加賀郁子, 尾辻 剛, 福井智恵子, 安藤 彰, 桑原敦子, 竹内正光, 湖崎 淳, 松村美代(2003) 解放隅角緑内障に対するシヌソトミー併用トラベクトミー. あたらしい眼科 20: 803-806
  27. 嶋千絵子, 河原澄枝, 寺井実知子, 松村美代(2003) 梅毒性視神経萎縮の1症例. あたらしい眼科 20: 673-676
  28. 山崎有加里, 山田晴彦, 寺井実知子, 山田英里, 松村美代(2003) 予防的な全脳全脊髄放射線照射が無効で, 再発時に浸潤性視神経症をみた急性リンパ性白血病の1例. 眼紀 54: 60-64
  29. 久保伸夫, 小野あゆみ, 西村哲哉, 寺井実知子(2003) 副鼻腔手術中に発症した網膜中心動脈閉塞症. 耳鼻臨床 96: 697-703
  30. 高橋寛二, 三間由美子, 西川真生, 正健一郎, 福地俊雄, 西村哲哉, 松村美代(2003) 滲出型加齢黄斑変性における脈絡膜新生血管の自然退縮機序. 厚生労働省特定疾患 網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班 平成 13 年度 研究報告書 287-291
  31. 緒方奈保子, 尾辻 剛, 和田光正, 城 信雄, 松村美代(2003) 実験的脈絡膜新生血管における Pigment Epithelium Derived Factor (PEDF) と血管内皮細胞増殖因子 (VEGF) の発現. 厚生労働省特定疾患 網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班 平成 13 年度 研究報告書 223-226
- 総 説
1. Tsubura A, Yoshizawa K, Kiuchi K and Moriguchi K (2003) N-Methyl-N-nitrosourea-induced Retinal Degeneration in Animals. Acta Histochem Cytochem 36: 263-270
  2. 緒方奈保子(2003) PEDF—Pigment epithelium-derived factor—. 眼科 45: 39-47

3. 河原澄枝, 松村美代 (2003) ぶどう膜炎と白内障手術 手術方法. 眼科 45: 1821-1825
  4. 高橋寛二 (2003) 網膜光凝固の条件選択. 眼科手術 16: 70-72
  5. 高橋寛二 (2003) ポリープ状脈絡膜血管症の概念と治療. 眼科手術 16: 493-497
  6. 高橋寛二 (2003) 中心性漿液性脈絡網膜症と類縁疾患. あたらしい眼科 20: 176-186
  7. 高橋寛二 (2003) ICG 蛍光造影で何がわかるか? あたらしい眼科 20: 633-634
  8. 高橋寛二 (2003) 滲出型加齢黄斑変性の脈絡膜新生血管 蛍光眼底造影所見上の分類: クラシック型とオカルト型. あたらしい眼科 20: 1487-1493
  9. 緒方奈保子 (2003) 眼科医にとって理想の蛋白質 Pigment Epithelium-Derived Factor (PEDF). あたらしい眼科 20: 1261-1262
  10. 高橋寛二 (2003) 加齢黄斑変性の治療の現況. 日新報 No. 4132 (7月5日号) 97-98
  11. 高橋寛二 (2003) 特集, 黄斑疾患 診療の進歩, 滲出型加齢黄斑変性の治療, レーザー治療と薬物治療. Nano Ophthalmology 25: 17-20
  12. 新井英子 (2003) 他科との連携. ローテート研修でつくる他科との連携. 臨眼 57: 1734-1735
- 学会発表
1. Ogata N, Nishikawa M, Nishimura T and Matsumura M (2003) Unbalanced Vitreous Levels of Pigment Epithelium-derived Factor and Vascular Endothelial Growth Factor in Diabetic Retinopathy. ARVO, Fort Lauderdale, Florida, U.S.A.
  2. Kiuchi K, Kondo M, Ueno S, Moriguchi K, Yoshizawa K, Tsubura A and Matsumura M (2003) Nicotinamide Functionally Rescues N-Methyl-N-Nitrosourea-Induced Retinopathy in Rats. ARVO, Fort Lauderdale, Florida, U.S.A.
  3. Fukuchi T, Sueda J, Usumoto N, Okuno T, Kalayci D, Sawhney A and Hirose T (2003) Hydrogel Tissue Adhesive: Feasibility Study for Intraocular Use ERG and Histology. ARVO, Fort Lauderdale, Florida, U.S.A.
  4. Yamada H, Yamada E, Higuchi A and Matsumura M (2003) Inhibitory Effect of Quinapril on Retinal and Choroidal Neovascularization. ARVO, Fort Lauderdale, Florida, U.S.A.
  5. Fujiseki Y, Takahashi K, Ohtsu Y and Matsumura M (2003) Two cases of secondary multifocal posterior pigment epitheliopathy complicated with uveal effusion syndrome. 14th Congress of the European Society of Ophthalmology. Madrid, Spain
  6. Ando A, Matsunaga H, Yamazaki Y and Nishikawa M (2003) Down regulation of aquaporin 1 gene expression in senescent porcine trabecular meshwork cells in vitro. 14th Congress of the European Society of Ophthalmology, Madrid, Spain
  7. Kimoto T, Kawahara S, Taomoto M, Yamazaki Y, Matsuoka M and Matsumura M (2003) Clinical features in patients in acute uveitic phase of vogt-koyanagi-harada disease with optic disc marked edema, and without serous retinal detachment in Japan: A retrospective analysis. VII International Symposium on Ocular Inflammation, Padova-Abano Term
  8. Wakabayashi T, Kojima E, Kawahara S, Morimura Y, Asano Y and Okada AA (2003) Trans-tenon's retrobulbar triamcinolone infusion for the treatment of uveitis. VII International Symposium on Ocular Inflammation, Padova-Abano Term
  9. Matsuoka M, Ogata N, Otsuji T, Takahashi K, Nishimura T and Matsumura M (2003) Pigment Epithelium-Derived Factor (PEDF) and Vascular Endothelial Growth Factor (VEGF) in Human Choroidal Neovascular Tissues. ARVO, Fort Lauderdale, Florida, U.S.A
  10. Higuchi A, Yamada H, Yamada E and Matsumura M (2003) Inhibitory Effect of Hypericin on Retinal and Choroidal Neovascularization. ARVO, Fort Lauderdale, Florida, U.S.A.
  11. Tomita M, Adachi Y, Yamada H, Takahashi K, Minamino K, Matsumura M and Ikehara S (2003) Bone Marrow-derived Stem Cells Can Differentiate into Retinal Neural Cells in Injured Rat Retina and in Pigmentary Retinal

- Degeneration Rats. ARVO, Fort Lauderdale, Florida, U.S.A.
12. Arai E, Takahashi K, Kawahara S, Takebayashi N, Kanbara K and Matsumura M (2003) Stress-Related Central Serous Chorioretinopathy. 3rd International Ophthalmologic Conference in China & First National Symposium on Prevention of Blindness, Beijing, China
  13. 松村美代 (2003) シンポジウム「眼組織発育と視機能の発達」 小児眼疾患の問題点 .第 107 回日本眼科学会総会, 福岡
  14. 松村美代 (2003) ランチョンセミナー「緑内障治療のベーシック」 濾過胞手術のベーシック . 第 107 回日本眼科学会総会, 福岡
  15. 安藤 彰, 山崎有加里, 松村美代 (2003) PC12 細胞のアポトーシスにおける Bax 及び bcl-2 遺伝子発現に対する Nipradilol の影響 . 第 107 回日本眼科学会総会, 福岡
  16. 緒方奈保子, 有地美和, 今泉正仁, 松岡雅人, 西川真生, 松村美代 (2003) 前房水中の Pigment Epithelium-Derived Factor (PEDF) . 第 107 回日本眼科学会総会, 福岡
  17. 木内克治, 近藤峰生, 上野真治, 森口佳映, 義澤克彦 (藤沢薬品工業), 螺良愛郎, 松村美代 (2003) ニコチン酸アミドのラット薬剤誘発性網膜変性に対する機能的・形態的抑制効果 . 第 107 回日本眼科学会総会, 福岡
  18. 正健一郎, 高橋寛二, 松村美代 (2003) ポリープ状脈絡膜血管症の新旧光干渉断層計所見の比較検討 . 第 107 回日本眼科学会総会, 福岡
  19. 埜本 慎, 河原澄枝, 木本高志, 山崎有加里, 松岡雅人, 松村美代 (2003) 乳頭周囲浮腫型原田病の臨床的特徴 . 第 107 回日本眼科学会総会, 福岡
  20. 高橋寛二, 正健一郎, 三間由美子, 福地俊雄, 西村哲哉, 宇山昌延, 松村美代 (2003) ポリープ状脈絡膜血管症の病理組織学所見 . 第 107 回日本眼科学会総会, 福岡
  21. 津村晶子, 山田晴彦, 山田英里, 山崎有加里, 樋口暁子, 松村美代 (2003) トラネキサム酸の眼内血管新生抑制効果 . 第 107 回日本眼科学会総会, 福岡
  22. 永井由巳, 高橋寛二, 西村哲哉, 三間由美子, 松村美代 (2003) Retinal Angiomatous Proliferation の病理組織 . 第 107 回日本眼科学会総会, 福岡
  23. 西川真生, 松永裕史, 高橋寛二, 松村美代 (2003) 脈絡膜静脈うっ滞の ICG 蛍光眼底造影による観察 . 第 107 回日本眼科学会総会, 福岡
  24. 松永裕史, 西川真生, 高橋寛二, 西村哲哉, 松村美代 (2003) 脈絡膜新生血管膜における老化関連  $\beta$ - ガラクトシダーゼの発現 . 第 107 回日本眼科学会総会, 福岡
  25. 三間由美子, 高橋寛二, 西村哲哉, 内田宜子, 松村美代 (2003) Multifocal choroiditis associated with progressive subretinal fibrosis における網膜下増殖組織の病理組織学的所見 . 第 107 回日本眼科学会総会, 福岡
  26. 山崎有加里, 安藤 彰, 中内正志, 植田真未, 伊藤誠二, 松村美代 (2003) オルニチンによる網膜色素上皮変性のヘテロ性とアミノ酸トランスポーター . 第 107 回日本眼科学会総会, 福岡
  27. 山田晴彦, 山田英里, 樋口暁子, 松村美代 (2003) キナプリルによる眼内血管新生抑制効果 . 第 107 回日本眼科学会総会, 福岡
  28. 高橋寛二 (2003) ポリープ状脈絡膜血管症 光凝固治療の光と影 . 第 57 回日本臨床眼科学会, 名古屋
  29. 高橋寛二 (2003) ポリープ状血管症の診断 . 第 57 回日本臨床眼科学会, 名古屋
  30. 宇山昌延 (2003) 日本人のポリープ状脈絡膜血管症 . 第 57 回日本臨床眼科学会, 名古屋
  31. 緒方奈保子, 今泉正仁, 宮代美樹, 生水 晃, 野村昌作, 松村美代 (2003) 糖尿病網膜症と血小板由来マイクロパーティクル . 第 57 回日本臨床眼科学会, 名古屋
  32. 白数純也, 新井英子, 畑埜浩子, 佐々木奈穂, 松永裕史, 岡見豊一, 森津也子, 山岸和矢 (2003) 脈波同期式非接触眼圧計の使用経験 . 第 57 回日本臨床眼科学会, 名古屋
  33. 安藤 彰, 大山奈美, 安田光代, 松村美代 (2003) 視神経低形成に開放隅角緑内障を合併した 2 症例の異なる HRT 所見 . 第 57 回日本臨床眼科学会, 名古屋
  34. 福地俊雄, 高橋寛二, 正健一郎, 津村晶子, 山崎有加里, 木内克治, 松村美代 (2003) Retinal angiomatous proliferation の optical coherence



- tomography 所見 第57回日本臨床眼科学会,名古屋
35. 尾辻 剛,高橋寛二,正健一郎,福地俊雄,津村晶子,松村美代(2003)視力が保持された中心窩を含む網膜色素上皮裂孔の OCT 所見. 第57回日本臨床眼科学会,名古屋
  36. 津村晶子,高橋寛二,正健一郎,和田光正,尾辻 剛,松村美代(2003)進行性増大と網膜色素上皮欠損を示した漿液性網膜色素上皮剥離の OCT 所見. 第57回日本臨床眼科学会,名古屋
  37. 今泉正仁,宮代美樹,緒方奈保子(2003)両眼球後視神経炎で発症した小児多発性硬化症. 第57回日本臨床眼科学会,名古屋
  38. 松村美代(2003)トラベクトミー. 第14回日本緑内障学会,東京
  39. 今泉正仁,宮代美樹,緒方奈保子,有地美和,黒川弘昌,松村美代(2003)正常眼圧緑内障における内頸動脈による視神経圧迫の可能性. 第14回日本緑内障学会,東京
  40. 尾辻 剛,安藤 彰,福井智恵子,桑原敦子,松村美代(2003)ラタノプロスト,β遮断薬併用例における塩酸ブナゾシン併用時の眼圧下降効果の検討. 第14回日本緑内障学会,東京
  41. 安藤 彰,北川チエミ,松原 孝,松村美代(2003)眼圧とともにハイデルベルク・レチナ・トモグラフィのパラメーターが変動した外傷性緑内障の一例. 第14回日本緑内障学会,東京
  42. 津村晶子,高橋寛二,三間由美子,西川真生,正健一郎,福地俊雄,西村哲哉,松村美代(2003)滲出型加齢黄斑変性における1型,2型脈絡膜新生血管の形態学的特徴. 第42回日本網膜硝子体学会・第20回眼病理セミナー,福岡
  43. 永井由巳,岸本直子,高橋寛二,宇山昌延(2003)ポリープ状脈絡膜血管症の臨床経過. 第42回日本網膜硝子体学会・第20回眼病理セミナー,福岡
  44. 松原 孝,河合江実,埜本 慎,尾辻 剛,福地俊雄,西村哲哉,松村美代(2003)黄斑円孔手術におけるタンポナーデ物質(空気, SF6gas)の prospective study. 第42回日本網膜硝子体学会・第20回眼病理セミナー,福岡
  45. 埜本 慎,松原 孝,西村哲哉,松村美代(2003)強度近視眼の黄斑部網膜分離・剥離に対する硝子体手術成績. 第42回日本網膜硝子体学会・第20回眼病理セミナー,福岡
  46. 尾辻 剛,松原 孝,埜本 慎,西村哲哉,松村美代(2003)内境界膜剥離を行った黄斑円孔網膜剥離の初回非復位例の検討. 第42回日本網膜硝子体学会・第20回眼病理セミナー,福岡
  47. 木本高志,西村哲哉,寺井実知子,正健一郎,福地俊雄,松村美代(2003)網膜静脈分枝閉塞症に対する硝子体手術例の光干渉断層計(OCT)2とOCT3の網膜断層像. 第42回日本網膜硝子体学会・第20回眼病理セミナー,福岡
  48. 福地俊雄,松原 孝,西村哲哉,埜本 慎,尾辻 剛,河合江実,松村美代(2003)特発性黄斑円孔における第三世代光干渉断層計. 第42回日本網膜硝子体学会・第20回眼病理セミナー,福岡
  49. 山田晴彦,山田英里,中田知伸(2003)網膜分枝静脈閉塞症と網膜裂孔を伴った犬回虫網膜症の1例. 第42回日本網膜硝子体学会・第20回眼病理セミナー,福岡
  50. 緒方奈保子,松岡雅人,今泉正仁,松村美代(2003)眼内 Pigment Epithelium-Derived Factor(PEDF)濃度の加齢による影響. 第42回日本網膜硝子体学会・第20回眼病理セミナー,福岡
  51. 安藤 彰,山崎有加里,金子志帆,松村美代(2003)アポトーシスにおけるDIABLO遺伝子発現へのニブラジロールの影響. 第69回日本中部眼科学会・第100回中国四国眼科学会合同眼科学会,岡山
  52. 高橋寛二,宇山昌延,坂井田紀子(2003)網膜芽細胞腫の脈絡膜浸潤. 第69回日本中部眼科学会・第100回中国四国眼科学会合同眼科学会,岡山
  53. 今泉正仁,宮代美樹,緒方奈保子,有地美和,黒川弘昌(2003)内頸動脈の視神経圧迫による視野異常. 第69回日本中部眼科学会・第100回中国四国眼科学会合同眼科学会,岡山
  54. 松村美代(2003)徹底解剖,MMC レクトミー. 第26回日本眼科手術学会総会,東京
  55. 福井智恵子,内田宜子,金子志帆,尾辻 剛,安藤 彰,桑原敦子,湖崎 淳,竹内正光,松村美代(2003)トラベクトミーにおける

- 結膜切開法の比較．第26回日本眼科手術学会総会，東京
56. 高橋寛二 (2003) JAT study (加齢黄斑変性に対する光線力学療法研究)．第20回眼微小循環研究会・第14回日本ICG蛍光造影研究会合同研究会，東京
  57. 山崎有加里，高橋寛二，津村晶子，正健一郎，永井由巳，松村美代 (2003) Retinal angiomatous proliferation (RAP) のICG造影所見．第20回眼微小循環研究会・第14回日本ICG蛍光造影研究会合同研究会，東京
  58. 木本高志，西村哲哉，寺井実知子，福井智恵子，松村美代 (2003) 網膜静脈分枝閉塞症に伴う黄斑浮腫に対する硝子体手術の効果．第20回眼微小循環研究会・第14回日本ICG蛍光造影研究会合同研究会，東京
  59. 緒方奈保子，今泉正仁，有地美和，生水 晃，野村昌作，松村美代 (2003) 糖尿病性網膜症と血小板由来マイクロパーティクル．第20回眼微小循環研究会・第14回日本ICG蛍光造影研究会合同研究会，東京
  60. 永井由巳，高橋寛二，正健一郎，宇山昌延，松村美代 (2003) ポリープ状脈絡膜血管症の自然消退例のICG造影所見．第20回眼微小循環研究会・第14回日本ICG蛍光造影研究会合同研究会，東京
  61. 正健一郎，高橋寛二，福地俊雄，津村晶子，山崎有加里，木内克治，松村美代 (2003) 新型光干渉断層計による滲出型加齢黄斑変性とポリープ状脈絡膜血管症の色素上皮下病変の検討．第20回眼微小循環研究会・第14回日本ICG蛍光造影研究会合同研究会，東京
  62. 河合江実，山田晴彦，藤関義人，和田光正，木内克治，内田宜子，森口佳映，樋口暁子，南野桂三，松村美代 (2003) 糖尿病網膜症に続発した血管新生緑内障の濾過手術成績．第9回日本糖尿病眼学会，仙台
  63. 木内克治，山田晴彦，河合江実，藤関義人，和田光正，内田宜子，樋口暁子，南野桂三，松村美代 (2003) 糖尿病網膜症に対する硝子体手術施行症例の瞭眼における予後．第9回日本糖尿病眼学会，仙台
  64. 山田晴彦，藤関義人，河合江実，和田光正，木内克治，内田宜子，樋口暁子，南野桂三，松村美代 (2003) 糖尿病黄斑浮腫に対する早期硝子体手術の成績．第9回日本糖尿病眼学会，仙台
  65. 山崎有加里，河原澄枝，木本高志，埜本 慎，松岡雅人，松村美代 (2003) ステロイド薬の全身投与を行わずに自然軽快した原田病．スリーサム・イン大阪．第37回日本眼炎症学会，大阪
  66. 緒方奈保子 (2003) 眼と pigment epithelium-derived factor (色素上皮由来因子)．第109回京都眼科学会，京都
  67. 安藤 彰 (2003) プタ培養線維柱帯細胞における細胞老化の検討．第7回眼科分子生物研究会，熊本
  68. 永井由巳，安藤 彰，岸本直子，福島伊知郎 (2003) ニブラジロール点眼剤で軽減した糖尿病黄斑浮腫の1例．第337回大阪眼科集談会，大阪
  69. 松村美代 (2003) 老化と眼．第15回大阪薬科大学市民講座，大阪
  70. 松村美代 (2003) 黄斑部疾患の診断と治療．第34回東海北陸ブロック講習会，富山
  71. 安藤 彰 (2003) PC12細胞のアポトーシスにおける Bax, Bcl-1-2 遺伝子発現に対する Nipradilol の影響．ハイバジールフォーラム大阪，大阪
  72. 松村美代 (2003) 老化と眼．関西医科大学産婦人科同門会，大阪
  73. 安藤 彰，山崎有加里，金子志帆，松村美代 (2003) 無血清培地で誘導される PC12細胞のアポトーシスにおける samc/DABLO 遺伝子発現に対する Nipradilol の影響．第6回 Ophthalmic Neuroprotection (ONP) 研究会，東京
  74. 高橋寛二 (2003) ポリープ状脈絡膜血管症における自然閉塞血管 Japan Macula Club 第5回総会，蒲郡
  75. 松村美代 (2003) ハイドロゲルの眼内露出例．Japan Macula Club 第5回総会，蒲郡
  76. 松村美代 (2003) バックリング材料マイラゲルの長期合併症．第5回「都ノ桜眼科勉強会」，大阪
  77. 高橋寛二 (2003) 光線力学療法 (PDT)．第9回網膜硝子体セミナー，東京
  78. 松村美代 (2003) 「身近な神経眼科『見えない』」

- 患者の診かた」眼底のみかた(1)黄斑疾患の読み方.第41回日本神経眼科学会総会,第17回神経眼科講習会,京都
79. 正健一郎,高橋寛二,福地俊雄,津村晶子,山崎有加里,木内克治,西川真生,木本高志,桑原敦子,松村美代(2003)新型に光干渉断層計による滲出型加齢黄斑変性とポリープ状脈絡膜血管症の色素上皮下病変の検討.第24回レーザー医学会総会,岐阜
80. 西村哲哉(2003)生活習慣病と目.寝屋川市医師会学術講演会,守口
81. 高橋寛二(2003)加齢黄斑変性の治療戦略.第29回東大阪眼科勉強会,大阪
82. 高橋寛二(2003)画像診断の最前線シリーズ,2.後眼部病変の診かた OCTを中心として.大阪府眼科医会教育ゼミナール,大阪
83. 高橋寛二(2003)ICG 蛍光造影の実際.林眼科病院勉強会,福岡
84. 山田晴彦,山田英里,樋口暁子,松村美代(2003)SDT ラットにおける眼内血管新生の発生について.第1回SDTラット研究会,東京
85. 松原 孝(2003)知っておこう緑内障.目の愛護デー,目のすべて展会場,特別講演,大阪
86. 松本泰明,三間由美子,河原澄枝,松村美代(2003)緑膿菌性壊死性強膜炎の1例.第2回Ocular infection forum,大阪
87. 樋口暁子,山田晴彦,山田英里,松村美代(2003)ヒペリシンによる眼内血管新生抑制効果.第107回日本眼科学会総会,福岡
88. 松岡雅人,緒方奈保子,尾辻 剛,高橋寛二,西村哲哉,松村美代(2003)ヒト脈絡膜新生血管組織における PEDF と VEGF.第107回日本眼科学会総会,福岡
89. 金子志帆,松村美代,新井英子(2003)外傷性毛様体解離に対する虹彩根部強膜縫合.第26回日本眼科手術学会総会,京都
90. 樋口暁子,山田晴彦,河合江実,藤関義人,和田光正,木内克治,内田宜子,南野桂三,松村美代(2003)増殖糖尿病網膜症の硝子体手術成績.第9回日本糖尿病眼科学会,仙台
91. 南野桂三,山田晴彦,河合江実,藤関義人,和田光正,木内克治,内田宜子,樋口暁子,松村美代(2003)OCT3による糖尿病網膜症に伴う硬性白斑の局在.第9回日本糖尿病眼科学会,仙台
92. 大中誠之,埜本 慎,松原 孝,松村美代(2003)強度近視眼の黄斑部網膜分離・剥離が自然軽快した一例.第57回日本臨床眼科学会,名古屋
93. 新井英子,高橋寛二,河原澄枝,竹林直紀,神原賢治,津村晶子,松村美代,岡見豊一,松永裕史(2003)中心性漿液性脈絡網膜症とストレス性格.第57回日本臨床眼科学会,名古屋
94. 畑埜浩子,岡見豊一,松永裕史,白数純也,佐々木奈穂,弓削堅志,山岸和矢(2003)Viscocalanostomy とシユレム管内皮網除去と白内障同時手術の術後長期成績.第14回日本緑内障学会,東京
95. 中内正志,石郷岡 均(2003)血管新生緑内障に対する線維柱帯切除術の手術成績.第14回日本緑内障学会,東京
96. 木村元貴,福地俊雄,松原 孝,大山奈美,津田メイ,松村美代(2003)網膜上膜形成症における第3世代光干渉断層計(OCT3000)所見の検討.第42回日本網膜硝子体学会・第20回眼病理セミナー,福岡
97. 大山奈美,松原 孝,高橋寛二,河合江実,寺井実知子,松村美代,山本千加子(2003)Unilateral acute idiopathic maculopathyの1例.第69回日本中部眼科学会・第100回中国四国眼科学会合同眼科学会,岡山
98. 木村元貴,寺井実知子,高橋寛二,藤関義人,松村美代(2003)網膜細胞腫 Retinocytoma が疑われた一例.第69回日本中部眼科学会・第100回中国四国眼科学会合同眼科学会,岡山
99. 佐々木奈穂,岡見豊一,松永裕史,白数純也,畑埜浩子,弓削堅志,津村晶子,西信昭子,岩下憲四郎(2003)加齢性内反症 involutional entropion の治療について.第26回日本眼科手術学会総会,京都
100. 有馬由里子,河原澄枝,松岡雅人,尾辻 剛,高橋寛二,松村美代(2003)著名な視神経乳頭浮腫を伴った小児の強膜炎.スリーサム・イン大阪.第37回日本眼炎症学会,大阪
101. 大山奈美,松原 孝,寺井実知子,河合江実,高橋寛二,松村美代(2003)unilateral acute idiopathic maculopathy(UAIM)の一例.第109回京都眼科学会,京都

102. 桐山直子, 川越直頭, 有澤章子, 池口有紀, 小岸淳一, 河本知栄, 松本美保, 喜多美穂里 (2003) 網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫に対する炭酸脱水酵素阻害薬治療. 第109回京都眼科学会, 京都
103. 木村元貴, 高橋寛二, 寺井実知子, 藤関義人, 松村美代 (2003) 網膜細胞腫が疑われた一例. 第109回京都眼科学会, 京都
104. 木村元貴, 高橋寛二, 寺井実知子, 藤関義人, 松村美代 (2003) 網膜細胞腫が疑われた一例. 第332回大阪眼科集談会, 大阪
105. 北川チエミ, 安藤 彰, 松原 孝, 松村美代 (2003) 眼圧とともに HRT パラメーターが変動した外傷性緑内障の一例. 第332回大阪眼科集談会, 大阪
106. 武田俊彦, 尾辻 剛, 高橋寛二, 福地俊雄, 松村美代 (2003) occult macular dystrophy の1例. 第333回大阪眼科集談会, 大阪
107. 後藤昌久, 山田晴彦, 河原澄枝, 松村美代 (2003) Punctate inner choroidopathy に続発性脈絡膜新生血管を生じた1例. 第333回大阪眼科集談会, 大阪
108. 松本泰明, 三間由美子, 河原澄枝, 松村美代 (2003) 緑膿菌性壊死性強膜炎の1例. 第334回大阪眼科集談会, 大阪
109. 大中誠之, 埜本 慎, 松原 孝, 松村美代 (2003) 強度近視眼の黄斑部網膜分離・剥離が自然軽快した1例. 第335回大阪眼科集談会, 大阪
110. 津田メイ, 高橋寛二, 松村美代, 稲垣隆介 (2003) 頭蓋内進展をみた眼窩内神経鞘腫の1例. 第335回大阪眼科集談会, 大阪
111. 松原敬忠, 福地俊雄, 竹内正光, 松村美代 (2003) 外傷性隅角解離と毛様体脈絡膜剥離のUBM (ultrasound biomicroscope) 所見の検討. 第336回大阪眼科集談会, 大阪
112. 平本裕盛, 埜本 慎, 高橋寛二, 松村美代 (2003) 網膜細動脈瘤による網膜下血腫の術中に黄斑円孔を生じた一例. 第336回大阪眼科集談会, 大阪
113. 宮崎秀行, 安藤 彰, 福井智恵子, 南部裕之, 松村美代 (2003) プリンゾラミド点眼後に角膜浮腫を来した2例. 第337回大阪眼科集談会, 大阪
114. 松山加耶子, 正健一郎, 松原 孝, 山崎有加里, 松本泰明, 松村美代 (2003) 外傷性黄斑円孔から裂孔原性網膜剥離を来した一例. 第337回大阪眼科集談会, 大阪
115. 津田メイ, 高橋寛二, 松村美代, 稲垣隆介 (2003) 頭蓋内進展をみた眼窩内神経鞘腫の1例. 第21回日本眼腫瘍研究会, 岡山
116. 寺内博夫 (2003) 研修医のための白内障手術教育. 第29回大阪眼科手術の会, 大阪

## 著書

- 萩原実早子, 松村美代 (2003) 疾患への対応 黄斑円孔. ロービジョンケア (新井三樹編) 106-111頁, メジカルビュー社, 東京
- 松村美代 (2003) 症状から見た眼の機能的解剖学. 眼科ナースのための知識と実際 (松村美代編) 17-32頁, メディカ出版, 大阪
- 松永裕史 (2003) 主要な眼底病変を知っておこう. 眼科ナースのための知識と実際 (松村美代編) 151-176頁, メディカ出版, 大阪
- 福島伊知郎 (2003) 網膜・硝子体疾患の手術看護. 眼科ナースのための知識と実際 (松村美代編) 151-176頁, メディカ出版, 大阪
- 三木弘彦 (2003) 眼科のレーザー治療. 眼科ナースのための知識と実際 (松村美代編) 227-248頁, メディカ出版, 大阪
- 弓削堅志 (2003) 眼科救急と看護. 眼科ナースのための知識と実際 (松村美代編) 249-270頁, メディカ出版, 大阪
- 松村美代 (2003) 緑内障の手術治療. 眼科学アラカルト (安藤文隆編) 235-251頁, アジア地域眼科医研修基金の会, 名古屋
- 高橋寛二, 福地俊雄, 正健一郎, 徳田愛子, 伏見智雅子, 仲村永江, 蔵重知帆, 中村千香子, 篠畑佳世子 (2003) 黄斑疾患の検査. 「眼科ケア」眼科疾患別パーフェクト検査マニュアル (調廣子, 根木昭編) 112-123頁, メディカ出版, 大阪

## 耳鼻咽喉科学講座

## 研究業績

## 原著

1. Shen J, Harada N and Yamashita T (2003) Nitric oxide inhibits adenosine 5'-triphosphate-induced  $Ca^{2+}$  response in inner hair cells of the guinea pig cochlea. *Neurosci Lett* 337: 135-138
2. Ben-Yosef T, Belyantseva IA, Saunders TL, Hughes ED, Kawamoto K, Van Itallie CM, Beyer LA, Halsey K, Gardner DJ, Wilcox ER, Rasmussen J, Anderson JM, Dolan DF, Forge A, Raphael Y, Camper SA and Friedman TB (2003) Claudin 14 knockout mice, a model for autosomal recessive deafness DFNB29, are deaf due to cochlear hair cell degeneration. *Hum Mol Genet* 12: 2049-2061
3. Kawamoto K, Ishimoto S, Minoda R, Brough DE and Raphael Y (2003) Kawamoto K, Yagi M, Stover T, Kanzaki S, Raphael Y(2003).Hearing and hair cells are protected by adenoviral gene therapy with TGF-beta1 and GDNF. *Mol Ther* 7: 484-492
4. Iwai H, Adachi M and Yamashita T (2003) Front-loading of Groningen voice prosthesis in alaryngeal patients requiring prosthetic replacement. *J Laryngol Otol* 117: 633-636
5. Iwai H, Lee S, Inaba M, Sugiura K, Baba S, Tomoda K, Yamashita T and Ikehara S (2003) Correlation between accelerated presbycusis and decreased immune functions. *Exp Gerontology* 38: 319-325
6. Hosaka N, Ito M, Iwai H, Toki J and Ikehara S (2003) Amyloid A gastrointestinal amyloidosis associated with idiopathic retroperitoneal fibrosis. *Arch Pathol Lab Med* 127: 735-738
7. Waka N, Knipper M and Engel J (2003) Localization of the calcium channel subunits Cav1.2 ( $\alpha_1C$ ) and Cav2.3 ( $\alpha_1E$ ) in the mouse organ of Corti. *Histology and Histopathology* 18: 1115-1123
8. Azuma M, Endo Y, Miyazaki T, Hikita Y, Ikeda H, Moriya Y, Hara I and Araki S (2003) Efficacy of a Detector Tube Method in Formaldehyde Measurement. *Industrial Health* 41: 306-312
9. 井上俊哉 (2003) Velopharyngoplasty を用いた中咽頭癌術後の側壁および上壁再建と術後機能. *口咽科* 15: 301-308
10. 柿本晋吾, 古川昌幸, 姫野千恵美, 山下敏夫 (2003) 当院におけるナビゲーションシステムの使用経験と小工夫. *耳鼻展望* 46: 89-92
11. 守田雅弘, 金子明弘, 八木沼裕司, 山口展正, 高橋晴雄, 小林俊光, 山下敏夫 (2003) 耳管機能検査に関するアンケート調査の報告. *Otol JpnJ* 13: 146-150
12. 湯川尚哉, 辻 裕之, 岩井 大, 永田基樹, 小椋 学, 宮本 真, 竹村博一, 山下敏夫, 笹井邦彦 (2003) 頸神経における知覚および運動神経の検討. *頭頸部腫瘍* 29: 76-80
13. 堀口章子, 下出祐造, 足立真理, 友田幸一, 早川 忍, 岩井 大 (2003) ボイスプロステシス Provox2 による代用音声の検討. *日気食* 54: 428-433
14. 岩井大, 山下敏夫 (2003) 耳下腺癌の手術手技顔面神経保存の適応の検討. *耳鼻* 49 (補3): S218-S222
15. 中江 香, 岩井 大, 小椋 学, 湯川尚哉, 永田基樹, 井上俊哉, 辻 裕之, 和歌信彦, 山下敏夫 (2003) 中咽頭癌術後にみられた深在静脈血栓症の一例. *頭頸部外科* 12: 131-135
16. 池田浩己 (2003) 家屋の不同沈下とめまい症状. *日事新報* 41: 93-94
17. 池田浩己, 中澤浩子, 中村晶彦, 山下敏夫, 圓藤陽子, 嶽良 博, 榎本雅夫 (2003) 労働環境が原因と考えられるシックハウス症候群様症状を呈した 2 症例. *労働環境が原因と考えられるシックハウス症候群様症状を呈した 2 症例* 21: 49-51
18. 池田浩己 (2003) 症例で学ぶ鼻科診療の実際. *鼻アレルギーフロンティア* 3: 45-48
19. 榎本雅夫, 池田浩己 (2003) 花粉症発症の仕組み. *現代科学* 4: 44-48
20. 榎本雅夫, 嶽良 博, 齊藤優子, 池田浩己, 加藤博司 (2003) 特異的 IgE 測定「DPC・イムライズ IgE」の有用性の検討 *アレルギー・性鼻炎患者を対象に*. *アレルギーの臨* 23: 62-

66

21. 瀬野悟史, 榎本雅夫, 嶽良 博, 池田浩己, 碓田猛真, 齋藤優子, 芝埜 彰, 船越宏子, 鈴木幹男, 矢沢代四郎 (2003) リアルタイム花粉モニター (KH-3000) の検討. 耳鼻臨床 96: 83-90
  22. 嶽良 博, 榎本雅夫, 碓田猛真, 齋藤優子, 瀬野悟史, 池田浩己, 芝埜 彰, 十河英世, 船越宏子, 坂口幸作, 藤木嘉明, 垣内 弘, 加藤 寛, 奥野吉昭, 池田昌生 (2003) スギ花粉症患者における花粉回避のためのセルフケアの実態. 耳展 46: 51-56
  23. 榎本雅夫, 池田浩己 (2003) 花粉症の診断と治療. JIM 13: 124-127
  24. 瀬野悟史, 間三千夫, 碓田猛真, 齋藤優子, 池田浩己, 船越宏子, 嶽良 博, 榎本雅夫 (2003) 当科における人工内耳装用児の術後言語成績. Audiol Jpn 46: 151-156
  25. 碓田猛真, 齋藤優子, 瀬野悟史, 池田浩己, 嶽良 博, 榎本雅夫, 河野 淳, 北野博也 (2003) 頭頸部癌に対する BCM を考えた MTX・5FU・CDGP 療法の経験 癌と化学療法 30: 641-645
  26. 船越宏子, 齋藤優子, 碓田猛真, 間三千夫, 瀬野悟史, 池田浩己, 嶽良 博, 北野博也, 榎本雅夫 (2003) 内耳障害を疑う急性中耳炎例の検討. Audiol Jpn 46: 175-180
  27. 瀬野悟史, 榎本雅夫, 嶽良 博, 齋藤優子, 池田浩己, 船越宏子, 十河英世, 芝埜 彰, 碓田猛真, 鈴木幹男, 矢沢代四郎 (2003) ペットアレルギー, 和歌山県における疫学調査. 日耳鼻 106: 750-753
  28. 齋藤優子, 碓田猛真, 間三千夫, 池田浩己, 瀬野悟史, 船越宏子, 嶽良 博, 榎本雅夫, 北野博也 (2003) 新生児および1ヶ月児における誘発耳音響放射: 性差, 左右差, 周波数の検討. Audiol Jpn 46: 583-589
  29. 碓田猛真, 間三千夫, 齋藤優子, 瀬野悟史, 池田浩己, 嶽良 博, 榎本雅夫, 長谷川賢作, 北野博也 (2003) アダプティブビームフォーミング搭載補聴器 (senso Diva) の異方向性ノイズ抑制. Audiol Jpn 46: 590-594
  30. 榎本雅夫, 池田昌生, 坂口幸作, 垣内 弘, 加藤 寛, 中西 弘, 藤木嘉明, 榎本多津子, 池田浩己, 嶽良 博 (2003) スギ花粉症に対するロラタジン初期療法の有効性 実地臨床の場からの検討. 耳展 46: 509-517
  31. 新井昇治 (2003) 顔面神経麻痺を伴った頭蓋底骨髄炎 2 症例の検討. Facial ever Research 156-157
  32. 辻 裕之 (2003) Mandibular swing approach による傍咽頭郭静術. 口咽科 15: 363-367
  33. 岩井 大, 山下敏夫 (2003) 耳下腺癌の手術式 顔面神経保存の適応の検討. 耳鼻と臨 49: 218-222
  34. 岩井 大 (2003) 無喉頭者におけるシャント発声法の検討. 気管食道領域の再建. 日気食 54: 73-77
  35. 岩井 大 (2003) MRI を用いた耳下腺内顔面神経の検索. 口咽科 15: 273-276
- 総 説
1. 西川邦男, 南野雅之, 堀 泰高 (2003) 診察の基本 問診・視診・触診 くびが腫れている. JOHNS 19: 593-595
  2. 金子明弘, 山下敏夫 (2003) 耳管機能検査. JOHNS 19: 24-30
  3. 古川昌幸, 山下敏夫 (2003) コルメラ転位・排泄の予防と対策. JOHNS 19: 342-346
- 学会発表
1. Doi T, Hosoda Y, Ohsumi Y, Baba S, Kaneko A, Komeda M, Furukawa M, Kuriyama H, Kitajiri M and Yamashita T (2003) Hearing results and our operative method using the cartilage connecting hydroxyapatite prosthesis with spearhead. The 3rd Symposium of Middle Ear Mechanics in Research and Otolology, Matsuyama, Ehime
  2. Waka N, Langer P, A Rusch, McEnery M, Platzer, Striessnig J and Engel J (2003) Interaction and subcellular localization of Cav1.3 and BK channels in mouse inner hair cells. 第26回 ARO, Florida
  3. Takemura K, Komeda M, Yagi M, Himeno C, Izumikawa M, Doi T, Kuriyama H and Yamashita T (2003) The Effects of Direct Infusion of Dexamethasone Into the Inner Ear Against Noise-Induced Trauma on Guinea Pigs. 第26回 ARO, Florida

4. Himeno C, Komeda M, Izumikawa M, Yagi M, Takemura K, Doi T, Kuriyama H and Yamashita T (2003) The Effects of Glucocorticoid on Protection Against Aminoglycoside Ototoxicity in the Guinea Pig. 第26回 ARO, Florida
5. Nakae K, Doi T, Yano J and Yamashita T (2003) Hearing results of tympanoplasty using the cartilage connecting hydroxyapatite prosthesis with spearhead. The SAM Model, Sapporo
6. Yano J, Nakae K, Waska N, Doi T and Yamashita T (2003) Nasopharyngeal malignant melanoma-Case report. The 20th Congress of Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, Guam
7. Inaba M, Iwai H and Ikehara S (2003) Prevention and treatment of age-related disease in SAM by bone marrow transplantation with or without thymus grafts. The 20th Congress of Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, Guam
8. Kawamoto K, Minoda R, Nousheen H and Raphael Y (2003) Antioxidant Gene Therapy Against Aminoglycoside Ototoxicity. 第26回 ARO, Florida
9. Oshima T, Ha Oh S, Kawamoto K and Raphael Y (2003) Outer Hair Cells Are Protected by IGF-I Against Aminoglycoside Ototoxicity. 第26回 ARO, Florida
10. Nakaizumi T, Kawamoto K and Raphael Y (2003) Adenoviral Mediated BDNF and CNTF Enhance Survival of Denervated Spiral Ganglion Cells. 第26回 ARO, Florida
11. Ishimoto S, Kawamoto K, Kanzaki S and Raphael Y (2003) Viral-Mediated Transgene Expression in Non-Sensory Cochlear Epithelial Cells. 第26回 ARO, Florida
12. Minoda R, Kawamoto K and Raphael Y (2003) Trans-Utero Gene Transfer Into the Mouse Otocyst. 第26回 ARO, Florida
13. Takemura H, Murata H, Ishimasa H, Tomoda K, Yamauchi Y and Yamashita J (2003) The education in endoscopic sinus surgery using sinus model and image-guided system. 22nd ISIAN, Seoul
14. 金子明弘, 栗山博道, 米田元胤, 土井直, 北尻雅則, 山下敏夫, 細田泰男 (2003) 当科における接着法による鼓膜形成術の成績. 第284回日耳鼻大阪地方会, 大阪
15. 宗本由美, 金子明弘, 古川昌幸, 栗山博道, 土井直, 米田元胤, 北尻雅則, 山下敏夫 (2003) 当科における接着法による鼓膜形成術の成績-2報. 第285回日耳鼻大阪地方会, 大阪
16. 米田元胤, 金子明弘, 土井直, 古川昌幸, 栗山博道, 北尻雅則, 山下敏夫, 細田泰男 (2003) 鼓膜癒着症に対する段階手術と術後成績. 第286回日耳鼻大阪地方会, 大阪
17. 宗本由美, 金子明弘, 土井直, 古川昌幸, 北尻雅則, 山下敏夫, 小寺史子 (2003) 内耳奇形による耳性髄液漏を合併した1症例. 第287回日耳鼻大阪地方会, 大阪
18. 宗本由美, 金子明弘, 古川昌幸, 栗山博道, 土井直, 米田元胤, 北尻雅則, 山下敏夫, 細田泰男 (2003) 当科における軟骨付き軟骨膜を用いた接着法. 第13回日本耳科学会, 千葉
19. 金子明弘, 宗本由美, 古川昌幸, 米田元胤, 土井直, 栗山博道, 北尻雅則, 山下敏夫, 細田泰男 (2003) 接着法による鼓膜形成術の長期成績について. 第13回日本耳科学会, 千葉
20. 古川昌幸, 栗山博道, 土井直, 金子明弘, 米田元胤, 宗本由美, 北尻雅則, 細田泰男, 山下敏夫 (2003) 5年以上経過観察できた真珠腫性中耳炎手術症例についての検討. 第13回日本耳科学会, 千葉
21. 土井直, 細田泰男, 栗山博道, 古川昌幸, 金子明弘, 米田元胤, 北尻雅則, 山下敏夫 (2003) 当科術式による軟骨接合型人工耳小骨を用いた鼓室形成術の術後聴力. 第13回日本耳科学会, 千葉
22. 米田元胤, 金子明弘, 土井直, 古川昌幸, 栗山博道, 北尻雅則, 細田泰男, 山下敏夫 (2003) 鼓膜癒着に対する段階手術と聴力成績. 第13回日本耳科学会, 千葉
23. アデノウイルスベクターを用いたマウス内耳への遺伝子導入の試み (2003) 当科における鼓膜形成術(接着法)の成績. 第104回日本耳鼻咽喉科学会, 東京
24. 中村晶彦, 大隅泰則, 山下敏夫, 南豊彦, 井野千代徳, 川上勝弘 (2003) 内視鏡下視神経減荷手術が奏効した2症例. 第104回日本耳鼻咽喉科学会, 東京

25. 中村晶彦, 久保伸夫, 山下敏夫, 井野千代徳, 熊沢忠躬 (2003) YAMIK 療法の現況. 第 285 回日耳鼻大阪地方会, 大阪
26. 古川昌幸, 中村晶彦, 山下敏夫, 河本光平, 姫野千恵美, 栗山博道, 柿本晋吾 (2003) 当科におけるナビゲーションサージェリーの現状. 第 285 回日耳鼻大阪地方会, 大阪
27. 中村晶彦 (2003) スギ花粉症における神経ペプチドに関する検討. 第 24 回京阪免疫アレルギー研究会, 大阪
28. 和歌信彦, 川崎英子, 土井 直, 山下敏夫 (2003) 上咽頭が原発と考えられた悪性黒色腫の 1 例. 第 285 回日耳鼻大阪地方会, 大阪
29. 和歌信彦, 川崎英子, 土井 直, 山下敏夫 (2003) 上咽頭原発と考えられた悪性黒色腫の 1 例. 第 65 回耳鼻咽喉科臨床学会, 京都
30. 湯川尚哉, 辻 裕之, 岩井 大, 大西純夫, 井上俊哉, 永田基樹, 小椋 学, 宮本 真, 竹村博一, 大岡久司, 山下敏夫, 笹井 邦 (2003) 頸部郭清術における頸神経温存の有用性 (第三報). 第 27 回日本頭頸部腫瘍学会, 金沢
31. 古川昌幸, 河本光平, 大隅泰則, 中村晶彦, 柿本晋吾, 姫野千恵美, 栗山博道, 山下敏夫 (2003) 当科におけるナビゲーションサージェリーの現状. 第 42 回日本鼻科学会, 東京
32. 永田基樹, 辻 裕之, 岩井 大, 大西純夫, 湯川尚哉, 小椋 学, 山下敏夫, 南 豊彦, 井上俊哉, 永田憲司 (2003) T2N0 声門癌に対する TS-1 を用いた放射線化学同時併用療法 臨床第 1 相試験について. 第 27 回日本頭頸部腫瘍学会, 金沢
33. 井上俊哉, 辻 裕之, 南 豊彦, 山下敏夫 (2003) 術後機能からみた中咽頭再建の工夫. 第 17 回大阪マイクロサージャリー研究会, 大阪
34. 鈴鹿有子, 下出祐造, 竹村博一, 友田幸一 (2003) 耳手術材料の検討. 第 13 回日本耳科学会, 千葉
35. 岩井 大 (2003) 耳下腺良性腫瘍手術. 耳下腺手術手技セミナー. 第 16 回日本口腔・咽頭科学会, 東京
36. 岩井 大, 大隅泰則, 湯川尚哉, 永田基樹, 辻裕之, 山下敏夫 (2003) 周囲臓器浸潤を伴う甲状腺原発悪性リンパ腫の 2 例. 第 36 回甲状腺外科研究会, 京都
37. 南野雅之, 西川邦男, 門田伸也, 苅田賢治, 堀泰高, 内田浩志, 万代光一 (2003) 耳下腺癌治療の検討. 第 10 回北関東頭頸部腫瘍研究会, 埼玉
38. 岩井 大 (2003) 耳下腺癌における顔面神経保存と治療法の検討. 第 8 回頭頸部癌化学療法研究会, 仙台
39. 池田浩己, 中澤浩子, 中村晶彦, 山下敏夫, 圓藤陽子, 嶽良 博, 榎本雅夫 (2003) 労災環境が原因でと考えられたシックハウス症候群様症状を呈下 2 症例. 第 21 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 鹿児島
40. 池田浩己, 船越宏子, 十河英世, 斎藤優子, 芝 堃 彰, 嶽良 博, 榎本雅夫 (2003) 当科での YAMIK カテーテル療法 (第 1 報). 第 284 回日耳鼻大阪地方会, 大阪
41. 池田浩己, 中澤浩子, 中江 香, 中村晶彦, 山下敏夫, 圓藤陽子, 榎本雅夫 (2003) 当科におけるシックハウス症候群様患者に対する対応. 第 15 回日本アレルギー学会春期臨床大会, 横浜
42. 池田浩己, 船越宏子, 芝 堃 彰, 斎藤優子, 十河英世, 嶽良 博, 榎本雅夫 (2003) 職場環境に起因するシックハウス症候群と考えられた 1 症例. 第 71 回和歌山医学会総会, 和歌山
43. 池田浩己, 船越宏子, 十河英世, 斎藤優子, 芝 堃 彰, 嶽良 博, 榎本雅夫 (2003) 当科での YAMIK カテーテル療法 (第 2 報). 第 286 回日耳鼻大阪地方会, 大阪
44. 池田浩己, 瀬野悟史, 船越宏子, 十河英世, 齋藤優子, 芝 堃 彰, 嶽良 博, 榎本雅夫 (2003) 当科における YAMIK カテーテル加療の経験. 第 42 回日本鼻科学会総会, 東京
45. 池田浩己, 船越宏子, 十河英世, 斎藤優子, 芝 堃 彰, 嶽良 博, 榎本雅夫 (2003) 当科における YAMIK カテーテル療法 (第 3 報). 第 287 回日耳鼻大阪地方会, 大阪
46. 新井昇治, 中村晶彦, 久保伸夫, 山下敏夫, 池田浩己, 原田成信 (2003) LPS, TNF- $\alpha$  刺激によるヒト鼻粘膜微小血管内皮細胞における iNOS 発現とアポトーシス誘導. 第 42 回日本鼻科学会総会, 東京
47. 和歌信彦, 山下敏夫 (2003) マウス内耳にお



- ける電位依存性カルシウムチャンネル Cav1.2(a1C) & Cav2.3(a1E) サブユニットの分布. 第104回日本耳鼻咽喉科学会, 東京
48. 米田律子, 中村晶彦, 近野哲史, 山下敏夫, 山原崇弘 (2003) 副鼻腔炎が原因と考えられた細菌性髄膜炎の1例. 第284回日耳鼻大阪地方会, 大阪
49. 川上勝弘, 中村晶彦, 井野千代徳 (2003) 副鼻腔画像診断 (第4報) オノディ蜂巣の臨床的意義. 第284回日耳鼻大阪地方会, 大阪
50. 沈 静, 原田成信, 中澤浩子, 山下敏夫 (2003) 細胞外 ATP 刺激による外有細胞における NO 産生と細胞内  $Ca^{2+}$  動態. 第21回頭頸部自律神経研究会, 大阪
51. 西川邦男, 門田伸也, 南野雅之, 堀 泰高, 内田浩志, 藤澤琢郎, 江口元治 (2003) 喉頭温存手術を施行した下咽頭・喉頭癌症例における術後発声・嚥下動態に関する検討. 第27回日本頭頸部腫瘍学会, 金沢
52. 西川邦男, 門田伸也, 南野雅之, 堀 泰高, 内田浩志, 青地克也, 米田孝明, 隅田伸二, 石井俊二, 富永 進, 森下常盤, 小野田友男, 中田道広, 苅田賢治 (2003) 喉頭拡大半側切除-亜全摘を施行した喉頭下咽頭進行癌に対する肩甲骨皮弁による喉頭硬性再建と術後発声機能. 第27回日本頭頸部腫瘍学会, 金沢
53. 門田伸也, 西川邦男, 南野雅之, 堀 泰高, 内田浩志, 藤澤琢郎, 江口元治 (2003) Dental-prescale occluzer system による舌, 中咽頭癌切除再建における咀嚼機能の定量的評価. 第13回日本頭頸部外科学会, 仙台
54. 堀 泰高, 西川邦男, 門田伸也, 南野雅之, 内田浩志 (2003) VCS clip を使用した頭頸部微小血管吻合術の臨床的検討. 第13回日本頭頸部外科学会, 仙台
55. 西川邦男, 門田伸也, 南野雅之, 堀 泰高, 内田浩志 (2003) 甲状腺扁平上皮癌症例. 第287回大阪地方連合会, 大阪
56. 大岡久司, 南野雅之, 辻 裕之, 永田基樹, 湯川尚哉, 大西純夫, 山下敏夫 (2003) 当科における縦隔気管孔症例の検討. 第287回大阪地方連合会, 大阪
57. 河本光平, 神崎晶, 栗山博道, Yehoash Raphael, 山下敏夫 (2003) アデノウイルスベクターを用いたマウス内耳への遺伝子導入の試み. 第21回頭頸部自律神経研究会, 大阪
58. 河本光平, 古川昌幸, 姫野千恵美, 栗山博道, 大隅泰則, 柿本晋吾, 山下敏夫 (2003) 当科におけるナビゲーションシステムの有用性の検討. 第286回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会, 大阪
59. 河本光平, 神崎晶, 栗山博道, Yehoash Raphael, 山下敏夫 (2003) マウスを用いた内耳遺伝子導入の試み. 第48回聴覚医学会, 東京
60. 河本光平, 石本晋一, 蓑田涼生, Douglas Brough, Yehoash Raphael, 栗山博道, 山下敏夫 (2003) Math1 遺伝子導入による内耳有毛細胞の新生. 第13回日本耳科学会, 千葉
61. 河本光平, 古川昌幸, 姫野千恵美, 栗山博道, 柿本晋吾, 八木正夫, 大隅泰則, 山下敏夫 (2003) 当科におけるナビゲーションシステムの有用性についての検討. 第5回ナビゲーション研究会, 金沢
62. 河本光平, 古川昌幸, 姫野千恵美, 栗山博道, 柿本晋吾, 八木正夫, 大隅泰則, 山下敏夫 (2003) 鼻副鼻腔ナビゲーションシステム Insta TrackTM の有用性についての検討. 第287回日耳鼻大阪地方会, 大阪
63. 姫野千恵美, 濱田聡子, 中澤浩子, 大谷智子, 川崎英子, 池田浩己, 山崎典子, 北尻雅則, 山下敏夫 (2003) めまい外来患者における不安心理の検討. STAI を用いて. 第62回日本めまい平衡医学会, 横浜
64. 姫野千恵美, 米田元胤, 竹村景史, 八木正夫, 土井 直, 栗山博道, 山下 (2003) 音響障害におけるカルシウムキレート剤局所投与の影響. 第13回日本耳科学会, 千葉
65. 大岡久司, 湯川尚哉, 竹村博一, 宮本 真, 小椋 学, 永田基樹, 井上俊哉, 辻 裕之, 山下 敏 (2003) 頸部郭清術後の機能評価について. 第285回日耳鼻大阪地方会, 大阪
66. 姫野千恵美, 米田元胤, 竹村景史, 八木正夫, 土井 直, 栗山博道, 山下敏夫 (2003) 音響障害におけるカルシウムキレート剤内耳局所投与の影響. 第13回日本耳科学会, 千葉
67. 竹村博一, 鈴鹿有子, 糸井あや, 友田幸一 (2003) Epley 法が著効した症例. 河北耳鼻科, 金沢

68. 竹村博一, 鈴鹿有子, 下出祐造, 友田幸一 (2003) 声帯脂肪注入術の試み. 北陸地方会, 金沢
69. 竹村博一, 村田英之, 石政 寛, 友田幸一 (2003) ナビゲーションを使った鼻科領域における手術教育. 第51回中部地方会, 新潟
70. 竹村博一, 村田英之, 石政 寛, 友田幸一 (2003) ナビゲーションを使った鼻科領域における手術教育. 第5回耳鼻咽喉科ナビゲーション研究会, 金沢
71. 竹村博一, 村田英之, 石政 寛, 友田幸一 (2003) ヒト鼻腔モデルを用いた鼻内内視鏡手術教育システム. 第12回日本コンピュータ外科学会, 愛媛
72. 小西将矢, 岩井 大, 大前麻理子, 湯川尚哉, 永田基樹, 辻 裕之, 山下敏夫, 矢野純也, 福武知重 (2003) 喉頭平滑筋肉腫の2例についての検討. 第27回日本頭頸部腫瘍学会, 金沢
73. 大前麻理子, 岩井 大, 小西将矢, 永田基樹, 湯川尚哉, 辻 裕之, 山下敏夫, 清水 健, 池田耕士 (2003) 耳下腺神経鞘腫の検討. 第16回日本口腔・咽頭科学会, 東京
74. 小西将矢, 岩井 大, 矢野純也, 大前麻理子, 永田基樹, 湯川尚哉, 福武知重, 辻 裕之, 山下敏夫 (2003) 喉頭平滑筋肉腫の2例. 第284回日耳鼻大阪地方会, 大阪
75. 大前麻理子, 岩井 大, 小西将矢, 永田基樹, 湯川尚哉, 辻 裕之, 山下敏夫 (2003) 耳下腺神経鞘腫の検討. 第284回日耳鼻大阪地方会, 大阪
76. 瀬野悟史, 榎本雅夫, 池田浩己, 嶽良 博, 鈴木幹男 (2003) 和歌山市における2002年のリアルタイム花粉モニター (KH-3000) の成績. 第21回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 鹿児島
77. 芝埜 彰, 嶽良 博, 斎藤優子, 池田浩己, 船越宏子, 十河英世, 榎本雅夫, 相見良成, 木村 宏 (2003) ラット鼻粘膜における末梢型コリンアセチルトランスフェラーゼ (ChAT) の免疫組織学的研究 (第3報) 翼口蓋神経節除去後の経時変化. 第284回日耳鼻大阪地方会, 大阪
78. 嶽良 博, 斎藤優子, 藤木嘉明, 芝埜 彰, 池田浩己, 船越宏子, 十河英世, 榎本雅夫 (2003) 術前検査で判明した HIV 感染症の1例. 第284回日耳鼻大阪地方会, 大阪
79. 嶽良 博, 榎本雅夫, 池田浩己, 芝埜 彰, 斎藤優子, 船越宏子, 十河英世 (2003) スギ花粉抗原 Cry j1 による誘発試験. 第15回日本アレルギー学会春期臨床大会, 横浜
80. 斎藤優子, 間三千夫, 碓田猛真, 船越宏子, 池田浩己, 十河英世, 芝埜彰, 嶽良 博, 榎本雅夫, 北野博也 (2003) 市販 ASSR 機の使用経験. 第104回日本耳鼻咽喉科学会総会, 東京
81. 芝埜 彰, 榎本雅夫, 嶽良 博, 池田浩己, 斎藤優子, 十河英世, 船越宏子: 睡眠 (2003) 睡眠時無呼吸症例における the Epworth Sleepiness Scale を用いた自覚的眠気の評価. 第104回日本耳鼻咽喉科学会総会, 東京
82. 斎藤優子, 船越宏子, 池田浩己, 十河英世, 芝埜 彰, 嶽良 博, 榎本雅夫, 碓田猛真, 北野博也 (2003) 重症肝機能障害により治療に難渋した中耳結核の1症例. 第285回日耳鼻大阪地方会, 大阪
83. 芝埜 彰, 嶽良 博, 斎藤優子, 池田浩己, 船越宏子, 十河英世, 榎本雅夫, 相見良成, 木村 宏 (2003) ラット鼻粘膜における末梢型コリンアセチルトランスフェラーゼ (ChAT) の免疫組織学的研究 (第4報) 三叉神経上顎枝焼灼後の変化. 第285回日耳鼻大阪地方会, 大阪
84. 榎本雅夫, 嶽良 博, 斎藤優子, 池田浩己, 芝埜 彰, 船越宏子, 十河英世, 和田光男, 澤崎 健 (2003) 新 MAST-immunosystem について. 第285回日耳鼻大阪地方会, 大阪
85. 船越宏子, 嶽良 博, 斎藤優子, 十河英世, 池田浩己, 芝埜 彰, 榎本雅夫 (2003) 右上顎洞に発生した cylindrical cell carcinoma の1例. 第29回和歌山悪性腫瘍研究会, 和歌山
86. 芝埜彰, 十河英世, 榎本雅夫, 嶽良 博, 池田浩己, 斎藤優子, 船越宏子 (2003) アブノモニター結果と睡眠時無呼吸症例のリスクファクターとの関連について. 第65回耳鼻咽喉科臨床学会, 京都
87. 嶽良 博, 池田浩己, 芝埜 彰, 斎藤優子, 船越宏子, 十河英世, 榎本雅夫 (2003) 咽喉頭症状と胃食道逆流症状. 第65回耳鼻咽喉科臨床学会, 京都

88. 碓田猛真, 北野博也, 斎藤優子, 池田浩己, 嶽良 博, 榎本雅夫, 瀬野 悟史 (2003) MTX enhanced 5FU CBDCA/CGDP 療法の頸部転移に対する効果. 第 65 回耳鼻咽喉科臨床学会, 京都
89. 嶽良 博, 芝埜 彰, 池田浩己, 斎藤優子, 船越宏子, 十河英世, 榎本雅夫 (2003) スギ花粉抗原 Cry j1 による鼻腔刺激と鼻・咽喉頭症状. 第 71 回和歌山医学会総会, 和歌山
90. 榎本雅夫, 嶽良 博, 池田浩己, 芝埜 彰, 斎藤優子, 十河英世, 船越宏子, 加藤 寛, 池田昌生, 中西 弘, 垣内 弘, 坂口幸作, 藤木嘉明, 榎本多津子 (2003) スギ花粉に対する初期療法の実態調査アンケート法による受診実態と QOL 調査. 第 71 回和歌山医学会総会, 和歌山
91. 嶽良 博, 芝埜 彰, 池田浩己, 斎藤優子, 船越宏子, 十河英世, 藤木嘉明, 加藤 寛, 榎本雅夫 (2003) 咽喉頭異常感症と胃酸逆流症 (第 3 報). 第 286 回日耳鼻大阪地方会, 大阪
92. 芝埜 彰, 十河英世, 船越宏子, 池田浩己, 斎藤優子, 嶽良 博, 榎本雅夫 (2003) 睡眠時無呼吸症候群の診断についての考察 (第 1 報) 全身疾患との関係. 第 286 回日耳鼻大阪地方会, 大阪
93. 碓田猛真, 斎藤優子, 十河英世, 池田浩己, 嶽良 博, 北野博也, 榎本雅夫 (2003) 生後 3ヶ月時に補聴器を装用した児の言語発育 (第 2 報). 第 48 回日本聴覚医学会総会, 東京
94. 斎藤優子, 碓田猛真, 間三千夫, 池田浩己, 船越宏子, 芝埜彰, 嶽良 博, 榎本雅夫, 北野博也 (2003) 乳幼児に対する市販 ASSR (聴性定常反応) 機 MASTER を用いた聴力評価の検討. 第 48 回日本聴覚医学会総会, 東京
95. 船越宏子, 斎藤優子, 碓田猛真, 池田浩己, 嶽良 博, 榎本雅夫, 北野博也 (2003) 重症肝機能障害により治療に難渋した中耳結核の 1 症例. 第 13 回日本耳科学会総会, 千葉
96. 圓藤陽子, 池田浩己, 宮崎竹二, 圓藤吟史 (2003) 光触媒蛍光灯による室内環境中ホルムアルデヒド濃度の低減化. 第 62 回日本公衆衛生学会, 京都
97. 榎本雅夫, 嶽良 博, 池田浩己, 芝埜 彰, 斎藤優子, 船越宏子, 大西成雄, 碓田猛真 (2003) 花粉飛散シーズン後の室内花粉の動態 (第 2 報). 第 53 回日本アレルギー学会, 岐阜
98. 角谷千恵子, 荻野 敏, 入船盛弘, 菊守 寛, 瀬尾 律, 玉城晶子, 池田浩己, 嶽良 博, 榎本雅夫 (2003) スギ花粉症におけるアウトカム研究 (第 1 報). 第 53 回日本アレルギー学会, 岐阜
99. 嶽良 博, 榎本雅夫, 池田浩己, 芝埜 彰, 斎藤優子, 十河英世, 船越宏子 (2003) スギ花粉症の初期療法における塩酸オロパタジンの有効性. 第 53 回日本アレルギー学会, 岐阜
100. 船越宏子, 池田浩己, 斎藤優子, 芝埜 彰, 嶽良 博, 榎本雅夫 (2003) 副鼻腔炎に対する YAMIK カテーテル治療. 第 75 日耳鼻学会和歌山県地方部会, 和歌山
101. 嶽良 博, 芝埜 彰, 池田浩己, 斎藤優子, 加藤 寛, 十河英世, 船越宏子, 藤木嘉明, 榎本雅夫 (2003) 咽喉頭症状におけるプロトンポンプ阻害薬の効果. 第 75 日耳鼻学会和歌山県地方部会, 和歌山
102. 芝埜 彰, 十河英世, 船越宏子, 池田浩己, 斎藤優子, 嶽良 博, 榎本雅夫 (2003) 当科における睡眠時無呼吸外来の現状. 第 75 日耳鼻学会和歌山県地方部会, 和歌山
103. 芝埜 彰, 嶽良 博, 斎藤優子, 池田浩己, 船越宏子, 十河英世, 榎本雅夫 (2003) 睡眠時無呼吸症候群の診断についての考察 (第 2 報) ESS scale との関連. 第 287 回日耳鼻大阪地方会, 大阪
104. 榎本雅夫, 嶽良 博, 斎藤優子, 池田浩己, 芝埜 彰, 十河英世, 船越宏子 (2003) マウスモデルにおけるスギ花粉誘発腹腔炎より. 第 287 回日耳鼻大阪地方会, 大阪
105. 柿本晋吾, 古川昌幸, 姫野千恵美, 山下敏夫 (2003) 当院におけるナビゲーションシステムの使用経験と小工夫. 第 4 回耳鼻咽喉科ナビゲーションシステム研究会, 金沢
106. 中江 香, 湯川尚哉, 宮本 真, 辻 裕之, 山下敏夫 (2003) 長期経過を要した Dumon 型ステンレスを用いた気管平滑筋腫の 1 症例. 第 55 回日本気管食道科学会, 福島
107. 新井昇治, 栗山博道, 宗本由美, 山下敏夫 (2003) 顔面神経麻痺を伴った頭蓋底骨髄炎 2 症例の検討. 第 26 回日本顔面神経研究会, 東京

108.大隅泰則,湯川尚哉,永田基樹,辻 裕之,山下敏夫(2003)大腸癌術後甲状腺及び下咽頭に転移を認めた一症例.第285回日耳鼻大阪地方会,大阪

#### 著書

1. 北尻雅則(2003)7.喉頭・気管,食道,頸部疾患,213.結核性頸部リンパ節炎.今日の耳鼻咽喉科頭頸部外科治療指針 第2版(森山寛,岸本誠司,小林俊光,川内秀之編)402頁,医学書院,東京
2. 土井 直,山下敏夫(2003)解説 中耳疾患の手術と成績 癒着性中耳炎.耳鼻咽喉科診療プラクティス 11 中耳疾患治療の最前線

保存的治療 VS 手術治療 (加我君孝編)66-69頁,文光堂,東京

3. 土井 直(2003)耳鼻咽喉科疾患に対する私の薬物療法 耳管開放症.耳鼻咽喉科薬物療法マニュアル(神崎 仁,小川 郁編)233-236頁,金原出版,東京
4. 岩井 大,山下敏夫(2003)甲状腺良性腫瘍.甲状腺良性腫瘍.今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科(森山 寛,岸本誠司,小林俊光,川内秀之編)456-457頁,医学書院,東京
5. 岩井 大(2003)舌小帯短縮症.今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科(森山 寛,岸本誠司,小林俊光,川内秀之編)319頁,医学書院,東京

## 放射線科学講座

### 研究概要

放射線科での主な研究は次の如くである.

#### 基礎医学

- (A) 腫瘍の放射線・温熱感受性とアポトーシスの関連および関連遺伝子発現との相関
- (B) 実験腫瘍の抗 Fas 抗体とフローサイトメトリーを用いた照射後の細胞死動態の解析
- (C) 実験腫瘍における放射線増感剤,防護剤のラジカル生成への影響と抗腫瘍効果との関連
- (D) 血管新生阻害剤による温熱効果増強
- (E) メタリックステントの物理特性と生体適合性
- (F) IVR における新しいデバイスの開発
- (G) 肝癌塞栓術の新しい展開
- (H) 高周波誘導加温による解離性動脈瘤の治療
- (I) 移植腫瘍における動注化学療法の効果
- (J) 膜電位指示蛍光試薬を用いた腫瘍細胞膜電位測定による温熱効果及び薬剤増感の機序究明

#### 臨床放射線治療学

- (A) 進行癌の予後因子の分子生物学的アプローチ:癌遺伝子 bax/bCl-2 比との関連
- (B) 温熱放射線療法患者における癌遺伝子産物の発現と抗腫瘍効果及び生存率についての検討
- (C) 高線量率小線源治療と局所腔内加熱同時併用による食道粘膜の障害と治療効果比の検討
- (D) 肺癌に対する高線量率と小線源治療の効果判定
- (E) X-ナイフによる治療成績の検討

#### 血管造影・IVR

- (A) メタリックステントを用いた終末期医療の臨床成績
- (B) 各種薬剤による動注化学療法の効果
- (C) 肺癌治療における新しい展開

## 核医学

- (A) 肝細胞増殖因子の抗肝実質細胞障害作用発現とアジア口糖蛋白受容活性との関連
- (B) RI 標識アジア口糖蛋白受容体を用いた肝障害の評価方法の確立
- (C) IVR, 放射線治療後の機能評価

## MR 部門

- (A) 新しい撮像法を用いた腫瘍検出法の確立
- (B) 疾患別 MR 診断理論の確立

## その他

- (A) 3次元画像診断システムの作成
- (B) PACS の構築とその運用理論の確立

## 研究業績

## 原 著

1. Isoda H, Kuroda M, Saitoh M, Asakura T, Akai M, Ikeda K, Erhu Jin and Sawada S (2002) MR findings in clear cell sarcoma. Two case reports. *Clin Imaging* 27: 229-232
2. Amano K, Marsubara H, Iba O, Okigaki M, Fujiyama S, Imada T, Kojima H, Nozaki Y, Yokoyama M and Iwasaka T (2003) Enhancement of Ischemia-Induced Angiogenesis by eNOS Overexpression. *Hypertension* 41: 156
3. Imamura M, Sawada S, Harima K, Shiga T and Sougawa M (2003) Multidetector-row CT analysis of time-dependent changes in lung fields after chest irradiation: Usefulness of precision scans. *Oncol Rep* 10: 1449-1454
4. Harima Y, Sawada S, Miyazaki Y, Kin K, Ishihara H, Imamura M, Sougawa M, Shikata N and Ohnishi T (2003) Expression of Ku80 in Cervical Cancer Correlates With Response to radiotherapy and Survival. *Am J Clin Oncol* 26: 80-85
5. Minami T, Nobuhara K, Okugawa G, Takase K, Yoshida T, Sawada S, Ha-Kawa S, Ikeda K and Kinoshita T (2003) Diffusion Tensor Magnetic Resonance Imaging of Disruption of Regional White Matter in Schizophrenia. *Neuropsychobiology* 47: 141-145
6. Komemushi A, Tanigawa N, Kojima H, Kariya S and Sawada M (2003) CT Perfusion of the Liver during Selective Hepatic Arteriography: Pure Arterial Blood Perfusion of Liver Tumor and Parenchyma. *Radiat Med* 21: 246-251
7. Imamura M, Sawada S, Sougawa M, Harima K and Yamaguchi K (2003) Spontaneous remission in a patient with BOOP-like pneumonia that developed after postoperative radiotherapy for breast cancer. *Oncol Rep*
8. Nagata T, Ikeda K, Ohmura N and Sawada S (2003) Peripheral Vascular Coil for Peripheral MR Angiography: Phantom-based Comparison with Body Coil By SNR, CNR, and Visual Evaluation.
9. 小島博之, 谷川 昇, 米虫 敦, 播磨洋子, 寒川光治, 澤田 敏, 狩谷秀治 (2003) 大腸癌術後局所再発に対する DSM 併用動注化学療法. *Radiol Japonica* 6: 139-145
10. 橋本 勉, 大井博道, 黒川弘晶, 宮原伸浩, 岡信行, 澤田 敏, 中村仁信 (2003) 造影 CT 検査における非イオン性造影剤モイオパーク R300 シリンジの臨床評価. *Pharma Medica* 21: 123-132
11. 播磨洋子, 澤田 敏 (2003) 子宮頸癌における放射線感受性指標と治療効果 Ku80 蛋白発現の検討. *癌の臨* 49: 395-398
12. 鹿浦砂智子, 楊 培慧, 澤田 敏 (2003) 経静脈胆嚢造影剤によると思われた白血球減少 血小板減少を呈した1例. *臨放線* 48: 984-986
13. 今村正浩, 澤田 敏, 寒川光治, 播磨洋子, 山口和之 (2003) 乳房術後照射後に発症し自然寛解を呈した BOOP 様肺炎の1例. *日医放線*

## 会誌

14. 南 智久, 延原健二, 奥川 学, 吉村匡史, 吉田常孝, 高瀬勝教, 池田耕士, 河 相吉, 澤田 敏, 木下利彦 (2003) 統合失調症における脳白質の拡散異方性. 脳と精の医 14: 261-268
15. 廣橋伸治, 市川智章, 谷本伸弘, 磯部義憲, 蜂屋順一, 斎藤和博, 磯田裕義, 西村 浩, 桑鶴良平, 後閑武彦, 村上卓道, 中野重行, 斧生 卓 (2003) 超常磁性酸化鉄製剤 SH U 555 A の MRI 肝臓造影における用量検討. 日医放線会誌 63: 539-550
16. 谷川 昇, 米虫 敦, 小島博之, 狩谷秀治, 澤田 敏 (2003) 回転 DSA を用いた肝血管の 3D Angiography. 外科治療 89: 507-512
17. 黒川弘晶, 金 熙乾, 清水 健, 赤井幹夫, 池田耕士, 澤田 敏, 有地美和, 緒方奈保子, 松村美代 (2003) 頭蓋内血管による視神経圧迫の MR: 正常眼圧緑内障による視野異常も含めて. 臨放線 48: 1655-1662
18. 河 相吉, 米虫 敦, 谷川 昇, 澤田 敏, 海堀昌樹, 上山泰男 (2003)  $^{99m}\text{Tc}$ -GSA による生体肝移植前後の肝機能評価. 薬理と治療 31: S53-S57
19. 今村正浩, 澤田 敏, 寒川光治, 播磨洋子, 狩谷秀治, 山口和之 (2003) 乳房術後照射後に発症し自然寛解を呈した BOOP 様肺炎の 1 例. 呼吸
20. 播磨洋子 (2003) 最新の温熱療法 2. 温熱療法を放射線治療に併用すると子宮頸ガンなどの多くのガンに効果倍増. 安心 12: 61-62

## 学会発表

1. Tanigawa N, Komemushi A, Kojima H, Kariya S, Sougawa M and Sawada S (2003) Percutaneous CT-guided Radiofrequency Ablation of Painful Pelvic Bone Metastases. Radiology Society of North America 89th Scientific Assembly And Annual Meeting, Chicago
2. Tanigawa N, Komemushi A, Kojima H, Kariya S, Sougawa M and Sawada S (2003) Separate Blood Flow Analysis of the Liver by Using CT Perfusion Study during Superior Mesenteric Arterial Portography and Hepatic Arteriography. Radiology Society of North America 89th Scientific Assembly And Annual Meeting, Chicago
3. Ikeda K, Kuroda M, Komemushi A, Akai M and Sawada S (2003) The Location of Parotid Gland Tumors; Evaluation with the Main Parotid Duct on T2-Weighted MRI and MR-Sialography Compared with other Anatomical Landmarks. Radiology Society of North America 89th Scientific Assembly And Annual Meeting, Chicago
4. Kariya S, Tanigawa N, Komemushi A, Kojima H, Shiraiishi T and Sawada S (2003) Percutaneous Transluminal Peripheral Cutting Balloon Angioplasty for Hemodialysis Shunt Failure with Incomplete Dilatation by Conventional Balloon Angioplasty. Radiology Society of North America 89th Scientific Assembly And Annual Meeting, Chicago
5. Komemushi A, Tanigawa N, Kariya S, Kojima H and Sawada S (2003) Percutaneous Vertebroplasty: Analysis of Vertebral Body Volume with Compression Fracture by CT Volumetry. Radiology Society of North America 89th Scientific Assembly And Annual Meeting, Chicago
6. 河 相吉, 吉田常孝, 青木良純, 澤田 敏 (2002) 健常者における  $^{123}\text{I}$ -IMP と  $^{99m}\text{Tc}$ -ECD の脳内分布の差異 統計解析による検討. 第 35 回日本核医学会近畿地方会, 神戸
7. 播磨洋子 (2003) 放射線治療後子宮頸癌の予後に関する Ku80 蛋白の発現. 第 5 回癌治療増感研究シンポジウム, 奈良
8. 谷川 昇 (2003) 肺腫瘍に対する RF アブレーション. 第 22 回日本画像医学会, 東京
9. 河 相吉, 吉田常孝, 青木良純, 澤田 敏 (2003) 3 相下肢・骨盤 RI ベノグラフィの方法と成績. 第 62 回日本医学放射線学会, 横浜
10. 播磨洋子, 今村正浩, 寒川光治, 澤田 敏 (2003) 本邦の進行期子宮頸癌における HLA DQA1 および DQB1 のハプロタイプ. 第 62 回日本医学放射線学会, 横浜
11. 谷川 昇, 米虫 敦, 小島博之, 寒川光治, 澤田 敏, 狩谷秀治 (2003) 経上腸間膜動脈性

- 門脈造影下 CT perfusion study : 肝内門脈血流の評価 . 第 62 回日本医学放射線学会 , 横浜
12. 寒川光治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 今村正浩, 播磨洋子, 河 相吉, 澤田 敏 (2003) 脊椎腫瘍の疼痛に対する放射線治療効果の検討 . 第 62 回日本医学放射線学会 , 横浜
  13. 池田耕士, 黒田昌志, 清水 健, 赤井幹夫, 澤田 敏 (2003) 標本用 MR マイクロコイルの使用経験 . 第 62 回日本医学放射線学会 , 横浜
  14. 清水 健, 池田耕士, 黒田昌志, 赤井幹夫, 澤田 敏 (2003) 耳下腺内顔面神経鞘腫の MRI . 第 62 回日本医学放射線学会 , 横浜
  15. 黒田昌志, 池田耕士, 石原敬康, 清水 健, 赤井幹夫, 澤田 敏 (2003) T2 強調像・MR-sialography により抽出された耳下腺管は腫瘍の局在診断の指標となり得るか? 第 62 回日本医学放射線学会 , 横浜
  16. 米虫 敦, 谷川 昇, 小島博之, 狩谷秀治, 寒川光治, 澤田 敏 (2003) 選択的肝動脈造影による CT Perfusion : 肝腫瘍および肝内動脈血流の定量的評価 . 第 62 回日本医学放射線学会 , 横浜
  17. 小島博之, 谷川 昇, 米虫 敦, 寒川光治, 澤田 敏, 狩谷秀治 (2003) CT perfusion による家兔妊娠子宮の胎盤血流測定 . 第 62 回日本医学放射線学会 , 横浜
  18. 板垣 康, 澤田 敏 (2003) Web ページを用いた上部消化管 X 線検査実習教材の作成 . 第 62 回日本医学放射線学会 , 横浜
  19. 南 智久, 延原健二, 奥川 学, 吉田常孝, 高瀬勝教, 田近亜蘭, 池田耕士, 河 相吉, 澤田 敏, 木下利彦 (2003) 統合失調症患者における脳白質の拡散異方性 . 第 62 回日本医学放射線学会 , 横浜
  20. 播磨洋子 (2003) 本邦の進行期子宮頸癌における HLA DQA1 \* 0601, DQB1 \* 03 . 第 7 回がん分子標的研究会 , 東京
  21. 播磨洋子, 澤田 敏, 富樫 亮, 片桐豊雅, 角田達彦, 中村祐輔 (2003) 子宮頸癌の温熱放射線治療感受性に関するマイクロアレイ解析 . 第 62 回日本癌学会総会
  22. 播磨洋子, 澤田 敏, 富樫 亮, 片桐豊雅, 角田達彦, 中村祐輔 (2003) 子宮頸癌の温熱放射線治療感受性に関するゲノム解析 . 第 3 回トランスレーショナルリサーチワークショップ
  23. 谷川 昇 (2003) 肺塞栓症・深部静脈血栓症に対する IVR . 第 12 回造影剤と放射線シンポジウム , 東京
  24. 谷川 昇, 米虫 敦, 小島博之, 宮崎由貴, 澤田 敏, 狩谷秀治 (2003) 経皮的椎体系性術における CO<sub>2</sub> 椎体静脈造影 . 日本血管造影・Interventional Radiology 学会 第 15 回中部・第 14 回関西合同地方会 , 奈良
  25. 米虫 敦, 谷川 昇, 小島博之, 宮崎由貴, 澤田 敏, 狩谷秀治 (2003) 経皮的椎体系性術 : CT Volumetry による椎体体積の評価 . 日本血管造影・Interventional Radiology 学会 第 15 回中部・第 14 回関西合同地方会 , 奈良
  26. 河 相吉, 吉田常孝, 澤田 敏 (2003) ジストニア症例における鍼治療前後の <sup>99m</sup>Tc-ECD SPECT . 第 36 回日本核医学会近畿地方会 , 大阪
  27. 大村直人, 池田耕士, 赤井幹夫, 黒田昌志, 澤田 敏, 岩井 大, 山下俊夫, 坂井田紀子, 植村芳子 (2003) 再発耳下腺多形性腺腫の画像所見 . 第 274 回日本医学放射線学会関西地方会 , 大阪
  28. 大村直人, 池田耕士, 赤井幹夫, 黒田昌志, 澤田 敏, 岩井 大, 山下俊夫, 坂井田紀子, 植村芳子 (2003) 再発耳下腺多形性腺腫の画像所見 . 第 31 回日本磁気共鳴医学会大会 , 山梨
  29. 池田耕士, 清水 健, 黒田昌志, 大村直人, 赤井幹夫, 澤田 敏, 岩井 大, 山下俊夫, 坂井田紀子, 植村芳子 (2003) 耳下腺神経鞘腫の MRI 所見 . 第 31 回日本磁気共鳴医学会大会 , 山梨
  30. 杉本達哉, 延原健二, 奥川 学, 南 智久, 池田耕士, 澤田 敏, 木下利彦 (2003) 統合失調症患者の脳白質における拡散テンソル解析 . 第 31 回日本磁気共鳴医学会大会 , 山梨
  31. 杉本達哉, 延原健二, 奥川 学, 南 智久, 池田耕士, 澤田 敏, 木下利彦 (2003) 統合失調症患者の脳白質における拡散テンソル解析 . 第 31 回日本磁気共鳴医学会大会 , 山梨
  32. 小島博之, 谷川 昇, 狩谷秀治, 米虫 敦, 澤田 敏, 新井永達, 横田芳郎 (2004) 消退をみた HCC の一例 . 第 276 回日本医学放射線学会関西地方会 , 豊中市

33. 前原 稔, 播磨敬三, 志賀淑子, 池田耕士, 大村直人, 杉本達哉, 澤田 敏, 稲見則仁, 野村昌作 (2004) 造影剤 (イオメプロール) による凝固系, 内皮障害についての検討. 第276回日本医学放射線学会関西地方会, 豊中市
34. 今村正浩, 澤田 敏, 寒川光治, 播磨洋子, 谷口正美 (2004) 乳癌術後照射後に発症し自然寛解を呈した BOOP 様肺炎. 第23回日本画像医学会, 東京
35. 上村修一, 高杉啓一郎, 山辺史人, 青木雅一, 加藤聡彦, 田中祝江, 出口正夫, 中島耕一, 栗田 稔, 永尾光一, 原 啓, 三浦一陽, 石井延久, 澤田 敏, 谷川 昇 (2004) 腎血管筋脂肪腫に対する選択的腎動脈塞栓術検討. 第23回日本画像医学会, 東京
36. 河 相吉, 吉田常孝, 澤田 敏 (2004) ジストニアの鍼治療と脳血流の SPECT. 第23回日本画像医学会, 東京
37. 黒川弘晶, 金 熙乾, 今泉正仁, 宮代美樹 (2004) 視神経圧迫の MRI: 正常眼圧緑内障との関わりについて. 第23回日本画像医学会, 東京
38. 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 米虫 敦, 澤田 敏 (2004) 経皮的椎体形成術における炭酸ガスによる椎体静脈造影. 第23回日本画像医学会, 東京
39. 小島博之, 谷川 昇, 狩谷秀治, 米虫 敦, 寒川光治, 澤田 敏 (2004) 有痛性転移性骨腫瘍に対する経費的ラジオ波焼灼術 (RFA) の初期成績. 第23回日本画像医学会, 東京
- 著 書
1. 谷川 昇 (2003) 肝・胆・膵・腹膜 構造と機能 画像理解のための肝・胆・膵. 標準消化器病学 (林 紀夫, 日比紀文, 坪内博仁編) 310-318 頁, 医学書院, 東京
2. 谷川 昇 (2003) 肝・胆・膵・腹膜 構造と機能 肝の血管構築と肝区域の臨床的意義. 標準消化器病学 (林 紀夫, 日比紀文, 坪内博仁編) 318-323 頁, 医学書院, 東京
3. 小島博之, 谷川 昇 (2003) 一般的な器具 4 カテーテル (catheter) カテーテル. 画像診断 Key Words Index 2 IVR のキーワード 175 (古井 滋, 神武 裕編) 36-37 頁, メジカルビュー社, 東京
4. 米虫 敦, 澤田 敏 (2003) angioplasty & stenting 基礎 7 新生内膜増殖 (intimal hyperplasia, fibrous intimal proliferation) 新生内膜増殖. 画像診断 Key Words Index 2 IVR のキーワード 175 (古井 滋, 神武 裕編) 200-201 頁, メジカルビュー社, 東京
5. 狩谷秀治, 谷川 昇 (2003) angioplasty & stenting 基礎 13 メタリックステント (metallic stent: self-expandable, balloon-expandable) 腎動脈狭窄 / 鎖骨下静脈狭窄. 画像診断 Key Words Index 2 IVR のキーワード 175 (古井 滋, 神武 裕編) 212-213 頁, メジカルビュー社, 東京
6. 狩谷秀治, 谷川 昇 (2003) non-vascular intervention 17 気管・気管支ステント (tracheobronchial stenting) 扁平上皮癌. 画像診断 Key Words Index 2 IVR のキーワード 175 (古井 滋, 神武 裕編) 340-341 頁, メジカルビュー社, 東京

## 産科学・婦人科学講座

### 研究業績

#### 原 著

1. Nakajima T, Yasuda K, Nishizawa M, Okada H, Yoshimura T, Ito S and Kanzaki H (2003) Expression of 20 $\alpha$ -hydroxysteroid dehydrogenase mRNA in human endometrium and decidua. *Endocr J* 50: 105-111
2. Egawa M, Yasuda K, Nakajima T, Okada H, Yoshimura T, Yuri T, Yasuhara M, Nakamoto T, Nagata F and Kanzaki H (2003) Smoking enhances oxytocin-induced rhythmic myometrial contraction. *Biol Reprod* 68: 2274-2280
3. Yoshimura T, Inaba M, Sugiura K, Nakajima T, Ito T, Nakamura K, Kanzaki H and Ikehara S (2003) Analyses of dendritic cell subsets in pregnancy. *Am J Reprod Immunol* 50: 137-145
4. Okada H, Nakajima T, Yoshimura T, Yasuda K and Kanzaki H (2003) Microarray analysis of genes



- controlled by progesterone in human endometrial stromal cells in vitro. *Gynecol Endocrinol* 17: 271-280
5. Ozaki H, Yasuda K, Kim Y, Egawa M, Kanzaki H, Nakazawa H, Horii M, Seto M and Karaki H (2003) Possible role of the protein kinase C/CP-17 pathway in the augmented contraction of human myometrium after gestation. *Br J Pharmacol* 140: 1303-1312
  6. 神崎秀陽 (2003) ホルモン Q & A . 子宮内膜症に対する低用量ピルの使用方法を教えてください . *HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY* 10: 84-85
  7. 神崎秀陽 (2003) ホルモン Q & A . 拳児希望の子宮内膜症患者に対する子宮内膜症治療のポイントは? *HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY* 10: 86
  8. 安田勝彦, 安原正浩, 神崎秀陽 (2003) ヒト妊娠子宮筋の収縮における protein kinase C- $\beta$  の役割とその抑制について . *産婦の世界* 55: 13-22
  9. 神崎秀陽 (2003) 機能性出血を理解するための排卵周期と子宮内膜の生理的变化 . *産婦の世界* 55: 999-1003
  10. 斉藤淳子 (2003) 細胞診 class III の取り扱い方 . *臨婦産* 57: 47-49
  11. 神崎秀陽 (2003) 妊娠子宮筋収縮に対する喫煙の影響 . *喫煙科学 Smoking Science* 18: 4
  12. 山崎由紀子, 山口昌美, 高橋千春, 石野陽代, 依岡寛和, 永田文江, 松尾 泉, 松岡 進, 大崎 尚, 斉藤淳子, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2003) 不妊症患者の腹腔鏡検査時に偶然卵巣腫瘍を見つけた1症例 . *産婦の進歩* 55: 98-99
  13. 藤原 浩, 安田勝彦 (2003) 不妊症患者に対する腹腔鏡適応に関するアンケート 過去3年間の動き . *産婦の進歩* 55: 192-195
  14. 徳村 彰, 平尾恵利, 丸山佑史, 小暮健太郎, 福澤健治, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2003) 正常および異常妊娠時のヒト血清リゾホスホリパーゼDの活性 . *日本脂質生化学会誌* 45: 95-97
  15. 松尾 泉, 永田文江, 高橋千春, 山口昌美, 松岡 進, 斉藤淳子, 北田光美, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2003) われわれの教室における chemoradiation の現状と問題点 . *産婦の進歩* 55: 98-99
  16. 下井貴司, 福田愛作, 西垣明美, 西原卓志, 富仲正丈, 山崎雅友, 岡田英孝, 奥 裕嗣, 中岡義晴, 森本義晴, 神崎秀陽 (2003) 体外受精胚移植法におけるhMG/FSH反応不良例及び形態不良胚におけるソルコセリル投与の試み . *日受精着床会誌* 19: 129-132
  17. 福田博恵, 富仲正丈, 山崎雅友, 奥 裕嗣, 岡田英孝, 中岡義晴, 福田愛作, 森本義晴, 神崎秀陽 (2003) 受精率を基準とした各精液パラメーター基準値の設定 . *日受精着床会誌* 19: 118-121
  18. 富仲正丈, 山崎雅友, 幸池明希子, 朴木和美, 川田浩子, 赤松芳恵, 岡田英孝, 奥 裕嗣, 中岡義晴, 福田愛作, 森本義晴, 神崎秀陽 (2003) ヒアルロン酸を用いた卵細胞質内精子注入法の検討 . *日受精着床会誌* 19: 102-105
  19. 二戸ゆう子, 岡田英孝, 西垣明美, 西原卓志, 富仲正丈, 山崎雅友, 奥 裕嗣, 中岡義晴, 福田愛作, 森本義晴, 神崎秀陽 (2003) 子宮内膜厚と妊娠率との関係 ホルモン補充周期下の凍結融解胚移植例についての検討 . *日受精着床会誌* 19: 89-92
- 学会発表
1. Takemura H, Suehara N, Matsuo S, Imai S, Mukubou M, Osaki T and Tsujimoto D (2003) Obstetrical and Gynecological Cooperative System Perinatal Medical Network in Osaka(OGCS). The 6th World Congress of Perinatal Medicine, 大阪市
  2. Saito J, Nakajima T, Ikuta A and Kanzaki H (2003) Histochemical reactivity of minimal deviation adenocarcinoma to monoclonal antibody HIK1083. The XVII FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics, Santiago Chile
  3. Nakamoto T, Saito J, Yasuhara M, Yasuda K, Kanzaki H and Noda S (2003) RELATIONSHIP BETWEEN CYTOLOGICAL FINDINGS RELATED HPV INFECTION AND TYPES OF HPV IN WOMEN WITH ABNORMAL CYTOLOGY. The XVII FIGO World Congress of

Gynecology and Obstetrics, Santiago Chile

4. Yasuhara M, Yasuda K, Nakajima T, Nakamoto T, Yoshimura T, Yuri T and Kanzaki H (2003) Influence of Smoking on Uterine Contraction. The XVII FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics, Santiago Chile
5. Nakamoto T, Saito J, Ikuta A, Kinoshita T, Osaki T, Yasuhara M, Yasuda K and Kanzaki H (2003) THE DIAGNOSIS AND MANAGEMENT OF CERVICAL CANCER ASSOCIATED WITH PREGNANCY. The 6th World Congress of Perinatal Medicine (世界周産期学会), 大阪市
6. Yasuhara M, Yasuda K, Nakajima T, Okada H, Yoshimura T, Yuri T, Egawa M, Nakamoto T, Nagata F and Kanzaki H (2003) Smoking enhances Oxytocin-Induced Rhythmic Myometrial Contraction. The 6th World Congress of Perinatal Medicine (世界周産期学会), 大阪市
7. 神崎秀陽 (2003) 特別講演「ART における倫理的諸問題」. 第 125 回日本不妊学会関西支部集談会, 奈良市
8. 神崎秀陽 (2003) 更年期ホルモン療法のメリットとデメリット. 平成 15 年度日本産科婦人科学会市民公開講座 (女性の健康とたばこ・ホルモン), 大阪市
9. 安田勝彦, 安原正浩, 中嶋達也, 生田明子, 永田文江, 松尾 泉, 松岡 進, 大崎 尚, 斉藤淳子, 神崎秀陽, 堀 正敏, 尾崎 博 (2003) ヒト妊娠子宮筋収縮に対する PKC $\beta$  阻害剤の効果. 第 55 回日本産科婦人科学会学術集会, 福岡市
10. 溝上友美, 斉藤淳子, 永田文江, 生田明子, 松尾 泉, 堀越順彦, 神崎秀陽 (2003) 子宮頸部悪性腺腫 4 症例における頸部細胞診, HIK1083, 抗体についての検討. 第 108 回近畿産科婦人科学会 (腫瘍研究部会), 神戸市
11. 角玄一郎, 中嶋達也, 依岡寛和, 大崎 尚, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2003) 妊娠中に細菌性髄膜炎を発症したが, 母児共に救命し得た一症例. 第 108 回近畿産科婦人科学会, 神戸市
12. 笠松 敦, 山崎由紀子, 中嶋達也, 依岡寛和, 大崎 尚, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2003) 妊娠末期に急性肺炎を発症した一症例. 第 108 回近畿産科婦人科学会, 神戸市
13. 浦岡陽子, 河田 淳, 牧野 滋, 桑名博士, 岩本英熙, 神崎秀陽 (2003) 分娩誘発による双胎妊娠の分娩管理について. 第 108 回近畿産科婦人科学会, 神戸市
14. 松山幸子, 山崎由紀子, 松尾 泉, 松岡 進, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2003) 当科における更年期障害患者の診断と治療. 第 108 回近畿産科婦人科学会 (内分泌, 生殖研究部会), 神戸市
15. 角玄一郎, 笠松 敦, 谷奥範江, 中嶋達也, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2003) 消化管穿孔を合併した骨盤腹膜炎の 1 例. 第 109 回近畿産科婦人科学会学術集会, 神戸市
16. 笠松 敦, 北村由佳里, 中嶋達也, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2003) イレウス, 水腎症を合併し, 術前に悪性腫瘍が疑われた子宮内膜症の 1 例. 第 109 回近畿産科婦人科学会学術集会, 神戸市
17. 山崎由紀子, 笠松 敦, 松尾 泉, 依岡寛和, 大崎 尚, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2003) 妊娠中に急性腹症にて開腹後, 絞扼性イレウスと診断された 1 例. 第 109 回近畿産科婦人科学会学術集会, 神戸市
18. 斉藤淳子, 中元 剛, 神崎秀陽 (2003) 子宮頸部悪性腺腫における免疫組織染色の診断的意義について. 第 34 回日本婦人科腫瘍学会, 京都市
19. 斉藤淳子 (2003) 子宮頸癌ワクチン. 第 45 回細胞検査士教育セミナー (要望講演), 東京都
20. 斉藤淳子 (2003) 子宮頸癌ワクチン. 第 45 回細胞検査士教育セミナー (要望講演), 奈良
21. 溝上友美, 安原正浩, 杉本久秀, 辻 哲朗, 榎木 晋, 堀越順彦 (2003) 右卵巣嚢腫の診断で開腹したところ, 虫垂粘液瘤であった 1 症例. 大阪産婦人科医会集談会, 大阪市
22. 北村由佳里, 依岡寛和, 大崎 尚, 神崎秀陽 (2003) 妊娠 31 週で 1 児子宮内胎児死亡となった MD twins の妊娠ならびに分娩経過. 大阪産婦人科医会集談会, 大阪市
23. 角玄一郎, 依岡寛和, 大崎 尚, 神崎秀陽 (2003) 整復に成功するも子宮全摘に至った子宮内反症の 1 例. 大阪産婦人科医会集談会, 大阪市
24. 神崎秀陽, 安田勝彦, 安原正浩 (2003) 子宮筋収縮に対する喫煙の影響. 平成 14 年度喫煙

科学研究財団助成研究発表会，東京都

25. 徳村 彰，平尾恵利，丸山佑史，小暮健太郎，福澤健治，安田勝彦，神崎秀陽（2003）正常および異常妊娠時のヒト血清リゾホスホリパーゼ D の活性．第 45 回日本脂質生化学会，仙台市
26. 山崎由紀子，松山幸子，浅野雅美，中元 剛，岩本英熙，安田勝彦，神崎秀陽（2003）低用量ダナゾール長期投与中に二度自然破裂を起した子宮内膜症性嚢胞の一症例．第 14 回近畿エンドメトリオーシス・GnRH 研究会，大阪市
27. 吉村智雄，伊熊健一郎，山田幸生，奥 久人，伊藤善啓，上田真太郎，坂口健一郎，子安保喜（2003）チョコレート嚢腫に対する腹腔鏡下手術の克服 各種止血法の導入とその実際から．第 14 回近畿エンドメトリオーシス・GnRH 研究会，大阪市
28. 二戸ゆう子，西垣明実，富仲正文，大谷飛鳥，永田文江，奥 裕嗣，中岡義晴，福田愛作，森本義晴，岡田英孝，神崎秀陽（2003）胚盤胞移植不成功例での二段階胚移植（2 step embryo transfer）の有用性について 第 48 回日本不妊学会学術集会，東京都
29. 小野浩子，奥 裕嗣，原納究，赤松芳恵，大垣 彩，朴木和美，富仲正文，永田文江，中岡義晴，福田愛作，森本義晴，神崎秀陽（2003）Vitrification 法は分割胚の凍結融解移植法の臨床成績を向上させるか？ 第 48 回日本不妊学会学術集会，東京都
30. 下井貴司，福田愛作，西垣明美，西原卓志，富仲正文，山崎雅友，岡田英孝，奥 裕嗣，中岡義晴，森本義晴，神崎秀陽（2003）体外受精胚移植法におけるhMG/FSH反応不良例及び携帯不良胚におけるソルコセルル投与の試み．第 21 回日本受精着床学会，東京都
31. 福田博恵，富仲正文，山崎雅友，奥 裕嗣，岡田英孝，中岡義晴，福田愛作，森本義晴，神崎秀陽，神崎秀陽（2003）受精率を基準とした各精液パラメーター基準値の設定．第 21 回日本受精着床学会，東京都
32. 富仲正文，山崎雅友，幸池明希子，朴木和美，川田浩子，赤松芳恵，岡田英孝，奥 裕嗣，中岡義晴，福田愛作，森本義晴，神崎秀陽（2003）ヒアルロン酸を用いた卵細胞質内精子注入法の検討．第 21 回日本受精着床学会，東京都
33. 二戸ゆう子，岡田英孝，西垣明実，西原卓志，富仲正文，山崎雅友，奥 裕嗣，中岡義晴，福田愛作，森本義晴，神崎秀陽（2003）子宮内膜厚と妊娠率との関係 ホルモン補充周期下の凍結融解胚移植例についての検討．第 21 回日本受精着床学会，東京都
34. 吉村智雄，稲葉宗夫，中嶋達也，岡田英孝，安田勝彦，永田文江，依岡寛和，石野陽代，池原 進，神崎秀陽（2003）妊娠に伴う末梢血中 Dendritic Cells(DCs) の変化と hCG の DCs への影響．第 55 回日本産科婦人科学会学術集会，福岡市
35. 安原正浩，安田勝彦，中嶋達也，岡田英孝，中元 剛，吉村智雄，坎 貴司，江川真人，永田文江，依岡寛和，北田光美，神崎秀陽（2003）子宮筋収縮に対する喫煙の影響．第 55 回日本産科婦人科学会学術集会，福岡市
36. 吉村智雄，稲葉宗夫，中村洪一，池原進，神崎秀陽（2003）妊娠に伴うヒト末梢血中 Dendritic Cells(DCs) の変化と hCG の DCs への影響．第 92 回日本病理学会
37. 中元 剛，斉藤淳子，神崎秀陽（2003）子宮筋層内転移をみとめた Placental site trophoblastic tumor(PSTT) の 1 例 第 21 回日本絨毛性疾患研究会，第 11 回日本胎盤学会学術集会，東京

## 麻酔科学講座

### 研究業績

原著

1. Asai T (2003) Confidence in statistical analysis. Br J Anaesth 90: 706.
2. Asai T, Ajetunmobi O (2003) Making sense of critical appraisal (Book review). Br J Anaesth 90: 408-409
3. Asai T, Matsumoto S, Fujise K, Johmura S,

- Shingu K (2003) Comparison of two Macintosh laryngoscope blades in 300 patients. *Br J Anaesth* 90: 457–460
4. Asai T, Moriyama S, Nishita Y, Kawachi S (2003) Use of the laryngeal tube during cardiopulmonary resuscitation by paramedical staff. *Anaesthesia* 58: 393–394
  5. Asai T, Murao K, Shingu K C (2003) apnography during fiberoptic intubation. *Anaesthesia* 58: 1131.
  6. Asai T, Murao K, Shingu K. (2003) Training method of applying pressure on the neck for laryngoscopy: use of a videolaryngoscope. *Anaesthesia* 58: 602–603
  7. Asai T, Shingu K (2003) Neurological deterioration after laryngeal mask insertion. *Br J Anaesth* 90: 702–703
  8. Asai T, Shingu K (2003) Where is the narrowest segment in the upper airway? *Anaesthesia* 58: 813
  9. Asai T, Shingu K, Cook TM (2003) Use of the laryngeal tube in 100 patients. *Acta Anaesthesiol Scand* 47: 828–832
  10. Asai T, Shingu K, Fujise K (2003) A method of blood conservation in Jehovah's witnesses. *Anaesthesia* 58: 1043
  11. Cook TM, McCormick B, Asai T (2003) Randomised comparison of the laryngeal tube and the laryngeal mask during anaesthesia with controlled ventilation (abstract). *Anaesthesia* 58: 508
  12. Cook TM, McCormick B, Asai T (2003) Randomized comparison of the laryngeal tube and the laryngeal mask during anaesthesia with controlled ventilation. *Br J Anaesth* 91: 373–378
  13. Hikida M, Johmura S, Hashimoto A, Takezaki M, Kurosaki T (2003) Coupling between B cell receptor and phospholipase C-gamma2 is essential for mature B cell development. *J Exp Med* 198: 581–589
  14. Johmura S, Oh-hora M, Inabe K, Nishikawa Y, Hayashi K, Vigorito E, Kitamura D, Turner M, Shingu K, Hikida M, Kurosaki T (2003) Regulation of Vav localization in membrane rafts by adaptor molecules Grb2 and BLNK. *Immunity* 18: 777–787
  15. Kim M, Huang Z, Hwang P, Jones B, Sato N, Hunter S, Kim-Han T, Worth RG, Indik ZK, Schreiber AO (2003) Fcγ receptor transmembrane domains: role in cell surface expression, γchain interaction, and phagocytosis. *Blood* 101: 4479–4484
  16. Kiyama S, Muthuswamy D, Latta IP, Asai T (2003) Prevalence of training modules for difficult airway management in Japan and the United Kingdom. *Anaesthesia* 58: 571–574
  17. Masuzawa M, Nakao S, Miyamoto E, Yamada M, Murao K, Nishi K, Shingu K (2003) Pentobarbital inhibits ketamine-induced dopamine release in the rat nucleus accumbens: a microdialysis study. *Anesth Analg* 96: 148–152
  18. Matsuda H, Oishi K, Omori K (2003) Itage-dependent gating and block by internal spermine of the murine inwardly rectifying K<sup>+</sup> channel, Kir2.1. *J physiol* 548: 361–371
  19. Nakao S (2003) Is attenuation of extracellular dopamine increases in the nucleus accumbens the major mechanism by which dexmedetomidine increases the cocaine seizure threshold in rats? *Anesthesiology* 98: 1520
  20. Nakao S, Nagata A, Miyamoto E, Masuzawa M, Murayama T, Shingu K (2003) Inhibitory effect of propofol on ketamine-induced c-Fos expression in the rat posterior cingulate and retrosplenial cortices is mediated by GABA<sub>A</sub> receptor activation. *Acta Anaesthesiol Scand* 47: 284–290
  21. Oh-hora M, Johmura S, Hashimoto A, Hikida M, Kurosaki T (2003) Requirement for Ras guanine nucleotide releasing protein 3 in coupling phospholipase C-γ2 to Ras in B cell receptor signaling. *J Exp Med* 198: 1841–1851
  22. Uchiyama Y, Otani H, Okada T, Uchiyama T, Ninomiya H, Kido M, Imamura H, Nakao S, Shingu K (2003) Integrated pharmacological preconditioning in combination with adenosine, a mitochondrial K<sub>ATP</sub> channel opener and a nitric oxide donor. *J Thorac Cardiovasc Surg* 126: 148–159

23. Uchiyama Y, Otani H, Wakeno M, Okada T, Uchiyama T, Sumida T, Kido M, Imamura H, Nakao S, Shingu K (2003) Role of mitochondrial  $K_{ATP}$  channels and protein kinase C in ischaemic preconditioning. *Clin Exp Pharmacol Physiol* 30: 426-436
24. 浅井 隆 (2003) ラリンジアルチューブ選択の基準. *臨麻* 27: 1961-1962.
25. 内山祐佳, 宮本悦子, 山田麻起子, 村尾浩平, 中尾慎一, 新宮 興 (2003) 先天性ミオパチーの腹腔鏡視下停留精巢固定術の麻酔経験. *麻酔* 52: 1107-1109.
26. 叶多知子, 檜高育宏, 三木智章, 河内正治 (2003) 低体温を合併した横紋筋融解症の1例. *ICUとCCU* 27: 945-950.
27. 木本倫代, 佐登宣仁, 山崎悦子, 白根温子, 新宮 興 (2003) 虚血性心疾患に対する心筋への骨髄細胞移植術の麻酔経験. *麻酔* 52: 534-536.
28. 高橋麻由, 浅井 隆, 池田栄浩, 稲田武文, 岩井鉄平, 大石敬子, 神原知子, 國司優美, 佐登宣仁, 田口仁士, 中尾慎一, 濱野宣行, 増澤宗洋, 松本英夫, 村尾浩平, 山田麻起子, 新宮 興 (2003) Dexmedetomidine. *臨麻* 27: 581-586.
29. 二階堂由記, 村尾浩平, 池田栄浩, 阪本幸世, 内山祐佳, 新宮 興 (2003) 悪性高熱症が疑われていた気管挿管困難症例. *麻酔* 52: 162-164.
30. 濱野宣行, 村尾浩平, 久保古寿江, 新宮 興 (2003) 閉塞性気管腫瘍症例に対する気管切開後の経鼻用RAEチューブの長期留置. *臨麻* 27: 1637-1638.
31. 檜高育宏, 浅井 隆, 三木智章, 久保田知子, 河内正治 (2003) クモ膜下モルヒネとジクロフェナック坐薬の併用による帝王切開術後の鎮痛. *麻酔* 52: 1056-1061.
32. 藤瀬久美子 (2003) Apgar Memorial Essay. *リレー随筆*. *Anet* 7: 37-38.
33. 森山尚治, 目次昌明, 堀江 剛, 西田吉治, 石原武志, 秦 明弘, 河内正治, 浅井 隆. *ラ* (2003) リンジアルチューブの有効性について. *プレホスピタルケア* 16: 29-32.
34. 山崎悦子, 村尾浩平, 浅井 隆, 松本早苗, 新宮 興 (2003) 腹腔鏡下胆嚢摘出術後におけるフルルビプロフェン静注薬とインドメタシン坐剤の鎮痛効果の比較. *麻酔* 52: 1186-1190

#### 総 説

1. Shingu K (2003) Endothelium, nitric oxide, and anesthetics. *J Anesth* 17: 1-2
2. 神原知子, 佐登宣仁 (2003) 新宮 興 輸液・輸血の目的と適応. *オペナーシング* 18: 24-29
3. 神原知子, 新宮 興 (2003) 適正な麻酔深度: 麻酔深度と徴候. *日臨麻会誌* 23: 117-125
4. 中尾慎一, 永田 厚, 増澤宗洋, 宮本悦子, 山田麻起子, 西澤伸泰, 新宮 興 (2003) N-methyl-D-aspartate (NMDA) 受容体拮抗薬の神経細胞障害と精神異常誘発作用 (ケタミンと亜酸化窒素を中心に). *麻酔* 52: 594-602
5. 村尾浩平, 福岡志野, 新宮 興 (2003) 麻酔深度の評価. *オペナーシング* 18: 46-52

#### 学会発表

1. Asai T (2003) Appropriate intracuff volume of the laryngeal tube. Difficult Airway Society annual meeting. Glasgow, UK
2. Cook TM, McCormick B, Asai T (2003) Randomised comparison of the laryngeal tube and the laryngeal mask during anaesthesia with controlled ventilation. Difficult Airway Society meeting. London, UK
3. Otani H, Imamura H, Takahashi M, Nakao S, Shingu K (2003) Integrated Pharmacological Preconditioning with Isoflurane, G Protein-Coupled Receptor Agonists, and Nitric Oxide Donors: An Ideal Alternative to Ischemic Preconditioning. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologist. San Francisco, USA
4. 浅井 隆 (2003) 講演: ビデオ喉頭鏡の有有用性. 第23回日本臨床麻酔学会, 山口
5. 新宮 興 (2003) シンポジウム: 研修医の教育システム. 第50回日本麻酔科学会総会, 神奈川
6. 田口仁士, 新宮 興 (2003) シンポジウム: 慢性疼痛のチーム医療: チーム医療におけるペインクリニック医の立場と役割. 第32回日本慢性疼痛学会, 京都

7. 藤瀬久美子 (2003) 講演: TCI を用いた開心術麻酔. 第 8 回日本心臓血管麻酔学会学術大会総会, 奈良
8. 稲田武文, 古田里佳, 藤澤順一 (2003) HTLV-1 遺伝子発現の個体内抑制機構. 第 62 回日本癌学会総会, 愛知
9. 岩井鉄平, 高橋麻由, 中尾慎一, 池田栄浩, 呉本善聡, 新宮 興 (2003) 術後肺塞栓症を発生した生体肝移植ドナー. 第 50 回日本麻酔科学会総会, 神奈川
10. 宇田良子, 松本早苗, 新宮 興 (2003) カルボプラチン, マイトマイシン投与直後から, アナフィラキシー様反応を呈した一例. 第 23 回日本臨床麻酔学会, 山口
11. 大石敬子, 田口仁士, 松本英夫, 稲田武文, 山田麻起子, 増澤宗洋, 高橋麻由, 濱野宣行, 新宮 興 (2003) 疼痛部位が拡大し難治性上下肢痛をきたした 2 症例. 第 37 回日本ペインクリニック学術集会総会, 宮城
12. 奥野聡子, 谷口昌子, 坂井貴子, 藤瀬久美子 (2003) 当院における婦人科良性疾患の麻酔法の検討. 第 50 回日本麻酔科学会総会, 神奈川
13. 大洞正嗣, 上村幸子, 疋田正喜, 黒崎知博 (2003) BCR 刺激時の PLC- $\gamma$ 2 からの Ras 活性化における RasGRP3 の機能解析. 第 33 回日本免疫学会総会, 福岡
14. 加藤正樹, 田中孝也, 梶本心太郎, 西憲一郎, 平川昭彦, 松尾信昭, 山本 透, 中谷壽男, 織田裕行, 木下利彦 (2003) 救急施設における精神科医の取り組み リエゾン医配置後 2 年間の考察. 第 6 回日本臨床救急医学会総会, 東京
15. 神原知子, 村尾浩平, 久保古寿江, 上村幸子, 高橋麻由, 中尾慎一, 新宮 興 (2003) 三心房心を合併した帝王切開術の麻酔. 第 23 回日本臨床麻酔学会, 山口
16. 木本倫代, 白根温子, 久保古寿江, 岩井鉄平, 村尾浩平, 中尾慎一, 新宮 興 (2003) フェンタニル添加脊髄くも膜下麻酔のプピバカイン投与量の検討. 第 23 回日本臨床麻酔学会, 山口
17. 木本倫代, 山田麻起子, 叶多知子, 中尾みどり, 稲田武文, 大石敬子, 松本英夫, 田口仁士 (2003) 肋間神経ブロック後に完全虚脱の気胸を呈した症例. 第 2 回難治性疼痛研究会, 大阪
18. 國司優美, 村尾浩平, 小島研太郎, 新宮 興 (2003) プピバカインとフェンタニルによる脊髄くも膜下麻酔直後に痙攣発作が生じた一症例. 第 50 回日本麻酔科学会総会, 神奈川
19. 國司優美, 浅井 隆, 村尾浩平, 今西敏博, 新宮 興 (2003) 挿管困難症例におけるビデオカメラつき喉頭鏡, X ライトの有用性. 第 23 回日本臨床麻酔学会, 山口
20. 久保古寿江, 村尾浩平, 中尾慎一, 新宮 興 (2003) 胎児の鎮静を目的に, プロポフォールを用いた帝王切開術麻酔の一症例. 第 50 回日本麻酔科学会総会, 神奈川
21. 久保古寿江, 浅井 隆, 新宮 興 (2003) ラリンジアルチューブの至適カフ量の検討. 第 23 回日本臨床麻酔学会, 山口
22. 久保田知子, 浅井 隆, 檜高育宏, 木本倫代, 河内正治, 新宮 興 (2003) 救急救命士によるラリンジアルチューブの挿入, 換気成功率. 第 50 回日本麻酔科学会総会, 神奈川
23. 坂井貴子, 中尾慎一, 村尾浩平, 稲田武文, 加藤 晶, 増澤宗洋, 梅垣岳志, 新宮 興 (2003) ニコランジルの予防とニトログリセリン外用剤貼布にもかかわらず致死的な冠動脈攣縮を来した一症例. 第 8 回日本心臓麻酔学会, 奈良
24. 上村幸子, 大洞正嗣, 疋田正喜, 黒崎知博 (2003) Vav の raft へのリクルートを制御するアダプター分子, Grb2 · BLNK. 第 26 回日本分子生物学会年会, 兵庫
25. 高橋麻由, 松本英夫, 大石敬子, 稲田武文, 山田麻起子, 増澤宗洋, 濱野宣行, 田口仁士, 新宮 興 (2003) 四肢血流障害に対する末梢血幹細胞移植における疼痛コントロール~ 第一報~. 第 37 回日本ペインクリニック学術集会総会, 宮城
26. 高橋麻由, 中尾慎一, 内山祐佳, 新宮 興 (2003) イソフルランを用いた統合的, 薬理的 preconditioning に関する検討. 第 50 回日本麻酔科学会総会, 神奈川
27. 田口仁士, 大石敬子, 松本英夫, 稲田武文, 山田麻起子, 増澤宗洋, 高橋麻由, 濱野宣行, 新宮 興 (2003) ベタメサゾンくも膜下投与方法の安全性に関する臨床的検討. 第 37 回日本ペ

インクリニク学術集会総会，宮城

28. 田嶋佐和子，横田直美，山本康代，松尾信昭，矢吹 輝，西憲一郎，相地知子，藤木美奈子，徳永 薫，神田恵美子，熊野和子，久間洋子，末平智子，大植謙一，池嶋孝広（2003）救命救急センターにおける嚙下チームの取り組み．
29. 谷口昌子，奥野聡子，藤瀬久美子，浅井 隆，新宮 興（2003）「エホバの証人」である ASD 患者に対する心臓手術の麻酔管理の経験．第 23 回日本臨床麻酔学会，山口
30. 中澤 直，浅井 隆，池田一雄，河嶋 朗，新宮 興（2003）陽圧換気におけるラリンジアルチューブとラリンジアルマスクの比較検討．第 50 回日本麻酔科学会総会，神奈川
31. 西憲一郎，広田喜一，高淵聡志，尾田聖子，足立健彦，福田和彦，新宮 興（2003）低酸素誘導性遺伝子発現に及ぼす局所麻酔薬の影響．第 16 回日本局所麻酔学会，大阪
32. 西憲一郎，石倉宏恭，平川昭彦，弘津喜史，梶本心太郎，山本 透，中谷壽男（2003）確実な気道確保の適応基準と方法 RSI(rapid sequence intubation) 時の薬剤選択と投与法について．第 17 回日本外傷学会，京都
33. 西憲一郎，斉藤福樹，平川昭彦，松尾信昭，田中孝也，中谷壽男，岩瀬正顕，河本圭司（2003）頸椎化膿性椎体炎に脳髄膜炎を合併した 1 例．第 6 回日本臨床救急医学会総会，東京
34. 野口貴志，松本早苗，浅井 隆，志賀洋介，古賀和徳（2003）ラリンジアルマスクによる気道確保困難をラリンジアルチューブにて解決した 2 症例．第 23 回日本臨床麻酔学会，山口
35. 檜高育宏，三木智章，久保田知子，木本倫代，酒井明彦，河内正治（2003）クモ膜下モルヒネとジクロフェナック坐薬の併用による帝王切開術後の鎮痛．第 50 回日本麻酔科学会総会，神奈川
36. 檜高育宏，河内正治，久保田知子，三木智章，酒井明彦（2003）肋間神経痛と診断された胃潰瘍の 1 例．第 37 回日本ペインクリニック学会，宮城
37. 増澤宗洋，梅垣岳志，村尾浩平，中尾慎一，新宮 興（2003）セボフルラン麻酔中に劇症型悪性高熱を発症し，1 週間後 TIVA により再手術を行った症例．第 10 回日本静脈麻酔・Infusion Technology 研究会，大阪
38. 松成泰典，亀井政孝，内田 整，大西佳彦，阪本幸世，畔 政和（2003）体外循環を用いた心臓血管外科麻酔における簡易型血液凝固分析装置「コアグチェックプロ」の評価．第 50 回日本麻酔科学会，神奈川
39. 松本早苗，浅井 隆，宇田良子，新宮 興（2003）痙攣性発声傷害様症状に対する星状神経節ブロックによる治療経験．第 37 回日本ペインクリニック学会総会，宮城
40. 松本早苗，浅井 隆，宇田良子，新宮 興（2003）ラリンジアルチューブの 100 人での使用経験．第 50 回日本麻酔科学会総会，神奈川
41. 松本早苗，浅井 隆，宇田良子，新宮 興（2003）ラリンジアルマスクを用いた気管切開の全身麻酔管理経験．第 23 回日本臨床麻酔学会，山口
42. 三浦倫一，阪本幸世，亀井政孝，内田 整，畔政和（2003）気管狭窄を伴った先天性心疾患に対してラリンジアルマスクで管理した乳児心臓手術の 1 例．第 9 回日本小児麻酔学会，福岡
43. 森山尚治，西田吉治，河内正治，浅井 隆，目次昌章，堀江 剛，瀬尾欣也，満田一樹（2003）現場活動でのラリンゲアルチューブの有効性について．第 11 回全国救急隊員シンポジウム，神奈川
44. 矢吹 輝，西憲一郎，松尾信昭，中谷健治，斉藤福樹，石倉宏恭，田中孝也，中谷壽男（2003）救命救急センターにおける褥瘡発生状況及びその対策について．第 6 回日本臨床救急医学会総会，東京
45. 矢吹 輝，西憲一郎，中井みつ江，相地知子，田嶋佐和子，大植謙一，末平智子，松尾信昭（2003）救命救急センターにおける NST の導入，運営における問題点．

#### 著 書

1. 浅井 隆（2003）挿管困難時における対応．麻酔科学スタンダード II 臨床総編（小川節郎，新宮 興，武田純三，西野 卓編）79-88 頁，克誠堂出版，東京
2. 浅井 隆（2003）ファイバースコープを用い

- た気管挿管．岩崎 寛編：麻酔科診療プラクティス第 11 巻 気道確保のすべて．108-111 頁，文光堂，東京
3. 上村幸子，黒崎知博（2003）B 細胞レセプターシグナルによる Vav の活性化を制御するアダプター分子，Grb2・BLNK．Bio Medical Quick Review Net 1-5 頁．メディカルドゥ
  4. 新宮 興（2003）抗てんかん薬の作用機序．麻酔科診療プラクティス第 9 巻 周術期治療薬ガイド（高崎眞弓編集，高崎眞弓，弓削孟文，稲田英一，岩崎 寛責任編集）150-152 頁，文光堂，東京
  5. 新宮 興（2003）麻酔覚醒の質．麻酔科学レビュー（天羽敬祐監修）205-208 頁，総合医学社，東京
  6. 新宮 興，村尾浩平（2003）麻酔深度と徴候．麻酔科学スタンダード II 臨床総編（小川節郎，新宮 興，武田純三，西野 卓編）89-106 頁，克誠堂出版，東京
  7. 瀬藤容子，新宮 興（2003）鎮静法．コア・ローテーション小児科（眞弓光文，亀山順治，寺澤秀一編）74-75 頁，金芳堂，京都

## 臨床検査医学講座

### 研究概要

臨床検査医学講座は，研究分野が多岐にわたるために，下記のような様々な成果を得ている．病理学においては，臨床に直結したテーマの研究であり，新たなスタッフが加わってさらに分野が拡大した．

臨床的な研究が中心であるが，循環器科とタイアップして，糖尿病，虚血性心疾患，腎などに関する領域の研究が増しつつある．

また，従来から行っている内因性ジギタリスの研究では，最近，我々が発見した telocinobufagin に対するモノクローナル抗体の作成を試みている．現在までのところでは，telocinobufagin を抗原として使用しているにもかかわらず，構造が類似している marinobufagenin に対して特異性が高い抗体が得られているのが実情で，期待した成果が得られておらず，引き続き新たな抗体の作成を試みている．しかし，telocinobufagin と marinobufagenin は同様の変動を示すために，この両者と反応する抗体を用いた ELISA でも病態生理的研究は可能である．それを用いて食塩負荷時の尿中排泄量を比較すると，これらのジギタリスは食塩負荷で産生が倍増することを明らかにした．今後の展開に期待している．

IgG の Fc 部分に対するレセプタータイプ III (FcγRIII: CD16) には NK 細胞とマクロファージ (Mφ) に発現している IIIa 型 (IIIa<sup>NK</sup> と IIIa<sup>Mφ</sup>) と，好中球に発現している IIIb 型があり，両者とも活性化によって細胞表面から放出され，可溶性 (sFcγRIII) として血漿中に存在している．FcγRIIIb には NA1 と NA2 のアロタイプがあり，FcγRIIIa<sup>Mφ</sup> と IIIa<sup>NK</sup> は修飾糖鎖が異なる．移植の際の拒絶反応を始めとして自己免疫疾患や動脈硬化症などの種々の炎症に際してはマクロファージが活性化される．我々は，FcγRIIIa<sup>Mφ</sup> に特異的なモノクローナル抗体 (MKGR14: IgM) を作製して血漿中の sFcγRIIIa<sup>Mφ</sup> を測定する系を確立して，各種病態におけるマクロファージ活性化の役割と，その指標としての有用性を検討している．この特異抗体については，診断的有用性が大いに考えられるので特許を申請している．

動脈硬化症に伴って活性化される血小板の指標として，血小板から放出されるセロトニンに注目し，その特異的な測定法を開発した．高速液体クロマトグラフィー (HPLC) であるが，検体の前処理に工夫を凝らし，採血後の血小板を安定化することに成功した．虚血性心疾患患者では，活性化血小板から流血中にセロトニンが放出されるので血漿中濃度が高まり，血小板中濃度を代表する全血中濃度が減少することを見出し，その両者の比率が最も優れた指標であることを明らかにして，米国に特許申請し，認可されている．この方法は，従来からある活性化血小板の指標と比較して安定であるのが特徴で，様々な病態の診断に応用できるものと考えている．

その他にも，様々な動脈硬化症の指標について可能性を探求している．



## 研究業績

## 原著

1. Masuda M, Morimoto T, Kobatake S, Nishimura N, Nakamoto K, Dong XH, Komiyama Y, Ogawa R and Takahashi H (2003) Measurement of soluble Fcγreceptor type IIIa derived from macrophages in plasma: increase in patients with rheumatoid arthritis. *Clin Exp Immunol* 132: 477–484
2. Masuda M, Morimoto T, Masja de Haas, Nishimura N, Nakamoto K, Okuda K, Komiyama Y, Ogawa R and Takahashi H (2003) Increase of soluble FcγRIIIa derived from NK cells and macrophages in plasma from patients with rheumatoid arthritis. *J Rheumatol* 30: 1191–1197
3. Kaibori M, Kawaguchi Y, Yokoigawa N, Yanagida H, Takai S, Kwon AH, Uemura Y and Kamiyama Y (2003) Intrahepatic sarcomatoid cholangiocarcinoma. *J Gastroenterol* 38(11): 1097–1101
4. Nakahama H, Sasaki O, Yoshihara F, Nakamura S, Inenaga T, Kawano Y and Ueda H (2003) A favorable outcome using oral prednisolone and losartan only in a patient with ANCA-related glomerulonephritis: a discrepancy between histological activity and and MPO-ANCA. *Nephrol Dial Transplant* 18: 610–612
5. Tanaka C, Kamide K, Takiuchi S, Miwa Y, Yoshii M, Kawano Y and Miyata T (2003) Alternative fast and convenient genotyping method for the screening of angiotensin converting enzyme insertion/deletion polymorphism by using single nucleotide polymorphism. *Hypertens Res* 26: 301–306
6. Horita Y, Hayashida K, Fukuchi K, Takishita S, Tokudome M, Taura K, Suyama N, Miyazaki M, Kohno S and Kawano Y (2003) Acetazolamide assisted Tc-99m MAG3 Renography to assess renal blood flow reserve. *Ann Nucl Med* 17: 139–141
7. Suga S, Yasui N, Yoshihara F, Horio T, Kawano Y, Kangawa K and Johnson RJ (2003) Endothelin A receptor blockade and endothelin B receptor blockade improve hypokalemic nephropathy by different mechanisms. *J Am Soc Nephrol* 14: 397–406
8. Horio T, Tokudome T, Maki T, Yoshihara F, Suga S, Nishikimi T, Kojima M, Kawano Y and Kangawa K (2003) Gene expression, secretion, and autocrine action of C-type natriuretic peptide in cultured adult rat cardiac fibroblasts. *Endocrinology* 144: 2279–2284
9. Nakamura S, Kawano Y, Inenaga T, Nakahama H, Horio T, Sasaki O, Okuda N and Takishita S (2003) Microalbuminuria and cardiovascular events in elderly hypertensive patients without previous cardiovascular complications. *Hypertens Res* 26: 603–608
10. Nakahama H, Fukuchi K, Yoshihara F, Nakamura S, Inenaga T, Takiuchi S, Kamide K, Horio T and Kawano Y (2003) Efficacy of screening for primary aldosteronism by adrenocortical scintigraphy without discontinuing antihypertensive medication. *Am J Hypertens* 16: 725–728
11. Horio T, Miazato J, Kamide K, Takiuchi S and Kawano Y (2003) Influence of low high-density cholesterol on left ventricular hypertrophy and diastolic function in essential hypertension. *Am J Hypertens* 16: 938–944
12. Imai Y, Otsuka K, Kawano Y, Shimada K, Hayashi H, Tochikubo O, Miyakawa M and Fukiyama K (2003) Japanese Society of Hypertension: Japanese Society of Hypertension Guidelines for Self Measurement of Blood Pressure at Home. *Hypertens Res* 26: 771–782
13. Takiuchi S, Rakugi H, Fujii H, Kamide K, Horio T, Nakatani S, Kawano Y, Higaki J and Ogihara T (2003) Carotid intima-media thickness is correlated to Impairment of coronary flow reserve in hypertensive patients without coronary artery disease. *Hypertens Res* 26: 945–951
14. Ogata C, Horio T, Kamide K, Takiuchi S and Kawano Y (2003) Association between left ventricular diastolic dysfunction and renal hemodynamic change in patients with treated hypertension. *Hypertens Res* 26: 971–978

15. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuda T, Okino K, Yamamoto N, Nakamura N, Yoshikawa T, Takahashi H and Ono T (2003) Different remodeling against left ventricular overload between diabetic and non-diabetic haemodialysis patients. *Clin Exp Pharmacol Physiol* 30: 786–792
16. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuda T, Okino K, Yamamoto N, Nakamura N, Yoshikawa T, Takahashi H and Ono T (2003) Possible involvement of TNF- $\alpha$  in left ventricular remodeling in hemodialysis patients. *J Nephrol* 16: 641–649
17. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuda T, Okino K, Yamamoto N, Nakamura N, Yoshikawa T and Ono T (2003) The high incidence of left atrial appendage thrombosis in patients on maintenance hemodialysis. *Nephrol Dial Transplant* 18: 2339–2347
18. Kida T, Ikeda T, Nishimura M, Sugiyama T, Imamura Y, Sotozono C, Nishida K, Kinoshita S, Yoshimura M, Nakamura K and Inokuchi N (2003) Renin-angiotensin system in proliferative diabetic retinopathy and its gene expression in cultured human Müller cells. *Jpn J Ophthalmol* 47: 36–41
19. Ishida O, Oku H, Ikeda T, Nishimura M, Kawagoe K and Nakamura K (2003) Is *Chlamydia pneumoniae* infection a risk factor for age related macular degeneration? *Br J Ophthalmol* 87: 523–524
20. Hasegawa T, Kosaki A, Kimura T, Matsubara H, Mori Y, Okigaki M, Masaki H, Toyoda N, Inoue-Shibata M, Kimura Y, Nishikawa M and Iwasaka T (2003) The regulation of EN-RAGE (S100A12) gene expression in human THP-1 macrophages. *Atherosclerosis* 171: 211–218
21. Kishimoto N, Mori Y, Nishiue T, Shibasaki Y, Iba O, Nose A, Uchiyama-Tanaka Y, Masaki H, Matsubara H and Iwasaka T (2003) Renal blood flow measurement with contrast-enhanced harmonic ultrasonography: evaluation of dopamine-induced changes in renal cortical perfusion in humans. *Clin Nephrol* 59: 423–428
22. 丸山勝也, 松原弘明, 森 泰清, 正木浩哉, 内山葉子, 藤山総一郎, 伊庭 理, 天野克也, 小宮山豊, 高橋伯夫, 岩坂壽二 (2003) 冠動脈におけるアンジオテンシン II 受容体を介した組織因子の発現調節に関する研究. *日臨生理学会誌* 33: 111–118
23. 安藤 彰, 福井智恵子, 高橋寛二, 松村美代, 竹内正光, 坂井田紀子 (2003) 白内障術後 30 年で発症し除去手術が奏効した前房内上皮増殖の 1 例. *あたらしい眼科* 20(4): 521–524
24. 堀 寧, 岩崎泰昌, 小宮山豊, 屋敷幹雄, 黒木由美子 (2003) 分析が有用な中毒起因物質の実用的分析法 サリチル酸塩 とくにアスピリン. *中毒研究* 16: 93–98
25. 内山葉子, 正木浩哉, 今田崇裕, 岸本典子, 福井政慶, 井庭 理, 早川 敬, 森 泰清, 西川光重 (2003) ネフローゼ症候群を伴った慢性腎不全に対する腹膜透析療法. *日透析医学会誌* 36: 1453–1456
26. 神出 計, 河野雄平 (2003) 血圧調節機構における性差 性ホルモンとの相互作用も含めて. *血圧* 10: 150–153
27. 吉井正義, 河野雄平 (2003) 生活習慣 (入浴, 飲酒, 喫煙など) に伴う血圧変動に対する治療戦略. *循環器* 53: 230–235
28. 中村敏子, 中浜 肇, 吉原史樹, 稲永 隆, 中谷 敏, 河野雄平 (2003) 慢性腎不全患者におけるドブタミン負荷心エコー (DSE) の虚血性心疾患診断への有用性. *日透析医学会誌* 36: 335–339
29. 角田 聖, 神出 計, 宮里純子, 鈴木良彦, 堀尾武史, 中村敏子, 稲永 隆, 河野雄平 (2003) AII 受容体拮抗薬が奏効した片側腎血管性高血圧患者のレニン・アンジオテンシン系因子の動態. *血圧* 10: 673–677
30. 富山真理, 河野雄平 (2003) 年齢群別にみた収縮期高血圧, 収縮期拡張期高血圧および拡張期高血圧の頻度. *血圧* 10: 709–713
31. 滝内 伸, 河野雄平 (2003) 高血圧の成因に関するトピックス: 飲酒. *臨床医* 29: 1362–1366
32. 堀尾武史, 河野雄平 (2003) 左室のリモデリングと拡張能. *血圧* 10: 840–844
33. 石黒信吾, 味木和喜子, 上堂文也, 辻 直子,

- 石原 立, 安原裕美子, 真能正幸, 春日井務, 西澤恭子, 小柳由美子, 土岐祐一郎, 津熊秀明 (2003) 疫学および病理学の立場からみた食道癌と他臓器重複癌. 胃と腸 38(3): 291-298
34. 石黒信吾, 塚本吉胤, 春日井務, 安原裕美子 (2003) 特殊染色を用いた消化管の病理診断 悪性リンパ腫の診断 (2). 臨牀消化器内科 18(12): 1699-1705
35. 石黒信吾, 塚本吉胤, 春日井務, 安原裕美子, 井上 健 (2003) 特殊染色を用いた消化管の病理診断 悪性リンパ腫の診断 (3). 臨牀消化器内科 18(13): 1811-1818
36. 石黒信吾, 塚本吉胤, 春日井務, 安原裕美子, 辻 直子, 藤井恭子, 西澤恭子, 山登直美 (2003) 粘膜下腫瘍様の形態を示す胃癌 病理学的検討. 胃と腸 38(11): 1519-1526
9. 小宮山豊, 董 顕輝, 高橋伯夫 (2003) 実験動物の血液検査. 日血栓止血会誌 14(3): 260-264
10. 榊田 緑, 高橋伯夫 (2003) 動脈硬化症と臨床検査 (2) マクロファージ由来可溶性 FcγRIIIa<sup>Mφ</sup>. 臨病理 51(11): 1102-1105
11. 河野雄平 (2003) 早朝高血圧の臨床的意義とその具体的治療法. 今月の治療 11: 453-456
12. 正木浩哉, 神島 宏, 松原弘明, 岩坂壽二 (2003) 糖尿病と大血管障害 心疾患を中心に糖尿病性虚血下肢・心臓病への再生医療 体性幹細胞移植. Diabetes Fronti 14: 608-614
13. 正木浩哉, 松原弘明, 天野克也, 岩坂壽二, 河合修三, 堀尾 武 (2003) 補完代替医療と皮膚科 皮膚難治性潰瘍に適用される骨髄細胞移植を用いた血管新生治療の現状. Source: Derma 74: 14-18
14. 正木浩哉 (2003) エビデンスに基づく静脈注射の技術 薬剤投与方法としての静脈注射の特性と危険性. EB Nurs 3: 273-277
15. 松原弘明, 正木浩哉, 神島 宏, 岩坂壽二 (2003) 血管新生療法の基礎と臨床 血管新生療法の臨床経験 その問題点と課題 細胞移植の立場から. 血栓と循環 11: 243-249
16. 神島 宏, 正木浩哉, 岩坂壽二, 松原弘明 (2003) 末梢動脈疾患を診る 治す 骨髄細胞移植で治す. Heart View 7: 1280-1285
17. 又吉哲太郎, 河野雄平 (2003) 降圧療法における日本人のエビデンス. 医薬ジャーナル 39: 2278-2284
18. 河野雄平 (2003) カルシウム拮抗薬: 高血圧における使い方. Medicina 40: 1354-1356
19. 神出 計, 河野雄平 (2003) 降圧薬療法継続に望ましい管理間隔. カレントセラピー 21: 945-948
20. 河野雄平 (2003) 高血圧患者とのよりよいコミュニケーションのために: 食事療法. Hypertens Scope 2 (No. 2): 11
21. 安原裕美子, 真能正幸, 春日井務, 石黒信吾, 釜 江剛, 烏野隆博 (2003) pre T ALL (L2) に対する骨髄移植後 18 日に Regimen related toxicity にて死亡した 1 剖検例. 診断病理 20(2): 179-183
22. 安原裕美子, 塚本吉胤, 春日井務, 西澤恭子,

#### 総 説

1. 高橋伯夫 (2003) 特集 ICCC シンポジウム 粥状動脈硬化の評価のための新しい臨床化学検査. 臨化 32(1): 35-41
2. 高橋伯夫 (2003) 特集 高血圧とテーラーメイド医療 テーラーメイド医療を可能にする最新の臨床検査技術. 血圧 10(1): 17-24
3. 高橋伯夫 (2003) トピックス ホモシステインと冠動脈硬化. 検と技 31(2): 149-151
4. 高橋伯夫, 原 克子 (2003) 酸化ストレスと検査 (5) 循環器疾患と酸化ストレス. 臨病理 51(2): 133-139
5. 高橋伯夫 (2003) 臨床検査の現場からの提案. 日臨検自動化会誌 28(2): 118-120
6. 高橋伯夫 (2003) 医療に貢献する臨床検査 国民のための適正な臨床検査を提供するためには (2) 医療に貢献する臨床検査 経営者の立場から. 臨病理 51(9): 871-877
7. 高橋伯夫 (2003) 包括医療と臨床検査 第1章 総論 包括医療とは 2. 包括医療と臨床検査 4) 包括医療への検査室の対応. 検と技 31(10): 912-915
8. 小宮山豊, 工藤恵子, 畑山善行, 土橋 均, 黒木由美子, 屋敷幹雄 (2003) 特集 分析機関の協力ネットワーク 集団災害発生時の分析関係機関の対応. 中毒研究 16: 21-35

石黒信吾 (2003) 全身臓器に嚢胞様変化を認めた *Clostridium perfringens* を推定した1剖検例. 診断病理 20(4): 340-343

#### 学会発表

1. Takahashi H, Hara K, Hirowatari Y, Yoshika M, Komiyama Y, Tsuka Y, Kamihata H and Iwasaka T (2003) The ratio of plasma / whole blood serotonin levels may be a novel parameter for cardiovascular diseases. 13th International Symposium on Atherosclerosis, Kyoto, 9
2. Masuda M and Takahashi H (2003) Measurement of soluble FcγRIIIa<sup>Mφ</sup> derived from macrophages in plasma as a novel marker for atherosclerosis. 13th International Symposium on Atherosclerosis, Kyoto, 9
3. Komiyama Y, Nishimura N, Dong XH, Yoshika M, Masaki H, Masuda M and Takahashi H (2003) Newly found cardiogenic steroid in saliva. 13th International Symposium on Atherosclerosis, Kyoto, 9
4. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuda T, Okino K, Yamamoto N and Ono T (2003) Involvement of impaired parasympathetic activity in left ventricular hypertrophy of diabetic hemodialysis patients. The 40th European Renal Association-European Dialysis and Transplantation Association Congress, Berlin Germany, June. 8-12
5. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuda T, Okino K, Yamamoto N and Ono T (2003) Usefulness of reduced uptake of iodinated fatty acid analogue for detection of coronary artery disease and reduction of cardiac events in maintenance hemodialysis patients. The 40th European Renal Association-European Dialysis and Transplantation Association Congress, Berlin Germany, June. 8-12
6. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuda T, Okino K, Yamamoto N and Ono T (2003) Association of Circulating Tumor Necrosis Factor- $\alpha$  with Different Left Ventricular Remodeling Between Diabetic and Non-diabetic Hemodialysis Patients. The 40th European Renal Association-European Dialysis and Transplantation Association Congress, Berlin Germany, June. 8-12
7. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuda T, Okino K, Yamamoto N, Ono T and Takahashi H (2003) Inducement of salt-sensitive hypertension by chronic reduction of carotid blood flow. The 40th European Renal Association-European Dialysis and Transplantation Association Congress, Berlin Germany, June. 8-12
8. Nishimura M, Takahashi H and Ono T (2003) Role of hepatocyte growth factor in chronic hypotension of maintenance hemodialysis patients. The 40th European Renal Association-European Dialysis and Transplantation Association Congress, Berlin Germany, June. 8-12
9. Nishimura M, Fujii K, Ogura N, Kishishita T, Kim G, Hiratake T and Ono T (2003) Intravenous administration of methylene blue as a useful therapy for hemodialysis hypotension. The 40th European Renal Association-European Dialysis and Transplantation Association Congress, Berlin Germany, June. 8-12
10. Masaki H, et al. (2003) Therapeutic angiogenesis using autologous bone marrow cell transplantation for clinical limb ischemia (TACT) study—A randomized, Multicenter, Controlled Trial. The 76<sup>th</sup> annual meeting of the American Heart Association, USA
11. Masaki H, Matsubara H, Amano K, Imada T, Nishikawa M, Iwasaka T and Takahashi H (2003) Therapeutic angiogenesis using autologous bone marrow cell transplantation for clinical limb ischemia in ESRD Patient. The 76<sup>th</sup> annual meeting of the American Heart Association, USA
12. Amano K, Masaki H, et al. (2003) Critical role of tyrosine kinase PYK2 in eNOS activation in aorta and ischemic muscle, leading to regulation of vascular tonus and angiogenesis revealed by analysis of PYK2 knockout mice. The 76<sup>th</sup> annual meeting of the American Heart Association, USA
13. Amano K, Masaki H, et al. (2003) Critical

functional role of IL-1 $\beta$  in neovascularization revealed by analysis of its knock-out mice. The 76<sup>th</sup> annual meeting of the American Heart Association, USA

14. Iba O, Masaki H, et al. (2003) Implantation of platelets induced collateral vessel formation in VEGF-dependent manner. The 76<sup>th</sup> annual meeting of the American Heart Association, USA
15. 森眞一郎, 尼川龍一, 植村芳子, 福原資郎 (2003) 低悪性度リンパ腫における樹状細胞とT細胞. 第43回日本リンパ網内系学会総会, 福岡
16. 松本憲明, 中井邦久, 田嶋健一郎, 森眞一郎, 全 勝浩, 藤本正博, 植村芳子, 尼川龍一, 福原資郎 (2003) IgJH 再構成および TCR $\gamma$  再構成を認めた非ホジキンリンパ腫. 第43回日本リンパ網内系学会総会, 福岡
17. 榊田 緑, 高橋伯夫 (2003) 成人病検診検体における可溶性 Fc $\gamma$ RIIIa<sup>M $\phi$</sup>  の測定. 第65回日本血液学会総会, 大阪, 8
18. 榊田 緑, 西村典子, 小宮山豊, 高橋伯夫 (2003) 可溶性 Fc $\gamma$ RIIIa<sup>M $\phi$</sup>  の成人病検診検体における変動. 第50回日本臨床検査医学会総会, 広島, 10
19. 榊田 緑, 高橋伯夫 (2003) 成人病検診検体における可溶性 Fc $\gamma$ RIIIa<sup>M $\phi$</sup>  の変化. 第33回日本免疫学会総会学術集会, 福岡, 12
20. 黒田昌志, 磯田裕義, 朝倉 環, 赤井幹夫, 池田耕士, 澤田 敏, 植村芳子, 坂井田紀子 (2003) Dynamic MRI が診断に有用であった副腎血管腫の一例. 日本医学放射線学会関西西地方会
21. 石原敬康, 池田耕士, 宮崎由貴, 金 熙乾, 黒田昌志, 永田 環, 赤井幹夫, 磯田裕義, 澤田 敏, 坂井田紀子, 植村芳子 (2003) 稀な髄膜播種を認めた Pilocytic astrocytoma の1例. 日本医学放射線学会関西西地方会
22. 清水 健, 池田耕士, 黒田昌志, 赤井幹夫, 澤田 敏, 岩井 大, 山下敏夫, 坂井田紀子, 植村芳子 (2003) 耳下腺内神経鞘腫の MR 所見. 日本医学放射線学会関西西地方会
23. 小宮山豊, 西村典子, 董 顕輝, 吉賀正亨, 榊田 緑, 高橋伯夫 (2003) ヒト唾液中に発見した強心ステロイドの LC/MS による解析. 第50回日本臨床検査医学会総会, 広島
24. 小宮山豊, 寺内里恵, 寺岡安津子, 宗像眞智子, 孫 瑛洙, 尾崎吉郎, 福原資郎, 高橋伯夫 (2003) 後天性第 VIII 因子低下症での第 VIIa 因子製剤の応用. 第4回日本検査血液学会学術集会, 京都
25. 小宮山豊, 董 顕輝, 西村典子, 榊田 緑, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2003) 質量分析によりヒト血液に見出した内因性ジギタリス, marinobufagin および telocinobufagin の解析. 第7回日本心血管内分泌代謝学会学術総会, 札幌
26. 寺川直良, 里井壯平, 高井惣一郎, 豊川秀吉, 柳本泰明, 山本智久, 小宮山豊, 権 雅憲, 高橋伯夫, 上山泰男 (2003) 膵癌症例における低用量 LPS 刺激による全血 TNF $\alpha$  産生能の検討. 第103回日本外科学会定期学術集会, 札幌
27. 小宮山豊, 原 克子, 中谷壽男, 高橋伯夫 (2003) アセトアミノフェンの毒性中間代謝産物 N-アセチルベンゾキノニンイミン検出に関する基礎的検討. 第25回日本中毒学会総会, 福島
28. 西村真人 (2003) ランチョンセミナー「臨床の現場で心臓核医学を活かすために」透析患者の CAG 適応決定における BMIPP SPECT の有用性. 第51回心臓病学会学術集会, 東京 9/8
29. 西村真人, 橋本哲也, 小林裕之, 福田豊史, 沖野功次, 山本則之, 小野利彦, 藤田 博, 井上直人 (2003) 血液透析 (HD) 患者の冠動脈病変診断における <sup>123</sup>I-BMIPP SPECT の有用性. 第43回日本核医学会総会, 東京
30. 坂井田紀子, 安原裕美子, 植村芳子, 岡村明治 (2003) 稀な組織形態を示す顎下腺腫瘍の2例. 第92回日本病理学会総会, 福岡 4/24
31. 正木浩哉, 松原弘明, 西川光重, 高橋伯夫 (2003) 透析患者の虚血下肢に対する骨髓細胞移植による血管新生療法の効果の検討. 第48回日本透析医学会学術集会
32. Masaki H, Yuyama E, Matsubara H, Murohara T, Ikeda Y, Shintani S, Amano K, Takahashi H, Shimada K, Iwasaka T and Imaizumi T (2003) Therapeutic Angiogenesis for Patients with Limb Ischemia by Autologous Transplantation of Bone Marrow Cells: Randomized Controlled Trial. The 67<sup>th</sup> annual meeting of the Japanese Society of circulation, Sapporo

33. Amano K, Matsubara H, Imada T, Iba O, Fujiyama S, Masaki H, Okigaki M, Mori Y, Nishiue T, Kamihata H, Nozawa Y, Togawa Y, Nakata M, Kawashima S, Yokoyama M and Iwasaka T (2003) Enhancement of Ischemia-Induced Angiogenesis by eNOS Overexpression. The 67<sup>th</sup> annual meeting of the Japanese Society of circulation, Sapporo
34. Amano K, Okigaki M, Imada T, Iba O, Fujiyama S, Masaki H, Togawa Y, Nakata M, Matsubara H and Iwasaka T (2003) Critical Functional Role of IL-1 $\beta$  in Expression and Function of VEGF Revealed by Analysis of IL-1 $\beta$  -/- Mice. The 67<sup>th</sup> annual meeting of the Japanese Society of circulation, Sapporo
35. Okigaki M, Amano K, Imada T, Iba O, Fujiyama S, Masaki H, Matsubara H, Kin N, Takai S, Miyazaki M, Yamashita T, Kawashima S, Yokoyama M and Iwasaka T (2003) eNOS Activation and Its Vascular Functions Critically Requires the Presence of Tyrosine Kinase PYK2. The 67<sup>th</sup> annual meeting of the Japanese Society of circulation, Sapporo
36. Imada T, Masaki H, Amano K, Fukui M, Kishimoto N, Iba O, Uchiyama Y, Hayakawa T, Mori Y, Matsubara H, Iwasaka T and Nishikawa M (2003) Efficacy and Safety of therapeutic Angiogenesis Using Autologous Bone Marrow Cell Transplantation For Clinical Limb Ischemia in hemodialysis patient. The 67<sup>th</sup> annual meeting of the Japanese Society of circulation, Sapporo
37. 内山葉子, 正木浩哉, 森 泰清, 早川 敬, 井庭 理, 福井政慶, 岸本典子, 今田崇裕, 西川光重 (2003) CAPD 療法中出口部感染を繰り返し腹膜炎を発症した2症例. 第47回日本透析医学会学術集会
38. 井庭 理, 正木浩哉, 天野克也, 今田崇裕, 福井政憲, 岸本典子, 森 泰清, 松原弘明, 西川光重, 岩坂壽二 (2003) 透析患者 ASO における末梢血単核球細胞移植による血管新生療法. 第47回日本透析医学会学術集会
39. 天野克也, 松原弘明, 井庭 理, 藤山総一郎, 正木浩哉, 沖垣光彦, 野澤良久, 川嶋成乃亮, 横山光宏, 岩坂壽二 (2003) Nitric Oxide と血管新生 eNOS 血管内皮過剰発現マウスを用いた虚血部血管新生におけるAkt-NOシグナルの役割. 第25回日本高血圧学会総会
40. 井庭友見子, 松原弘明, 小崎篤志, 正木浩哉, 木村 稔, 豊田長興, 西川光重, 岩坂壽二, 山中滋木, 河合修三, 堀尾 武 (2003) 自家末梢血単核球細胞移植後の皮膚移植が著効した難治性糖尿病性足潰瘍の1例. 第46回糖尿病学会年次学術集会
41. 長谷川隆正, 小崎篤志, 松原弘明, 四馬田恵, 森 泰清, 木村 稔, 沖垣光彦, 豊田長興, 正木浩哉, 西川光重, 岩坂壽二 (2003) 糖尿病モデルラットにおける末梢神経障害への末梢血単核球細胞移植の有効性. 第46回糖尿病学会年次学術集会
42. 小崎篤志, 長谷川隆正, 四馬田恵, 松原弘明, 森 泰清, 木村 稔, 沖垣光彦, 豊田長興, 正木浩哉, 西川光重, 岩坂壽二, 木村達治 (2003) ヒト血中EN-RAGE (S100A12) 蛋白質濃度の臨床病態学的意義の検討. 第46回糖尿病学会年次学術集会
43. 今田崇裕, 森 泰清, 岸本典子, 能勢敦子, 内山葉子, 所 敏子, 来島泰秋, 正木浩哉, 永田登志子, 梅田幸久, 岩坂壽二 (2003) サイトメガロウイルス感染症により増悪した IgA 腎症の一例. 第33回日本腎臓学会西部学術集会
44. 西澤信也, 森 泰清, 岸本典子, 園村和宏, 内山葉子, 所 敏子, 正木浩哉, 永田登志子, 梅田幸久, 岩坂壽二 (2003) 統合失調症の経過中に膜性腎症を呈した混合性結合織病の1例. 第33回日本腎臓学会西部学術集会
45. 園村和宏, 森 泰清, 岸本典子, 内山葉子, 能勢敦子, 来嶋泰秋, 所 敏子, 正木浩哉, 永田登志子, 梅田幸久, 岩坂壽二 (2003) 原発性胆汁性肝硬変及びシェーグレン症候群に合併した膜性腎症によるネフローゼ症候群の一例. 第33回日本腎臓学会西部学術集会
46. 沖垣光彦, 森 泰清, 天野克也, 岸本典子, 内山葉子, 能勢敦子, 正木浩哉, 菅波孝祥, 向山政志, 松原弘明, 岩坂壽二 (2003) 脾 marginal zone B 細胞の抗糸球体基底膜抗体腎炎発症抑制作用: PYK2 遺伝子欠損マウスによる検討. 第46回日本腎臓学会学術総会

47. 天野克也, 沖垣光彦, 森 泰清, 岸本典子, 内山葉子, 正木浩哉, 菅波孝祥, 向山政志, 松原弘明, 岩坂壽二 (2003) 遺伝子欠損マウスによるチロシンキナーゼ PYK2 の B 細胞増殖制御と糸球体腎炎発症抑制作用の検討. 第 46 回日本腎臓学会学術総会
48. 神島 宏, 西上尚志, 酢谷保夫, 正木浩哉, 中村誠志, 藤山総一郎, 栗原裕彦, 栗本晃二, 岩坂壽二, 松原弘明 (2003) 重症狭心症に対する injection catheter を用いた自家骨髄単核球細胞移植 (BMI) による血管新生療法. 第 51 回日本心臓病学会学術集会
49. 井庭 理, 正木浩哉, 今田崇裕, 天野克也, 岸本典子, 福井政慶, 能勢敦子, 内山葉子, 早川 敬, 森 泰清, 岩坂壽二, 西川光重 (2003) 透析患者 ASO における末梢血単核球細胞移植による血管新生療法の試み. 第 51 回大阪透析研究会
50. 西澤信也, 正木浩哉, 森 泰清, 里井壮平, 福井政慶, 今田崇裕, 岸本典子, 内山葉子, 井庭 理, 能勢敦子, 柴崎泰延, 早川 敬, 上山泰男, 岩坂壽二, 西川光重 (2003) 透析導入期に腹腔内膿瘍を合併した 1 例. 第 51 回大阪透析研究会
51. 神島 宏, 木村 稷, 酢谷保夫, 竹花一哉, 西上尚志, 栗本晃二, 正木浩哉, 岩坂壽二, 今村洋二, 松原弘明, 土師一夫, 村松俊哉 (2003) 重症冠動脈疾患に対する自家骨髄単核球細胞移植 (BMI) の臨床成績. 第 17 回日本冠疾患学会学術集会
52. 河合修三, 堀尾 武, 立石恵里子, 正木浩哉, 松原弘明 (2003) 骨髄幹細胞移植が奏効したバージャー病・慢性閉塞性動脈硬化症の 2 例. 第 102 回日本皮膚科学会総会
53. 元廣将之, 神島 宏, 酢谷保夫, 山本哲史, 河村晃弘, 岩坂壽二 (2003) スタチンによるステント再狭窄予防効果 positive remodeling を伴う病変の検討. 第 17 回冠動脈疾患学会
54. 井上 恵, 小崎篤志, 馬場天信, 川田幸治, 田嶋佐和子, 長谷川隆正, 正木浩哉, 木村 譲, 高橋伯夫, 佐藤 豪, 西川光重, 岩坂壽二 (2003) 糖尿病に対する問題意識の違いからみた心理・食行動の差異. 第 46 回日本糖尿病学会, 富山
55. 安原裕美子, 坂井田紀子, 植村芳子 (2003) Autosomal recessive polycystic kidney disease の 1 剖検例. 第 52 回関西小児病理研究会
56. 安原裕美子, 真能正幸, 春日井務, 石黒信吾 (2003) pre T ALL (L2) に対する骨髄移植後 18 日に Regimen related toxicity にて死亡した 1 剖検例. 第 92 回日本病理学会総会, 福岡
57. 安原裕美子, 坂井田紀子, 植村芳子 (2003) 線維腺腫として長期 follow up 中に症状および画像に変化を来した症例. 第 23 回日本病理学会近畿支部学術集会, 兵庫
58. 安原裕美子, 塚本吉胤, 春日井務, 石黒信吾 (2003) 全身臓器に嚢胞様変化を認めた 1 剖検例. 日本病理学会近畿支部第 21 回学術集会
59. 安原裕美子, 塚本吉胤, 春日井務, 石黒信吾, 山田晃正, 佐々木洋 (2003) 肝臓および腹腔内にみられた腫瘍の 1 例. 日本病理学会近畿支部第 22 回学術集会
60. 安原裕美子, 坂井田紀子, 植村芳子, 岡村明治, 岡 泰彦, 丸山 聡 (2003) 傍精巢脂肪肉腫 (well differentiated sclerosing liposarcoma) の 1 例. 第 8 回日本外科病理学会総会, 沖縄
61. 吉賀正亨, 原 克子, 小宮山豊, 榎田 緑, 神島 宏, 岩坂壽二, 高橋伯夫 (2003) 虚血性心疾患患者における *Chlamydia pneumoniae* DNA 測定に関する検討. 第 50 回日本臨床検査医学会総会, 広島
62. 吉賀正亨, 小宮山豊, 寺内里恵, 寺岡安津子, 宗像眞智子, 安藤性實, 尾崎吉郎, 福原資郎, 高橋伯夫 (2003) FDP 値と臨床所見の乖離により発見した異常フィブリノゲン症. 第 46 回日本臨床検査医学会近畿支部総会, 和歌山
63. 原 克子, 小宮山豊, 吉賀正亨, 高橋伯夫 (2003) GC/MS による血中 2-arachidonyl glyceride (2-AG) 分析 (MTBSTFA による誘導体化). 第 13 回日本臨床化学近畿支部総会, 神戸
64. 原 克子, 永濱 要, 塚 芳明, 神島 宏, 広渡裕史, 岩坂壽二, 高橋伯夫 (2003) 虚血性心疾患患者冠動脈内ステント留置後の全血および血漿セロトニン (5-hydroxytryptamine: 5-HT) 濃度の動態. 第 46 回日本臨床検査医学会近畿支部総会, 和歌山
65. 原 克子, 塚末奈子, 神島 宏, 岸本達也, 水野耕治, 岩坂壽二, 高橋伯夫 (2003) 虚血性

- 心疾患におけるリゾホスファチジルコリンの血漿中濃度測定の有用性. 第43回日本臨床化学学会年会, 広島
66. 原 克子, 木村 穰, 小宮山豊, 吉賀正亨, 広渡裕史, 岩坂壽二, 高橋伯夫 (2003) 血中コチニン濃度と動脈硬化の危険因子との関係. 第50回日本臨床検査医学会総会, 広島
67. 原 克子, 塚未奈子, 神畠 宏, 広渡裕史, 岩坂壽二, 高橋伯夫 (2003) 虚血性心疾患におけるセロトニン(5-hydroxytryptamine)の全血および血漿濃度比較の有用性. 第7回日本心血管内分泌代謝学会学術総会, 札幌
68. 原 克子, 永濱 要, 塚未奈子, 神畠 宏, 広渡裕史, 岩坂壽二, 高橋伯夫 (2003) 冠攣縮性狭心症における全血および血漿セロトニン(5-hydroxytryptamine: 5-HT)濃度の動態. 第7回日本心血管内分泌代謝学会学術総会, 札幌
69. 原 克子, 永濱 要, 塚 芳明, 神畠 宏, 吉賀正亨, 広渡裕史, 岩坂壽二, 高橋伯夫 (2003) 冠攣縮性狭心症における全血および血漿セロトニン(5-hydroxytryptamine: 5-HT)濃度の動態. 第7回近畿・北陸セロトニン研究会, 大阪
70. 原 克子, 小宮山豊, 永濱 要, 塚 芳明, 神畠 宏, 吉賀正亨, 岩坂壽二, 高橋伯夫 (2003) 虚血性心疾患における血中 total PAI-1 の動態. 第3回 TTM フォーラム, 東京
71. 原 克子, 小宮山豊, 宗像眞智子, 高橋伯夫 (2003) 毒草(ハシリドコロ)によるアルカロイド中毒症例の GC/MS 分析. 第14回日本臨床化学近畿支部総会, 大阪
72. 中村竜也, 櫻原雅美, 佐野みゆき, 中田千代, 平城 均 (2003) 腸内細菌科, 緑膿菌および *Acinetobacter* spp. における VITEK 2 Advanced Expert System の性能について. 第14回日本臨床微生物学会総会, 名古屋
73. 中村竜也, 山崎勝利, 西尾久明, 佐藤かおり, 小松 方, 島川宏一, 豊川真弘, 和田恭直, 末吉範行, 幸福知己, 折田 環, 坂本雅子, 浦敏郎, 木下承浩, 相原政典 (2003) 近畿地区における *Escherichia coli* および *Klebsiella* spp. からの ESBL 産生菌の分離調査(第3期調査成績). 第14回日本臨床微生物学会総会, 名古屋
74. 中村竜也, 櫻原雅美, 佐野みゆき, 中田千代, 高橋伯夫 (2003) 1992年から2001年に血液から分離されたコアグラゼ陰性ブドウ球菌の薬剤感受性と teicoplanin 耐性について. 第77回日本感染症学会総会, 福岡
75. 中村竜也, 高橋伯夫 (2003) 過去10年間に血液培養から分離された酵母様真菌の薬剤感受性と臨床背景について. 第51回日本化学療法学会総会, 横浜
76. 奥田和之, 尾崎貴恵, 大倉ひろ枝, 宗像眞智子, 高橋伯夫 (2003) Lumipulse f による HCV 抗原測定と HCV-RNA 定量の比較検討. 第35回日本臨床検査自動化学会, 横浜

### シンポジウム

1. Takahashi H (2003) Diagnosis of atherosclerosis complicated with hypertension. Expert Seminar in cardiology, Napa Valley, California, USA
2. 高橋伯夫 (2003) 大学付属病院検査部サイバールのためにとれる戦略. 第16回生物試料学会, 熊本市
3. 高橋伯夫 (2003) マネージメント改革の意図と検査部の在り方. 臨床検査専門医会春季セミナー, 山形市
4. 榎田 緑, 高橋伯夫 (2003) マクロファージ由来可溶性 FcγRIIIa<sup>Mφ</sup>. 第46回日本臨床病理学会近畿支部総会, 紀三井寺, 6

### 招待講演

1. 高橋伯夫 (2003) 高感度免疫測定法が拓く循環器疾患診断法の進歩. 日本臨床検査医学会東北支部総会, 弘前市
2. 小宮山豊 (2003) 内因性ジギタリス, marinobufagenin とその関連物質の LC/MS を用いた検出とその意義. 第39回日本臨床化学会近畿支部例会, 大阪

### 特別講演

1. Takahashi H (2003) Morning Hypertension. The 6<sup>th</sup> International Meeting on Chronobiology, September, Sapporo, Japan
2. Takahashi H (2003) Pathophysiology and treatment of morning hypertension. The 7<sup>th</sup> Asia-Oceania Conference of gerontology, November, Tokyo, Japan



3. 小宮山豊(2003)ルーチン検査による検査室から臨床現場への診断支援 疑問点を考え、臨床がおかしいという前に検査室から情報を . 第15回緊急検査研究会, 大阪

#### 教育講演

1. 高橋伯夫(2003)臓器保護を目的にした降圧療法の実際 . 鳥取県医師会生涯教育講演会, 倉吉市
2. 高橋伯夫(2003)高脂血症治療の新たな展開 . 大阪府医師会生涯教育講演会, 大阪市
3. 高橋伯夫(2003)高感度免疫測定法が拓く循環器疾患診療の新たな展開 . 大阪薬科大学公開教育講座, 高槻市
4. 高橋伯夫(2003)早朝高血圧の診断と治療 . 福井県薬剤師会講演会, 福井市
5. 高橋伯夫(2003)セロトニンと循環器疾患 . 兵庫県医師会生涯教育講演会, 姫路市
6. 高橋伯夫(2003)ALLHAT研究が教えるもの . 循環器研究会, 大阪市
7. 高橋伯夫(2003)臓器保護を目的にした降圧療法 . 大正区医師会, 生涯教育講演会, 大阪市
8. 高橋伯夫(2003)早朝高血圧の病態と特異的治療法 . 愛知県医師会生涯教育講演会, 愛知県岡崎市
9. 高橋伯夫(2003)座談会 早朝高血圧 . メディカルトリビューン 千里, 大阪
10. 高橋伯夫(2003)酸化ストレスと病気 . 毎日放送ラジオ 健康アワー, 大阪市
11. 高橋伯夫(2003)高脂血症治療の最前線 . 大阪府医師会生涯教育講演会, 守口市
12. 高橋伯夫(2003)ASCOT研究が伝えるもの . ファイザー 50周年記念講演会, 大阪市
13. 高橋伯夫(2003)早朝高血圧の診断と治療 . 京都市医師会生涯教育講演会, 京都市
14. 高橋伯夫(2003)臨床検査診断学 . 宮崎大学医学部 特別講義, 宮崎市
15. 高橋伯夫(2003)レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系 . 大阪市循環器研究会, 大阪市
16. 高橋伯夫(2003)スタチンを用いた動脈硬化症の治療戦略 . シオノギ製薬 職員研修会, 大阪市
17. 高橋伯夫(2003)POCT検査の振興について .

京都北部臨床検査技師会, 舞鶴市

18. 小宮山豊(2003)これまでに経験した凝固・線溶異常の数症例 症例から学ぶ検査選択の考え方と手順 . 京都府臨床検査技師会 血液検査勉強会, 京都
19. 小宮山豊(2003)最新の凝固検査に関する考え方と我々が経験した凝固・線溶異常の数症例 検査現場からの見方を中心に . シスメックス・テクノセンター 血液検査勉強会, 神戸

#### 著書

1. 高橋伯夫(2003)特集 早朝高血圧 重要性和管理 「早朝高血圧の治療」虚血性心疾患を伴った場合 . 総合医学社 11(4): 28-29
2. 河野雄平(2003)血圧異常 . Nursing Selection 3 . 循環器疾患(友池仁暢編, 国立循環器病センター看護部監修) 62-65 頁, 学研メディカル, 東京
3. 神出 計, 河野雄平(2003)レニン・アンジオテンシン系と QOL . The Renin Angiotensin System (Dzau VJ, 堀内正嗣, 竹内和久, 伊藤裕, 柴木宏実編) 335-339 頁, メディカルレビュー社, 東京
4. 河野雄平(2003)高血圧と高尿酸血症の生活習慣改善 . ユーシービージャパン, 東京
5. 今井 潤, 柊山幸志郎, 大塚邦明, 河野雄平, 島田和幸, 朽久保修, 林 博史, 宮川政昭(2003)日本高血圧学会 家庭血圧測定条件設定の指針 . ライフサイエンス出版, 東京

#### その他

1. 高橋伯夫(2003)臨床検査をめぐる最近の話題 高感度免疫測定法が拓く循環器疾患診療の新たな展開 . 大阪薬科大学公開教育講座講演集 18: 56-102
2. 浜田吉則, 佐藤正人, 高田晃平, 谷山紘太郎, 奥田和之, 高橋伯夫(2003)ヒルシュブルグ病における一酸化窒素とエンドセリンの腸管弛緩障害への関与 . 研究成果報告書 課題番号 09671841 平成9年度文部化学研究費補助金 基盤研究(C) 1-17
3. 高橋伯夫(2003)第25回日本高血圧学会総会レポート 早朝高血圧の病態とその治療 . 日

- 経メディカル 12: 184-188
4. 高橋伯夫 (2003) IT 医療への提言 医療改革進行への努力. IT 医療白書 31
  5. 高橋伯夫, 中原一彦 (2003) 日本臨床検査専門医会 第 13 回春季大会記録 シンポジウム: 病院マネジメント改革と検査部 (司会の言葉). 日本臨床検査専門医会 21(2): 111-112
  6. 荻原俊男, 高橋伯夫, 北風政史 (2003) 早朝高血圧診療カンファレンス 近畿, 北陸エリア 早朝高血圧の発症メカニズムに則した効果的な薬剤を選択する. Med Tribune 特別企画
  7. 河野雄平 (2003) 血圧の薬 種類と効果, 副作用. 千里ライフサイエンス振興財団ニュース No. 41: 7-8

## 救急医学科

### 研究業績

#### 原著

1. Hirakawa A, Takeyama N, Nakatani T, Tanaka T (2003) Mitochondrial permeability transition and cytochrome C release in ischemia-reperfusion injury of the rat liver. J Surg Res 111: 240-247
2. 中谷壽男, 廣田卓也 (2003) 関西医科大学高度救命救急センターに収容された自殺企図者の実態. 自殺の病理と実態 救急の立場から 94-96
3. 新谷 裕, 中島道隆, 森河内豊, 木内俊一郎, 滝 吉郎, 弘津喜史, 森口哲也, 平川昭彦, 山本 透, 中谷壽男 (2003) 胃十二指腸潰瘍穿孔における手術療法と保存療法の医療費の検討. 日臨救急医会誌 6: 15-18
4. 新谷 裕, 平出 敦, 行岡秀和, 森田 大, 西内辰也, 池内尚司, 林 靖之, 松坂正訓, 木内俊一郎, 中谷壽男 (2003) 小児の病院外心停止症例に関する検討 ウツタイン大阪プロジェクトより. 日救急医会誌 14: 131-137
5. 沖井 裕, 河本圭司, 赤根 敦, 岩瀬正顕, 神崎清一郎, 中谷壽男 (2003) 脳波自動解析システムによる小児の平坦脳波解析. 臨脳波 45: 406-410
6. 山城成康, 武山直志, 田中孝也, 平川昭彦, 赤堀道也, 松尾信昭, 中谷壽男 (2003) 血液浄化法が有効であった重症有機リン (マラチオン) 中毒の一例. ICUとCCU 27
7. 田中孝也, 武山直志 (2003) 内分泌代謝. 救急医 27: 22-24
8. 平川昭彦, 田中孝也, 松尾信昭, 石倉宏恭, 山本透, 武山直志, 中谷壽男 (2003) 大腸穿孔による敗血症ショックに対し PMX-DHP を施行した 1 例 開始時期や施行回数を検討して. エンドトキシン血症救命治療研究会誌 7: 74-78
9. 中谷壽男 (2003) 天然ガス・プロパンガス中毒. 今日の治療指針 2003 年版 45: 123
10. 中谷壽男 (2003) JATEC 医のあゆみ 204: 163
11. 中谷壽男 (2003) 急性中毒症例への初期対応. 第 1 回救急医を目指すための脳神経領域セミナーテキスト 1-8
12. 中谷壽男 (2003) エディトリアル「重症病態に即した栄養管理の実際」編集に当たって. 救急医 27: 131
13. 松尾信昭, 平川昭彦, 三木重樹, 中谷壽男 (2003) 重症感染症における栄養管理. 救急医 27: 211-214
14. 高田達郎, 和田正明, 高田敬蔵, 中谷壽男 (2003) 末梢動脈循環障害を疑う. Medicina 40: 718-723
15. 新谷 裕, 星野 健, 切通雅也, 中谷壽男 (2003) 気相分析にて高濃度のメタノールを検出したシンナー吸入による球後視神経炎の 2 例. 中毒研究 16: 329-333
16. 中谷壽男 (2003) 黄疸. 救急診療指針 159-162
17. 中谷壽男 (2003) 肝不全. 救急診療指針 522-526
18. 中谷壽男 (2003) 中毒診断につながる臨床所見や中毒の簡易診断法について. Emergency Nursing 16: 700-704
19. 中谷壽男 (2003) 代謝性脳障害: 肝疾患. 救急医 27: 958-960

20. 中谷壽男 (2003) 関西医科大学の卒後臨床研修プログラム .救急・集中治療 15: 1063-1068
21. 石倉宏恭, 矢吹 輝, 中谷壽男 (2003) 急性肺炎 .救急医 27: 1477-1484
22. 横田順一郎, 大友康裕, 川井 真, 木村昭夫, 坂本哲也, 新藤正輝, 杉本勝彦, 住田 亮, 田中 裕, 東平日出夫, 中谷壽男, 箕輪良行, 山口芳裕 (2003) JATEC の概念とその目指すもの .救急医 27: 1715-1718
23. 大友康裕, 横田順一郎, 川井 真, 木村昭夫, 坂本哲也, 新藤正輝, 杉本勝彦, 住田 亮, 田中 裕, 東平日出夫, 中谷壽男, 箕輪良行, 山口芳裕 (2003) Primary Survey . 救急医 27: 1719-1723
24. 中谷壽男, 横田順一郎, 大友康裕, 川井 真, 木村昭夫, 坂本哲也, 新藤正輝, 杉本勝彦, 住田 亮, 田中 裕, 東平日出夫, 箕輪良行, 山口芳裕 (2003) Secondary survey と tertiary survey . 救急医 27: 1725-1729
25. 平川昭彦, 田中孝也, 梶本心太郎, 石倉宏恭, 岩瀬正顕, 中谷壽男 (2003) 激症型アメーバ性大腸炎の1例 . 日臨外会誌 64: 2516-2419
26. 中谷壽男 (2003) 医学大事典: イリザロフ創外固定器, 膠質輸液剤, 高張電解質輸液剤, デキストラン溶液, 等張電解質製剤, 鼻腔栄養チューブ, 鼻腔タンポン挿入, ホフマン創外固定 . 医学大事典
- 総 説
1. 中谷壽男 (2003) 急性中毒 . 今日の治療指針 2003年版 45: 1099-1124
2. 中谷壽男 (2003) JATEC の誕生 . 日本外傷学会雑誌 17: 75-77
- 学会発表
1. 矢吹 輝, 岩瀬正顕, 田中孝也, 中谷壽男 (2003) 広範囲開頭術および術後洗浄が有効であった鼻性硬膜下膿瘍の一例 . 第8回日本脳神経外科救急学会, 大阪
2. 岩瀬正顕, 神寄清一郎, 中谷壽男 (2003) 脳波自動解析システムを用いた小児の平坦脳波の解析 . 第8回日本脳神経外科救急学会, 大阪
3. 中谷壽男 (2003) 第1回救急医を目指すための脳神経領域セミナー: 急性中毒症例への初期対応 . 第8回日本脳神経外科救急学会, 吹田
4. 矢吹 輝, 岩瀬正顕, 田中孝也, 中谷壽男 (2003) 広範囲開頭術および術後洗浄が有効であった鼻性硬膜下膿瘍の一例 . 第8回日本脳神経外科救急学会, 大阪
5. 岩瀬正顕, 神寄清一郎, 中谷壽男 (2003) 重症性脊椎損傷患者の急性期管理 . 第8回日本脳神経外科救急学会, 大阪
6. 武山直志, 平川昭彦 (2003) 大腸穿孔による敗血症性ショックに対しPMXを施行した1例 . 第7回エンドトキシン血症救命治療研究会
7. 平川昭彦, 田中孝也, 梶本心太郎, 山本 透, 中谷壽男 (2003) 救命救急センターにおけるACLS教育の現状 . 第119回学内学術集談会, 守口
8. 中谷壽男 (2003) 日常診療における急性中毒への対応 . 関西医科大学同窓会大阪支部 2003年総会, 大阪
9. 石倉宏恭, 平川昭彦, 矢吹 輝, 中谷健治, 梶本心太郎, 富野敦稔, 山本 透, 田中孝也, 中谷壽男 (2003) 外傷性脾損傷の診断・治療戦略と Pitfall . 第39回日本腹部救急医学会, 弘前
10. 石倉宏恭, 平川昭彦, 三木重樹, 中谷健治, 矢吹 輝, 齊藤福樹, 梶本心太郎, 富野敦稔, 田中孝也, 中谷壽男 (2003) クリニカルパスを用いた胃・十二指腸潰瘍穿孔保存療法の治療戦略 . 第6回日本臨床救急医学会総会, 横浜
11. 矢吹 輝, 西憲一郎, 松尾信昭, 中谷健治, 齊藤福樹, 石倉宏恭, 田中孝也, 中谷壽男 (2003) 救命救急センターにおける褥瘡発生状況およびその対策について . 第6回日本臨床救急医学会総会, 横浜
12. 加藤正樹, 田中孝也, 梶本心太郎, 西憲一郎, 平川昭彦, 松尾信昭, 山本 透, 中谷壽男 (2003) 救急施設における精神科医の取り組み . リエゾン医配置後2年間の考察 . 第6回日本臨床救急医学会総会, 横浜
13. 箱田 滋, 北澤康秀, 津田雅庸, 尾田聖子, 松尾信昭, 中谷壽男 (2003) 股関節術後の創部MRSA感染にて貧血を来した1症例 . 第6回日本臨床救急医学会総会, 横浜
14. 平川昭彦, 田中孝也, 梶本心太郎, 岩瀬正顕, 武山直志, 中谷壽男 (2003) 急性間質性肺炎にヘルパー T cell サブセットを測定し治療を

- 行った1例．第6回日本臨床救急医学会総会，横浜
15. 岩瀬正顕，石倉宏恭，矢吹 輝，松尾信昭，田中孝也，中谷壽男（2003）頸椎・頸髄損傷のクリアランス．第17回日本外傷学会，京都
  16. 中谷健治，石倉宏恭，三木重樹，齊藤福樹，松尾信昭，田中孝也，中村誠也（2003）当センターにおける墜落外傷の検討．第17回日本外傷学会，京都
  17. 中谷壽男（2003）メディカルコントロールと検証．メディカルコントロール体制における検証医のための研修会，大阪
  18. 武山直志，富野敦稔，中谷壽男，松尾信昭，山本 透，田中孝也（2003）重症熱傷に対するインターフェロンガンマ(IFG)投与による感染免疫賦活 compromised host に対する immunoactivation ．第29回日本熱傷学会総会・学術集会，大阪
  19. 三木重樹，田中孝也，武山直志，中谷壽男（2003）実験的 endotoxin 血症における Th1/Th2 バランスの変化および NO の影響 -iNOS ノックアウトマウスによる検討-．第40回日本外科代謝栄養学会，福岡
  20. 小宮山豊，原 克子，中谷壽男，高橋伯夫（2003）アセトアミノフェンの毒性中間代謝産物 N-アセチルベンゾキノンイミン検出に関する基礎的検討．第25回日本中毒学会総会，福島
  21. 新谷 裕，中谷壽男（2003）尿中薬物スクリーニングキットの有用性について．第25回日本中毒学会総会，福島
  22. 矢吹 輝，津田雅庸，齊藤福樹，石倉宏恭，田中孝也，北澤康秀，中谷壽男（2003）急性薬物中毒クリニカルパスの使用とその効果．第25回日本中毒学会総会，福島
  23. 中谷壽男（2003）歯科診療における緊急時の対応．洗心会医療フォーラム，大阪
  24. 中谷壽男（2003）助かる患者を死なせないために ACLS と JATEC コースの紹介 ．平成15年度救急週間行事，枚方
  25. 山本 透，田中孝也，松尾信昭，弘津喜史，中谷壽男（2003）救急医療施設における包括医療制度の現状と対応．第18回日本救命医療学会，札幌
  26. 岩瀬正顕，神寄清一郎，田中孝也，中谷壽男（2003）重症頭部外傷の管理各種モニターを用いたバルビタール療法の工夫．第62回日本脳神経外科学会総会，仙台
  27. 中谷壽男（2003）ACLS の意味するところ．北河内・中河内ブロック合同救急医療研修会，大阪
  28. 中谷壽男（2003）三都物語：大阪・京都・東京の救急事情．第2回京都救急医療研究会，京都
  29. 田中孝也（2003）集中治療患者における貧血と輸血 血液製剤の使用とエリスロポエチン ．第31回日本救急医学会総会，東京
  30. 武山直志，田中孝也，弘津喜史，中谷壽男（2003）活性化マクロファージにおけるサイトカイン産生におけるメシル酸ナファモスタットの影響．第31回日本救急医学会総会，東京
  31. 岩瀬正顕，神寄清一郎，梶本心太郎，平川昭彦，松本泰明，田中孝也，中谷壽男，（2003）経眼窩の穿通性頭部外傷による脳実質および脳血管損傷 第31回日本救急医学会総会，東京
  32. 矢吹 輝，松尾信昭，弘津喜史，中谷健治，石倉宏恭，田中孝也，中谷壽男（2003）当救命救急センターにおけるNSTの導入とその効果 ．第31回日本救急医学会総会，東京
  33. 矢吹 輝，田中孝也，石倉宏恭，梶本心太郎，山本透，武山直志，中谷壽男（2003）当センターにおける急性肺炎治療の検討（肺炎ガイドラインをもとに）．第31回日本救急医学会総会，東京
  34. 中谷壽男（2003）AED の意義について ．大東・四条啜医師会講演会，大東
  35. 西憲一郎，石倉宏恭，平川昭彦，弘津喜史，梶本心太郎，山本 透，中谷壽男（2003）RSI(rapid sequence intubation) 時の薬剤選択と投与法について ．第17回日本外傷学会，京都
  36. 浅井 悌，岩瀬正顕，神寄清一郎，平川昭彦，田中孝也，中谷壽男（2003）強直性脊椎炎に脊椎硬膜外血腫を合併した一例．第8回日本脳神経外科救急学会，大阪
  37. 梶本心太郎，田中孝也，平川昭彦，松尾信昭，中谷壽男（2003）タンザニアにおける診療研修報告 ．第119回学内学術集談会，守口
  38. 齊藤福樹，石倉宏恭，山本 透，武山直志，中

- 谷壽男 (2003) R Adams Cowley Shock Trauma Center での研修 .第 119 回学内学術集談会, 守口
39. 中野誠人, 矢吹 輝, 石倉宏恭, 山本 透, 田中孝也, 中谷壽男 (2003) 鼠径ヘルニア嵌頓, 用手整復後に発症した遅発性小腸穿孔の一例 . 第 7 回河内救急医療懇話会, 大阪
40. 梶本心太郎, 田中孝也, 平川昭彦, 松尾信昭, 石倉宏恭, 山本 透, 中谷壽男 (2003) 外傷性胃破裂の検討 .第 39 回日本腹部救急医学会, 弘前
41. 富野敦稔, 石倉宏恭, 矢吹 輝, 齊藤福樹, 梶本心太郎, 平川昭彦, 田中孝也, 中谷壽男 (2003) 外傷性横隔膜損傷症例の検討 .第 39 回日本腹部救急医学会, 弘前
42. 梶本心太郎, 田中孝也, 藤井弘史, 平川昭彦, 松尾信昭, 岩瀬正顕, 山本 透, 谷川 昇, 中谷壽男 (2003) 下肢深部静脈血栓症に対し thrombectomy catheter を併用し改善した 1 症例 . 第 6 回日本臨床救急医学会総会, 横浜
43. 浅井 悌, 田中孝也, 松尾信昭, 岩瀬正顕, 山本 透, 中谷壽男 (2003) 施設における心肺停止後心拍再開例に対する低体温療法の適応 . 第 18 回日本救命医療学会, 札幌
44. 梶本心太郎, 弘津喜史, 松尾信昭, 山本 透, 田中孝也, 中谷壽男 (2003) 敗血症性多臓器障害の予後と T-Bil との関係 . 第 31 回日本救急医学会総会, 東京
45. 松尾信昭, 石倉宏恭, 山本 透, 武山直志, 田中孝也, 中谷壽男 (2003) 人工呼吸器 Evita4 と Savina における NIV (非侵襲陽圧換気) の有用性及び Savina による患者搬送について . 第 31 回日本救急医学会総会, 東京
46. 浅井 悌, 中谷健治, 山本 透, 武山直志, 田中孝也, 中谷壽男 (2003) 塩酸バンコマイシン経口投与中に血中濃度が異常高値をきたした一例 . 第 31 回日本救急医学会総会, 東京

## 輸血部

### 研究概要

#### 1. 同種血, 自己血輸血に関する研究

輸血検査の自動化システムを導入し, 従来法との比較検討を実施している . 輸血検査 24 時間体制を構築したが, その稼動状況や問題点について検討している . また, 不規則抗体検査などの輸血検査の標準化や合理化についても検討している . 輸血副作用発生時はその原因を検討し, 輸血療法の安全性の向上を目指している .

#### 2. 細胞療法や HLA 検査に関する研究

同種および自己造血幹細胞移植において造血幹細胞の採取・評価・保存を実施しており, これらの所見と臨床経過との関連について検討している . 移植症例における同種抗体を移植後の免疫能や輸血臨床との関連から検討している . HLA 抗原・血小板抗原の適合度, 移植合併症とサイトカイン値との関連やドナーリンパ球輸注の効果についても検討している . また, 循環器科の血管新生療法時の骨髄・末梢血の細胞分離を担当しており, 採取方法について検討している .

### 研究業績

#### 原著

1. Ichiyoshi H, Kiyozuka Y, Kishimoto Y, Fukuhara S and Tsubura A (2003) Massive telomere loss and telomerase RNA expression in dexamethasone-induced apoptosis in mouse thymocytes. *Exp Mol Pathol* 75: 178-186
2. Miyazaki Y, Mori Y, Kishimoto N, Matsumoto N, Zen K, Amakawa R, Kishimoto Y and Fukuhara S (2003) Membranous nephropathy associated with donor lymphocyte infusion following allogeneic bone marrow transplantation. *Int J Hematol* 78: 262-265
3. 岸本裕司 (2003) 輸血検査の 24 時間体制の必

要性・臨病理 51: 50-56

4. 宮崎泰彦, 中道尚人, 松本憲明, 全 勝弘, 尼川龍一, 岸本裕司, 福原資郎 (2003) 骨髓非破壊的臍帯血移植を実施した成人最重症型再生不良性貧血例. 臨血 44: 965-967
  5. 岸本裕司, 有元美代子, 細川美香, 阿部 操, 岡前文子, 山岡 学, 大谷哲司, 松崎龍典, 大西修司, 寺岡敦子, 福原資郎, 川崎裕英, 小林陽之助, 柴田弘俊 (2003) 核酸増幅検査導入後のHBV ウィンドウ期の血小板製剤による輸血後肝炎. 日輸血会誌 49: 444-448
- 学会発表
1. 岸本裕司, 有元美代子, 細川美香, 阿部 操, 岡前文子, 山岡 学, 大谷哲司, 松崎龍典, 寺西節子, 寺岡敦子, 福原資郎, 大西修司 (2003) 輸血検査 24 時間体制の輸血過誤防止効果. 第 51 回日本輸血学会総会, 北九州
  2. 中村謙吾, 竹林匡史, 田嶋健一郎, 伊藤量基, 松本憲明, 全 勝弘, 岸本裕司, 尼川龍一, 福原資郎 (2003) 慢性 GVHD 患者 T 細胞におけるサイトカイン動態. 第 65 回日本血液学会総会・第 45 回日本臨床血液学会総会, 大阪
  3. 松本憲明, 中井邦久, 田嶋健一郎, 全 勝弘, 藤本正博, 岸本裕司, 尼川龍一, 福原資郎 (2003) 成人造血器疾患に対する臍帯血移植の検討. 第 65 回日本血液学会総会・第 45 回日本臨床血液学会総会, 大阪
  4. 河野誠司, 平本展大, 田嶋健一郎, 松本憲明, 宮崎泰彦, 全勝 弘, 藤本正博, 尼川龍一, 岸本裕司, 福原資郎 (2003) p53 変異と MLL 増幅をみとめた未分化白血病の一例. 第 65 回日本血液学会総会・第 45 回日本臨床血液学会総会, 大阪
  5. 松本憲明, 中井邦久, 田嶋健一郎, 森眞一郎, 全 勝弘, 藤本正博, 植村芳子, 岸本裕司, 尼川龍一, 福原資郎 (2003) IgJH 再構成および TCR $\gamma$  再構成を認めた非ホジキンリンパ腫. 第 43 回日本リンパ網内系学会総会, 福岡
  6. 中村謙吾, 竹林匡史, 田嶋健一郎, 伊藤量基, 宮崎泰彦, 全 勝弘, 岸本裕司, 尼川龍一, 福原資郎 (2003) 同種造血幹細胞移植後慢性期における免疫状態. 第 43 回日本リンパ網内系学会総会, 福岡
  7. 松本憲明, 中井邦久, 田嶋健一郎, 全 勝弘, 岸本裕司, 尼川龍一, 福原資郎 (2003) 成人造血器疾患に対する臍帯血移植の検討. 第 26 回日本造血幹細胞移植学会総会, 横浜
  8. 中井邦久, 田嶋健一郎, 谷川 昇, 松本憲明, 全勝 弘, 野村昌作, 岸本裕司, 尼川龍一, 福原資郎 (2003) ステロイド難反応性の急性移植片対宿主病に対する局所的ステロイド動脈内注入療法. 第 26 回日本造血幹細胞移植学会総会, 横浜
  9. 岡前文子, 岸本裕司, 有元美代子, 細川美香, 阿部 操, 山岡 学, 大谷哲司, 松崎龍典, 大西修司, 寺西節子, 寺岡敦子, 福原資郎 (2003) 抗赤血球複合抗体を保有した生体肝移植の一例. 第 51 回日本輸血学会総会, 北九州
  10. 大谷哲司, 有元美代子, 細川美香, 阿部 操, 岡前文子, 山岡 学, 松崎龍典, 大西修司, 寺西節子, 寺岡敦子, 岸本裕司, 福原資郎 (2003) 骨髓細胞を用いた血管新生療法における細胞処理. 第 51 回日本輸血学会総会, 北九州
  11. 有元美代子, 阿部 操, 細川美香, 岡前文子, 山岡 学, 大谷哲司, 松崎龍典, 寺西節子, 寺岡敦子, 岸本裕司, 福原資郎 (2003) カラム凝集法を用いた時間外輸血検査の運用. 第 47 回日本輸血学会近畿支部総会, 神戸

## 香里病院内科

### 研究業績

原著

1. Inami N, Nomura S, Kikuchi H, Kajiura T, Yamada K, Nakamori H, Takahashi N, Tsuda N, Hikosaka M, Masaki M and Iwasaka T (2003) P-selectin and Platelet-Derived Microparticles Associated with Monocyte Activation Markers in Patients with Pulmonary Embolism. Clin Appl Thromb Hemost 9: 309-316
2. 中森久人, 山田光一, 高橋延行, 津田信幸, 岩

坂壽二(2003)急性心筋梗塞 非Q波梗塞の診断と重症度分類 急性期心電図所見から . 日臨 61: 426-429

#### 学会発表

1. 稲見則仁, 野村昌作, 高橋延行, 中森久人, 山田光一, 梶浦孝之, 津田信幸, 岩坂壽二(2003) Relation of Selectins and Chemokines in Patients after Coronary Angioplasty .第67回日本循環器学会学術集会, 福岡
2. 梶浦孝之, 高橋延行, 中森久人, 山田光一, 稲見則仁, 津田信幸(2003) PWV と動脈硬化危険因子との関連について . 第51回日本心臓病学会学術集会, 東京
3. 稲見則仁, 高橋延行, 野村昌作, 中森久人, 山田光一, 梶浦孝之, 津田信幸(2003) たこつば型心筋症の2例 . 第170回日本内科学会近畿地方会, 大阪
4. 桂 薫子, 藤本正博, 村松美樹子, 金澤成紀, 梶浦孝之, 稲見則仁, 諫見康弘, 津田信幸(2003) サイクロフォスファミド及びシクロスポリンが有効であった血球貪食症候群(HPS) . 第171回日本内科学会近畿地方会, 大阪

## 香里病院小児科

### 研究業績

#### 原著

1. Yasuhara A, Yoshida Y and Hijikata Y (2003) Effect of herbal therapy on chronic herpes virus infections. *Altern Ther Health Med* 9: 132-136
2. Nakaya H, Yasuhara A, Yoshimura K, Oshihoi Y, Izumiya H and Watanabe H (2003) Life-Threatening Infantile Diarrhea from Fluoroquinolone-Resistant *Salmonella enterica* Typhimurium with Mutations in Both *gyrA* and *parC*. *Emerg Infect Dis* 9: 255-257
3. Suzukawa J, Omori K, Yang L and Inagaki C (2003) Continuous administration of antisense oligonucleotides to *c-fos* reduced the development of seizure susceptibility after ethacrynic acid-induced seizure in mice. *Neurosci Lett* 349: 21-24
4. Yang L, Omori K, Otani H, Suzukawa J and Inagaki C (2003) GABA<sub>A</sub> receptor agonist suppressed ammonia-induced apoptosis in cultured rat hippocampal neurons by restoring phosphorylated BAD level. *J Neurochem* 87: 791-800
5. Ikemoto Y, Teraguchi M, Ono A, Kino M, Yoshimura K and Kobayashi Y (2003) *Pediatr Int* 45: 421-425
6. 安原昭博, 吉田由香, 堀あいこ(2003) パソコンを用いた注意欠陥/多動性障害(AD/HD)診断用テスト「もぐら一ず」の使用経験 . 脳と発達 35: 165-167
7. 安原昭博, 船戸正久, 鈴木周平, 服部英司, 原田徳蔵, 北島博之, 富和清隆, 中川喜美子, 川本 豊, 吉岡靖史, 田中祥介, 笹井康典, 井戸正利, 渡辺信子, 千代豪昭, 杉田隆博, 濱田和孝, 吉川邦彦(2003) 小児の在宅医療の実態について ; 第2回小児の在宅医療に関するアンケート調査 . 大阪医 36: 9-16
8. 安原昭博, 吉田由香, 堀あいこ, 鍋谷まこと(2003) 注意欠陥・多動性障害(ADHD)における持続処理課題(CPT)の応用 . 臨床脳 45: 384-388
9. 安原昭博, 吉田由香, 堀あいこ(2003) ADHDにおけるNo-Go Potential「ADHDは反応抑制機構の障害である」. 臨床脳 45: 755-758
10. 土方康世, 仙頭正四郎, 安原昭博, 吉田由香(2003) Epstein-Barr-Virus, Varicella-Zoster-Virus(水痘-帯状疱疹ウイルス)性感染症に対する生薬の効果 . 漢方の臨床 50: 1449-1455
11. 安原昭博, 吉田由香, 堀あいこ(2003) ADHDにおける持続処理課題(Continuous Performance Test: CPT)とNO-GO potential . 厚生労働省精神・神経疾患研究委託費, 発達期における高次脳機能障害の病態解明に関する研究 35-40
12. 桃井真里子, 山形崇倫, 李 虹, 森 雅人, 安原昭博, Nelson David L.(2003) 自閉性障害

の病因遺伝子解明に関する研究・厚生労働省精神・神経疾患研究委託費による12年度総括研究報告書 発達期における高次脳機能障害の病態解明に関する研究 21-26

#### 学会発表

1. Yasuhara A, Yoshida Y, Hori A and Suzukawa J (2003) Event-related potentials for a NO-GO task in children with ADHD. The 27 th International Congress of Clinical Neurophysiology, San Francisco
2. 安原昭博, 吉田由香, 堀あいこ (2003) ADHD に対する methylphenidate 投与が持続処理課題 (もぐら一ず) に与える影響. 第106回日本小児科学会, 福岡市
3. 安原昭博, 堀あいこ, 片山正寛, 江口博美, 吉田千里, 乾 敏郎 (2003) 自閉症の認知障害: Biological Motion の認知について. 第45回日本小児神経学会, 福岡市
4. 吉田由香, 安原昭博 (2003) Down 症における血清尿酸値の検討. 第45回日本小児神経学会, 福岡市
5. 安原昭博, 鈴川純子, 堀あいこ (2003) 歪成分耳音響放射 (DPOAE) によるダウン症の聴力障害早期発見. 第33回日本臨床神経生理学会, 旭川市
6. 安原昭博, 鈴川純子, 吉田由香, 堀あいこ (2003) 徐波睡眠時に持続性棘徐波を示すてんかん (CSWS) に対する clobazam の治療効果. 第37回日本てんかん学会, 仙台市
7. 安原昭博, 堀あいこ, 片山正寛, 江口博美, 吉田千里, 乾 敏郎 (2003) 自閉症における Biological Motion の認知障害. 第1回日本認知心理学会, 東京都
8. 吉田由香, 安原昭博, 鈴川純子, 吉村健, 室田卓之 (2003) 糖尿病の発症を契機に発見された腎尿路奇形の1症例. 第37回日本小児内分泌学会, 札幌市
9. 安原昭博, 鈴川純子, 吉田由香, 吉村 健, 堀あいこ (2003) クロバザムの著効した CSWS の姉妹例. 第28回大阪てんかん学会, 大阪市
10. 土方康世, 安原昭博, 吉田由佳, 日比野健 (2003) WTTC 加霊芝, 梅寄生のアトピー性皮膚炎への効果. 第20回和漢薬医学会, 熊本市
11. 土方康世, 安原昭博, 吉田由香 (2003) Epstein Barr Virus, Vaices Zoster Virus 慢性感染症に対する生薬の効果. 第54回日本東洋医学会, 福岡市
12. 杉山由利子, 安原昭博 (2003) 高機能自閉症児に対する音楽劇の役割. 第2回日本音楽療法学会, 西宮市
13. 江口博美, 乾 敏郎, 吉田千里, 片山正寛, 堀あいこ, 安原昭博 (2003) パイオロジカルモーションの認知発達. 第67回日本心理学会, 東京都
14. Yang L, Omori K, Otani H, Suzukawa J and Inagaki C (2003) 培養ラット海馬神経細胞におけるアンモニア誘発アポトーシスのGABAC受容体刺激を介した抑制. 第26回日本神経科学学会, 名古屋市

#### 著 書

1. 安原昭博 (2003) 脳梗塞. 今日の治療指針 (大関武彦, 古川 漸, 横田俊一郎編) 463-464 頁, 医学書院, 東京

## 香里病院外科

### 研究概要

当科における研究は, 施設ならびにスタッフの関係上, 臨床研究あるいは他施設との共同研究である. 現在行っている研究は1. 多価不飽和脂肪酸が癌の発生・増殖と転移に及ぼす影響, 2. EPA が前立腺癌の再発に及ぼす影響, 3. EPA が正常人の血中 PSA などに及ぼす影響, 4. 癌化学療法における骨髄機能抑制の制御, 5. 癌化学療法時における薬物動態, 6. 術後の病態における薬物相互作用, 7. 癌性疼痛の制御と薬物動態, 8. 胃癌術後の腸管運動の経時的変化, 9. 抗生物質の使用法, などである.



## 研究業績

## 原著

1. Moriguchi K, Yuri T, Yoshizawa K, Kiuchi K, Takada H, Inoue Y, Hada T, Matsumura M and Tsubura A (2003) Dietary docosahexaenoic acid protects against N-methyl-N-nitrosourea-induced retinal degeneration in rats. *Exp Eye Res* 77: 167-173
2. Yuri T, Danbara N, Tsubura A, Fukunaga K, Takada H, Inoue Y, Hada T and Tsubura A (2003) Dietary docosahexaenoic acid suppresses N-methyl-N-nitrosourea-induced mammary carcinogenesis in rats more effectively than eicosapentaenoic acid. *Nutr Cancer* 45: 211-217
3. 伊藤美由紀, 松木博子, 加藤知子, 木村幸子, 井上さだ子, 北国美幸, 小倉徳裕, 奥野雅史, 高田秀穂 (2003) 消化器外科病棟の DO NOT : 大腸編. *消化器外科 NURSING* 8: 23-29
4. 小倉徳裕, 田中宏典, 上田創平, 奥野雅史, 森毅, 高田秀穂, 伊藤美由紀, 渡辺京子 (2003) 早期離床をスムーズにすすめるコツ 2 ドクターサイドの工夫とドクターからナースへのリクエスト. *消化器外科 NURSING* 8: 651-658
5. 高田秀穂, 小倉徳裕, 奥野雅史, 森毅, 北出浩章, 上田創平, 吉岡和彦, 吉田良, 岩本慈能, 中野雅貴, 米倉康博, 上山泰男 (2003) n-3系多価不飽和脂肪酸と癌. *機能性食品と薬理栄養* 1: 165-171

## 学会発表

1. Kitade H, Kawai M, Overbergh L, Van Damme B, Nathieu C and Pirenne J (2003) Significance of early IFN-g upregulation in cardiac allografts of rats rendered tolerant by donor-specific blood transfusion. XIth Congress of European Society for Organ Transplantation, ベニス, イタリア
2. Kitade H, Kawai M, Nathieu C, Waer M and Pirenne J (2003) Nature, generation and expansion of regulatory cells: Requirements, compartment involved and timing. XIth Congress of European Society for Organ Transplantation, ベニス, イタリア
3. 山田正法, 田中完児, 二階堂任, 鎌野尚子, 田中義人, 森毅, 高田秀穂 (2003) 当科における良性境界悪性葉状腫瘍の検討. 第11回日本乳癌学会総会, 新潟
4. 森毅, 田中完児, 山田正法, 二階堂任, 鎌野尚子, 田中義人, 高田秀穂 (2003) 右側乳腺のDCISと左側乳腺の悪性葉状肉腫を同時に合併した1例. 第11回日本乳癌学会総会, 新潟
5. 四方伸明, 森口佳映, 垾貴司, 高田秀穂, 井上良計, 羽田尚彦, 螺良愛郎 (2003) DHA摂取ラットMNU誘発網膜変性症に対する抑制効果. 第12回日本脂質栄養学会総会, 東京
6. 高田秀穂 (2003) 便秘と下痢. 大阪府保険薬局第1班勉強会, 寝屋川
7. 高田秀穂 (2003) 食生活, それで大丈夫ですか? 癌と脂質栄養. 平成15年度北河内病院栄養士会研修会, 寝屋川
8. 高田秀穂 (2003) 「癌と脂質」 あなたの食生活で大丈夫ですか? . 紀南MRCの会 (田辺市医師会), 田辺市, 和歌山県
9. 高田秀穂 (2003) 脂質と癌の予防 あなたの食生活で大丈夫ですか? 第5回公開講演会「脂質と疾病予防」, 東京
10. 弥山秀芳, 三箇山宏樹, 上村祐子, 辻陽子, 北中直子, 良原恵美, 森毅, 奥野雅史, 小倉徳裕, 高田秀穂 (2003) 薬剤師を含めたチーム医療を如何に機能させるか? リスクマネージメントの観点から パネルディスカッション「消化器外科臨床におけるリスクマネージメント」. 第58回日本消化器外科学会総会, 東京
11. 辻陽子, 弥山秀芳, 三箇山宏樹, 上村祐子, 北中直子, 梁元恵美, 太田由子, 榎木晋, 堀越順彦, 山田正法, 奥野雅史, 小倉徳裕, 高田秀穂 (2003) 薬剤性アカシジアの4例. 第24回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 大阪
12. 森口佳映, 垾貴司, 義澤克彦, 高田秀穂, 井上良計, 羽田尚彦, 螺良愛郎 (2003) 食餌脂肪酸のMNU誘発ラット網膜変性症に及ぼす影響. 第92回日本病理学会総会, 福岡
13. 辻田 (久徳) 美樹, 段原直行, 垾貴司, 仙崎英人, 高田秀穂, 螺良愛郎 (2003) ヒト乳癌株 (KPL-1) における共役ドコサヘキサエン酸による増殖抑制効果. 第92回日本病理学会総会, 福岡

14. 垵 貴司, 段原直行, 辻田 (久徳) 美樹, 仙崎英人, 四方伸明, 高田秀穂, 井上良計, 羽田尚彦, 螺良愛郎 (2003) n-3 系多価不飽和脂肪酸のMNU誘発ラット乳癌における発癌抑制効果の比較. 第92回日本病理学会総会, 福岡
15. 段原直行, 垵貴司, 辻田 (久徳) 美樹, 森口佳映, 高田秀穂, 井上良計, 羽田尚彦, 螺良愛郎 (2003) 共役ドコサヘキサエン酸のヒト大腸癌細胞株 (COLO201) に対する増殖抑制効果. 第92回日本病理学会総会, 福岡
16. 横井川規巨, 海堀昌樹, 柳田英佐, 稲葉隆明, 奥村忠芳, 小倉徳裕, 高田秀穂, 権 雅憲, 上山泰男, 中田 博 (2003) ムチンによる担癌患者の単球/マクロファージのシクロオキシナーゼ-2の誘導. 第58回日本消化器外科学会総会, 東京
17. 横井川規巨, 稲葉隆明, 海堀昌樹, 小倉徳裕, 高田秀穂, 井上瑞江, 権 雅憲, 上山泰男, 中田 博 (2003) 消化器癌患者末梢血単球のシクロオキシゲナーゼ-2の発現と血中ムチン存在量の相関性について. 第62回日本癌学会総会, 名古屋
18. 上村祐子, 弥山秀芳, 三箇山宏樹, 辻 陽子, 北中直子, 良原恵美, 米田篤司, 太田由子, 田中宏典, 山田正法, 上田創平, 北出浩章, 森毅, 奥野雅史, 小倉徳裕, 高田秀穂 (2003) モルヒネからフェンタニールパッチへの転換症例の検討. 第13回日本医療薬学会年会, 神戸
19. 森口佳映, 四方伸明, 義澤克彦, 上原範久, 高田秀穂, 羽田尚彦, 螺良愛郎 (2003) ドコサヘキサエン酸によるニトロソメチル尿素誘発視神経アポトーシスの抑制. 第44回日本組織細胞化学会・第35回日本臨床電子顕微鏡学会合同学術集会, 東京

## 香里病院整形外科

### 研究業績

#### 原著

1. 大窪 博, 徳永裕彦, 橋口淳一, 小川浩司, 中谷晃之 (2003) 感染性人工股関節の治療経験. 中部日本整形外科災害外科学会雑誌 46: 975-976

#### 学会発表

1. 塚本英資, 千束福司, 三木堯明, 小谷博信, 池田 登, 布留守敏, 大西祥博, 福田明伸, 佐竹 剛, 筈川哲也, 上尾豊二 (2003) 外側型

腰椎椎間板ヘルニアに対する MRI 画像診断の有用性. 第76回日本整形外科学会学術総会, 金沢市

2. 大窪 博, 徳永裕彦, 橋口淳一, 小川浩司, 中谷晃之 (2003) 感染性人工股関節の治療経験. 第100回中部日本整形外科災害外科学会, 京都
3. 大窪 博, 徳永裕彦, 塚本英資, 中谷晃之, 濱田 彰 (2003) 感染性人工関節の治療結果の評価について. 第101回中部日本整形外科災害外科学会, 浜松

## 香里病院皮膚科

### 研究概要

従来どうり皮膚付属器疾患である「尋常性痤瘡」と皮膚の「細菌と感染症」を二大テーマとしている。  
I. 尋常性痤瘡 (ニキビ)

1. 痤瘡の発症病理解明を目的として, 毛包系腫瘍を含めて病態別に内分泌学および免疫組織染色による角化異常発現の検討を継続して行っている。
2. 痤瘡の新しい理学療法の1つであるグルコール酸によるケミカルピーリング (chemical peeling) を始めている。未だピーリングの有効で適正な治療方法は確立されていない。そのため数種の製剤による治療方法をニキビ菌 (*P. sacnes*) に対する抗菌作用を含めて検討している。

3. 新しい痤瘡治療薬剤の治験に参加し治療効果等を検討している。

## II. 皮膚の細菌と感染症, 薬剤感受性, 耐性菌(含 MRSA)の動向

1. 黄色ブドウ球菌の薬剤感受性を継続して測定し検討している。特に耐性菌(MRSA)の動向には注意し, 適正な抗菌薬の使用に役立てている。
2. 黄色ブドウ球菌の産生する毒素である表皮剥脱毒素(ET), 毒性ショック症候群毒素(TSST-1), コアグララーゼ型別と, 黄色ブドウ球菌の性状と臨床症状, 薬剤耐性ととの相関を検討している。

## 研究業績

### 原著

1. Nishijima S, Oshima S, Higashida T, Nakaya S and Kurokawa I (2003) Antimicrobial resistant Staphylococcus aureus isolated from impetigo patients between 1994 and 2000. *Int J Dermatol* 42: 23-25
2. Kurokawa I, Nishijima S, Kusumoto K, Senzaki H, Shikata N and Tsubura A (2003) Trichilemmoma: An immunohistochemical study of cytokeratin. *Br J Dermatol* 149: 99-104
3. Kurokawa I, Nishijima S, Kusumoto K, Senzaki H, Shikata N and Tsubura A (2003) Trichofolliculoma: case report with immunohistochemical study of cytokeratin. *Br J Dermatol* 149: 597-598
4. 西嶋攝子, 大嶋 茂, 東田敏明, 中矢秀雄 (2003) 頬表皮嚢腫の細菌学的検討. *日皮会誌* 113: 165-168

### 総説

1. 西嶋攝子, 黒川一郎 (2003) 皮膚科医に必要な抗生物質の使い方 7. その他の抗生物質の使い方. *Monthly Book Derma*. 76: 48-53
2. 西嶋攝子, 南 路子 (2003) 環状肉芽腫. *皮膚の科* 2: 85-86
3. 赤松浩彦, 西嶋攝子 (2003) たかがニキビ, されどニキビ 新生児痤瘡. *Visual Dermatol* 2: 228-229
4. 西嶋攝子 (2003) たかがニキビ, されどニキビ 心理的サポートの実際. *Visual Dermatol* 2: 272-275
5. 西嶋攝子, (2003) トピックス 痤瘡の新しい治療. *皮膚の科* 2: 155-159
6. 西嶋攝子, 黒川一郎 (2003) 目でみる救急医学 V. 麻疹, 風疹, 水痘. *救急医学* 27: 544-545
7. 西嶋攝子, 大嶋 茂, 東田敏明, 谷村實一

(2003) モンドール病. *皮膚の科* 2: 497-498

### 著書

1. 西嶋攝子 (2003) 悪液質性壞疽性膿瘡. *医学大辞典* (伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨編) 9 頁, 医学書院, 東京
2. 西嶋攝子 (2003) 黄菌毛. *医学大辞典* (伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨編) 280 頁, 医学書院, 東京
3. 西嶋攝子 (2003) 化膿性汗孔周囲炎. *医学大辞典* (伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨編) 404 頁, 医学書院, 東京
4. 西嶋攝子 (2003) 化膿性汗腺炎. *医学大辞典* (伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨編) 404 頁, 医学書院, 東京
5. 西嶋攝子 (2003) 深在性蜂巣炎. *医学大辞典* (伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨編) 1254 頁, 医学書院, 東京
6. 西嶋攝子 (2003) 尋常性膿瘡. *医学大辞典* (伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨編) 1260 頁, 医学書院, 東京
7. 西嶋攝子 (2003) 尋常性毛瘡. *医学大辞典* (伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨編) 1261 頁, 医学書院, 東京
8. 西嶋攝子 (2003) せつ. *医学大辞典* (伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨編) 1397 頁, 医学書院, 東京
9. 西嶋攝子 (2003) せつ腫症. *医学大辞典* (伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨編) 1404 頁, 医学書院, 東京
10. 西嶋攝子 (2003) 汗腺性膿皮症. *医学大辞典* (伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨編) 479 頁, 医学書院, 東京
11. 西嶋攝子 (2003) 膿皮症. *医学大辞典* (伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨編) 1919 頁, 医学書院, 東京
12. 西嶋攝子 (2003) 膿瘍性穿掘性毛包炎. *医学*

- 大辞典(伊藤正男,井村裕夫,高久史磨編) 1922頁,医学書院,東京
13. 西嶋攝子(2003)蜂巣炎.医学大辞典(伊藤正男,井村裕夫,高久史磨編)2276頁,医学書院,東京
  14. 西嶋攝子(2003)蜂巣炎性丹毒.医学大辞典(伊藤正男,井村裕夫,高久史磨編)2276頁,医学書院,東京
  15. 西嶋攝子(2003)慢性乳頭状潰瘍性膿皮症.医学大辞典(伊藤正男,井村裕夫,高久史磨編)2348-2349頁,医学書院,東京
  16. 西嶋攝子(2003)慢性膿皮症.医学大辞典(伊藤正男,井村裕夫,高久史磨編)2349頁,医学書院,東京
  17. 西嶋攝子(2003)毛包炎.医学大辞典(伊藤正男,井村裕夫,高久史磨編)2420頁,医学書院,東京
  18. 西嶋攝子(2003)毛包周囲炎.医学大辞典(伊藤正男,井村裕夫,高久史磨編)2420頁,医学書院,東京
  19. 西嶋攝子(2003)癬(よう).医学大辞典(伊藤正男,井村裕夫,高久史磨編)2466頁,医学書院,東京
  20. 西嶋攝子(2003)緑膿菌性爪囲爪炎.医学大辞典(伊藤正男,井村裕夫,高久史磨編)2543頁,医学書院,東京
  21. 西嶋攝子(2003)第14巻 細菌・真菌性疾患I.細菌性皮膚疾患 A.総論 I.細菌の分類・検査法.最新皮膚科学大系(玉置邦彦ほか編)2-15頁,中山書店,東京
  22. 檜垣修一,西嶋攝子(2003)第14巻 I.細菌性皮膚疾患 B.皮膚一般細菌感染症 2.深在性細菌感染症.最新皮膚科学大系(玉置邦彦ほか編)73-84頁,中山書店,東京
  23. 西嶋攝子(2003)第2巻 皮膚科治療学・皮膚科救急 I.皮膚科治療 A.外用療法 6.抗菌外用薬.最新皮膚科学大系(玉置邦彦ほか編)35-39頁,中山書店,東京
  24. 西嶋攝子(2003)ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群.皮膚疾患最新の治療2003-2004(新村真人,瀧川雅浩編)130頁,南江堂,東京

## 男山病院小児科

### 研究業績

#### 原著

1. 佐藤正人,畑埜武彦,浦岡美奈子,杉本健郎,連利博(2003)喉頭気管分離,気管食道吻合の1例 QOL を考えて.日小児外会誌 39:1008
2. 杉本健郎(2003)【重度心身障害児・者への支援】学童期の支援 養護学校における医療的ケアについて.発達障害研 25:141-149
3. 杉本健郎(2003)子どもの脳死状態・当面と今後の課題 何故急ぐか?何を急ぐべきか?子の心とからだ 12:14-15
4. 下野九理子,今井克美,島川修一,玉井 浩,荒木 敦,杉本健郎,池田浩子,川脇 寿,森本恭子,服部英司,岡田伸太郎(2003)小児期発症の後頭葉てんかんの臨床特徴について(多施設共同研究).脳と発達 35:388-393
5. 中村彰利,浦岡美奈子,杉本健郎,佐藤正人,八木清貴,藪島弘真,畑埜武彦(2003)診断に開腹術を要した左傍十二指腸ヘルニアの1例.日小児会誌 107:1055
6. 谷澤隆邦,仁志田博司,清野佳紀,河原直人,佐地 勉,杉本健郎,武下 浩,田中英高,田辺 功,田村正徳(2003)小児脳死臓器移植はどうあるべきか.日小児会誌 107:953
7. 杉本健郎(2003)【小児救急看護に必要な基礎知識と処置技術】家族へのケア 父親として,小児神経科医として,そして子どもの視点で.小児看護 26:1292-1294
8. 杉本健郎(2003)教育と医療の連携 小児神経科医が果たすべき役割 指定発言・小児神経医の果たすべき役割.脳と発達 35:S337
9. 浦岡美奈子,中村彰利,杉本健郎,原田佳明(2003)重症心身障害児の嚥下困難・呼吸不全に対する管理 喉頭気管分離術の有用性.脳と発達 35:S271
10. 荒木 敦,橋本 卓,服部英司,田川哲三,鈴木周平,村上貴孝,杉本健郎(2003)養護学

校の学校医としての小児神経科医 大阪府下の現状と今後の課題．脳と発達 35: S142

11. 杉本健郎 (2003) 小児神経学会の新たな活動の展開 社会活動・広報委員会の発足 学会の社会的課題へ「すぐ取り組む班」として．脳と発達 35: S88
12. 杉本健郎 (2003) 我が子の脳死・親 (小児神経医) の気持ちと子どもの権利．日小児会誌 107: 720
13. 杉本健郎 (2003) 抗てんかん薬の治験促進を・てんかん協会創薬ボランティア組織の活動．てんかん研 21: 70
14. 原田佳明, 七里元督, 川脇 寿, 今井克美, 石田 博, 鈴木周平, 富和清隆, 服部英司, 安原昭博, 玉井 浩, 村田良輔, 山野恒一, 杉本健郎, 岡田伸太郎 (2003) West 症候群患者の長期予後 大阪での多施設共同研究 (Long-term outcome of patients with West syndrome: A

multicenter cooperative study at Osaka) . てんかん研 21: 64

15. 杉本健郎 (2003) 【精神科における“てんかん”の診方】 てんかん診療で小児科医が精神科医に期待すること．精神科治療 18: 29-34
16. 杉本健郎 (2003) 【けいれん, 意識障害ハンドブック】 意識障害の診療 小児脳死の問題点と判定基準．小児内科 35: 258-262
17. 浦岡美奈子, 杉本健郎, 吉田多加代 (2003) 【けいれん, 意識障害ハンドブック】 けいれんの診療 けいれんにおける生理検査の選択と実施上の注意点．小児内科 35: 164-166

#### 学会発表

1. 浦岡美奈子, 中村彰利, 杉本健郎, 原田佳明 (2003) 重症心身障害児の嚥下困難・呼吸不全に対する管理 = 喉頭気管分離術の有用性 = . 日本小児神経学会, 福岡市

## 男山病院外科

### 研究業績

#### 原 著

1. Sato M, Hamada Y, Hioki K (2002) Thoracoscopic Plication of the Diaphragm. Pediatric Endosurgery & Innovative Techniques 6: 45-49
2. 佐藤正人, 棚野晃秀, 高田晃秀, 濱田吉則 (2003) VP shunt revision における腹腔鏡手術の有用性．日小児外会誌 39: 603-606
3. 棚野晃秀, 濱田吉則, 高田晃秀, 佐藤正人 (2003) Currarino 症候群の4例．日小児外会誌 39: 215-221
4. 徳原克治, 濱田吉則, 渡邊健太郎, 棚野晃秀, 高田晃秀, 佐藤正人, 中野景司, 木野 稔, 上山泰男 (2003) 巨大腸管膜リンパ腫に対し腹腔鏡補助下嚢腫全摘術と硬化療法を併用した1例．日小児外会誌 39: 970-975
5. 佐藤正人, 藤原恭子, 八木清貴, 二階堂任, 古山咲枝, 畑埜武彦 (2003) 腹腔鏡下総胆管切開術のクリニカルパス . 臨外 増刊号 58: 153-158
6. 裴 仁正, Singh Yogendra, 高橋雅也, 畑埜武

彦, 螺良愛郎, 四方伸明 (2003) ネパール人乳癌の背景因子の検討．乳癌基礎研 12: 61-64

#### 学会発表

1. 佐藤正人, 浦岡美奈子, 杉本健郎, 畑埜武彦, 連 利博 (2003) 喉頭気管分離, 気管食道吻合の1例．第39回日本小児外科学会近畿地方会, 大阪
2. 佐藤正人 (2003) 座長．第39回日本小児外科学会近畿地方会, 大阪
3. 佐藤正人, 配島弘真, 八木清貴, 畑埜武彦 (2003) 先天性胆道拡張症に対する腹腔鏡補助下根治術 . 第40回日本小児外科学会総会, 京都
4. 佐藤正人, 徳原克治, 小切匡史 (2003) 腹腔鏡補助下癒着剥離術の1例 成人症例と比較して . 第23回日本小児外科手術手技 小児内視鏡外科研究会, 淡路島 (兵庫)
5. 佐藤正人 (2003) 座長．第23回日本小児外科手術手技 小児内視鏡外科研究会, 淡路島 (兵庫)
6. 佐藤正人, 濱田吉則, 高田晃平, 棚野晃秀, 徳

- 原克治, 小切匡史, 畑埜武彦 (2003) 胸腔鏡下横隔膜縫縮術における治療戦略. 第65回日本臨床外科学会総会ビデオシンポジウム, 博多
7. 佐藤正人, 畑埜武彦, 濱田吉則, 小切匡史 (2003) 胸腔鏡下横隔膜縫縮術の優位性. 第16回日本内視鏡外科学会総会パネルディスカッション, 岡山
  8. 二階堂任, 八木清貴, 佐藤正人, 畑埜武彦 (2003) 進行再発胃癌に対する Weekly Paclitaxel 投与療法の安全性について. 第65回日本臨床外科学会総会, 博多
  9. 木田裕之, 武田 裕, 蓮池康徳, 柏崎正樹, 辻仲利政 (2003) 当科における自己輸血例の検討. 第16回日本自己輸血学会, 東京
  10. 木田裕之, 武田 裕, 蓮池康徳, 柏崎正樹, 辻仲利政 (2003) 当科における自己輸血例の検討. 第15回肝胆膵外科学会, 金沢
  11. 木田裕之, 佐藤正人, 二階堂任, 畑埜武彦 (2003) 腹腔鏡下直腸固定術の4例. 第16回近畿内視鏡外科研究会, 大阪
  12. 佐藤正人 (2003) 座長. 第4回綴喜医師会学術集談会, 京都
  13. 佐藤正人 (2003) 胃食道逆流症, 胃瘻についての外科的立場で. 医療教育福祉ネットワーク, 丹後セミナー2003, 網野町 (京都)
  14. 畑埜武彦 (2003) 座長. 第103回日本外科学会総会, 札幌
  15. 畑埜武彦, 佐藤正人, 八木清貴, 配島弘眞 (2003) 腹腔鏡下直腸固定術における一工夫. 第58回日本消化器外科学会総会, 東京
  16. 配島弘眞, 八木清貴, 二階堂泰資, 小路徹二, 畑埜武彦 (2003) 乳癌の髄膜播種転移の1例. 第11回日本乳癌学会総会, 新潟
  17. 畑埜武彦, 配島弘眞, 八木清貴, 二階堂泰資, 小路徹二, 仙崎英人, 植村芳子, 螺良愛郎, (2003) 乳房温存療法後, 乳房内再発を来した症例の検討 - Paget 様再発を来した1例. 第11回日本乳癌学会総会, 新潟
  18. 増田慎三, 古妻嘉一, 中谷守一, 松並展輝, 古川順康, 中島直, 竹川直哉, 本田育子, 西敏夫, 畑埜武彦, 寺田 央, 弥生恵司 (2003) 大阪府におけるマンモグラフィ併用検診導入の現状と今後の課題. 第13回日本乳癌検診学会総会, 高崎

## 男山病院麻酔科

### 研究業績

#### 原著

1. Asai T, Matsumoto S, Fujise K, Johmura S and Shingu K (2003) Comparison of two Macintosh laryngoscope blades in 300 patients. *Br J Anaesth* 90: 457-460
2. 山崎悦子, 村尾浩平, 浅井 隆, 松本早苗, 新宮 興 (2003) 腹腔鏡下胆嚢摘出術後におけるフルルピプロフェン静注薬とインドメタシン坐剤の鎮痛効果の比較. *麻酔* 52: 1186-1190

#### 学会発表

1. 松本早苗, 浅井 隆, 宇田良子, 新宮 興 (2003) ラリンジアルチューブの100人での使用経験. 第50回日本麻酔学会総会, 横浜

2. 松本早苗, 浅井 隆, 宇田良子, 新宮 興 (2003) ラリンジアルマスクを用いた気管切開の全身麻酔管理経験. 第23回日本臨床麻酔学会大会, 下関
3. 野口貴志, 松本早苗, 浅井 隆, 志賀洋介, 古賀和徳 (2003) ラリンジアルマスクによる気道確保困難をラリンジアルチューブにて解決した2症例. 第23回日本臨床麻酔学会大会, 下関
4. 宇田良子, 松本早苗, 新宮 興 (2003) カルボプラチン, マイトマイシン投与直後から, アナフィラキシー様反応を呈した一例. 第23回日本臨床麻酔学会大会, 下関
5. 松本早苗, 浅井 隆, 宇田良子, 新宮 興 (2003) 痙攣性発声障害様症状に対する星状神経節ブロックによる治療経験. 第37回日本ペインクリニック学術集会総会, 仙台

## 洛西ニュータウン病院眼科

### 研究業績

#### 原著

1. 佐々木奈穂, 岡見豊一, 松永裕史, 白数純也, 畑埜浩子, 弓削堅志, 津村晶子, 西信昭子, 岩下憲四郎 (2004) 加齢性内反症に対する下眼瞼牽引筋腱膜短縮による手術成績. 眼科手術 17: 131-134

#### 学会発表

1. 佐々木奈穂, 岡見豊一, 松永裕史, 白数純也, 畑埜浩子, 弓削堅志, 津村晶子, 西信昭子, 岩下憲四郎 (2003) 加齢性内反症 involutional entropion の治療について. 第26回日本眼科手術学会, 京都

2. 畑埜浩子, 岡見豊一, 松永裕史, 白数純也, 佐々木奈穂, 弓削堅志, 山岸和矢 (2003) Viscocanalostomy とシユレム管内壁内皮網除去と白内障同時手術の術後長期成績. 第14回日本緑内障学会, 東京
3. 松井淑江, 河原 彩, 中島瑞恵, 田中和寛, 杉本琢二, 弓削堅志 (2003) 網膜中層障害を呈したacute zonal occult outer retinopathy様症例. 第41回日本神経眼科学会総会, 京都

#### 著書

1. 弓削堅志 (2003) ショックへの対応, 救急外来での対応. 眼科ナースのための知識と実際 (松村美代編), メディカ出版, 249-270

## 洛西ニュータウン病院循環器科

### 研究業績

#### 原著

1. 高山康夫 (2003) Strain を三次元で考える. 心エコー 4: 744-750

#### 学会発表

1. 高山康夫 (2003) 動物実験における strain の3次元的评价. 第76回日本超音波医学会, 札幌
2. 吉田衣江, 高山康夫, 高島啓文, 楊 培慧, 岩坂壽二 (2003) 組織ドブラ法による心筋肥大の局所心機能評価. 第76回日本超音波医学会,

#### 札幌

3. 吉田衣江, 高山康夫, 下條ひろみ, 高島啓文, 松原恵子, 駒井千恵子, 楊 培慧, 岩坂壽二 (2003) ストレインレートイメージによる肥大型心筋症の局所心機能評価. 第40回日本臨床生理学会総会, 仙台
4. 吉田衣江, 高山康夫, 高島啓文, 楊 培慧 (2003) 心不全で発症した拡張型心筋症が Duchenne 型筋ジストロフィーの女性キャリアーであった1例. 第170回日本内科学会近畿地方会, 大阪